

2016（平成28）年度

大学院 履修の手引き

福岡県立大学大学院

目 次

I. 2016（平成28）年度大学院学年暦	1
II. ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	3
III. 人間社会学研究科の概要	
1 設置の趣旨	5
2 人間社会学研究科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）	5
社会福祉専攻	5
心理臨床専攻	6
3 人間社会学研究科（修士課程）の構成と特色	6
社会福祉専攻	6
心理臨床専攻	7
4 社会人等の学習に対する対応	7
IV. 看護学研究科の概要	
1 設置の趣旨	7
2 看護学研究科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）	8
3 看護学専攻（看護学分野）の構成と特色	8
4 看護学専攻・開講専門領域	9
5 学位取得に必要な在籍期間について	11
V. 長期履修制度について	11
VI. 授業科目と履修方法	
VI-1 人間社会学研究科の授業科目と履修方法	13
VI-2 看護学研究科の授業科目と履修方法	24
VII. 授業案内	
1 人間社会学研究科 社会福祉専攻	45
心理臨床専攻	69
2 看護学研究科 看護学専攻	95
VIII. 教員一覧	
1 人間社会学研究科 社会福祉専攻	217
心理臨床専攻	217
2 看護学研究科 看護学専攻	219
IX. 施設の利用と各種手続き	
1 施設の利用	223
2 教務入試班関係の手続き	225
3 学生支援班関係の手続き	226
X. 諸規程	
・福岡県立大学大学院学則	228
・福岡県立大学大学院履修規則	238
・福岡県立大学大学院人間社会学研究科心理臨床専攻における入学前の既修得単位等の認定基準	245
・福岡県立大学大学院看護学研究科における入学前の既修得単位等の認定基準	246
・福岡県立大学大学院科目等履修生規則	247
・福岡県立大学大学院研究生規則	249
・福岡県立大学大学院聴講生規則	251
・福岡県立大学大学院留学規則	252
・福岡県立大学学位規則	254

・福岡県立大学大学院長期履修規則	259
・福岡県立大学大学院長期履修制度要綱	262
・人間社会学研究科修士課程に係る学位論文提出及び審査等に関する内規	266
・看護学研究科修士論文の保存に関する申し合わせ	268
・人間社会学研究科在学期間の特例の適用に関する申し合わせ	269
・看護学研究科在学期間の特例の適用に関する申し合わせ	270
・看護学研究科在学期間の特例の適用に関する業務要領	271

XI. 届出様式

I. 2016 (平成 28) 年度大学院学年暦

2016 (平成 28) 年

4月4日 (月)

入学式・オリエンテーション・健康診断
(人間社会学研究科2年生を除く)

4月5日 (火)

健康診断 (人間社会学研究科2年生)

4月11日 (月)

前期授業開始

4月15日 (金)

「研究指導教員届」提出期限 (看護学研究科)

4月22日 (金)

「研究指導教員届」提出期限 (人間社会学研究科)

4月22日 (金)

前期履修登録締切

5月27日 (金)

「修士論文題目届」提出期限 (看護学研究科)

5月下旬

前期研究計画発表会 (看護学研究科)

6月2日 (木)

「研究計画書」提出期限 (看護学研究科)

6月13日 (月) ~ 17日 (金)

前期履修登録取消期間

6月17日 (金)

「修士論文題目届」提出期限 (人間社会学研究科)

6月23日 (木)

秋季修了予定者修士論文提出期限 (看護学研究科)

6月28日 (火)

秋季修了予定者修士論文提出期限 (人間社会学研究科)

7月4日 (月)

秋季修了予定者修士論文の修正と提出 (最終) (看護学研究科)

7月6日 (水)

修士論文中間発表 (人間社会学研究科)

7月29日 (金)

前期通常授業終了日

8月6日 (土)

オープンキャンパス

8月9日 (火) ~ 9月30日 (金)

夏季休業

8月15日 (月) ~ 19日 (金)

集中講義第一週

8月22日 (月) ~ 26日 (金)

集中講義第二週

9月7日 (水)

秋季修了判定会議 (人間社会学研究科)

9月14日 (水)

秋季修了判定会議 (看護学研究科)

9月14日 (水)

前期成績表交付

9月14日 (水) ~ 16 (金)

成績質問期間

9月下旬

秋季修了大学院修士学位記授与式

9月30日 (金)

後期履修登録締切

10月上旬

後期研究計画発表会 (看護学研究科)

10月1日 (土)

(糖尿病看護認定看護師教育課程入学試験)

10月3日 (月)

後期授業開始

10月7日 (金)

後期履修登録修正締切

10月15日 (土)

大学院秋季入学試験

10月17日 (月)

「研究計画書」提出期限 (看護学研究科)

10月17日 (月)

臨時研究科委員会 (看護学研究科)

11月12日 (土) ~ 13日 (日)

大学祭

11月12日 (土)

秋のオープンキャンパス

11月26日 (土)

(大学・推薦・転編入・社会人・国外就学経験者入学試験)

12月5日 (月) ~ 9日 (金)

後期履修登録取消期間

12月23日 (金) ~ 1月4日 (水)

冬季休業

2017 (平成 29) 年

1月5日 (木)

授業再開

1月14日 (土) ~ 15日 (日)

(大学入試センター試験)

1月18日 (水)

修士論文提出期限 (人間社会学研究科)

1月19日 (木)

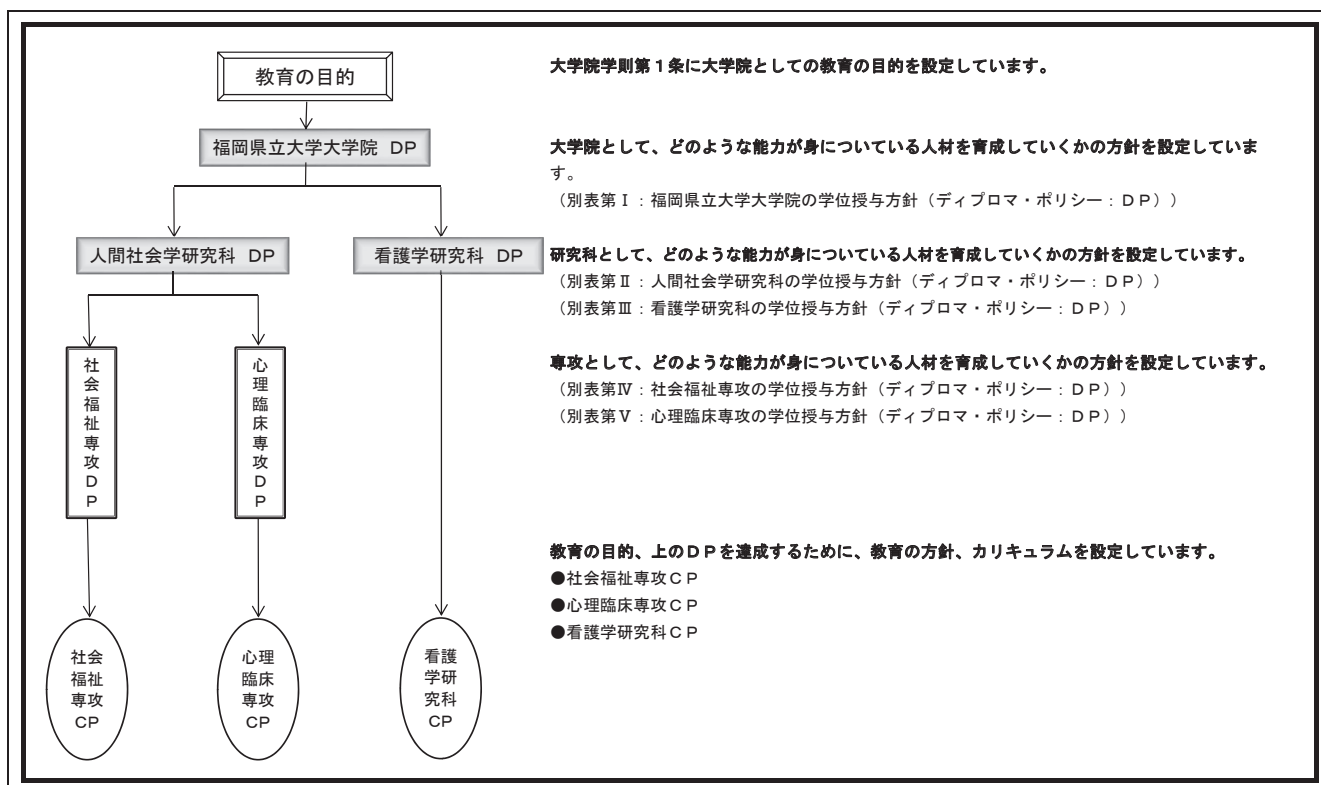
修士論文提出期限 (看護学研究科)

1月下旬～2月中旬	修士論文口頭試問（看護学研究科）
1月25日（水）	修士論文口述試験（人間社会学研究科）
2月3日（金）	後期通常授業終了日
2月4日（土）	大学院春季入学試験
2月8日（水）	修士論文発表会（人間社会学研究科）
2月8日（水）	修了判定会議（看護学研究科）
2月10日（金）	修士論文再提出期限（看護学研究科）
2月20日（月）～24日（金）	後期集中講義
2月22日（水）	修了判定会議（人間社会学研究科）
2月22日（水）	修了判定会議（看護学研究科）
2月23日（木）	修了予定者成績表交付
2月23日（木）～24日（金）	修了予定者成績質問期間
2月25日（土）	（一般入学試験 前期日程）
3月6日（月）	修士論文発表会（看護学研究科）
3月12日（日）	（一般入学試験 後期日程）
3月17日（金）	大学院第19回修士学位記授与式（大学第22回卒業式）
3月22日（水）	在学生成績表交付
3月22日（水）～24日（金）	成績質問期間

Ⅱ. ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー（DP）とは、修了認定・学位授与に関する基本的な方針のことを言い、本学を卒業することでどのような能力が身についているかを保証するものです。学則第1条に掲げている教育の目的を前提に、大学院、各研究科、各専攻のDPを別表第Ⅰから別表第Ⅵのとおり定めています。

また、カリキュラム・ポリシー（CP）とは教育課程編成・実施方針のことを言い、教育の目的、上のDPを達成するために各専攻がそれぞれ教育課程の方針、カリキュラムを設定しています。



大学院のDPは以下のように4つの領域、さらに6項目のポリシーに分かれており、これら6項目のポリシーのすべてが、2年間で履修する科目のいずれかに位置付けられています。

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	専門的知識
思考・判断・表現	DP 2	論理的思考力
	DP 3	表現力
関心・意欲・態度	DP 4	探究力
	DP 5	社会貢献力
技能	DP 6	実践力

別表第Ⅰ. 福岡県立大学大学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	保健・医療・福祉分野の増進および地域の発展に寄与できる指導的人材として必要な専門的知識を有している。
思考・判断・表現	DP 2	保健・医療・福祉分野の課題を専門的立場から検討し、解決するための方法を見いだすことができる。
	DP 3	専門性のある学術的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	DP 4	専門とする課題について主体的に探求することができる。
	DP 5	保健・医療・福祉の将来を見据え、自らの専門性に基づいて社会に貢献できる。
技能	DP 6	専門分野に即した問題解決技法を身につけている。

別表第Ⅱ. 人間社会学研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 高度福祉社会の実現に関わる専門的知識を有している。 <input type="checkbox"/> 専門分野と連携可能な領域と接点となる知識を有している。
思考・判断・表現	DP 2	<input type="checkbox"/> 高度福祉社会の実現のための課題を専門的立場から検討できる。
	DP 3	<input type="checkbox"/> 専門性のある学術的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	DP 4	<input type="checkbox"/> 高度福祉社会の実現のための現代的課題について主体的に探究することができる。
	DP 5	<input type="checkbox"/> 高度福祉社会の実現のために専門性を活かして貢献できる。
技能	DP 6	<input type="checkbox"/> 専門性に即して高度福祉社会における問題解決技法を身につけている。

別表第Ⅲ. 看護学研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 専門職業人として倫理に関わる知識を有している。 <input type="checkbox"/> 看護学に関わる専門的知識を有している。
思考・判断・表現	DP 2	<input type="checkbox"/> 看護現象を科学的及び学際的視点から捉え、看護実践の場に還元できる解決方法を見出すことができる。
	DP 3	<input type="checkbox"/> 専門性のある学術的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	DP 4	<input type="checkbox"/> 看護学に関する課題について主体的に探究することができる。
	DP 5	<input type="checkbox"/> 保健・医療・福祉の将来を見据え、看護学に関する専門的知識に基づいて、さまざまな看護活動に貢献できる。
技能	DP 6	<input type="checkbox"/> 看護に関する課題に取り組むための問題解決技法を身につけている。

別表第Ⅳ. 人間社会学研究科社会福祉専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 児童、障害者、高齢者を中心として、地域において様々な生活問題を抱える人々の支援に必要な知識を理解している。 <input type="checkbox"/> 生活問題を抱える人々を支援するために有用な隣接学問に関する知識を理解している。
思考・判断・表現	DP 2	<input type="checkbox"/> 社会福祉の価値をベースとし、生活問題を抱える人々の実情に応じた支援方法を提案できる。
	DP 3	<input type="checkbox"/> 社会福祉の学術的手法を用いて、抽出された諸問題について自分の考えを適切に表現できる。
関心・意欲・態度	DP 4	<input type="checkbox"/> 文献や調査等から、社会福祉に関する課題を設定できる。
	DP 5	<input type="checkbox"/> フィールドワークなどを通して、福祉活動の発展に寄与できる。
技能	DP 6	<input type="checkbox"/> 社会福祉に関する問題を客観化させるための手法を身につけている。

別表第V. 人間社会学研究科心理臨床専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・理解	DP 1	<input type="checkbox"/> 心理学及び心理臨床に関わる専門的知識を有している。 <input type="checkbox"/> 社会福祉学など連携可能な領域と接点となる知識を有している。
思考・判断・表現	DP 2	<input type="checkbox"/> 心理学に関する専門的知識をもとに心理的課題を検討できる。
	DP 3	<input type="checkbox"/> 心理学的手法を用いて導き出された理解と援助の方針を適切に表現できる。
関心・意欲・態度	DP 4	<input type="checkbox"/> 心理的諸問題に関わる現代的課題について主体的に探究することができる。
	DP 5	<input type="checkbox"/> 心理学に関する専門的知識に基づいて、心理的支援活動に積極的に参加できる。
技能	DP 6	<input type="checkbox"/> 心理的支援活動を行うための実践能力を身につけている。

Ⅲ. 人間社会学研究科の概要

1. 設置の趣旨

ここ数年、社会状況が大きく変動し、超少子・高齢化、地方分権化、自己実現要求の高まりに伴って、地域政策、福祉政策、生涯学習、対人援助に関わる高度な専門的知識・技術を持った職業人が必要とされるようになってきました。とくに、これらの専門的知識を統合させ、地域において高度福祉社会の実現に貢献できる人材の養成を行うことが求められています。

そこで、人間社会学部を基礎とし、より一層高度な専門性を持った人材の養成と、職業人のリカレント教育の要求に応えることを目指し、平成9年に大学院修士課程人間社会学研究科を設置しました。

2. 人間社会学研究科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

人間社会学研究科における2つの専攻では、それぞれの学位授与方針DPに基づいて、教育課程編成・実施方針（CP: Curriculum Policy）を定めています。

【社会福祉専攻】

社会福祉専攻では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施します。

必修科目10単位（フィールドワークを選択に変えれば8単位）を含めて、合計30単位以上を修得する必要があります。ただし、他専攻科目から4単位まで、修了要件として単位認定できます。

社会福祉専攻は、高度で実践的な社会福祉専門職を養成するために、「社会福祉分野」「地域社会分野」の2分野から構成されています。社会福祉専攻の教育課程は「コア科目」のほか、「社会福祉分野」および「地域社会分野」の科目群から構成されています。「コア科目」は、フィールドワークおよび特別研究から編成され、フィールドワーク（実習）を通じて、社会福祉専門職としての実践性を高め、福祉活動の発展に寄与できるようになること、また、特別研究を通じて、文献や調査等から、社会福祉に関する課題を設定し、社会福祉に関する問題を客観化させるための手法を身につけることを目的に配置する科目群です。「社会福祉分野」は児童、障害者、高齢者を中心として、地域における種々の生活問題を抱える人々の支援に必要な知識を理解し、社会福祉の価値をベースとして、生活問題を抱える人々の実情に応じた支援方法を提案できること、さらに社会福祉の学術的手法を用いて抽出された諸問題について、自分の考えを適切に表現できることを目的に配置する科

目群です。「地域社会分野」は地域社会分野の授業科目や他専攻科目の授業を通じて、生活問題を抱える人々を支援するために有用な隣接学問に関する知識を理解することを目的に配置する科目群です。

【心理臨床専攻】

心理臨床専攻では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施します。

必修科目 20 単位、選択必修科目（A～E 群）からそれぞれ 2 単位以、計 10 単位以上合計 32 単位以上を修得する必要があります。ただし、他専攻科目から 2 単位まで、修了要件として単位認定できます。

心理臨床専攻は、心理学全般の領域を関連付けながら、心理臨床に関する知識技能を深め、心理的支援を必要とする人に対するカウンセリングなどの実践能力を身につけ、さらに他職種とも連携する能力をもつ臨床心理士を養成することを目的としています。本専攻の教育課程は、「必修科目」と A～E 群からなる「選択必修科目」で構成されています。「必修科目」は、心理臨床に関わる専門的知識を身につけるために、臨床心理学に関わる基礎的・基本的な科目群、ならびに心理面接の基礎的な技能を習得するための臨床心理基礎実習（1 年次）と学内実習施設と学外実習機関で行う臨床心理実習（2 年次）、さらに修士論文の作成を総合的に支援する特別研究（1・2 年次）から構成されています。「選択必修科目」は A 群の心理学や臨床心理学の研究法に関する科目群、B 群の心理学の各分野に関する科目群、C 群の社会関係に関する科目群、D 群の医療や障害に関する科目群、E 群の臨床心理学の技術に関する科目群から構成されています。

「必修科目」および「選択必修科目」には臨床心理士受験資格の取得に必要な科目を配置しています。

3. 人間社会学研究科（修士課程）の構成と特色

【社会福祉専攻】

(1) 構成

社会福祉研究の総合化・統合化の必要性より、社会福祉専攻では①社会福祉分野、②地域社会分野の 2 分野で構成されています。研究内容は相互に関連し、学術研究の連携を図ります。

(2) 特色

- ① 社会福祉分野では、児童と家族、障害者、高齢者等の援助を必要とする人々の生活課題について、個人や家族、集団、地域等における人間関係やサービス利用状況等を含めて全体的に把握することで、当事者の育成や保護、介護、社会参加、自立支援等のあり方を研究していきます。
- ② 地域社会分野では、地域開発、住民の生活と福祉、地域社会の産業・雇用の促進等を目指す地域政策を研究し、また地方自治体における社会福祉の政策・制度、福祉計画等についての問題を追求します。

【心理臨床専攻】

(1) 構成

心理臨床専攻は、生涯にわたる発達の過程において何らかの困難を抱えた人々の心理的側面を支える人材の養成を目指します。心理学の基礎的側面の学習とともに、心理的支援を必要とする人に対するカウンセリングなどの実践能力を育成します。本専攻は日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院です。

(2) 特色

- ① 教育、医療、福祉領域で十分に活躍できる臨床心理士を養成することを目指しています。本専攻では、心理臨床の専門性を高めながら、福祉、医療の分野で他の専門的職業人と協働していける臨床心理士の養成を目指します。そのために、福祉、医療に関する科目を他の専攻等から履修できるようにしています。
- ② 実践的な技能のみならず研究についての能力も育成します。1年次より特別研究を課し、心理臨床について主体的に研究する能力を育成します。
- ③ 実習は、学内の心理教育相談室や協力病院などで2年間にわたって行います。心理療法や心理査定についての基本的な技能を実践的かつ体系的に身につけられるように配慮します。

4. 社会人等の学習に対する対応

人間社会学研究科では、社会人に対しては以下の配慮を行います。

- (1) 社会人入学者には1年間の昼間通学と、2年次は1年次に一定の単位を取得していることを条件に夜間・土曜日の通学で全単位が履修できるよう配慮します。
- (1)-2 社会福祉専攻は、社会人に限定することなく、1年次から開講される土日、祝日授業によって、1年間の昼間通学ないし全単位を修得することが可能になるよう配慮します。
- (2) 特に優秀な学生は1年間の就学で修士課程を修了出来る制度を設けています。それらの学生には1年次目から修士論文の作成を課し、定められた単位を修得した場合は、1年間の就学で課程修了を認めるものとします。

ただし、心理臨床専攻は実習を行うため、2年次にも平日に週1日（年間約45日）は昼間の登校が必要です。

IV. 看護学研究科の概要

1. 設置の趣旨

福岡県立大学は、昭和20年設置の福岡県立保健婦学校と昭和27年設置の福岡県立保育専門学院の両校を起源とし、平成4年に4年制大学として開学しました。現在では、看護学部と人間社会学部を擁する西日本でも数少ない総合保健福祉系の大学で、名実ともに保健・医療・福祉の分野において先駆的役割を果たしています。

看護職者の果たすべき役割は、その活動領域と内容においてますます広がりを見せ、多種多様化してきています。これからの看護職者には、地域内外、施設内外において他の職種と連携をとりつつ、地域住民の健康状況やケアの必要性を的確に判断し、適切なケアを提供するなど、従来以上に主体性や

創造力が強く求められており、そこには併せて人間に対する深い理解に裏打ちされた看護実践能力とマネジメント能力が必要とされるようになってきています。本学では看護学部と福祉系の人間社会学部が併設されている点を最大限活かし、地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進する中核的な担い手である高度専門職業人としての看護職者や、研究者・教育者を養成することを目指し、大学院修士課程看護学研究科を設置しました。

2. 看護学研究科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

看護学研究科では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

専門必修科目から6単位、共通選択科目から8単位、看護学分野専門科目から16単位以上、計30単位以上（がん看護専門看護師コースは36単位以上、精神看護専門看護師コースは42単位以上、老年看護専門看護師コース43単位以上、助産学研究コース30単位以上、助産実践形成コース58単位以上、助産実践アドバンスコース30単位以上）を修得しなければなりません。

看護学専攻は、「基盤看護学領域」、「ヘルスプロモーション看護学領域」、「臨床看護学領域」、「助産学領域」から構成される。本専攻の教育課程は「専門必修科目」、「共通選択科目」、「看護学分野専門科目」から編成されています。「専門必修科目」は、看護学の基盤として、看護理論、看護倫理、看護研究法について学習する科目群です。「共通選択科目」は、学際的な知識を俯瞰するために、コンサルテーション論、英語文献講読特論などについて学修する科目群です。「看護学分野専門科目」は、看護学に関して専門的に学習し、看護現象を科学的及び専門的な視点から捉え、看護学に関する専門知識に基づく看護活動やその支援の在り方について学修する科目群です。

3. 看護学専攻（看護学分野）の構成と特色

(1) 構成

看護学専攻は、基盤看護学領域、ヘルスプロモーション看護学領域、臨床看護学領域、助産学領域の4つの専門領域から成り立っています。この4つの専門領域には研究コースがあるほか、臨床看護学領域には専門看護師コースがあります。専門看護師コースは、成人看護学のがん看護専門看護師コース、精神看護学の精神看護専門看護師コース、老年看護学の老年看護専門看護師コースの3コースがあります。また助産学領域では、助産実践形成コース、助産実践アドバンスコースがあります。研究コースでは修士論文の単位修得が学位取得の要件であり、専門看護師コース、助産学領域の助産実践形成コース、助産実践アドバンスコースでは課題研究の単位修得が学位取得の要件です。

(2) 特色

- ① 基盤看護学領域では、高度福祉社会において人々の多様な要望を捉え、適切な看護を提供するための理論的根拠を深めると共に、根拠のある看護実践（EBN：Evidence-based Nursing）を確立していくための科学的思考能力を養います。基盤看護学領域では、看護教育学、基礎看護学、看護心理学、実験看護学の4つを立てています。
- ② ヘルスプロモーション看護学領域では、わが国で長らく問題視されてきた健康課題のみならず、進行する少子高齢社会において新たに顕在化してきた健康課題に対する専門的介入の在り方を、ヘルスプロモーションの理念を基に学術的に探究し、看護実践活動に応用する基盤能力を育成することを目的としています。また、実践研究及び研究の展開に際しては、本学附属研

究所ヘルスプロモーション実践研究センターと連携し、地域における実践の場を共有し、諸課題について議論していく場を提供します。ヘルスプロモーション看護学領域では、思春期ヘルスプロモーション、地域看護学、在宅看護学の3つを立てています。

- ③ 臨床看護学領域では、成人看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、代替・補完看護学の5つの研究コースとがん看護学、精神看護学、老年看護学の3つの専門看護師コースを立てています。研究コースでは、様々な健康課題を持つ個人や家族がより健康的で高いQOL (Quality of life) を実現することにつながる実践研究・教育を行いうる人材を育成します。各専門看護師コースに関しては、がん看護専門看護師コースでは、緩和ケア、在宅ホスピスにおける看護を中心に学修します。精神看護専門看護師コースでは、複雑で解決困難な精神の健康問題を持つ人とその家族へのケアとケアを融合した組織変革を含めた高度な看護実践について学修し、地域精神看護もしくはリエゾン精神看護のサブスペシャリティを高めます。老年看護専門看護師コースでは、複雑かつ多様な健康問題をもつ終末期にある高齢者や認知症高齢者とその家族に対して、ケアとケアの融合による組織変革を含めた高度な看護実践について学修します。
- ④ 助産学領域は、ホリスティックな人間理解を基盤に、助産実践能力の強化を図るとともに研究能力を合わせ持つ人材を育成します。また助産学領域は、高度の助産実践能力を身につけた助産師の育成を目指す助産実践形成コース、助産実践の探究を目的とした助産実践アドバンスコース、さらに助産学における研究や教育に必要な能力を修得するための助産学研究コースの3つのコースから構成されます。

4. 看護学専攻・開講専門領域

【基盤看護学領域】

看護教育学

患者教育・学生教育・看護師教育・自己教育など看護領域におけるあらゆる教授＝学習過程に共通する学習援助型の教育理論や方法論について修得し、その根底にある教育哲学について学修します。学習援助型の看護教育を実践・研究・教育することのできる人材を育成することを目的としています。

基礎看護学

看護技術の構造および効果的な看護技術の教育方法について修得します。また、従来用いられている看護技術の根拠について、実験看護学との連携により、実験的手法を用いて検証する方法や、効果的な看護技術の開発を推進する能力を修得します。

看護心理学

心理学を基軸として看護学を論理的・科学的に探求していくための理論と方法を学びます。特に、看護技術の熟達化と思考深化との関係性を解明し、看護技術の修得過程に必要な諸要因について検討できる能力を育成します。

実験看護学

看護学においても客観的実験結果に基づいた研究が必要となります。そのために必要な形態学、生理学、分子生物学などの基本的実験的手法を修得し、これらを用いて、効果的な看護技術の教育や開発を推進する能力を修得します。

【ヘルスプロモーション看護学領域】

思春期ヘルスプロモーション

出生前後から思春期という人生初期のカテゴリーに関して、周産期領域から学校保健領域までを貫く人間発達の理論をもとに、各発達段階に応じた適切な専門的介入の方法論を探求します。とくに、近代学問からのアプローチを駆使し、性教育の実践展開の基礎となる新たな性教育学理論と、親子・地域の問題解決に向けた官民施策の基礎となる新たな母子保健学理論・思春期学理論・学校保健理論を学びます。

地域看護学

生活習慣病予防、介護予防といったわが国の懸案課題を解決することに焦点をあて、看護の理論的枠組みを用いて、個人、家族、グループ、および地域の観点から対象の特性を把握し、具体的な活動事例と関連づけながら、ケアや効果的な支援方法について探求します。

在宅看護学

高齢期に至る人生後期のカテゴリーに関して、人生の仕上げを支援するにふさわしいヘルスプロモーションと人生の場の在り方を対象者とともに構築する姿勢と視点を学びます。

【臨床看護学領域】

小児看護学

幼児期から思春期にある子どもの、看護上の今日的課題を広い視野から理解するため、また、生活の質を高める新たな解決方法を探究するための学術的基礎を学びます。これらの学びから、自らの課題をみつけその課題を探究し研究に繋げていく能力を修得します。

成人看護学

研究コースでは、成人看護に関連する理論やモデルを適用して研究を行い、成人看護学と成人看護の質の向上に寄与する人材を育成します。

がん看護専門看護師コースでは、複雑で解決困難な健康問題を持つ人とその家族に対して、高度な臨床判断に基づく卓越した看護を提供する能力、保健・医療・福祉チームの中でリーダーシップを発揮し、組織変革を含めた医療提供システムの改善を行う能力、様々な看護現象から看護実践の質を高めることにつながる実践的な研究を遂行する能力を持った人材を育成します。

老年看護学

研究コースでは、老年看護に関連する理論やモデルを適用して研究を行い、老年看護学と老年看護の質の向上に寄与する人材を育成します。

老年看護専門看護師コースは、38単位の課程です。複雑で解決困難な健康問題を持つ人とその家族が尊厳のある質の高い生活を送ることができるように、ケアとケアの融合による高度な臨床判断に基づく卓越した看護を提供する能力、保健・医療・福祉チームの中でリーダーシップを発揮し、組織変革を含めた医療提供システムの改善を行う能力、様々な看護現象から看護実践の質を高めることにつながる実践的な研究を遂行する能力を持った人材を育成します。

精神看護学

研究コースでは、精神看護に関連する理論やモデルを適用して研究を行い、精神看護学と臨床精神看護の質の向上に寄与する人材を育成します。

精神看護専門看護師コースでは、複雑で解決困難な精神の健康問題を持つ人とその家族に対して、

キュアとケアを融合した高度な臨床判断に基づく卓越した看護を提供する能力、保健・医療・福祉チームの中でリーダーシップを発揮し、組織変革を含めた医療提供システムの改善を行う能力、様々な看護現象から看護実践の質を高めることにつながる実践的な研究を遂行する能力を持った人材を育成します。本コースは38単位のカリキュラムであり、地域精神看護又はリエゾン精神看護のサブスペシャリティを主に培うことができます。

代替・補完看護学

Complementary Alternative Medicine（代替補完医療：CAM）の概念・哲学を、その歴史や背景を踏まえ理解することで、自己の研究課題を洗練します。さらに、研究・理論化されないまま看護実践に導入されてきたCAMのエビデンスを明確にし、統合医療における代替・補完看護学の役割を見出すことのできる人材を育成します。

【助産学領域】

助産実践形成コースは、周産期の様々な課題に対応するため高度な助産実践能力を身につけた助産師の育成を目指すコースであり、助産師国家試験受験資格・受胎調節実地指導員申請資格・新生児蘇生法「専門」コース認定申請資格を取得できます。

助産実践アドバンスコースは、助産師の有資格者のためのコースであり、助産実践力の向上とともに臨床での助産実践を実証していく能力をもった人材を育成します。

助産学研究コースは、助産学に関する課題を主体的に探究する能力をもち、助産学における新たな知見を見出すことのできる人材を育成します。

5. 学位取得に必要な在籍期間について

通常学位取得には2年の在籍が必要です。研究コースでは特に優秀で一定の条件を満たせば最短1年での学位取得が可能です。長期履修制度を利用する者は修業年限が3年となります。

V. 長期履修制度について

1. 長期履修制度とは

定められた修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に対して、標準修業年限を越えて一定の延長期間を加えた期間に、計画的な教育課程の履修を認める制度です。

2. 対象

長期履修学生として申請できる者は、大学院修士課程の入学資格を有する者のうち、次のいずれかに該当するものが対象になります。

- (1) 職業を有している者
- (2) 育児、親族の介護などの特別の事情がある者
- (3) その他やむを得ない事情を有し、修業年限で修了することが困難な者

3. 修業年限・在学期間

修業年限は3年、在学期間は最長で4年（休学期間を除く）です。

4. 申請

長期履修を希望する者は、入学手続後直ちに、人間社会学研究科では研究科長と、看護学研究科では担当指導教員と協議して、申請の書類を添えて申請してください。

5. 長期履修期間の短縮申請

入学時に長期履修を認められた学生は、1回に限り許可された長期履修期間を3年から2年に短縮することができます。

短縮を希望する場合は、修了予定前年度の2月1日から2月末日までに、担当指導教員と協議の上、書類を提出してください。

VI. 授業科目と履修方法

VI-1. 人間社会学研究科の授業科目と履修方法

教育課程及び履修基準

専攻	科目区分	授業科目	標準開講年次と単位数				備考
			年次	必修	選択	自由	
社会福祉専攻	コア科目	特別研究	1~2	4			履修方法及び修了要件 1. 修士課程の修了には、各自の研究分野に従い、指導教員の下に、所定の30単位以上(心理臨床専攻は32単位以上)を修得し、かつ修士論文の審査と最終試験に合格しなければならない。 2. 社会福祉専攻は、専攻から必修科目10単位を含めて、合計30単位以上を修得すること。ただし、他専攻科目から4単位まで、修了要件として単位認定できる。 3. 心理臨床専攻は、専攻から必修科目20単位を含めて、合計32単位以上を修得すること。ただし、他専攻から2単位まで、修了要件として単位認定できる。 4. 心理臨床専攻の必修科目及び選択科目E群については、他専攻の学生は受講できない。
		社会福祉研究法	1	2			
		フィールドワーク	1		2		
		量的研究法	1・2		1		
		質的研究法	1・2		1		
	社会福祉分野	社会福祉研究	1・2	2			
		社会福祉演習	1・2		2		
		ソーシャルワーク研究	1・2	2			
		ソーシャルワーク演習	1・2		2		
		高齢者福祉研究	1・2		2		
		高齢者福祉演習	1・2		2		
		障害者福祉研究	1・2		2		
		障害者福祉演習	1・2		2		
		地域福祉研究	1・2		2		
		地域福祉演習	1・2		2		
地域社会分野	子ども家庭福祉研究	1・2		2			
	子ども家庭福祉演習	1・2		2			
	精神保健福祉研究	1・2		2			
	精神保健福祉演習	1・2		2			
	福祉制度比較研究	1・2		2			
	社会保障制度研究	1・2		2			
	社会政策研究 (H28年度は開講せず)	1・2		2			
	社会政策演習 (H28年度は開講せず)	1・2		2			
	地域問題研究	1・2		2			
	地域問題演習 (H28年度は開講せず)	1・2		2			
	公共政策研究 (H28年度は開講せず)	1・2		2			
	地域文化研究	1・2		2			
	地域文化演習	1・2		2			
	地域社会研究 (H28年度は開講せず)	1・2		2			
	地域社会演習 (H28年度は開講せず)	1・2		2			
	計		10	50			
心理臨床専攻	必修科目	臨床心理学特論	1・2	4			
		臨床心理面接特論	1・2	4			
		臨床心理査定演習	1・2	4			
		臨床心理基礎実習	1	2			
		臨床心理実習(学内)	2	1			
		臨床心理実習(施設)	2	1			
	A群	臨床心理学研究法特論	1・2		2		
		心理学研究法特論	1・2		2		
		B群	発達心理学特論	1・2		2	
			認知心理学特論	1・2		2	
		C群	社会心理学特論	1・2		2	
人間関係特論	1・2			2			
D群	神経生理学特論	1・2		2			
	老年心理学特論	1・2		2			
E群	心理療法特論	1・2		2			
	投影法特論	1・2		2			
	学校臨床心理学特論	1・2		2			
	特別研究	1~2	4				
	計		20	22			

1. 授業時間

	月曜日～金曜日	土曜日（日曜日及び祝日）	
1時限	8：50～10：20	8：50～10：20	}
2時限	10：30～12：00	10：30～12：00	
昼休み	12：00～12：50	12：00～12：50	
3時限	12：50～14：20	12：50～14：20	
4時限	14：30～16：00	14：30～16：00	
5時限	16：10～17：40	16：10～17：40	}
※ { 6時限	17：50～19：20	17：50～19：20	
7時限	19：30～21：00	—————	

※夜間・土曜日の授業は、人間社会学研究科では、社会人入学者で2年次に受講を希望する場合に、科目によって開講されるものです。

2. 課程の修了要件

- (1) 修士課程の修了には、原則として2年以上在学し、各自の研究分野の指導教員の下に所定の30単位以上（心理臨床専攻は32単位以上）を修得し、かつ修士論文の審査と最終試験に合格することが必要です。ただし、授業科目の履修成績や研究活動、修士論文等において特に優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で課程の修了を認めることがあります（人間社会学研究科の在学期間の特例適用に関する申し合わせを参照のこと）。
- (2) 修士論文作成の指導を受けるため、1年次の前期から人間社会学研究科の学生は「特別研究」を受講することが必要です。このため、自分の研究指導教員を決めて「研究指導教員届」を教務入試班に提出してください。詳しくは「6.履修の手続き」を参照してください。
- (3) 修士論文の審査には、論文審査委員が行う口頭試問も含まれます。また、修士論文発表会（論文審査委員、それ以外の教員、院生等も含む公開発表及び質疑応答）も行います。
- (4) 社会福祉専攻は、所属する専攻から必修科目10単位（フィールドワークを選択に変えれば8単位）を含めて、合計30単位以上を修得することが必要です。ただし、他専攻科目から4単位まで、修了要件として認定できます。
- (5) 心理臨床専攻は、所属する専攻から必修科目20単位を含めて、合計32単位以上を修得することが必要です。ただし、他専攻科目から2単位まで、修了要件として単位認定できます。
- (6) 人間社会学研究科の社会人入学者で希望する人は、教育方法の特例として、2年次目に、必要な授業科目を夜間・土曜日等に受講することができます。この特例は、希望者に次の方法により適用されます。ただし、心理臨床専攻は実習を行うため、2年次にも平日に週1日（年間約45日）は昼間の登校が必要です。
 - ① 修業年限2年のうち、1年次は修学に専念し、課程修了に必要な単位のうち「フィールドワーク」2単位（心理臨床専攻は「臨床心理基礎実習」2単位）及び「特別研究」2単位分を含んで20単位以上を修得しておくことが必要です。
 - ② 2年次に夜間・土曜日等に受講できる授業科目は、原則として「演習」及び「特別研究」です。

- ③ 2年次における夜間・土曜日の授業時限は、原則として次のとおりです。
- ・平日（第6時限または第7時限）
 - ・土曜日（第3時限から第6時限の間）
 - ・夏季及び冬季休業期間
- ④ この特例の適用を希望する人は、①を満たした年度末に、研究指導教員を通じて次年度の受講希望科目を出願し、許可を得ることが必要です。詳しくは研究指導教員に相談してください。

3. 成績評価

試験又は追試験の成績評価は、原則として100点を満点とする次の5段階で行い、それぞれA、B、C、D及び不可の評語で表し、A、B、C及びDを合格、不可は不合格とします。

評語	A	B	C	D	不可
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0

授業科目の単位の認定は、合格の授業科目について行います。

4. 学位の授与

本研究科に2年以上（特に優れた業績をあげた者で特例が認められた場合は1年以上）在学し、研究指導教員の指導の下に所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けて修士論文の審査及び最終試験に合格した者には、それぞれの専攻に応じて次の学位を授与します。

研究科名	専攻名	学位名
人間社会学研究科	社会福祉専攻	修士（社会福祉）
	心理臨床専攻	修士（心理臨床）

5. 授業科目の開設時期と担当者

専攻	1 年 ・ 2 年					
	前 期			後 期		
	授 業 科 目	担 当	単 位	授 業 科 目	担 当	単 位
社会福祉専攻	社会福祉研究	細井	②	社会福祉演習	細井	2
	ソーシャルワーク研究	河野	②	ソーシャルワーク演習	河野	2
	高齢者福祉研究	本郷	2	高齢者福祉演習	本郷	2
	精神保健福祉研究	住友	2	精神保健福祉演習	住友	2
	地域福祉研究	村山	2	地域福祉演習	村山	2
	子ども家庭福祉研究	奥村	2	子ども家庭福祉演習	奥村	2
	地域文化研究	田中	2	地域文化演習	田中	2
	障害者福祉研究	門田	2	障害者福祉演習	門田	2
	福祉制度比較研究	鬼崎	2	社会保障制度研究	平部	2
	社会福祉研究法	住友	②	地域問題研究	堤	2
	量的研究法	本郷	1			
	質的研究法	住友	1			
	特別研究（細井、住友、本郷） ④ （1～2年）					
	フィールドワーク（細井、住友、本郷） 2 （1年）					
心理臨床専攻	臨床心理学特論（吉岡、小山、岩橋） ④ 通年					
	臨床心理面接特論（岩橋、小嶋） ④ 通年					
	臨床心理査定演習（小嶋、吉岡） ④ 通年					
	臨床心理基礎実習（吉岡、池、岩橋、小嶋、小山、福田） ② 通年					
	臨床心理実習（学内）（岩橋、池、小嶋、小山、福田、吉岡） ① 通年					
	臨床心理実習（施設）	岩橋、池 小嶋、小山 福田、吉岡	①			
	心理学研究法特論	福田	2	臨床心理学研究法特論	池	2
	発達心理学特論	池	2	認知心理学特論	福田	2
	社会心理学特論	上野	2	人間関係特論	上野	2
	神経生理学特論	麦島	2	老年心理学特論	麦島	2
	心理療法特論	田中克	2	学校臨床心理学特論	内田	2
投影法特論	濱野	2				
特別研究（福田、岩橋、上野、小嶋、麦島、吉岡） ④ （1～2年）						

注1. 単位数が○囲みの科目は各専攻の必修科目です。

2. 「臨床心理基礎実習」は1年次、「臨床心理実習」は2年次の開設です。
3. 「特別研究」は、修士論文作成指導であり、1年次前期から履修します。
4. 集中講義の時期・日程等は、決定しだい掲示等で連絡します。

6. 履修の手続き

履修にあたっては、以下に示す諸届を、定められた期日までに教務入試班に提出を行うこと。

提出期限：(1)「履修登録」	……………	4月22日（金）
(2)「研究指導教員届」	……………	4月22日（金）
(3)「修士論文題目届」	……………	6月17日（金）
(4)「修士論文題目変更届」	……………	変更後直ちに

(1) 「履修登録」

- ① 授業科目を履修するには、定められた期日までに「履修登録」を行う。
- ② 「履修登録」をするにあたっては、次ページ以降の「授業案内」等を参考に、自分なりの研究計画、履修計画を立て、研究指導教員に相談して下さい。また、この手引きの「Ⅵ. 2. 課程の修了要件」を熟読し、間違いのないように行うこと。
- ③ 履修科目を変更する場合は、研究指導教員に相談した上で、4月22日（金）までに登録の変更を行う。

(2) 「研究指導教員届」(様式1) (1年次生)

- ① 修士論文作成の指導を受けるため、1年次前期から「特別研究」を受講すること。
- ② 前期授業開始後おおむね2週間以内に、指導を希望する教員を訪問して相談し「研究指導教員届」に許可印をもらい、これを教務入試班に提出する。
- ③ 人間社会学研究科の研究指導教員の研究分野・専門領域は、この手引きの「Ⅶ. 授業案内」を参考にし、また、複数の教員に相談すること。

(3) 「修士論文題目届」(様式2) (人間社会学研究科2年次生及び1年間の修学で課程修了希望者)

- ① 論文題目は、研究指導教員の指導を受けて記入する。
- ② 研究指導教員の確認印を得てから提出する。
- ③ 人間社会学研究科において、1年間の修学で課程の修了を希望する場合は、研究指導教員に相談を行うこと。

(4) 「修士論文題目変更届」(様式3) (該当者のみ)

- ① 修士論文の題目を変更する場合は、研究指導教員の指導を受け、その確認印を得てから「修士論文題目変更届」を提出する。
- ② この変更届は「修士論文題目届」提出後、修士論文提出締切日までの間、特に提出期限は設けませんが、変更した場合は直ちに提出すること。

(5) 研究指導教員届から学位取得までの手続き

- ① 学生は4月22日までに研究指導教員届(様式1)を教務入試班へ提出する。
- ② 学生は指導教員と相談の上、6月17日までに修士論文題目届(様式2)を教務入試班へ提出する。
- ③ 学生は、修士論文(3部)および要旨を教務入試班へ提出する。
- ④ 教務入試班は、提出された修士論文を研究科長へ渡す。
- ⑤ 研究科長は、研究科委員会を開催し、提出された論文の審査にあたる主査・副査(2名)を決定する。
- ⑥ 主査は、副査(2名)と共に口頭試験にて修士論文の審査を行う。
- ⑦ 学生は、口頭試験により指摘された内容の修正を行い、再度、教務入試班へ修正された論文(3部)を提出する。
- ⑧ 教務入試班は、再度提出された論文を主査・副査(2名)へ渡す。

- ⑨ 主査・副査（２名）は、論文の再審査を行う。
- ⑩ 主査は、修正された論文をもとに、副査（２名）と共に論文評価を行う。
- ⑪ 研究科長は、主査より評点がつけられた最終論文および論文要旨を受け取り、研究科委員会を開催する。
- ⑫ 主査は、研究科委員会において、論文要旨をもとに論文の概要を説明する。さらに修士論文評価基準と学位論文審査報告書を提示し、審査の結果を報告する。それをもとに研究科委員会は、修士論文の最終審査を行い可否を判定する。
- ⑬ 合格の判定を受けた学生は、修士論文発表会を開催し、発表する。
- ⑭ 修了式において、「修士（社会福祉・心理臨床）」の学位を授与する。

人間社会学研究科（社会福祉専攻）修士論文評価基準

学籍番号： _____ 学生氏名： _____

提出論文タイトル： _____

評価基準		
1～7の項目：	8 非常に良い 6 良い 5 普通 3 悪い 1 非常に悪い	
8の項目：	3 良い 2 普通 1 悪い 0 評価できない	
9の項目：	5 非常に良い 4 良い 3 普通 2 悪い 1 非常に悪い	
10の項目：	5 非常に良い 4 良い 3 普通 2 悪い 1 非常に悪い	
1. 社会福祉学との関連性	社会福祉学もしくは社会福祉学実践の発展に貢献する研究か	
2. 文献レビュー	先行研究を踏まえているか	
3. 研究目的の明確化	研究目的は明確であるか	
4. 研究の妥当性・信頼性	研究目的に照らして研究方法は適切か	
5. 研究の独自性・新規性・発展性	新しい知見または方向性は見出せたか	
6. 理にかなった考察・成果の信頼性	導き出された結果に基づいて考察できているか	
7. 論文の論理性	論理展開の一貫性	
8. 論文の構成と表現	1) 使用されている概念、用語は適切か	
	2) 表題は内容を適切に表しているか	
	3) 研究方法は適切に記述されているか	
	4) 文章及び記号、単位等は正確に表記されているか	
	5) 図表は本文と対応しているか	
	6) 注、引用文献、資料は適切か	
	7) 外国語文献が活用されているか	
	8) 要旨は適切か	
9. 倫理的側面	倫理上の問題はないか	
10. プレゼンテーション（口頭試問）	1) わかりやすい説明か（話し方や情報のまとめ方）	
	2) スライド（資料）の作成提示方法は適切か	
	3) 質疑に対する応答が的確か	
合計		

修正を要する点は

- 1 無修正で受理する 2 一部修正を前提に受理する 3 修正結果を見て判断する
4 一部修正にとどまらないので、今回は不可とする

【修正を要する点を具体的に示して下さい】

全体評価

【本論文に対する総括的コメント】

評価者氏名： _____

人間社会学研究科（心理臨床専攻）修士論文評価基準

学籍番号： _____ 学生氏名： _____

提出論文タイトル： _____

評価基準及び評価項目		
	加点項目	20点満点
1	問題と目的：先行研究を踏まえており、研究目的は明確であるか	
2	方法：研究目的に照らして研究方法は適切であるか	
3	結果：データを適切に記述・分析しているか	
4	考察：結果に基づいて考察されているか	
5	内容：新しい知見または方向性が得られたか	
	減点項目	1項目5点まで
6	論理展開の一貫性はあるか	
7	使用されている概念、用語は適切か	
8	統計は適切に使用されているか	
9	表題は内容を適切に表現しているか	
10	倫理上の問題はないか	
11	記号、単位等は正確に表記されているか	
12	図表は本文と対応しているか	
13	注、引用文献、資料は適切か	
14	要旨は適切か	
合計	100点満点 (60点以上を合格とする)	

修正を要する場合は

1. 一部修正を前提に受理する。
2. 修正結果を見て判断する。
3. 一部修正にとどまらないので、今回は不可とする。

一部修正を要する場合、具体的にご記入下さい。

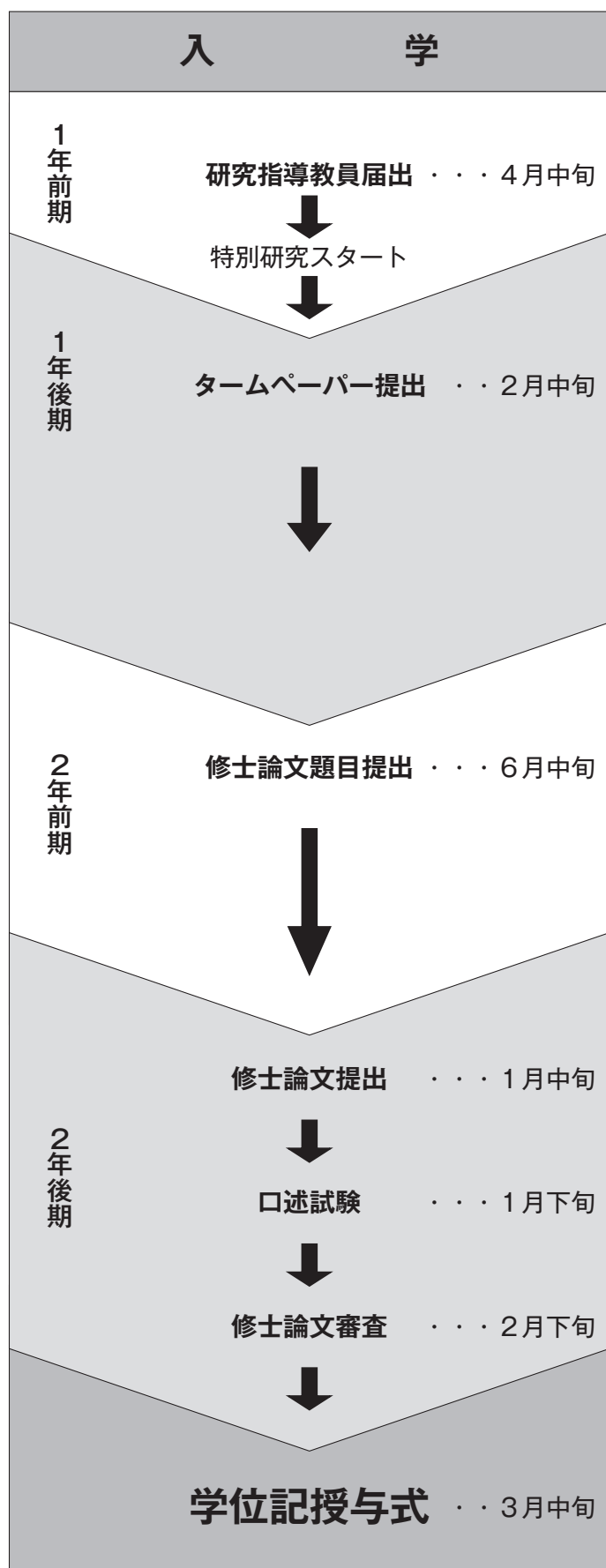
全体評価

1. 非常に優れている (90点以上)。
2. 優れている (80点以上)。
3. 普通 (70点以上)。
4. 修士論文としての水準には達している (60点以上)。
5. 修正結果を見て判断する。
6. 不可

本論文に対する総括的コメント

評価者氏名： _____

【大学院人間社会学研究科修士課程 修士論文作成スケジュール】



大学院入学から修士論文作成までの大まかなスケジュールは、左の通りですが、平成28年度の予定は下記の通りです。

指導教員も下記の日程で指導していきますので、院生の皆さんは計画的に取り組んで下さい。

【平成28年度日程】

(平成28年)

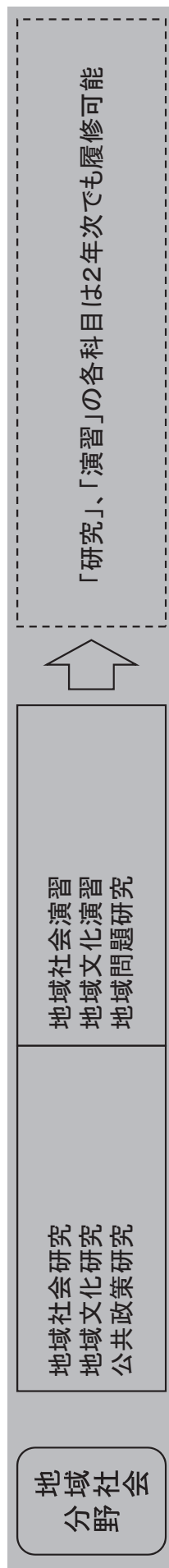
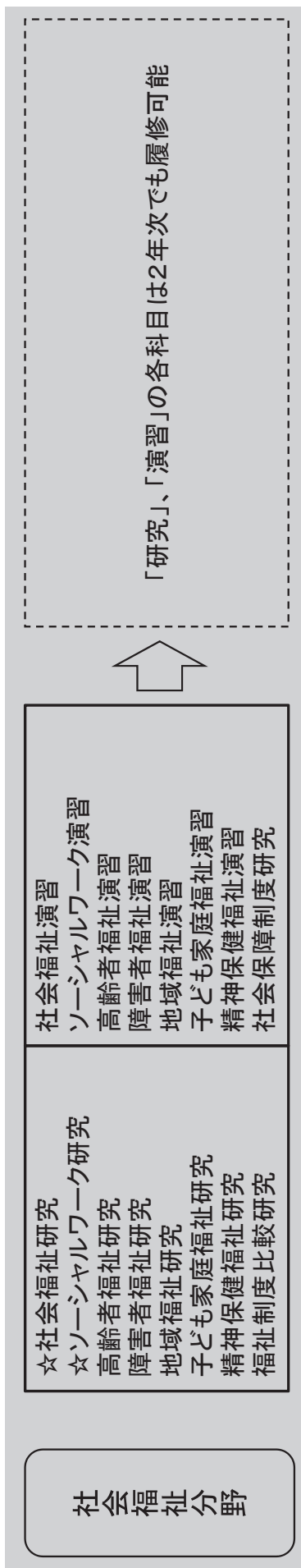
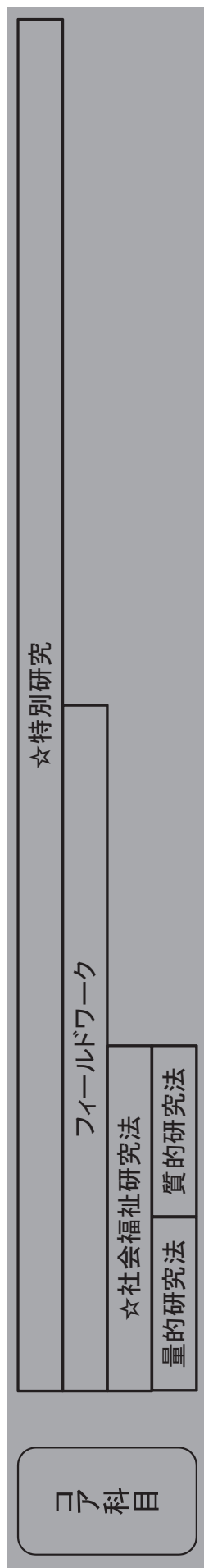
- ◆ 4月4日(月)
入学式
- ◆ 4月22日(金)(1年生)
研究指導教員届出締切
- ◆ 6月17日(金)(2年生)
修士論文題目届出締切
- ◆ 7月6日(水)(2年生)
修士論文中間発表

(平成29年)

- ◆ 1月18日(水)(2年生)
修士論文提出期限
- ◆ 1月25日(水)(2年生)
修士論文口述試験
- ◆ 2月8日(水)(2年生)
修士論文発表会
- ◆ 2月22日(水)(2年生)
修士論文最終審査
- ◆ 3月17日(金)
大学院修士学位記授与式

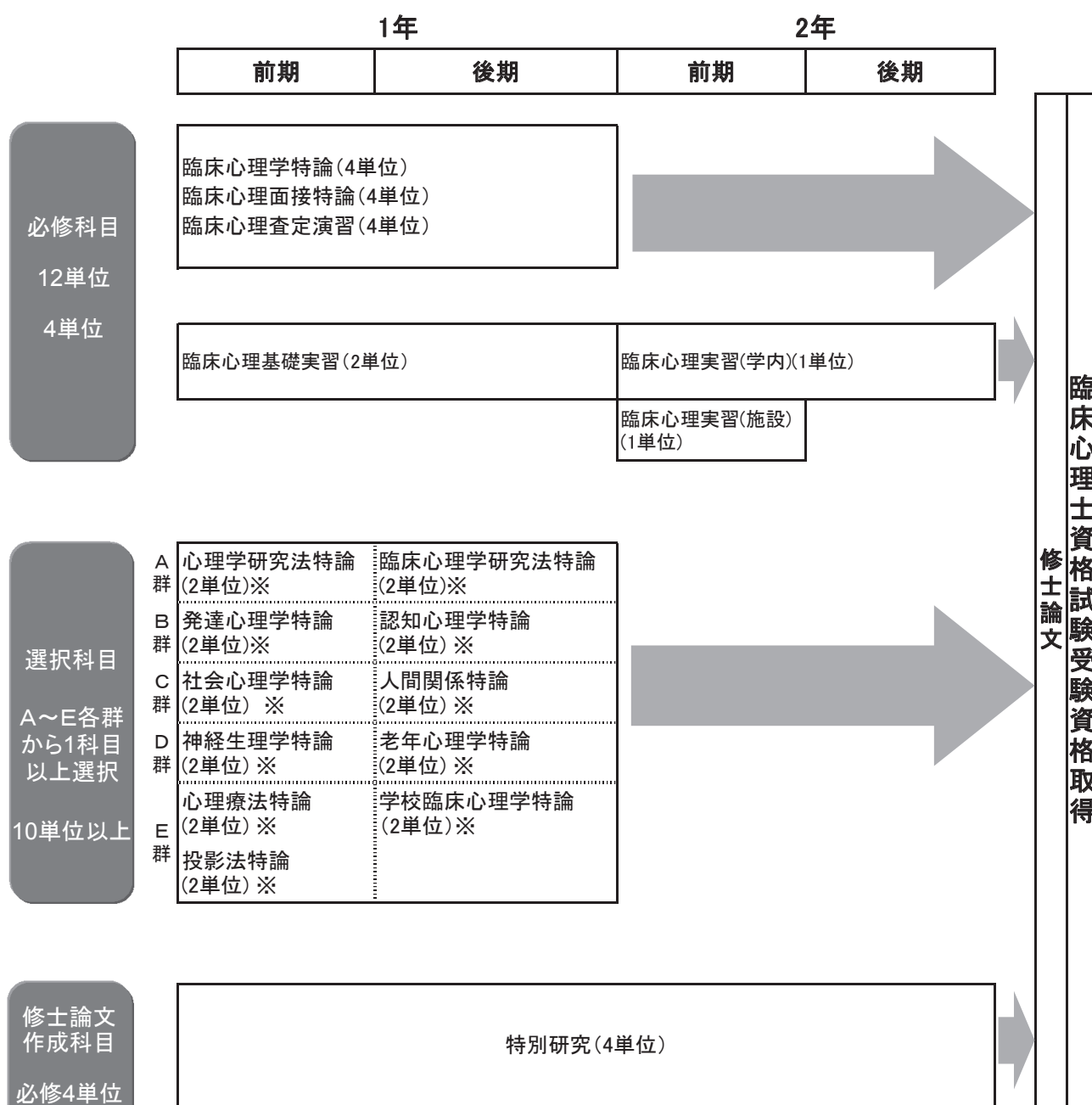
社会福祉専攻コースツリー

1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
------	------	------	------



※ ☆印は必修
※ 他専攻から4単位以上を修得することができる

心理臨床専攻コースツリー



(注)1 ※ 2年次においても履修できる科目

(注)2 上記科目以外に、他専攻科目から2単位まで、修了要件として単位認定できる。

VI-2. 看護学研究科の授業科目と履修方法

教育課程及び履修基準

	科目区分	授業科目の名称	標準開講年次・時期・単位数				
			年次	開講時期	必修	選択	自由
看護学	専門必修科目	看護理論	1	前期	2		
		看護倫理	1	前期	2		
	看護研究法	1	前期	2			
		計			6		
	共通選択科目	コンサルテーション論	1	前期		2	
		看護教育学	1	後期		2	
		英語文献講読特論	1	前期		2	
		看護政策論	1	通年		2	
		Advanced 生理学・病態生理学	1	前期		2	
		Advanced フィジカルアセスメント	1	後期		2	
		Advanced 臨床薬理学	1	通年		2	
		看護管理学	1	後期		2	
		臨床心理学特論	1	後期		2	
		家族社会学特論	1	後期		2	
		ヘルスプロモーション科学	1	後期		2	
哲学的人間学		1	後期		2		
データ解析特論		1	前期		2		
データ解析演習	1	後期		2			
ウイメンズヘルス特論	1	前期		1			
ウイメンズヘルス演習	1	後期		1			
	計				30		
看護学分野専門科目	基盤看護学領域	看護教育学特論	1	前期		2	
		看護教育学演習	1	後期		2	
		基礎看護学特論	1	前期		2	
		基礎看護学演習	1	後期		2	
		看護心理学特論	1	前期		2	
		看護心理学演習	1	後期		2	
		実験看護学特論	1	前期		2	
		実験看護学演習	1	後期		2	
		基盤看護学特別研究	1~2	通年		8	
			小計				24
	ヘルスプロモーション看護学領域	思春期ヘルスプロモーション特論	1	前期		2	
		思春期ヘルスプロモーション演習	1	後期		2	
		地域看護学特論	1	前期		2	
		地域看護学演習	1	後期		2	
		在宅看護学特論	1	前期		2	
在宅看護学演習		1	後期		2		
ヘルスプロモーション看護学特別研究		1~2	通年		8		
	小計				20		
臨床看護学領域	小児看護学特論	1	前期		2		
	小児看護学演習	1	後期		2		
	代替・補完看護学特論	1	前期		2		
	代替・補完看護学演習	1	後期		2		
	老年看護学特論	1	前期		2		
	老年看護学演習	1	後期		2		
	高齢者健康生活アセスメント論	1	前期		2		
	老年病診断治療学	1	前期		1		
	老年病診断治療学演習	1	前期		1		
	高齢者看護方法論	1	前期		2		
	高齢者地域・家族看護方法論	1	後期		1		
	高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論	1	後期		2		
	終末期高齢者看護論	1	後期		2		
	認知症高齢者看護論	1~2	前期		2		

看護学分野専門科目	臨床看護学領域	終末期老年看護実習Ⅰ	1	後期	2
		終末期老年看護実習Ⅱ	1	後期	3
		認知症老年看護実習Ⅰ	1～2	前期	2
		認知症老年看護実習Ⅱ	1～2	前期	3
		成人看護学特論	1	前期	2
		成人看護学演習	1	後期	2
		がん病態学	1	前期	2
		がん看護学特論Ⅰ	1	前期	2
		がん看護学特論Ⅱ	1	前期	2
		精神看護学特論	1	前期	2
		(26単位がん看護専門看護師コース)			
		がん看護学演習Ⅰ	1	後期	2
		がん看護学演習Ⅱ	1	後期	2
		がん看護学実習Ⅰ	2	前期	4
		がん看護学実習Ⅱ	2	前期	2
		精神看護学特論	1	前期	2
		(38単位精神看護専門看護師コース)			
		精神看護学演習	1	後期	2
		精神看護関連法規・制度・政策論	1	通年	2
		精神看護論	1	通年	2
		精神看護アセスメント論	1	通年	2
		精神看護セラピーⅠ	1	通年	2
		精神看護セラピーⅡ	1	通年	2
		精神障がい者地域移行・地域定着看護論	1	通年	2
		リエゾン精神看護論	1	通年	2
		精神看護専門看護師直接ケア実習	1	通年	2
		精神看護専門看護師役割実習	1	通年	2
		精神科診断治療実習	2	通年	2
		Advanced 精神看護専門看護師直接ケア実習	2	通年	2
		Advanced 精神看護専門看護師役割実習	2	通年	2
		臨床看護学特別研究	1～2	通年	8
		課題研究	1～2	通年	4
		小計			
攻	助産学領域	基礎助産学特論	1	前期	2
		基礎助産学演習	1	通年	2
		助産学特論	1	前期	2
		助産学演習	1	後期	2
		ホリスティック助産学特論	1	前期	1
		ホリスティック助産学演習	1	後期	2
		助産実践学Ⅰ(妊娠期)	1	前期	2
		助産実践学Ⅱ(分娩期)	1	通年	4
		助産実践学Ⅲ(産褥・新生児期)	1	後期	2
		助産実践学Ⅳ(ハイリスクケア)	1	後期	2
		マネジメント助産学特論	2	前期	2
		コミュニティ助産学特論	1	後期	1
		コミュニティ助産学演習	1	後期	2
		助産学実習Ⅰ(外来ケア実習)	1	前期	1
		助産学実習Ⅱ(周産期ケア実習)	1	後期	8
		助産学実習Ⅲ(助産所実習・継続ケア実習)	2	前期	2
		助産学実習Ⅳ(ハイリスクケア実習)	2	前期	1
		助産学実習Ⅴ(マザークラス実習)	2	後期	2
		助産実践アドバンス特論	1	後期	1
		助産実践アドバンス実習	2	前期	4
		助産学特別研究	1～2	通年	8
		助産学課題研究	1～2	通年	4
		小計			
合計			6	228	

注1. 専門必修科目6単位、共通選択科目8単位、看護学分野専門科目16単位以上を修得することが必要です。

2. 「特別研究」と「課題研究」は、修士論文作成指導であり、通常1年次前期から履修しますが、長期履修の場合は2年次前期からの履修もあり得ます。

1. 授業時間

	月曜日～金曜日	土曜日	
1時限	8:50～10:20	8:50～10:20	}
2時限	10:30～12:00	10:30～12:00	
昼休み	12:00～12:50	12:00～12:50	
3時限	12:50～14:20	12:50～14:20	
4時限	14:30～16:00	14:30～16:00	
5時限	16:10～17:40	16:10～17:40	
※ { 6時限	17:50～19:20	17:50～19:20	
7時限	19:30～21:00	—————	

※ 科目によっては、夜間・土曜日に授業が行われることがあります。

なお、ビズコリ（福岡市中央区）で授業を行う場合、利用時間は、平日10:00～22:00（土曜日10:00～18:00）です。

2. 課程の修了要件

- (1) 修士課程の修了には、原則として2年以上在学し、各自の研究分野の指導教員の指導の下に所定の30単位以上（がん看護専門看護師コースは36単位以上、精神看護専門看護師コースは42単位以上、老年看護専門看護師コースは43単位以上、助産実践形成コースは58単位以上）を修得し、かつ修士論文の審査と最終試験に合格することが必要です。ただし、研究コースでは、授業科目の履修成績や研究活動、修士論文等において特に優れた業績をあげた者については、1年以上以上の在学で課程の修了を認めることがあります（看護学研究科の在学期間の特例適用に関する申し合わせを参照のこと）。
 - (2) 修士論文作成の指導を受けるため、1年次の前期から研究コースの学生は「特別研究」、専門看護師コース、助産実践形成コース、助産実践アドバンスコースの学生は「課題研究」を受講することが必要です。このため、自分の研究指導教員を決めて「研究指導教員届」を教務入試班に提出してください。詳しくは「7.履修の手続き」を参照してください。
 - (3) 修士論文の審査には、論文審査委員が行う口頭試問も含まれます。また、修士論文発表会も行います。
 - (4) 看護学専攻は、専門必修科目6単位、共通選択科目8単位、看護学分野専門科目16単位以上を修得することが必要です。なお、他専攻から4単位までを修了要件として単位認定できます。専門看護師コースについては専門看護師コースの履修モデルを参照し、専門看護師の資格必修科目を合わせて修得してください。助産実践形成コースについては助産実践形成コースの履修モデルを参照し、助産師免許受験資格の必修科目を合わせて修得してください。また助産実践アドバンスコース、助産学研究コースについては各コースの履修モデルを参照して修得してください。
- ※ なお、履修方法等について不明な点は、遠慮なく教務入試班にお尋ねください。

3. 成績評価

試験又は追試験の成績評価は、原則として100点を満点とする次の5段階で行い、それぞれA、B、C、D及び不可の評語で表し、A、B、C及びDを合格、不可は不合格とします。

評語	A	B	C	D	不可
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0

授業科目の単位の認定は、合格の授業科目について行います。

4. 学位の授与

本研究科に2年以上（研究コースで特に優れた業績をあげた者で特例が認められた場合は1年以上）在学し、研究指導教員の指導の下に所定の単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者には、それぞれの専攻に応じて次の学位を授与します。

研究科名	専攻名	コース名	学位名
看護学研究科	看護学専攻	研究コース	修士（看護学）
		専門看護師コース	
		助産実践形成コース	
		助産実践アドバンスコース	

5. 看護学研究科 コースツリー

<教育目的>

地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進する中核的担い手である高度専門職業人としての看護職者や、看護学の創造と発展に貢献できる研究者・教育者を育成する。

		がん看護 専門看護師 への道	老年看護 専門看護師 への道	精神看護 専門看護師 への道	助産師への道
2年	看護学分野 専門科目	・ヘルスプロモーション 看護学特別研究(1~2年)	・ヘルスプロモーション 看護学特別研究(1~2年)	・がん看護学 特別研究 (1~2年) ・がん看護学 実習 I, II	・臨牀看護学 特別研究 (1~2年)
	看護学特別研究(1~2年)	・基礎看護学特別研究/演習 ・基礎看護学特別研究/演習 ・看護心理学特別研究/演習 ・実験看護学特別研究/演習	・思春期ヘルスプロモーション 特別研究/演習 ・地域看護学特別研究/演習 ・在宅看護学特別研究/演習	・成人看護学 特別研究/演習	・臨牀看護学 特別研究 (1~2年) ・がん看護学 特別研究 (1~2年) ・がん看護学 実習 I, II
1年	看護学分野 専門科目	・看護教育学特別研究/演習 ・基礎看護学特別研究/演習 ・看護心理学特別研究/演習 ・実験看護学特別研究/演習	・老年看護学特別研究/演習 ・老年病診療治療学/演習 ・高齢者看護 方法論 ・終末期高齢者看護学 ・認知症高齢者看護学 など	・精神看護学 特別研究 (1~2年) ・精神看護学 実習 ・精神看護学 特別研究 (1~2年) ・Advanced 精神看護学 特別研究 ・Advanced 精神看護学 特別研究 ケア実習 ・精神看護学 特別研究 ケア実習 II	・臨牀看護学 特別研究 (1~2年) ・助産学 特別研究 (1~2年) ・助産学 実習 アドハンス 実習
	看護学特別研究(1~2年)	・がん看護学 特別研究 (1~2年) ・がん看護学 実習 I, II など	・老年看護学 特別研究/演習 ・老年病診療治療学/演習 ・高齢者看護 方法論 ・終末期高齢者看護学 ・認知症高齢者看護学 など	・精神看護学 特別研究 (1~2年) ・精神看護学 実習 ・精神看護学 特別研究 (1~2年) ・Advanced 精神看護学 特別研究 ケア実習 ・Advanced 精神看護学 特別研究 ケア実習 II	・助産学 特別研究 (1~2年) ・助産学 実習 アドハンス 実習
共通選択 科目	・コンサルテーション論 ・看護教育学 ・英語文献講読特講	・看護政策論 ・Advanced生理学・病態生理学 ・Advancedフィジカルアセスメント	・家族社会学特別 ・ヘルスプロモーション科学 ・哲学的人間学	・データ解析特別研究/演習 ・ウイメンズヘルス特別研究/演習	・ホリスティック助産学特別研究/演習 ・基礎助産学特別研究/演習 ・助産学特別研究/演習 ・助産実践学 I, II, III, IV ・コミュニティ助産学特別研究/演習 ・マネジメント助産学特別研究
専門必修 科目	・看護理論 ・看護倫理 ・看護研究法	・Advanced臨牀薬理学 ・看護管理学 ・臨牀心理学特別			
領域	看護 教育学	看護 基礎 看護学	看護 基礎 看護学	看護 基礎 看護学	看護 基礎 看護学
		看護 心理学	看護 心理学	看護 心理学	看護 心理学
領域	看護 実 験 看護学	在宅 看護学	在宅 看護学	在宅 看護学	在宅 看護学
		地域 看護学	地域 看護学	地域 看護学	地域 看護学
領域	看護 実 験 看護学	ヘルスプロモーション看護学領域	ヘルスプロモーション看護学領域	ヘルスプロモーション看護学領域	ヘルスプロモーション看護学領域
		成人看護学	成人看護学	成人看護学	成人看護学
領域	看護 実 験 看護学	小児看護学	小児看護学	小児看護学	小児看護学
		老年看護学	老年看護学	老年看護学	老年看護学
領域	看護 実 験 看護学	臨牀看護学	臨牀看護学	臨牀看護学	臨牀看護学
		精神看護学	精神看護学	精神看護学	精神看護学
領域	看護 実 験 看護学	臨牀看護学	臨牀看護学	臨牀看護学	臨牀看護学
		助産学	助産学	助産学	助産学
領域	看護 実 験 看護学	臨牀看護学	臨牀看護学	臨牀看護学	臨牀看護学
		助産学	助産学	助産学	助産学

6. 履修モデル

6-1. 専門看護師コース履修モデル（老年看護学）

科目区分	科目	単位	開講年次	開講時期	選択必修の別
共通必修科目	看護理論	2	1	前期	必修
	看護倫理	2	1	前期	
	看護研究法	2	1	前期	
共通選択科目	コンサルテーション論	2	1	前期	大学院の科目としては選択科目だが、Advanced 生理学・病態生理学、Advanced フィジカルアセスメント、Advanced 臨床薬理学の6単位は、老年看護専門看護師の資格必修科目となっているため修得する必要がある。看護教育論、看護管理学、コンサルテーション論、看護政策論から2単位以上選択し修得する必要がある。
	看護教育学	2	1	後期	
	英語文献購読特論	2	1	前期	
	看護政策論	2	1	通年	
	Advanced 生理学・病態生理学	2	1	前期	
	Advanced フィジカルアセスメント	2	1	後期	
	Advanced 臨床薬理学	2	1	通年	
	看護管理学	2	1	後期	
	臨床心理学特論	2	1	後期	
	家族社会学特論	2	1	後期	
	ヘルスプロモーション科学	2	1	後期	
	哲学的人間学	2	1	後期	
	データ解析特論	2	1	前期	
	データ解析演習	2	1	後期	
ウイメンズヘルス特論	1	1	前期		
ウイメンズヘルス演習	1	1	後期		
老年看護学	老年看護学特論	2	1	前期	大学院の科目としては選択科目だが、老年看護専門看護師の資格必修科目となっているため、25単位と課題研究4単位を修得する必要がある。
	高齢者健康生活アセスメント論	2	1	前期	
	老年病診断治療学	1	1	前期	
	老年病診断治療学演習	1	1	前期	
	高齢者看護方法論	2	1	前期	
	高齢者地域・家族看護方法論	1	1	後期	
	高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論	2	1	後期	
	終末期高齢者看護論	2	1	後期	
	認知症高齢者看護論 ※1	2	1～2	前期	
	終末期老年看護実習Ⅰ	2	1	後期	
	終末期老年看護実習Ⅱ	3	1	後期	
	認知症老年看護実習Ⅰ ※1	2	1～2	前期	
	認知症老年看護実習Ⅱ ※1	3	1～2	前期	
	課題研究 ※1	4	1～2	通年	
合計					43単位以上

※1 長期履修生の場合は、2～3年次にかけて履修する。

6-2. 専門看護師コース履修モデル（がん看護学）

科目区分	科目	単位	開講年次	開講時期	選択必修の別
専門必修科目	看護理論	2	1	前期	必修
	看護倫理	2	1	前期	
	看護研究法	2	1	前期	
共通選択科目	コンサルテーション論	2	1	前期	大学院の修了には共通選択科目から8単位以上選択し修得する必要がある。 8単位中、コンサルテーション論、看護教育学、看護政策論、看護管理学から2単位以上選択し修得する必要がある。 コンサルテーション論、看護政策論、Advanced生理学・病態生理学は修得することが望ましい。
	看護教育学	2	1	後期	
	英語文献講読特論	2	1	前期	
	看護政策論	2	1	通年	
	Advanced生理学・病態生理学	2	1	前期	
	Advancedフィジカルアセスメント	2	1	後期	
	Advanced臨床薬理学	2	1	通年	
	看護管理学	2	1	後期	
	臨床心理学特論 ※1	2	1	後期	
	家族社会学特論	2	1	後期	
	ヘルスプロモーション科学	2	1	後期	
	哲学的人間学	2	1	後期	
	データ解析特論	2	1	前期	
	データ解析演習	2	1	後期	
	ウイメンズヘルス特論	1	1	前期	
ウイメンズヘルス演習	1	1	後期		
がん看護学	がん病態学	2	1	前期	大学院の科目としては選択科目だが、がん看護専門看護師の資格必修科目となっているため、修得する必要がある。
	がん看護学特論Ⅰ	2	1	前期	
	がん看護学特論Ⅱ	2	1	前期	
	がん看護学演習Ⅰ	2	1	後期	
	がん看護学演習Ⅱ	2	1	後期	
	がん看護学実習Ⅰ ※2	4	2	前期	
	がん看護学実習Ⅱ ※2	2	2	前期	
	精神看護学特論 ※1	2	1	前期	
	課題研究 ※2	4	1～2	通年	
合計					36単位以上

※1. 臨床心理学特論及び精神看護学特論（26単位がん看護専門看護師コースの科目）は、2単位中1単位が日本看護系大学協議会から認定されているため、がん看護専門看護師コースの学生は修得する必要がある。

※2. 長期履修生の場合は、2～3年次にかけて履修する。

6-3. 専門看護師コース履修モデル（精神看護学）

科目区分	科目	単位	開講年次	開講時期	選択必修の別
専門必修科目	看護理論	2	1	前期	必修
	看護倫理	2	1	前期	
	看護研究法	2	1	前期	
共通選択科目	コンサルテーション論 ※2	2	1	前期	大学院の修了には共通選択科目から8単位以上選択し修得する必要がある。 8単位中、コンサルテーション論、看護教育学、看護政策論、看護管理学から2単位以上選択し修得する必要がある。 Advanced 生理学・病態生理学、Advanced フィジカルアセスメント、Advanced 臨床薬理学は専門看護師コースの必修科目である。
	看護教育学 ※2	2	1	後期	
	英語文献講読特論	2	1	前期	
	看護政策論 ※2	2	1	通年	
	Advanced 生理学・病態生理学	2	1	前期	
	Advanced フィジカルアセスメント	2	1	後期	
	Advanced 臨床薬理学	2	1	通年	
	看護管理学 ※2	2	1	後期	
	臨床心理学特論 ※4	2	1	後期	
	家族社会学特論	2	1	後期	
	ヘルスプロモーション科学	2	1	後期	
	哲学的人間学 ※3	2	1	後期	
	データ解析特論 ※3	2	1	前期	
	データ解析演習 ※3	2	1	後期	
ウイメンズヘルス特論	1	1	前期		
ウイメンズヘルス演習	1	1	後期		
精神看護学	精神看護学特論	2	1	前期	*1と*2以外の科目は大学院の科目としては選択科目だが、精神看護専門看護師の資格必修科目となっているため、修得する必要がある。*1と*2は最低1科目は修得する必要がある。
	精神看護関連法規・制度・政策論	2	1	前期	
	精神看護論	2	1	通年	
	精神看護アセスメント論	2	1	通年	
	精神看護セラピーⅠ	2	1	通年	
	精神看護セラピーⅡ	2	1	通年	
	リエゾン精神看護論*2	2	1	通年	
	精神障がい者地域移行・地域定着看護論*1	2	1	通年	
	精神看護専門看護師直接ケア実習	2	1	通年	
	精神看護専門看護師役割実習	2	1	通年	
	精神科診断治療実習	2	2	通年	
	Advanced 精神看護専門看護師直接ケア実習	2	2	通年	
	Advanced 精神看護専門看護師役割実習	2	2	通年	
	課題研究 ※1	4	1～2	通年	
合計					42単位以上

※1 長期履修生は課題研究を1～3年次に履修する。

※2 コンサルテーション論、看護教育学、看護政策論、看護管理学は修得することが望ましい。

※3 質的研究を実施する学生は哲学的人間学を、量的研究を実施する学生はデータ解析特論、データ解析演習を履修することが望ましい。

※4 リエゾン精神看護をサブスペシャリティとする学生は臨床心理学特論を履修することが望ましい。

※5 地域精神看護をサブスペシャリティとする学生は、ヘルスプロモーション看護学領域の地域看護学特論又は在宅看護学特論を履修することが望ましい。

6-4. 助産実践形成コース履修モデル

科目区分	科目	単位	開講年次	開講時期	選択必修の別
専門必修科目	看護理論	2	1	前期	必修
	看護倫理	2	1	前期	
	看護研究法	2	1	前期	
共通選択科目	コンサルテーション論	2	1	前期	大学院の修了にはウイメンズヘルステ論、ウイメンズヘルス演習を含め、共通選択科目から8単位以上選択し修得する必要がある。
	看護教育学	2	1	後期	
	英語文献講読特論	2	1	前期	
	看護政策論	2	1	通年	
	Advanced 生理学・病態生理学	2	1	前期	
	Advanced フィジカルアセスメント	2	1	後期	
	Advanced 臨床薬理学	2	1	通年	
	看護管理学	2	1	後期	
	臨床心理学特論	2	1	後期	
	家族社会学特論	2	1	後期	
	ヘルスプロモーション科学	2	1	後期	
	哲学的人間学	2	1	後期	
	データ解析特論	2	1	前期	
	データ解析演習	2	1	後期	
	ウイメンズヘルステ論	1	1	前期	
ウイメンズヘルス演習	1	1	後期		
助産学	基礎助産学特論	2	1	前期	必修
	基礎助産学演習	2	1	通年	
	ホリスティック助産学特論	1	1	前期	
	ホリスティック助産学演習	2	1	後期	
	助産実践学Ⅰ（妊娠期）	2	1	前期	
	助産実践学Ⅱ（分娩期）	4	1	通年	
	助産実践学Ⅲ（産褥・新生児期）	2	1	後期	
	マネジメント助産学特論	2	2	前期	
	コミュニティ助産学特論	1	1	後期	
	助産学実習Ⅰ（外来ケア実習）	1	1	前期	
	助産学実習Ⅱ（周産期ケア実習）	8	1	後期	
	助産学実習Ⅲ（助産所実習・継続ケア実習）	2	2	前期	
	助産学課題研究	4	1～2	通年	
	助産学特論	2	1	前期	
助産学演習	2	1	後期		
助産実践学Ⅳ（ハイリスクケア）	2	1	後期		
コミュニティ助産学演習	2	1	後期		
助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）	1	2	前期		
助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）	2	2	後期		
合計					58単位以上

6-5. 助産実践アドバンスコース履修モデル

科目区分	科目	単位	開講年次	開講時期	選択必修の別
専門必修科目	看護理論	2	1	前期	必修
	看護倫理	2	1	前期	
	看護研究法	2	1	前期	
共通選択科目	コンサルテーション論	2	1	前期	大学院の修了には共通選択科目から8単位以上選択し修得する必要がある。
	看護教育学	2	1	後期	
	英語文献講読特論	2	1	前期	
	看護政策論	2	1	通年	
	Advanced 生理学・病態生理学	2	1	前期	
	Advanced フィジカルアセスメント	2	1	後期	
	Advanced 臨床薬理学	2	1	通年	
	看護管理学	2	1	後期	
	臨床心理学特論	2	1	後期	
	家族社会学特論	2	1	後期	
	ヘルスプロモーション科学	2	1	後期	
	哲学的人間学	2	1	後期	
	データ解析特論	2	1	前期	
	データ解析演習	2	1	後期	
	ウイメンズヘルス特論	1	1	前期	
ウイメンズヘルス演習	1	1	後期		
	助産実践アドバンス特論	1	1	前期	必修
	助産学特論	2	1	前期	
	助産学演習	2	1	後期	
	助産実践アドバンス実習	4	2	前期	
	助産学課題研究	4	1～2	通年	
助産学	基礎助産学特論	2	1	前期	大学院の修了には3単位以上選択し修得する必要がある。
	基礎助産学演習	2	1	通年	
	ホリスティック助産学特論	1	1	前期	
	ホリスティック助産学演習	2	1	後期	
	助産実践学Ⅰ（妊娠期）	2	1	前期	
	助産実践学Ⅱ（分娩期）	4	1	通年	
	助産実践学Ⅲ（産褥・新生児期）	2	1	後期	
	助産実践学Ⅳ（ハイリスクケア）	2	1	後期	
	マネジメント助産学特論	2	2	前期	
	コミュニティ助産学特論	1	1	後期	
	コミュニティ助産学演習	2	1	後期	
	助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）	1	2	前期	
助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）	2	2	後期		
合計					30単位以上

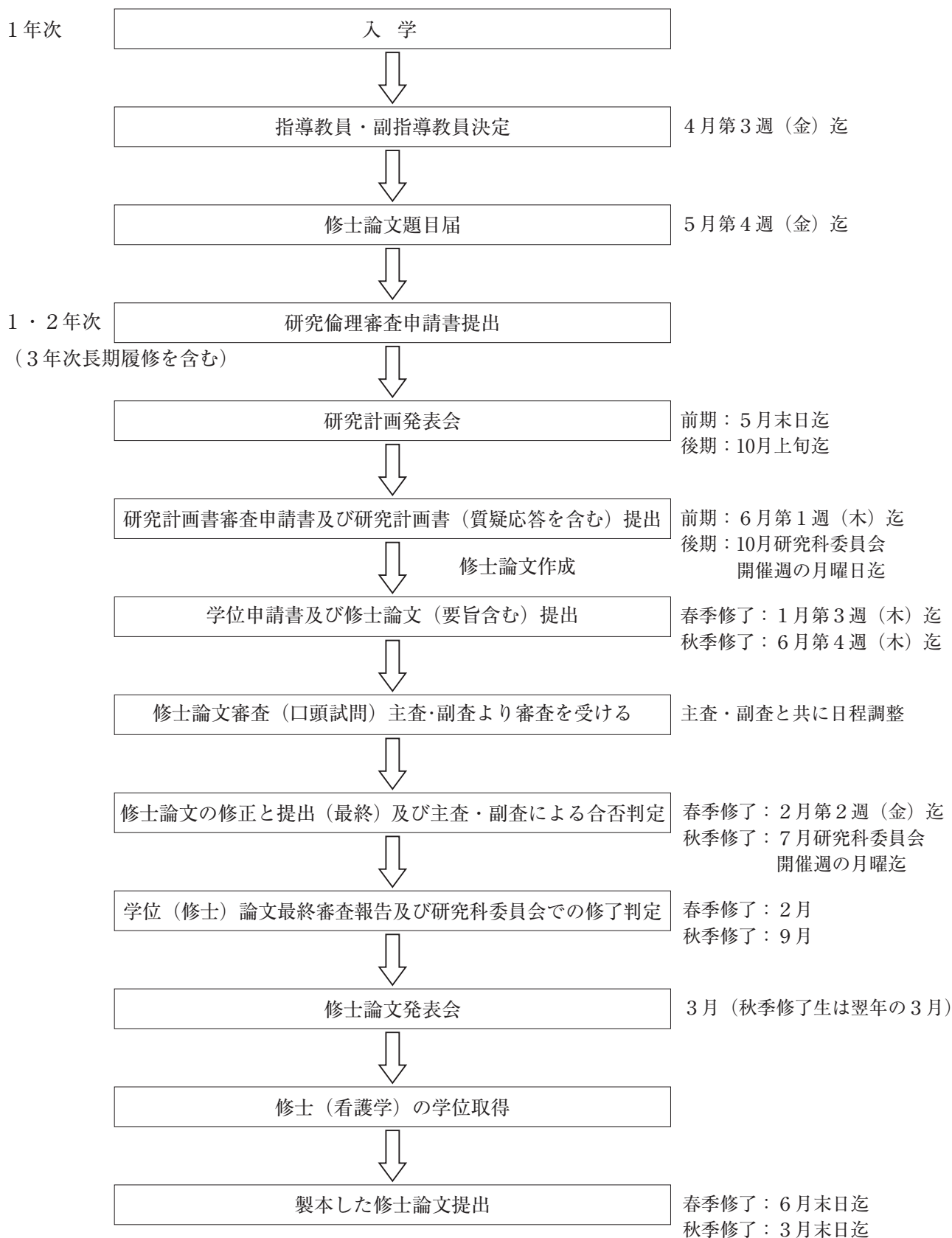
VI

6-6. 助産学研究コース履修モデル

科目区分	科目	単位	開講年次	開講時期	選択必修の別
専門必修科目	看護理論	2	1	前期	必修
	看護倫理	2	1	前期	
	看護研究法	2	1	前期	
共通選択科目	コンサルテーション論	2	1	前期	大学院の修了には共通選択科目から8単位以上選択し修得する必要がある。
	看護教育学	2	1	後期	
	英語文献講読特論	2	1	前期	
	看護政策論	2	1	通年	
	Advanced 生理学・病態生理学	2	1	前期	
	Advanced フィジカルアセスメント	2	1	後期	
	Advanced 臨床薬理学	2	1	通年	
	看護管理学	2	1	後期	
	臨床心理学特論	2	1	後期	
	家族社会学特論	2	1	後期	
	ヘルスプロモーション科学	2	1	後期	
	哲学的人間学	2	1	後期	
	データ解析特論	2	1	前期	
	データ解析演習	2	1	後期	
	ウイメンズヘルス特論	1	1	前期	
ウイメンズヘルス演習	1	1	後期		
助産学	助産学特論	2	1	前期	必修
	助産学演習	2	1	後期	
	助産学特別研究	8	1～2	通年	
	基礎助産学特論	2	1	前期	大学院の修了には4単位以上選択し修得する必要がある。
	基礎助産学演習	2	1	通年	
	ホリスティック助産学特論	1	1	前期	
	ホリスティック助産学演習	2	1	後期	
	助産実践学Ⅰ（妊娠期）	2	1	前期	
	助産実践学Ⅱ（分娩期）	4	1	通年	
	助産実践学Ⅲ（産褥・新生児期）	2	1	後期	
	助産実践学Ⅳ（ハイリスクケア）	2	1	後期	
	マネジメント助産学特論	2	2	前期	
	コミュニティ助産学特論	1	1	後期	
コミュニティ助産学演習	2	1	後期		
合計					30単位以上

7. 履修の手続き

学位（看護学修士）取得までのフローチャート



(1) 研究指導教員届けから研究計画審査までの手続き

1 年次

- 研究指導教員届（様式1） 学生は指導教員と相談の上、副指導教員1名を決め、4月第3週（金）までに研究指導教員届を教務入試班へ提出する。
 - 修士論文題目届（様式2） 学生は指導教員と相談の上、5月第4週（金）までに修士論文題目届を教務入試班へ提出する。
 - 修士論文題目変更届（様式3） 修士論文の題目を変更する場合は、指導教員と相談の上、修士論文題目変更届を教務入試班へ提出する。提出期限は、修士論文最終提出日直前の研究科委員会の開催日の前日までとし、それまでの間随時受け付ける。
 - 後期研究計画発表会 学生は、主・副指導教員と相談の上、領域ごとの研究計画発表会の日程及び場所を設定し、教員及び院生に周知し、10月上旬までに研究計画発表会を開催する。主指導教員は、研究科委員会において報告する（質疑応答及び修正内容）。
 - 後期研究計画書審査申請書提出（様式4） 学生は、10月の研究科委員会開催週の月曜日までに修士論文研究計画書申請書及び研究計画発表会で受けた助言、研究計画書の概要（A4サイズ縦、横書き：1枚）、修正した研究計画書を教務入試班へ提出する（各3部）。
 - 研究計画書の審査 研究計画書は研究科委員会に於いて審査を行う。
（審査では、主指導教員から研究計画書の概要及び研究計画発表の際に得た助言と修正内容などを説明する。また、審査結果は主指導教員から学生に伝えられる。）
 - 後期研究倫理審査申請 学生は、主指導教員の許可を得て9月末までに福岡県立大学研究倫理審査委員会へ研究倫理審査申請書を提出し、倫理審査を受けなければならない（書式については各自確認する：窓口経営企画班）。
- ※1年次には計画発表会及び審査（倫理審査を含む）は必ずしも実施しなくても良い。修学年度内で計画的に実施すること。

2 年次・3 年次※1

- 前期研究計画発表会 学生は、主・副指導教員と相談の上、領域ごとの研究計画発表会の日程及び場所を設定し、教員及び院生に周知し、5月末までに研究計画発表会を開催する。主指導教員は、研究科委員会において報告する（質疑応答及び修正内容）。
 - 前期研究計画書審査申請書提出（様式4） 学生は、6月第1週（木）までに修士論文研究計画書申請書及び研究計画発表会で受けた助言、研究計画書の概要（A4サイズ縦、横書き：1枚）、修正した研究計画書を教務入試班へ提出する（各3部）（但し、研究科委員会が6月第1週に開催される場合は別途指示する）。
 - 研究計画書の審査 研究計画書は研究科委員会に於いて審査を行う。
（審査では、主指導教員から研究計画書の概要及び研究計画発表の際に得た助言と修正内容などを説明する。また、審査結果は主指導教員から学生に伝えられる。）
 - 前期研究倫理審査申請 学生は、主指導教員の許可を得て5月末日までに福岡県立大学研究倫理審査委員会へ研究倫理審査申請書を提出し、倫理審査を受けなければならない（書式については各自確認する：窓口経営企画班）。
- ※後期の研究計画発表会から審査、及び倫理審査については1年次と同様。

(2) 修士論文審査・学位（看護学修士）申請から学位取得までの手続き

2 年次・3 年次

- 学位（修士）申請書提出（様式5） 学生は、1月第3週（木）までに、秋季修了者は6月第4週（木）までに申請書と、修士論文（論文要旨：3000字を含む）各3部を教務入試班へ提出する。修士論文の体裁（P280）参照。
- 修士論文審査 研究科委員会に於いて論文審査にあたる主査1名、副査2名が選出される。学生は、それぞれ主査・副査と相談の上、口頭試問の日程を決定し審査を受ける。

- 修士論文の修正と提出 学生は口頭試問の後、必要な修正を行い、2月第2週（金）までに、**秋季修了者**は7月の研究科委員会が開催される週の月曜日までに、修正した論文（要旨3000字を含む）、質疑応答及び修正内容と修正箇所の記載を各4部教務入試班へ提出する。
- 論文評価 学生が再提出した論文は主査・副査の協議により評価を受ける。
- 学位論文最終審査 学生の論文は主査・副査の最終審査を受ける。主査は論文要旨及び協議結果を基に、論文結果報告書を教務入試班に提出した後（研究科委員会開催前週の水曜日もしくは別途指示した日程）、研究科委員会において報告を行う。
- 修士論文発表会 修了判定で合格した学生は、合否の判定を受け、修士論文発表会を開催する。**秋季修了者**秋季修了生は次年度の春季修了生と合同で実施する（日程は別途指示）。

(3) 学位取得に関連する諸届及び提出期限

下表に示す諸届及び書類を、定められた期日までに提出してください。

項目	時期	期限	平成28年度	提出先・提出部数
研究指導教員届（様式1）		4月第3週（金）まで	4月15日（金）	【教務入試班】
修士論文題目届（様式2）		5月第4週（金）まで	5月27日（金）	【教務入試班】
修士論文題目変更届（様式3）		随時		【教務入試班】
・研究計画発表会の開催	前期	5月末日まで	5月31日（火）	
	後期	10月上旬まで	10月7日（金）	
・修士論文研究計画書審査申請書（様式4） ・研究計画書（質疑応答含む）	前期	6月第1週（木） 12時まで	6月2日（木）	【教務入試班】 ・申請書1通 ・計画書3部
	後期	10月の指定日 12時まで	10月17日（月） *臨時研究科 委員会開催	
・学位（修士）申請書（様式5） ・修士論文（要旨含む）	春季修了生	1月第3週（木） 12時まで	1月19日（木）	【教務入試班】 ・申請書1通 ・論文3部
	秋季修了生	6月第4週（木） 12時まで	6月23日（木）	
・修士論文修正版（要旨含む） 9月14日（水）秋季修了合否判定会議 2月8日（水）春季修了合否判定会議	春季修了生	2月第2週（金） 12時まで	2月10日（金）	【教務入試班】 ・論文4部
	秋季修了生	7月の指定日 12時まで	7月4日（月）	
・修了判定会議	春季修了生		2月22日（水）	
	秋季修了生		9月14日（水）	
・製本した修士論文	春季修了生	修了年度の翌年度 6月末17時まで	平成29年 6月30日（金）	【教務入試班】 ・論文1部
	秋季修了生	修了年度の 3月末17時まで	平成29年 3月31日（金）	

- 倫理審査申請についての期日の目安
研究計画発表会前後に各自審査を受ける（研究倫理に関する所定の研修を必ず受けておくこと）。

※ すべての提出物は、メールでは受け付けません。

看護学研究科修士論文評価表（研究コース）

学生氏名：

提出論文タイトル：

評価の観点		評価項目	点数
評価基準 1～7の項目：8 非常に良い 6 良い 5 普通 3 悪い 1 非常に悪い 8の項目：3 良い 2 普通 1 悪い 0 評価できない 9の項目：5 非常に良い 4 良い 3 普通 2 悪い 1 非常に悪い 10の項目：5 非常に良い 4 良い 3 普通 2 悪い 1 非常に悪い			
1. 看護との関連性	看護学もしくは看護実践の発展に貢献する研究か		
2. 文献レビュー	先行研究を踏まえているか		
3. 研究目的の明確化	研究目的は明確であるか		
4. 研究の妥当性・信頼性	研究目的に照らして研究方法は適切か		
5. 研究の独自性・新規性・発展性	新しい知見又は方向性は見出せたか		
6. 理にかなった考察・成果の信頼性	導き出された結果に基づいて考察できているか		
7. 論文の論理性	論理展開の一貫性があるか		
8. 論文の構成と表現	1) 使用されている概念、用語は適切か		
	2) 表題は内容を適切に表しているか		
	3) 研究方法は適切に記述されているか		
	4) 文章および、単位などは正確に表記されているか		
	5) 図表は本文と対応しているか		
	6) 注、引用文献、資料は適切か		
	7) 外国語文献が活用されているか		
	8) 要旨は適切か		
9. 倫理的側面	倫理上の問題はないか		
10. プレゼンテーション（口頭試問）	1) わかりやすい説明か（話し方や情報のまとめ方）		
	2) スライド（資料）の作成／提示方法は適切か		
	3) 質疑に対する応答が的確か		
合計			

修正を要する点は

1. 無修正で受理する 2. 一部修正を前提に受理する 3. 修正結果を見て判断する
 4. 一部修正にとどまらないので、今回は不可とする

【修正を要する点を具体的に示して下さい】

全体評価

【本論文に対する総括的コメント】

評価者氏名：

看護学研究科修士論文評価表（専門看護師コース）

学生氏名：

提出論文タイトル：

評価の観点		評価項目	点数
評価基準 1～7の項目：8 非常に良い 6 良い 5 普通 3 悪い 1 非常に悪い 8の項目：3 良い 2 普通 1 悪い 0 評価できない 9の項目：5 非常に良い 4 良い 3 普通 2 悪い 1 非常に悪い 10の項目：5 非常に良い 4 良い 3 普通 2 悪い 1 非常に悪い			
1. 看護との関連性	看護実践の質の向上に繋がる研究であるか		
2. 文献レビュー	文献検討が行われ、適切に活用されているか		
3. 研究目的の明確化	研究目的は明確であるか		
4. 研究の妥当性・信頼性	研究目的に沿った研究方法であるか		
5. 研究の独自性・新規性・発展性	専門看護師としての看護実践への示唆が述べられているか		
6. 理にかなった考察・成果の信頼性	結果に基づいた考察ができているか		
7. 論文の論理性	論理展開の一貫性があるか		
8. 論文の構成と表現	1) 使用されている概念、用語は適切か		
	2) 表題はわかりやすく簡潔に書かれているか		
	3) 研究方法は適切に記述されているか		
	4) 論理が明確な文章表現であるか		
	5) 図表は適切に表現されているか		
	6) 注、引用文献、資料は適切に表現されているか		
	7) 研究に沿った適切な文献が使用されているか		
	8) 要旨は適切か		
9. 倫理的側面	倫理上の問題はないか		
10. プレゼンテーション（口頭試問）	1) わかりやすい説明か（話し方や情報のまとめ方）		
	2) 資料の作成・提示方法は適切か		
	3) 質疑に対する応答が的確か		
合計			

修正を要する点は

1. 無修正で受理する 2. 一部修正を前提に受理する 3. 修正結果を見て判断する
 4. 一部修正にとどまらないので、今回は不可とする

【修正を要する点を具体的に示して下さい】

全体評価

【本論文に対する総括的コメント】

評価者氏名：

看護学研究科修士論文評価表（助産学領域：助産実践形成コース・助産実践アドバンスコース）

学生氏名：

提出論文タイトル：

評価基準		
1～7の項目	8 非常に良い	6 良い
8の項目	3 良い	2 普通
9の項目	5 非常に良い	4 良い
10の項目	5 非常に良い	4 良い
1. 看護・助産との関連性	看護・助産実践の質の向上に繋がる研究であるか	
2. 文献レビューと文献の活用	文献検討が行われ、適切に活用されているか	
3. 研究目的の明確化	研究目的は明確であるか	
4. 研究方法の適切性	研究目的に沿った研究方法であるか	
5. 実践への示唆	助産実践への示唆が述べられているか	
6. 結果に基づく考察	結果に基づいた考察がされているか	
7. 論文の論理性	論理展開の一貫性があるか	
8. 論文の構成と表現	1) 使用されている概念、用語は適切か	
	2) 表題はわかりやすく簡潔に書かれているか	
	3) 研究方法は適切に記述されているか	
	4) 論理が明確な文章表現であるか	
	5) 効果的に図表で表現されているか	
	6) 注、引用文献、資料は適切に表現されているか	
	7) 外国語文献が使用されているか	
	8) 要旨は適切か	
9. 倫理的側面	倫理上の問題はないか	
10. プレゼンテーション（口頭試問）	1) わかりやすい説明か（話し方や情報のまとめ方）	
	2) スライド（資料）の作成・提示方法は適切か	
	3) 質疑に対する応答が的確か	
合計		

修正を要する点は

1. 無修正で受理する 2. 一部修正を前提に受理する 3. 修正結果を見て判断する
4. 一部修正にとどまらないので、今回は不可とする

【修正を要する点を具体的に示して下さい】

全体評価

【本論文に対する総括的コメント】

評価者氏名：

VII. 授 業 案 内

人間社会学研究科

専攻	授業科目名	担当教員	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	ページ
社会福祉専攻	特別研究	細井・住友・本郷	通年	演習	必修	4	1～2年	45
	フィールドワーク	細井・住友・本郷	前期・後期	実習	選択	2	1年	46
	社会福祉研究法	住友雄資	前期	講義	必修	2	1年	47
	量的研究法	本郷秀和	前期	講義	選択	1	1・2年	48
	質的研究法	住友雄資	前期	講義	選択	1	1・2年	49
	社会福祉研究	細井 勇	前期	講義	必修	2	1・2年	50
	社会福祉演習	細井 勇	後期	講義	選択	2	1・2年	51
	ソーシャルワーク研究	河野高志	前期	講義	必修	2	1・2年	52
	ソーシャルワーク演習	河野高志	後期	演習	選択	2	1・2年	53
	高齢者福祉研究	本郷秀和	前期	講義	選択	2	1・2年	54
	高齢者福祉演習	本郷秀和	後期	演習	選択	2	1・2年	55
	障害者福祉研究	門田光司	前期	講義	選択	2	1・2年	56
	障害者福祉演習	門田光司	後期	演習	選択	2	1・2年	57
	地域福祉研究	村山浩一郎	前期	講義	選択	2	1・2年	58
	地域福祉演習	村山浩一郎	後期	演習	選択	2	1・2年	59
	子ども家庭福祉研究	奥村賢一	前期	講義	選択	2	1・2年	60
	子ども家庭福祉演習	奥村賢一	後期	演習	選択	2	1・2年	61
	精神保健福祉研究	住友雄資	前期	講義	選択	2	1・2年	62
	精神保健福祉演習	住友雄資	後期	演習	選択	2	1・2年	63
	福祉制度比較研究	鬼崎信好	前期集中	講義	選択	2	1・2年	64
	社会保障制度研究	平部康子	後期	講義	選択	2	1・2年	65
	地域問題研究	堤 圭史郎	後期	講義	選択	2	1・2年	66
	地域文化研究	田中哲也	前期	講義	選択	2	1・2年	67
	地域文化演習	田中哲也	後期	演習	選択	2	1・2年	68
	地域社会研究	非開講	前期	講義	選択	2	1・2年	
	地域社会演習	非開講	後期	演習	選択	2	1・2年	
心理臨床専攻	臨床心理学特論	吉岡和子・小山憲一郎・岩橋宗哉	通年	講義	必修	4	1・2年	69～70
	臨床心理面接特論	岩橋宗哉・小嶋秀幹	通年	講義	必修	4	1・2年	71～72
	臨床心理査定演習	小嶋秀幹・吉岡和子	通年	演習	必修	4	1・2年	73～74
	臨床心理基礎実習	吉岡・池・岩橋・小嶋・小山・福田	通年	実習	必修	2	1年	75
	臨床心理実習（学内）	岩橋・池・小嶋・小山・福田・吉岡	通年	実習	必修	1	2年	76
	臨床心理実習（施設）	岩橋・池・小嶋・小山・福田・吉岡	前期	実習	必修	1	2年	77
	心理学研究法特論	福田恭介	前期	講義	選択	2	1・2年	78
	臨床心理学研究法特論	池 志保	後期	演習	選択	2	1・2年	79
	発達心理学特論	池 志保	前期	講義	選択	2	1・2年	80
	認知心理学特論	福田恭介	後期	講義	選択	2	1・2年	81
	社会心理学特論	上野行良	前期	講義	選択	2	1・2年	82
	人間関係特論	上野行良	後期	講義	選択	2	1・2年	83
	神経生理学特論	麦島 剛	前期	講義	選択	2	1・2年	84
	老年心理学特論	麦島 剛	後期	講義	選択	2	1・2年	85
	心理療法特論	田中克江	前期集中	講義	選択	2	1・2年	86
	投影法特論	濱野清志	前期集中	講義	選択	2	1・2年	87
	学校臨床心理学特論	内田利広	後期集中	講義	選択	2	1・2年	88
特別研究	福田・岩橋・上野・小嶋・麦島・吉岡	通年	演習	必修	4	1～2年	89	

授業科目名	特別研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	4	1～2年
担当教員	細井 勇・住友雄資・本郷秀和						
授業の概要	<p>①社会福祉学に関する修士論文の作成の観点から、必要な知識や研究のための方法を修得する。</p> <p>②各受講者は自らの問題意識を明確にするために、研究文献及び資料等を読み、その領域における基礎的な概念、専門的知識の理解を深め、受講者同士の討論を通して、研究テーマを探求し、調査を実施し、修士論文を完成させる。</p>						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP4：探求力	受講生が自ら設定した問題意識・課題について、先行研究や調査等を用いて発見・考察できる。					
技能	DP6：実践力	適格な論文作成能力（表現・方法とプロセス等）を修得できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1～15	自らの問題意識を明確にすることを旨とする。						
16～30	さらに自分のテーマについての文献レビューを行い、自らの研究の位置づけを明確にする。		修士論文のテーマに関する論文等を輪読し、先行研究から動向や課題を把握する。また、各自の研究を進めるために、それぞれの課題をまとめ、発表し、他の受講者とともにディスカッションする。このほか、研究方法等も検討する。		それぞれの進具合に応じて、明確になった課題に対して、文献にあたりたり、予備的な調査を行うなど自ら必要と考えることを行い、それをもとに発表できるように準備する。		
31～45	研究方法を検討し、調査を開始する。						
46～60	研究結果を整理し、修士論文を書き上げる。						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	授業態度・授業への参加度			○	○	50	
	受講者の発表（プレゼン）			◎	◎	50	
テキスト・参考文献等	各教員により別途指示する。						
履修条件	原則として、修士論文作成の一環として社会福祉調査（量的または質的調査）を実施する。						
学習相談・助言体制	各教員により指示。						

授業科目名	フィールドワーク		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	実習	選択	2	1年
担当教員	細井 勇・住友雄資・本郷秀和						
授業の概要	フィールドワークは社会福祉領域の実習であり、修士論文につながる実習としての指導とともに問題意識を明確にして各自学生が福祉関連現場での活動に取り組む。履修者と相談し、履修者の興味・関心を尊重し、実施先・内容等を協議し決定する。実施にあたっては、定期的な内容報告を求めた上で、指導を行う。さらに、年度末に詳細な実習報告書の提出を求める。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	フィールドワークを通じて、福祉利用者の課題とその背景、支援方法について論理的に考えられる。					
関心・意欲・態度	DP5：社会貢献力	フィールドワークを通じて、福祉利用者や地域・施設に何らかの貢献ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1～2	・フィールドワーク実習先の選定に関する考え方・施設種類等の説明 ・実習先選定のための情報収集と整理、実習先候補の確定		受講生の発表を中心に、質疑を行う。		フィールドワーク領域の候補に関する情報を収集し、整理する。		
3～4	実習先候補に対する訪問報告と実習課題の明確化		受講生は、実習先候補に訪問する。その活動発表を中心に、質疑を行う。		フィールドワーク実施場所の候補を明確化するために必要な調査を行う。		
5～6	フィールドワーク実習計画作成と実習生の義務等の確認		受講生の発表を中心に、質疑を行う。		フィールドワークの実施計画の作成準備をしておく。		
7～12	各自が選択した福祉関連の施設・事業所でのフィールドワークの実施（必要に応じて巡回指導を行う）		各自が選択した保健医療福祉現場でのフィールドワークの実施（教員も必要に応じてスーパービジョンを行う）		フィールドワークの実施先で求められる知識や方法等について学習する。		
13～15	①フィールドワーク活動報告のための資料作成 ②フィールドワーク報告（プレゼン）と質疑応答・振り返り ③フィールドワーク総括報告書の作成と提出		質疑を行う。 受講生の発表を中心に、質疑を行う。		フィールドワーク全体のまとめの準備を行う。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	宿題・授業外レポート		◎	◎		80	
	授業態度・授業への参加度			○		20	
テキスト・参考文献等	特になし。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間、オフィスアワーの他はメールを活用のこと。						

授業科目名	社会福祉研究法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	1年
担当教員	住友雄資						
授業の概要	修士論文を執筆するに必要な不可欠なアカデミック・スキルについて、研究法に関する文献・資料や福祉系論文などを素材に、学習を深めることを通して、社会福祉研究に役立てることを目指す。なお、指導教員のもとでおこなう「特別研究」において、さらに内容を深化させるものとする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	研究法についての知識・理解を深めることができる。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	研究法を社会福祉研究に適切に活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の基本的枠組み／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 2. 論文とは何か（原著・総説・論説などの種類や論文構成など）／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 3. 文献検索の方法／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 4. 文献収集の方法／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 5. 文献講読の方法／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 6. 文献レビュー法／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 7. 研究デザインの概略／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 8. 研究計画書作成法（1）／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 9. 研究計画書作成法（2）／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 10. 研究倫理（1）／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 11. 研究倫理（2）／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 12. ディスカッション法／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 13. プレゼンテーション法／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 14. 論文の執筆作法（引用、参照、注などを含む）／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 15. 講義のまとめ／講義／事前に必要な文献・資料に目を通しておくこと 							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	授業態度・授業への参加度	◎	○			100	
テキスト・参考文献等	社会福祉研究法に関する資料を提供する。						
履修条件	受講生の研究法の理解度をもとに、授業の進め方について柔軟に対応する。						
学習相談・助言体制	随時、メール等で相談を受ける。						

授業科目名	量的研究法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	1	1・2年
担当教員	本郷 秀和						
授業の概要	研究デザインのうちリサーチ法の一つ、量的研究法（量的調査法）を取り上げる。原著論文などを素材に知識などを深め、社会福祉研究に役立てることを目指す。主に質問紙を用いたアンケート調査の一連の流れを学ぶ（アンケート調査の企画から図表作成・代表的な分析手法まで）。指導教員とでおこなう「特別研究」において、さらに内容を深化させるものとする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	量的研究法についての知識・理解を深めることができる。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	量的研究法を社会福祉研究に適切に活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロ・質問紙の基礎（講義／事前に関する文献・資料に目を通しておくこと） 2. 質問紙法の調査プロセス 3. データ収集とサンプリングの技法 4. 調査準備と倫理的ガイドライン 5. 質問紙デザインの基礎、構成と体裁 6. 質問の種類と順序・質問紙での回答法 7. 予備調査と代表的な分析法1 8. 代表的な分析法2、調査論文の輪読とまとめ 							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度		◎	○			100	
補足事項	※受講生の理解状況をみながら柔軟に進めていく。						
テキスト・参考文献等	テキスト：鈴木淳子著、『質問紙デザインの技法』，ナカニシヤ出版，2013．2800円。 （参考文献）篠原清夫，清水強志ほか編、『社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D科目対応』，弘文堂，平成22年。						
履修条件	受講生の理解度をもとに、授業の進め方について柔軟に対応する。						
学習相談・助言体制	随時、メール等で相談を受ける。						

授業科目名	質的研究法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	1	1・2年
担当教員	住友雄資						
授業の概要	研究デザインのうちリサーチ法の一つ、質的研究法（質的調査法）を取り上げ、原著論文などを素材にその知識などを深め、社会福祉研究に役立てることを目指す。なお、指導教員のもとでおこなう「特別研究」において、さらに内容を深化させるものとする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	質的研究法についての知識・理解を深めることができる。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	質的研究法を社会福祉研究に適切に活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 質的研究とは何か／講義／事前に関連する文献・資料に目を通しておくこと 2. 質的研究の種類と質的研究のプロセス／講義／事前に関連する文献・資料に目を通しておくこと 3. 質的調査（1）インタビュー法（個別・グループ）／講義／事前に関連する文献・資料に目を通しておくこと 4. 質的調査（2）フィールドワーク（参与観察含む）／講義／事前に関連する文献・資料に目を通しておくこと 5. 質的調査と分析法（1）事例研究／講義／事前に関連する文献・資料に目を通しておくこと 6. 質的調査と分析法（2）グラウンデッド・セオリー・アプローチ／講義／事前に関連する文献・資料に目を通しておくこと 7. 質的調査と分析法（3）その他（アクションリサーチ、解釈学現象学など）／講義／事前に関連する文献・資料に目を通しておくこと 8. 講義のまとめ／講義／事前に関連する文献・資料に目を通しておくこと 							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	授業態度・授業への参加度	◎	○			100	
テキスト・参考文献等	質的研究法に関する文献・資料および質的研究を用いた論文を提供する。						
履修条件	受講生の質的研究法の理解度をもとに、授業の進め方について柔軟に対応する。						
学習相談・助言体制	随時、メール等で相談を受ける。						

授業科目名	社会福祉研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	1・2年
担当教員	細井 勇						
授業の概要	<p>本社会福祉研究においては比較文化的、比較思想史的観点と歴史的観点の交錯を重視したい。アンデルセンの福祉レジームは比較福祉国家論を活性化させたが、児童ケアの内容や専門職養成教育の比較とは連動していない。本講義では児童ケアと専門職養成と比較福祉国家論の関係を検討していきたい。とくに英国の児童ケアと大陸モデルの人材養成ペタゴジーに注目したい。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	児童ケアを中心に、国際比較の観点から総合的、複合的な知識と理解を得る。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	児童ケアを中心に、国際比較の観点から自分の考えを適切に表現できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（授業の進め方について）		講義と討論				
2	比較福祉国家論（1） T.H. マーシャル 市民資格の社会福祉理論		同上		配布資料を事前に読む		
3	比較福祉国家論（2） ティトマスのソーシャル・ポリシー		同上		同上		
4	比較福祉国家論（3） カール・ポランニー 責任としての社会的自由		同上		同上		
5	比較福祉国家論（4） アンデルセンの福祉レジーム論		同上		同上		
6	比較福祉国家論（5） 日本の福祉レジームを考える		同上		同上		
7	英国の児童ケアと専門職養成（1） 自治体児童部と児童ソーシャルワークの成立		同上		同上		
8	英国の児童ケアと専門職養成（2） シーボーム報告と自治体社会サービス部の設置		同上		同上		
9	英国の児童ケアと専門職養成（3） 現在の動向について		同上		同上		
10	児童ケアの国際比較 ジューン・ソブンの研究に		同上		同上		
11	福祉レジームと児童ケアと専門職養成教育の関係		同上		同上		
12	ドイツの児童ケアとソーシャル・ペタゴジー		同上		同上		
13	ドイツのインクルージョン教育		同上		同上		
14	イギリスの児童ケア 海外児童移民問題 映画「オレンジと太陽」から		同上		同上		
15	日本の児童ケアの課題と方向性		同上		同上		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		○	○			30	
授業態度・授業への参加度		○	◎			20	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			50	
テキスト・参考文献等	<p>アンデルセン津崎、大沢真理監訳（2011）『平等と効率の福祉革命 新しい女性の役割』岩波書店。津崎哲雄（2013）『英国の社会的養護の歴史』明石書店。カール・ポランニー、吉沢他訳（1975）『大転換』東洋経済新報社等。</p>						
履修条件							
学習相談・助言体制	<p>授業は常にディスカッションの時間を採るので、質問意見はそのつど出してほしい。不十分な場合、メール等で個別に対応したい。</p>						

授業科目名	社会福祉演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	細井 勇		後期	講義	選択	2	1・2年
授業の概要	<p>受講者との協議で、最終的な内容を決定したい。予定としては、日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』を取り上げ、輪読会形式で進めたい。社会福祉の思想と実践を包括的に捉える上で本書は適当と考える。認識方法としては、キリスト教的個人主義とマルクス主義をどう乗り越えるか、というポランニーの問題意識から、筑豊の生活保護史とボランティアを振り返り、実践と政策をつなぐ課題を考えていきたい。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	社会福祉の思想と歴史についてより総合的な理解を得る。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	貧困問題、生活問題を抱える児童、青少年への支援の方法を提案できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義と討論				
2	序章 社会の地殻変動と福祉		発表と討論		テキストを事前に読む		
3	第3章 明治初期キリスト教慈善事業の形成		同上		同上		
4	第4章 明治中期におけるキリスト教慈善事業の展開		同上		同上		
5	第5章 日露戦争後の感化救済事業とキリスト教		同上		同上		
6	第6章 大正デモクラシー下のキリスト教社会事業		同上		同上		
7	第7章 世界恐慌期のキリスト教会とキリスト教社会事業		同上		同上		
8	第8章 日中戦争・太平洋戦争期のキリスト教社会事業		同上		同上		
9	第9章 第二次世界大戦後のキリスト教社会福祉		同上		同上		
10	終章 キリスト教社会福祉史の課題と展望		同上		同上		
11	キリスト教的個人主義とマルクス主義を超えて		講義と討論		配布資料を事前に読む		
12	筑豊の生活保護史		同上		同上		
13	筑豊のボランティア 「筑豊の子供を守る会」について		同上		同上		
14	現在の貧困問題とそれへの取り組みについて		同上		同上		
15	まとめ		同上				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度		○	◎			30	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			70	
テキスト・参考文献等	日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』 ミネルヴァ書房、2014年						
履修条件	前期の「社会福祉研究」の受講を条件とする。						
学習相談・助言体制	授業は常にディスカッションの時間を採るので、質問意見はそのつど出してほしい。不十分な場合、メール等で個別に対応したい。						

授業科目名	ソーシャルワーク研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	河野高志		前期	講義	必修	2	1・2年
授業の概要	ソーシャルワークの主要な実践モデル（システム理論的視点、生態学的視点、エンパワーメントの視点、ストレングスの視点、ナラティブの視点他）を学び、理解し、ソーシャルワーク実践に活用する方法を学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	ソーシャルワーク実践モデルについての知識・理解を深めることができる。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	ソーシャルワーク実践モデルを適切に説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1. ソーシャルワークとは何か／講義、集団討議／特になし</p> <p>2～3. 一般システム論的視点／集団討議／一般システム論的視点についての事前学習など</p> <p>4～5. 生態学的視点／集団討議／生態学的視点についての事前学習など</p> <p>6～7. エンパワーメントの視点／集団討議／エンパワーメントについての事前学習など</p> <p>8～9. スtrenグスの視点／集団討議／ストレングスについての事前学習など</p> <p>10～11. ナラティブの視点／集団討議／ナラティブについての事前学習など</p> <p>12～14. その他のソーシャルワーク実践モデルの視点／集団討議／他のソーシャルワーク実践モデルについての事前学習など</p> <p>15. ソーシャルワーク実践のまとめ／講義、集団討議／特になし</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度		◎	○			50	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎	◎		50	
テキスト・参考文献等	ソーシャルワークに関する文献等を紹介・活用する。						
履修条件	受講生のソーシャルワークの理解度をもとに、授業の進め方を検討する。						
学習相談・助言体制	随時、メール等で相談を受ける。						

授業科目名	ソーシャルワーク演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	河野高志		後期	演習	選択	2	1・2年
授業の概要	「ソーシャルワーク研究」で理解したソーシャルワーク実践モデルの知識が、院生自身の研究テーマにおいてどのように活用できるかを学ぶ。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	ソーシャルワーク実践モデルの知識を、自身の研究テーマを通して理解することができる。					
	DP3：表現力	自身の研究テーマと関連させながら、ソーシャルワークの実践モデルを適切に説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1～14. 自身の研究テーマに関する先行研究から、ソーシャルワークに関連する内容を調べて発表する。／グループディスカッション／先行研究を調べる</p> <p>15. 自身の研究計画とソーシャルワーク実践モデルとの関係について考察して発表する。／グループディスカッション／研究の全体像の整理とソーシャルワークとの関連づけ</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度			○	◎		50	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎	○		50	
テキスト・参考文献等	発表に必要なソーシャルワークに関する文献等を紹介・活用する。						
履修条件	「ソーシャルワーク研究」を履修済のこと。 受講生のソーシャルワークの理解度をもとに進め方を検討する。						
学習相談・助言体制	随時、メール等で相談を受ける。						

授業科目名	高齢者福祉研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	本郷 秀和						
授業の概要	<p>本授業では、主に①高齢者の全体動向と特徴、②介護保険制度と高齢者を支援するための各種サービス（インフォーマルサービスを含む）、③高齢者施設・事業所（設置主体の理解を含む）の種類・概要とマネジメントの視点、④高齢者の権利擁護（苦情や虐待問題等）などについて、講義形式で学習していく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	高齢者福祉に関する動向や主な課題（運営・サービス・生活面等）を複数説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	高齢者関係制度やサービス等から生じる課題の背景を根拠（各種データ）を基に的確に提示できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（シラバス説明）と高齢期の特徴		講義		適宜、指示する。		
2	高齢者福祉を巡る動向と課題1（人口推移・ライフスタイルの動向等）		<p>基本的には、高齢者福祉に関する各種テキストや学術研究書、政府刊行物等の解説を通じて、①高齢者福祉を巡る状況・諸問題理解、②高齢者を支える各種サービスの理解、③高齢者の支援方法等の理解を図る。</p>		適宜、指示する。		
3	高齢者福祉を巡る動向と課題2（犯罪・孤独・社会参加・経済問題等）				適宜、指示する。		
4	認知症高齢者と生活問題				適宜、指示する。		
5	介護保険制度と介護サービスの役割1				適宜、指示する。		
6	介護保険制度と介護サービスの役割2				適宜、指示する。		
7	高齢者を支えるインフォーマルサービスの概要と課題（介護系NPOを中心に）				適宜、指示する。		
8	高齢者とケアマネジメント				適宜、指示する。		
9	福祉施設管理運営論1（高齢者施設を中心に）				適宜、指示する。		
10	福祉施設管理運営論2（高齢者施設を中心に）				適宜、指示する。		
11	高齢者と虐待問題1				適宜、指示する。		
12	高齢者と虐待問題2				適宜、指示する。		
13	高齢者と苦情対応1				適宜、指示する。		
14	高齢者と苦情対応2（介護サービスの質の向上に向けて）				適宜、指示する。		
15	高齢者関連の研究論文の輪読 - 批判的検討へ向けて -				講義		適宜、指示する。
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート			◎			20	
授業態度・授業への参加度		◎	○			40	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎			40	
テキスト・参考文献等	・特になし（最新の資料や論文等を用いる予定）。						
履修条件	・特になし。						
学習相談・助言体制	・基本的には授業中に適宜対応するが、授業時間以外でも質問等に応じる。						

授業科目名	高齢者福祉演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1・2年
担当教員	本郷 秀和						
授業の概要	本演習においては、主に高齢者福祉に関する基本文献の収集と精読、現場見学・体験等を行う。基本文献としては(1)学会誌等に掲載されている高齢者福祉に関する研究論文、(2)各種の調査・研究報告書、(3)高齢者関係の答申や計画書を収集・整理し、受講生同士で輪読・課題検討を行う。加えて、他者へのレポート説明や高齢者施設の見学等を通じて高齢者福祉の理解を深めていく。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	高齢者福祉に関する課題について、各種データを用いて論理的説明ができる思考力を習得する。					
	DP3：表現力	各自が作成した高齢者福祉に関するレポートを他者に分かりやすく説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		文献検索などの指示		『社会福祉学』日本社会福祉学会、『日本の地域福祉』日本地域福祉学会、『社会福祉研究』鉄道弘済会、『月刊福祉』全国社会福祉協議会、『福祉社会学研究』日本福祉社会学会、『ソーシャルワーク研究』相川書房、『介護福祉学』日本介護福祉学会等の論文について、特に高齢者福祉に関するもの（レポートの作成テーマに関するものを含む）を精読しておくこと。また、厚生労働省のホームページ、ワムネットからの最新の資料も活用する。		
2	レポート作成に関する説明とテーマ決め、資料収集・整理作業、質疑応答等		各自選択した高齢者福祉に関するレポートのテーマについて準備し、模擬授業的に他の受講生に説明する。報告の後、質疑を行う。				
3	高齢者福祉に関するレポート作成指導1（課題を課す）						
4	高齢者福祉に関するレポート作成指導2（課題を課す）						
5	高齢者福祉に関するレポート報告3（パワーポイントでの他者への説明）						
6	社会福祉の研究手法と調査系論文の読み方1（高齢者福祉領域を例に）		高齢者福祉に関する調査論文（プリント）を配布し、解説する。				
7	社会福祉の研究手法と調査系論文の読み方2（高齢者福祉領域を例に）						
8	高齢者に関する論文輪読1と質疑応答		高齢者福祉に関する各種論文を輪読し、各論文の研究目的と研究対象・方法との関係、論文の社会的意義等を検討する。				
9	高齢者に関する論文輪読2と質疑応答						
10	高齢者に関する論文輪読3と質疑応答						
11	高齢者に関する論文輪読4と質疑応答						
12	高齢者福祉事業・施設の見学と体験1		高齢者福祉の現場に訪問し、見学・説明を受ける。（日程等の事情で実施できない場合には論文輪読）				
13	高齢者福祉事業・施設の見学と体験2						
14	高齢者福祉事業・施設の見学と体験3						
15	まとめ		全体振り返り・質疑応答等				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート			○			20	
授業態度・授業への参加度			◎			30	
受講者の発表（プレゼン）			◎			20	
演習			◎			30	
テキスト・参考文献等	・内容により適宜指示する（浦上昌則他『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書2010等）						
履修条件	・特になし。						
学習相談・助言体制	・基本的に授業時間において適宜質問等を受けるが、オフィスアワーの時間でも相談等に応じる。						

授業科目名	障害者福祉研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	門田光司						
授業の概要	本授業では、①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について、②障害者福祉制度の発展過程について、③相談援助活動において必要となる法制度等について理解を深めていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	障害特性や障害者福祉の法制度、障害児者を取り巻く社会環境について理解している。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	障害特性や障害者福祉の法制度、障害児者を取り巻く社会環境について自分の考えを適切に表現できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「障害」について 2. 障害者福祉の歴史について-その1 3. 障害者福祉の歴史について-その2 4. 広汎性発達障害とその支援について 5. 知的障害とその支援について 6. 身体障害とその支援について 7. 精神障害とその支援について 8. 発達障害とその支援について 9. 早期発見・早期療育システムについて 10. 特別支援教育について-その1 11. 特別支援教育について-その2 12. 就労支援について-その1 13. 就労支援について-その2 14. 障害者総合支援法について 15. 障害者差別解消法について 							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			40	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			60	
テキスト・参考文献等	授業中に随時、資料を配布する。						
履修条件	シラバス内容に関する書籍を読み事前学習をしておくこと。						
学習相談・助言体制	授業終了後の時間に受け付ける。						

授業科目名	障害者福祉演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1・2年
担当教員	門田光司						
授業の概要	本授業では、障害のある人への社会的自立に向けた課題とその方向性についての基礎的理解を深め、支援の具体的なあり方について学んでいく。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	障害のある人への社会的自立の課題と方向性を理解し、その支援のあり方を提言できる。					
	DP3：表現力	障害のある人の社会的自立に向けた支援のあり方について自分の考えを適切に表現できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害のケースアマネジメントの方法 - 1 2. 障害者のケースマネジメントの方法 - 2 3. 知的障害者の地域生活支援とその課題について 4. 自閉症者の地域生活支援とその課題について 5. 身体障害者の地域生活支援とその課題について 6. 精神障害者の地域生活支援とその課題について 7. 重症心身障害者の地域生活支援とその課題について 8. 難病者の地域生活支援とその課題について 9. 就労移行支援について 10. 就労におけるジョブコーチの支援について 11. 障害者総合支援法と地域生活支援について 12. 基幹型相談支援センターの役割と機能について 13. 地域自立支援協議会の役割と機能について 14. 障害者の人権侵害とその支援について 15. 今後の障害者福祉施策のあり方について 							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度			◎			40	
受講者の発表（プレゼン）			◎			60	
テキスト・参考文献等	授業中に随時、資料を配布する。						
履修条件	シラバス内容に関連する書籍を事前学習しておくこと。						
学習相談・助言体制	授業終了後の時間に受け付ける。						

授業科目名	地域福祉研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	村山浩一郎						
授業の概要	地域福祉は、ノーマライゼーションやコミュニティケアの影響を受けながら、1970年代から理論化された新しい考え方であり、児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域を基盤とした新しい福祉の形態を意味する。この授業では、1970年代以降の地域福祉論の展開を辿りながら、地域福祉の定義や現代的な意義・役割などについて学んでいく。また、住民の地域福祉活動、福祉専門職の地域援助技術、自治体の地域福祉政策など、地域福祉の推進方法についても理解を深める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	地域福祉の理論及び地域福祉の具体的な推進主体と推進方法について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	自分の専門分野や研究テーマと地域福祉との関連を発表できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		教員による説明				
2～4	地域福祉とは何か － 1970年代以降の地域福祉論の展開－		受講生による文献・資料の 輪読と発表及び教員による 解説		参考文献①②③の該当部分 を読む。		
5～7	地域福祉の推進主体と、その活動 －社会福祉協議会、地域福祉推進基礎組織、小地域福祉活動、民生委員・児童委員、ボランティアとNPOなど－		受講生による文献・資料の 輪読と発表及び教員による 解説		参考文献①②の該当部分 を読む。		
8～10	地域福祉の推進とソーシャルワーク －コミュニティワークとコミュニティソーシャルワーク－		受講生による文献・資料の 輪読と発表及び教員による 解説		参考文献②の第I部を 読む。		
11～13	地域福祉の政策的推進 －自治体の地域福祉政策と地域福祉計画－		受講生による文献・資料の 輪読と発表及び教員による 解説		参考文献③を読む。 インターネット等で、市町 村地域福祉計画の具体例を 探して読む。		
14～15	各自の研究テーマと地域福祉とのかかわりについて		各自、先のテーマについて 発表		各自、研究テーマと地域福 祉との関係を考察する。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	課題文献・資料のレジュメ作成と発表	○				75	
	受講者の発表（プレゼン）		○			25	
テキスト・参考文献等	<p>テキストは特に指定しない。参考文献としては、以下の3点をあげておく。このほか、必要に応じて授業の中で紹介する。</p> <p>①これからの地域福祉のあり方に関する研究会『地域における「新たな支え合い」を求めて－住民と行政の協働による新しい福祉－』全国社会福祉協議会、2008年</p> <p>②岩間伸之・原田正樹『地域福祉援助をつかむ』有斐閣、2012年</p> <p>③平野隆之『地域福祉推進の理論と方法』有斐閣 2008年</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	学習に関する相談は随時。メールによる相談も可。						

授業科目名	地域福祉演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1・2年
担当教員	村山浩一郎						
授業の概要	住民の地域福祉実践、専門職による地域福祉援助、社会福祉協議会や地方自治体の地域福祉事業・地域福祉計画などについて、具体的事例をとりあげ、地域福祉を推進する上での課題と今後の方向性について検討を行う。受講生は各自、自分が取り上げる具体的事例を決め、事例に関する情報を収集し、論点整理をした上で、授業で報告をする。その報告について討論を行いながら、授業を進めていく。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	地域福祉実践の具体的事例から地域福祉を推進する上での課題を分析し、その課題の解決に向けた方向性を提示できる。					
	DP3：表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉実践の具体的事例をとりあげ、その意義や課題等について報告できる。 ・他の受講生の報告に対して、適切にコメントできる。 					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1	【オリエンテーション】 教員による説明						
2～3	【地域福祉実践、地域福祉援助、地域福祉事業・計画等の具体的事例の選定】 自分が取り上げる具体的事例を選定するため、受講生同士で情報や意見の交換を行う。教員は必要に応じて、情報や資料の提供を行う。						自分がとりあげる具体的事例を探し、その概要を調べる。
4～9	【地域福祉実践等の具体的事例の報告に向けた作業状況に関する中間報告】 各自、作業の進捗状況を報告し、今後の作業の進め方について意見交換を行う。教員は必要に応じて、個別指導を行う。						自分がとりあげる具体的事例について、情報収集し、事例報告としてまとめる。
10～14	【地域福祉実践等の具体的事例の報告とディスカッション】 各自、自分が選んだ地域福祉実践等の具体的事例について報告を行う。そして、その報告について討論を行う。報告者は報告の前の週にレジメを配布し、他の受講生に事前に読んでおいてほしい資料も提示する。						報告用のレジメを作成する。自分の報告がないときには、事前に配布・提示された事例や文献・資料を読んでおく。
15	【まとめ】 教員によるまとめと討論						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	地域福祉実践の事例報告（発表）		○			70	
	ディスカッションへの参加状況		○			30	
テキスト・参考文献等	テキスト：特に指定しない。 参考文献：各学生が選んだテーマや具体的事例に応じて、紹介する。						
履修条件	地域福祉研究を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	学習に関する相談は随時。メールによる相談も可。						

授業科目名	子ども家庭福祉研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	奥村賢一						
授業の概要	本講義では、子ども家庭福祉における現状と課題を多面的に理解したうえで状況分析を行い、ソーシャルワークの視点に基づいた支援のあり方について考察していくことを目的とする。具体的には、①子ども虐待、②子どもの貧困、③子どもの教育保障、④子育て環境を中心的なテーマとして取り上げ、子ども家庭福祉の推進に向けた専門的な見識を高めていくことを目指す。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを取り巻く社会的問題の現状と課題をソーシャルワークの視点から理解したうえで、子ども家庭福祉の意義について説明することができる。 子ども家庭福祉の推進に向けた具体的支援方法について説明することができる。 					
思考・判断・表現	DP3：表現力	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや家族の多様なニーズに対応した機関連携や制度施策のあり方について、子ども家庭福祉を基盤に専門職としての視点から説明することができる。 					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		①テーマに関する研究論文等の輪読 ②教員による講義・解説 ③ディスカッション 以上の方法を用いて毎回の授業を行う。		毎回の授業終了時に課題等の指示を行う。		
2	子ども虐待と家庭福祉①						
3	子ども虐待と家庭福祉②						
4	子ども虐待と家庭福祉③						
5	子ども虐待と家庭福祉④						
6	子どもの貧困と家庭福祉①						
7	子どもの貧困と家庭福祉②						
8	子どもの貧困と家庭福祉③						
9	子どもの教育保障と家庭福祉①						
10	子どもの教育保障と家庭福祉②						
11	子どもの教育保障と家庭福祉③						
12	子どもの教育保障と家庭福祉④						
13	子育て環境と家庭福祉①						
14	子育て環境と家庭福祉②						
15	子育て環境と家庭福祉③						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		○					
受講者の発表（プレゼン）			◎				
演習		○					
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回講義の冒頭に簡単な復習を取り入れていく。 ・受講生の理解状況等に配慮しながら講義を進めていく。 						
テキスト・参考文献等	テキストは使用せず、資料等をプリントとして配布する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業に関する学習相談は随時受け付ける。また、メールによる相談等にも応じる。						

授業科目名	子ども家庭福祉演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	奥村賢一						
授業の概要	本演習では、「子ども家庭福祉研究」での知見に基づき、子ども家庭福祉を取り巻く今日の社会問題である①子ども虐待、②子どもの貧困、③子どもの教育保障、④子育て環境を中心的なテーマとして取り上げ、さまざまな手法を用いて演習形式の事例検討・研究等を行う。ソーシャルワークを基盤にした理論と実践の融合から子ども家庭福祉の理解を深めることを目指す。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	・子ども家庭福祉に関連する具体的事例に対してソーシャルワークの視点から状況分析を行い、それらの改善に向けた支援方法を具体的に計画することができる。					
	DP3：表現力	・具体的事例に求められるソーシャルワークについて、子ども家庭福祉の観点から課題の整理を行い、明確な根拠に基づいた支援方法を説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		①受講生による発表 ②ディスカッション ③教員による助言指導 以上の方法を用いて毎回の授業を行う。		毎回の授業終了時に課題等の指示を行う。		
2	子ども虐待と家庭福祉①						
3	子ども虐待と家庭福祉②						
4	子ども虐待と家庭福祉③						
5	子ども虐待と家庭福祉④						
6	子どもの貧困と家庭福祉①						
7	子どもの貧困と家庭福祉②						
8	子どもの貧困と家庭福祉③						
9	子どもの教育保障と家庭福祉①						
10	子どもの教育保障と家庭福祉②						
11	子どもの教育保障と家庭福祉③						
12	子どもの教育保障と家庭福祉④						
13	子育て環境と家庭福祉①						
14	子育て環境と家庭福祉②						
15	子育て環境と家庭福祉③						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度			○				
受講者の発表（プレゼン）			◎				
演習			○				
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回講義の冒頭に簡単な復習を取り入れていく。 ・受講生の理解状況等に配慮しながら講義を進めていく。 						
テキスト・参考文献等	テキストは使用せず、資料等をプリントとして配布する。						
履修条件	子ども家庭福祉研究を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	授業に関する学習相談は随時受け付ける。また、メールによる相談等にも応じる。						

授業科目名	精神保健福祉研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	住友雄資						
授業の概要	精神保健に関する施策展開、精神障害者支援の理念、具体的な支援法、就労支援等を通して、精神保健福祉について理解を深めることで、社会福祉実践に活用できることを目指す。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	精神保健福祉についての知識・理解を深めることができる。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	精神保健福祉の知識を社会福祉実践に適切に活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉とは／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 2. 精神保健福祉施策の展開1（古代から近代まで）／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 3. 精神保健福祉施策の展開2（近代から精神衛生法改正まで）／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 4. 精神保健福祉施策の展開3（精神保健法から現在まで）／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 5. 精神障害者支援の理念（生活支援と支援法）／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 6. 精神障害者のケアマネジメント1（基本的考え方と機能）／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 7. 精神障害者のケアマネジメント2（過程）／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 8. 精神障害者のケアマネジメント3（ACT・ストレングスマデルなど）／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 9. 地域ネットワーク形成法／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 10. セルフヘルプグループとその支援 11. 精神保健福祉ボランティアとその養成／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 12. 就労支援法1（福祉的就労）／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 13. 就労支援法2（一般雇用）／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 14. 地域移行支援と地域定着支援／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 15. 講義のまとめ／講義／事前に文献・資料に目を通しておくこと 							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	授業態度・授業への参加度	◎	○			100	
テキスト・参考文献等	精神保健福祉に関する資料を提供する。						
履修条件	受講生の精神保健福祉の理解度をもとに、授業の進め方について柔軟に対応する。						
学習相談・助言体制	随時、メール等で相談を受ける。						

授業科目名	精神保健福祉演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	住友雄資		後期	演習	選択	2	1・2年
授業の概要	「精神保健福祉研究」で理解した知識を基盤に、事例検討・研究等を通して理解することができる。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	精神保健福祉の知識を、事例検討・研究等を通して理解することができる。					
	DP3：表現力	事例検討・研究を通して、精神保健福祉実践の支援内容を適切に活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1～14. 精神保健福祉に関する事例検討・研究等を通して、支援内容について検討する／事例等を調べ、事例検討・研究等の観点から発表する／事前に事例検討・研究等の準備をしておくこと・事後にふりかえること</p> <p>15. 精神保健福祉実践のまとめ／精神保健福祉実践についてディスカッションする／これまでの演習内容をふりかえっておくこと</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
受講者の発表（プレゼン）			◎			100	
テキスト・参考文献等	精神保健福祉に関する事例を用いる。						
履修条件	「精神保健福祉研究」を履修済のこと 受講生の精神保健福祉に関する理解度をもとに、授業の進め方について柔軟に対応する。						
学習相談・助言体制	随時、メール等で相談を受ける。						

授業科目名	福祉制度比較研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	1・2年
担当教員	鬼崎 信好						
授業の概要	<p>社会保障制度の特徴は、その生成発展的性格にある。しかも、社会保障制度は、国際的な潮流の中で、各国の制度が相互に影響しあいながら、歴史的に発展してきた。それゆえ、わが国の制度を理解する上でも、他国の制度に対する理解を歴史面も含め深めることは有益である。本講義では、わが国の社会保障制度を他国との国際比較により国際的視野から位置付け、その特徴を把握することを目標とする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	社会福祉分野で活躍する上で必要な社会保障制度の理解を深める。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	制度を単なる知識をして暗記するのではなく、制度の根底にある考え方を国際的視野で修得するとともに、特に近年の制度改正を鳥瞰し時系列的に理解する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	社会保障制度の概要（各国の社会保障制度の意義等）		講義（レジュメ、資料等）及び質疑		講義資料・参考文献の予習・復習		
2	社会保障制度の歴史と機能（社会保障制度の国際的発展）		同上		同上		
3	社会保障制度の方式（ビスマルク方式とベヴァリッジ方式等）		同上		同上		
4	社会保障制度における国際基準（ILO条約等）		同上		同上		
5	社会保障制度の国際的動向（少子高齢化、経済財政等の影響）		同上		同上		
6	社会保険制度の意義と理論（連帯原理と扶助原理等）		同上		同上		
7	医療制度①（各国の医療制度）		同上		同上		
8	医療制度②（医療費の国際的動向）		同上		同上		
9	医療制度③（各国の医療制度改革の動向）		同上		同上		
10	年金制度①（各国の年金制度）		同上		同上		
11	年金制度②（世界銀行の提言、NDC方式等）		同上		同上		
12	年金制度③（各国の年金制度改革の動向）		同上		同上		
13	社会福祉制度①（各国の社会扶助の原理）		同上		同上		
14	社会福祉制度②（欧州のソーシャル・インクルージョン等）		同上		同上		
15	今後の社会保障制度（まとめ）		質疑・意見交換		自らの問題意識を整理する		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	講義内質疑・参加度	◎	◎				100
テキスト・参考文献等	<p>【参考文献】 ①伊奈川秀和 『フランスに学ぶ社会保障改革』 中央法規、2000年、 ②鬼崎信好ほか編 『世界の介護事情』 中央法規、2002年 ③鬼崎信好編 『コメディカルのための社会福祉概論（第2版）』 講談社、2014年 ④鬼崎信好編 『四訂社会福祉の理論と実践』 中央法規出版、2007年 ⑤日本ソーシャル・インクルージョン推進会議編 『ソーシャル・インクルージョン』 中央法規、2006年</p>						
履修条件	受講前に講義を通して確認したいことを、A4の用紙（何枚でも可）にまとめて記入し、それを第1日目に提出する。						
学習相談・助言体制	①講義開始前・終了後に質問・相談を受ける。 ②大学院の講義は少人数であるので、受講生は積極的に講義に参加することを期待する。						

授業科目名	社会保障制度研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	平部康子						
授業の概要	本講義は、社会保障制度の意義を再考し、社会保障の総合的・個別的な政策の分析・検討を行うことを目的とする。そこで、①複雑化した我が国の社会保障制度について、その展開を詳細に検討・分析した上で、②「自立」という観点から今後の立法政策の課題を考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	社会保障制度に対する理解を深めた上で、各分野における「自立」の意義、展開、課題を説明できるようになる。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	社会保障制度に関する学術論文の精読・参考文献の使い方・学説の整理や対比などを学び、与えられた課題に用いてプレゼンテーションを行うことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	ガイダンス						発表者は①担当箇所の概要説明、②前提にされる制度の内容、③筆者の意見と参考文献などに挙げられる他の論者との意見との違い、をレジュメにまとめる。発表者以外の者は、担当箇所を精読しておくこと。
2	社会保障法における「自立」の意義						
3	自立支援のための「社会連帯」						
4	最低生活保障①						
5	最低生活保障②						
6	子どもの貧困①						
7	子どもの貧困②						
8	医療・介護サービスにおける予防重視システムへの転換						
9	医療・介護サービスにおける利用者選択支援						
10	権利擁護①						
11	権利擁護②						
12	権利擁護③						
13	「自立支援」に対する政策手法						
14	レポートの発表						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		○	○			50	
授業態度・授業への参加度		○				20	
受講者の発表（プレゼン）		○	○			30	
補足事項	受講者の研究テーマに応じて、各論のトピックを追加・変更しています。第1回目ガイダンスのときに希望を申し出てください。						
テキスト・参考文献等	テキスト：菊池馨実編著『自立支援と社会保障』日本加除出版、2008年 参考文献は、各単元で指定する。						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用するほか、メールで事前に連絡すれば学習相談を随時受けつける。						

授業科目名	地域問題研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	堤 圭史郎						
授業の概要	受講生が貧困・生活不安定層、被差別マイノリティの人々に関わる課題を調査研究することを念頭に、社会的排除論・ボランティア論等に関する講義と演習を行う。講義と演習は、主に文献・論文の通読により行われる。論文は主に社会学・社会福祉学・社会政策学領域の査読誌から選び、内容のみならず論文の構成等についても議論する。扱う文献・論文と報告の順番は、受講生との相談により決める。また、受講生のニーズに応じて研究報告も受けつける。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	社会的排除論等について、その社会的背景との関連で説明していく理論的、実証的知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	社会的排除の視点に基づいて、地域問題の解決に向けた指針や具体的実践について示すことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、意見交換		意見交換、テキスト決定				
2							
3	文献・論文の通読と報告、議論。以下は2015年度に通読した文献・論文の一部						
4							
5	・樋口明彦, 2004, 「現代社会における社会的排除のメカニズム：積極的労働市場政策の内在的ジレンマをめぐって」『社会学評論』217.		文献・論文を通読し、討議を行う。		報告・討議の準備		
6	・中野敏男, 1999, 「ボランティア動員型市民社会論の陥穽」『現代思想』27 (5), 青土社.						
7	・仁平典宏, 2004, 「ボランティア的行為の＜転用＞可能性について－野宿者支援活動を事例として」『社会学年報』33.						
8	・仁平典宏, 2005 「ボランティア活動とネオリベラリズムの共振問題を再考する」『社会学評論』56 (2).		これまで学んだテーマについて集団討論		集団討論の準備		
9	・妻木進吾, 2003 「野宿生活：『社会生活の拒否』という選択」『ソシオロジ』147.						
10							
11	・本田由紀編, 2007 『若者の労働と生活世界—彼らはどんな現実を生きているか』大月書店.		文献・論文を通読し、討議を行う。		報告・討議の準備		
12	・森田洋司・進藤雄三・神原文子・矢島正見編, 2009, 『新しい排除にどう立ち向かうか』学文社.						
13	・野口道彦・柏木宏編著, 2003, 『共生社会の創造とNPO』明石書店.						
14							
15	まとめ		これまで学んだテーマについて集団討論		集団討論の準備		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート			◎	◎			30
授業態度・授業への参加度				◎			30
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎			40
補足事項		報告40%、討議への参加度30%、レポート30%にて評価する。報告、討議、レポートにおいては、上記に加え、問題意識の明確さにも注目し評価する。					
テキスト・参考文献等	テキスト：原則用いない予定だが、初回授業に受講生と相談して決定する。 参考文献：①森田洋司・進藤雄三・神原文子・矢島正見編『新しい排除にどう立ち向かうか』学文社、2009年。 ②ロイック・ヴァカン『貧困という監獄』新曜社、2008年。③西田芳正他『児童養護施設と社会的排除』解放出版社、2010年。④奥田知志他、『生活困窮者への伴走型支援』明石書店、2014年。⑤岩田正美『社会的排除』有斐閣、2009年。⑥ジョック・ヤング『排除型社会』洛北出版、2007年。⑦青木秀男編、『ホームレス・スタディーズ』ミネルヴァ書房、2010年。						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	講義後もしくはオフィスアワーに講義内容について相談を受けつける。受講生の状況に応じて、授業内容に変更を加える。						

授業科目名	地域文化研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	田中哲也						
授業の概要	グローバル化は現代に特有の現象ではない。近代におけるグローバル化、西洋文化が世界のデファクトスタンダードを受け入れていく過程は、19世紀に本格的に始まる。本授業ではグローバル化現象と地域文化との関係を理解するために、19世紀初頭に始まるエジプトにおける西洋的教育制度の導入と展開を具体的事例として、外来の制度やその背後にある文化がどのように地域文化を変容させたか、また、伝統的地域文化が外来の諸制度やその基盤である精神をどのように換骨奪胎させてきたかについて学ぶ中で、制度・政策の作成・研究においてグローバル化という現象と地域文化の関係について考える。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	異なる文化的背景をもつ制度導入のあり方や問題点について説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	グローバル化がもたらす影響や反動について、説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		資料を配付した上で、最初に配布資料やパワーポイント等を使用して授業のテーマについて解説し、質問を受けた後、身近な日本におけるケース等と比較しながら外来の制度や文化の導入と地域文化をめぐる諸問題について討論を行う。		授業内容を理解するために必要な資料を配布するので、事前に講読して頂くことを求める。また、「外来制度・文化導入と地域文化をめぐる諸問題」という大テーマを受講者自身の専門領域に引き寄せた上で具体的なテーマを設定し、その結果のレポートの提出を求め、期間中に自主的に資料収集をおこない、分析を加えることを必要とする。		
2	中東イスラーム地域の伝統的社会構造						
3	イスラーム社会における伝統的教育制度						
4	エジプトにおける西洋の衝撃						
5	ムハンマド・アリー下の近代的教育制度の受容						
6	近代的教育制度と19世紀エジプト社会の変容						
7	外国学校教育と文化摩擦						
8	近代教育と専門職の誕生						
9	イギリス占領下における教育政策						
10	中高等教育の拡大と文化変容						
11	民衆教育の普及と文化変容						
12	革命前エジプトの近代教育受容と社会変容						
13	ナセル体制における教育政策						
14	サダト・ムバラク体制における教育政策						
15	教育とグローバル化をめぐる現在の諸問題						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	宿題・授業外レポート	◎				50	
	授業態度・授業への参加度		○	◎		50	
テキスト・参考文献等	毎回資料を配布する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワー及びメールにて面談日程設定						

授業科目名	地域文化演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	1・2年
担当教員	田中哲也						
授業の概要	<p>グローバル化、西洋文化・文明によるデファクトスタンダードの世界化が地域の文化や制度を変容させてきました。 本演習ではグローバル化とは何かに関する先行研究を基に討論、論点整理を行う中で、グローバル化が地域の文化や制度に与えている変化や摩擦について考えるための理論的枠組みを学びます。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	グローバリゼーションと地域文化についての理論的枠組みを習得する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	地域文化という要因の扱い方を理解する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		授業の進め方と資料選定				
2～3	資料（1）要約発表①②		受講生が担当箇所の要約を発表し内容についての討論を行う。		事前に資料を講読する。担当者は要約資料を作成する。		
4	資料（1）についてのまとめと討論		担当教員が論点を整理する。				
5～6	資料（2）要約発表①②		受講生が担当箇所の要約を発表し内容についての討論を行う。		事前に資料を講読する。担当者は要約資料を作成する。		
7	資料（2）についてのまとめと討論		担当教員が論点を整理する。				
8～9	資料（3）要約発表①②		受講生が担当箇所の要約を発表し内容についての討論を行う。		事前に資料を講読する。担当者は要約資料を作成する。		
10	資料（3）についてのまとめと討論		担当教員が論点を整理する。				
11～12	資料（4）要約発表①②		受講生が担当箇所の要約を発表し内容についての討論を行う。		事前に資料を講読する。担当者は要約資料を作成する。		
13	資料（4）についてのまとめと討論		担当教員が論点を整理する。				
14～15	グローバリゼーションと地域文化①②		資料（1）～（4）の論点から日本について検討する。		事前に資料を購読し、論点をまとめる。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート			◎			30	
授業態度・授業への参加度				◎		30	
受講者の発表（プレゼン）			◎			40	
テキスト・参考文献等	グローバリゼーションについて立場の異なる先行研究や、受講生の専門領域とグローバリゼーションの交錯に関する先行研究を配布あるいは指定						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワー及びメールにて面談日程設定						

授業科目名	臨床心理学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			通年	講義	必修	4	1・2年		
担当教員	吉岡和子・小山憲一郎・岩橋宗哉								
授業の概要	前半では、まず、心理療法を実施していくための基礎的な技能を習得する。また、心理療法が実施される領域は多岐に渡り、領域ごとに実施の目的や求められる技能も様々であることを理解し、臨床的礎として、専門的な技法とそれが依って立つ心理学理論について知識習得する。その中で、様々な学派の共通点と相違点についても理解していく。後半では、前半の学習を踏まえて、さらに実際に心理療法を進めていく準備として、受講者のニーズに合わせて、文献を講読したり、必要に応じてロールプレイを行い、臨床心理学の基本的な知識と技能を習得する。内容や順序を変更することもありうる。								
学生の到達目標									
知識・理解	DP1：専門的知識	心理療法の基本的な進め方について理解し、説明することができる。							
技能	DP6：実践力	心理療法を実践していくための基礎的な技能を習得する。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			担 当			
1	オリエンテーション	各自の興味に基づいて担当する内容を選ぶ	事前・事後学習の課題は毎回口頭や資料配付による			吉岡 小山			
2～3	心理療法を実践していくための基礎的な技能について（1）	講義とロールプレイ				吉岡			
4	職域ごとの心理療法の意義－心身医療における治療・維持・予防という側面を中心に－	講義				講義と演習		小山	
5	事例論文の購読とクライアント中心療法	臨床心理学 特集 心理療法入門－各学派から1事例－を基に担当者報告・討論							
6	精神分析・分析心理学								
7	行動療法・認知行動療法								
8	認知行動療法の成り立ちと発展								
9	精神分析的な心理療法と認知療法・スキーマ療法								
10	外来森田療法と第三世代の認知行動療法								
11	臨床動作法と第三世代の認知行動療法								
12	家族心理・家族療法								
13	統合・折衷的心理療法								
14～15	心理療法を実践していくための基礎的な技能について（2）	講義とロールプレイ				吉岡			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）			
授業態度・授業への参加度		○			◎	30			
受講者の発表（プレゼン）		◎				30			
演習		○			◎	40			
テキスト・参考文献等	【テキスト】①『臨床心理学 特集 心理療法入門－各学派から見た1事例』金剛出版、②伊藤絵美他『事例で分かる心理学のうまい活かし方』金剛出版 【参考文献】①前田重治『カウンセリング入門』有斐閣、②乾吉佑・氏原寛他編『心理療法ハンドブック』創元社、③高橋紀子・吉岡和子編『心理臨床、現場入門－初心者から半歩だけ先の風景』ナカニシヤ出版								
履 修 条 件	心理臨床専攻の大学院生								
学習相談・助言体制	授業の前後や、メールで日時を予約してください。								

授業科目名	臨床心理学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	岩橋宗哉・小山憲一郎・吉岡和子	通年	講義	必修	4	1・2年
授業の概要	前半では、まず、心理療法を実施していくための基礎的な技能を習得する。また、心理療法が実施される領域は多岐に渡り、領域ごとに実施の目的や求められる技能も様々であることを理解し、臨床的礎として、専門的な技法とそれが依って立つ心理学理論について知識習得する。その中で、様々な学派の共通点と相違点についても理解していく。後半では、前半の学習を踏まえて、さらに実際に心理療法を進めていける準備として、受講者のニーズに合わせて、文献を講読したり、必要に応じてロールプレイを行い、臨床心理学の基本的な知識と技能を習得する。内容や順序を変更することもありうる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	心理療法の基本的な進め方について理解し、説明することができる。					
技能	DP6：実践力	心理療法を実践していくための基礎的な技能を習得する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
16～30	<p>事例を担当するために必要なことを授業を進めながら参加者達と確認し、母親面接や思春期の子どもの面接に関する文献などを読む。</p> <p>担当する事例と類似のロールプレイを行う。</p>	<p>文献を十分に理解するために、読みすすめながら、ディスカッションする。</p> <p>ロールプレイについては、クライアント役、セラピスト役、観察者に分かれてそれぞれを体験する。</p>	<p>講義中にディスカッションできるように前もって、じっくりと文献を精読し、疑問点なども各自まとめておく。</p>	岩橋			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度		○			◎	30	
受講者の発表（プレゼン）		◎				30	
演習		○			◎	40	
テキスト・参考文献等	参考書：①馬場禮子「精神分析的な心理療法の実践」岩崎学術出版社、②成田善弘「精神療法家の仕事」金剛出版、③河合隼雄「臨床心理学ノート」金剛出版、④松木邦裕「私説 対象関係論的心理療法入門」金剛出版、⑤M.J. ピーブルズ「初回面接」⑥ハーセンほか「臨床面接のすすめ方」日本評論社、⑦妙木浩之「初回面接入門」岩崎学術出版社、⑧前田重治編「カウンセリング入門」有斐閣、⑨小倉清著作集1, 2 岩崎学術出版社など						
履 修 条 件	心理臨床専攻の大学院生						
学習相談・助言体制	授業の前後や、メールで日時を予約してください。						

授業科目名	臨床心理面接特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	講義	必修	4	1・2年
担当教員	岩橋宗哉・小嶋秀幹						
授業の概要	臨床心理面接は診断面接と治療面接に大別されるが、前半は、主として治療面接の基本的な知識、技能、態度を習得する。面接を効果的にするには、面接方法と対象（被面接者、クライエント、患者）の特性についての確にしておく必要がある。来談者中心療法、プレイセラピーを取り上げ、治療面接とは何かを検討する。また、対象の病態水準や年齢による心理構造の相違を考え、技法の修正等も検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	・様々な心理療法に共通する事項を学習し、心理療法とは何かを説明できる。 ・様々な心理療法の特性について学習し、その適応と禁忌を説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	様々な心理療法の中から各自に合う心理療法を見出し、さらに深く学ぶことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	オリエンテーション	教科書を十分に理解するために、読みすすめながら、ディスカッションする。	講義中にディスカッションできるように前もって、じっくりと教科書を精読し、疑問点なども各自まとめておく。フォーカシングについては、事後学習として、各自実践してみる。	岩橋			
2	心理療法の中で治療者は何をするのか（成田善弘の論文1）						
3	心理療法の中で治療者は何をするのか（成田善弘の論文2）						
4	心理療法の中で治療者は何をするのか（成田善弘の論文3）						
5	クライエント・センタード／パーソン・センタード・アプローチ（C.Rogersの論文1）						
6	クライエント・センタード／パーソン・センタード・アプローチ（C.Rogersの論文2）						
7	クライエント・センタード／パーソン・センタード・アプローチ（C.Rogersの論文3）						
8	「プレイセラピー」第1章・第2章						
9	「プレイセラピー」第3章・第4章						
10	「プレイセラピー」第5章・第6章						
11	「プレイセラピー」第7章・第8章						
12	「プレイセラピー」第9章・第10章						
13	「プレイセラピー」第11章、第12章						
14	「プレイセラピー」第13章・第14章						
15	「プレイセラピー」第15章、第16章、第17章						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	○			40	
授業態度・授業への参加度		○	◎			60	
補足事項		レポートは参考書①の詳細な要約、参考書②、③などの感想などを出す予定)					
テキスト・参考文献等	テキスト：①成田善弘「心理療法の中で治療者は何をするのか」久大精神神経科学教室同門会誌、2008 ②G.L.ランドレス「プレイセラピー」日本評論社、2009 参考書：①馬場禮子「精神分析的な心理療法の実践」岩崎学術出版社、1999 ②成田善弘「精神療法家の仕事」金剛出版、2003 ③河合隼雄「臨床心理学ノート」金剛出版、2003 ④松本邦裕「私説 対象関係論的心理療法入門」金剛出版、2005 ⑤M.J.ピープルズ「初回面接」2010 ⑥ハーセンほか「臨床面接のすすめ方」日本評論社、2001 ⑦妙木浩之「初回面接入門」岩崎学術出版社、2010 など						
履 修 条 件	心理臨床専攻の大学院生						
学習相談・助言体制	授業中に質問してください。それだけでは十分でないときには、予約を取り研究室に来てください。						

授業科目名	臨床心理面接特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	講義	必修	4	1・2年
担当教員	小嶋秀幹・岩橋宗哉						
授業の概要	臨床心理面接は診断面接と治療面接に大別されるが、前半は、主として、来談者中心療法、プレイセラピーを取り上げ、治療面接とは何かを検討し、治療面接の基本的な知識、技能、態度を習得する。後半は、さらに、面接を効果的にするために、面接方法と対象（被面接者、クライアント、患者）の特性および対象の病態水準や年齢による心理構造の相違を踏まえて、技法の修正等も検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	・様々な心理療法に共通する事項を学習し、心理療法とは何かを説明できる。 ・様々な心理療法の特性について学習し、その適応と禁忌を説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	様々な心理療法の中から各自に合う心理療法を見出し、さらに深く学ぶことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
16	臨床心理面接技法（総論）						
17～30	来談者中心療法、精神分析療法、遊戯療法、家族療法、認知行動療法、解決志向型心理療法、動機づけ面接法、弁証法的行動療法、 アクセプタンス・コミットメント・セラピー（ACT）、心理教育、コミュニティ強化と家族訓練（CRAFT）、集団精神療法、心理劇、回想法等、 様々な心理療法について、 治療面接の実際を、事例をもとに学習する。	担当者の発表とディスカッション	事前事後の課題は毎回口頭で指示あるいは資料を配布する。	小嶋			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	○			40	
授業態度・授業への参加度		○	◎			60	
テキスト・参考文献等	参考書：M.J. ピープルズ（神谷栄治監訳）「初回面接」（2010年、金剛出版）						
履修条件	心理臨床専攻の大学院生						
学習相談・助言体制	授業の前後や、メールで日時を予約してください。						

授業科目名	臨床心理査定演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	4	1・2年
担当教員	小嶋秀幹・吉岡和子						
授業の概要	査定面接と心理検査について学習する。査定面接に関しては、査定のために必要な精神病理学を学ぶとともに、情報を得るための面接法について理解することを目標とする。心理検査は、受講生各自が、ロールシャッハ法などの心理検査の被検者体験をし、受ける側からの体験をしながら、検査者として実施法や解釈法、検査所見作成などの技術を身に付けることを目指す。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	様々な精神疾患の診断学・病態論及び査定面接の方法を説明できる。 様々な心理検査の実施法を身につける。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	様々な心理検査の解釈をすることができる。					
	DP3：表現力	検査所見を作成することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	査定と診断（1）	講義と討論	講義テーマについて事前学習し、疑問点をまとめておく。事後学習は毎回の資料配布で行う。	小嶋			
2	査定と診断（2）						
3	査定面接の方法（1）						
4	査定面接の方法（2）						
5	査定面接の方法（3）						
6	症状性及び器質性精神障害（F0）	講義テーマに関する担当者（学生）の発表と討論					
7	精神作用物質による精神障害（F1）						
8	統合失調症及び妄想性障害（F2）						
9	気分障害（F3）						
10	神経症性障害（F4）						
11	摂食障害・睡眠障害（F5）						
12	パーソナリティ障害（F6）						
13	知的障害（F7）						
14	心理的発達障害（F8）						
15	小児期および青年期に発症する行動・情緒の障害（F9）						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	宿題・授業外レポート	○	◎			50	
	授業態度・授業への参加度	○	◎			50	
テキスト・参考文献等	参考書：WHO（融 道男ほか監訳）「ICD-10 精神と行動の障害—臨床記述と診断ガイドライン」（2005年、医学書院）						
履修条件	心理臨床専攻の大学院生						
学習相談・助言体制	授業の前後や、メールで日時を予約してください。						

授業科目名	臨床心理査定演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			通年	演習	必修	4	1・2年	
担当教員	吉岡和子・小嶋秀幹							
授業の概要	査定面接と心理検査について学習する。査定面接に関しては、査定のために必要な精神病理学を学ぶとともに、情報を得るための面接法について理解することを目標とする。心理検査は、受講生各自が、ロールシャッハ法などの心理検査の被検者体験をし、受ける側からの体験をしながら、検査者として実施法や解釈法、検査所見作成などの技術を身に付けることを目指す。							
学生の到達目標								
知識・理解	DP1：専門的知識	様々な精神疾患の診断学・病態論及び査定面接の方法を説明できる。 様々な心理検査の実施法を身につける。						
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	様々な心理検査の解釈をすることができる。						
	DP3：表現力	検査所見を作成することができる。						
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）								
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当				
16	心理アセスメント概説 第1課題の提示（自分自身の被検査者体験）	講義	第21回までに、ロールシャッハの被検者体験をしておく。	吉岡				
17	知能検査①	実習	・MMPI・PF スタディ・SCT を行っておく（第2課題） ・第25回までに WAIS-III を 施行（第3課題）					
18	知能検査②							
19	知能検査③							
20	知能検査④							
21	ロールシャッハ法：記号化①領域・決定因				講義	・記号化の作業を進める ・第25回までにロールシャッハの検査者体験をしておく。		
22	ロールシャッハ法：記号化②内容							
23	ロールシャッハ法：施行法 第4課題の提示（検査者体験）	実習	記号化と集計作業を進める。					
24	ロールシャッハ法：記号化③決定因、形態水準							
25	ロールシャッハ法：記号化④感情カテゴリー							
26	ロールシャッハ法の分析①知的側面	講義 形式分析の実習	形式分析の作業を進める。					
27	ロールシャッハ法の分析②情意的側面							
28	ロールシャッハ法の分析③対人的側面							
29	所見の書き方	講義	所見作成作業を行う。					
30	まとめ							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現		関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		○	◎				50	
授業態度・授業への参加度		○	◎				50	
テキスト・参考文献等	【テキスト】池田豊應編『臨床投映法入門』ナカニシヤ出版 【参考文献】①氏原寛他編『心理査定実践ハンドブック』創元社 ②津川律子・篠竹利和『シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査』誠信書房 ③馬場禮子『ロールシャッハ法と精神分析—継起分析入門（改訂版）』岩崎学術出版社							
履修条件	心理臨床専攻の大学院生							
学習相談・助言体制	授業の前後や、メールで日時を予約してください。							

授業科目名	臨床心理基礎実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	必修	2	1年
担当教員	吉岡和子・池 志保・岩橋宗哉・小嶋秀幹・小山憲一郎・福田恭介						
授業の概要	主に学内においてカウンセリングを実施していくために必要な基礎的な技能を修得してゆく。前期は、各教員が、保護者へのコンサルテーション、地域援助、カウンセリングにおける基礎的な関わり方について実習を行う。後期は、病院精神科の見学（外来診察・病棟活動など）、心療内科クリニックの見学（インテイク面接・グループ療法）、適応指導教室等の教育臨床の見学に加えて学内の相談室において、電話受付やインテイク面接の陪席などを行う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	・カウンセリング、グループ療法、保護者へのコンサルテーション、地域援助の基礎的な関わり方を理解できること。 ・社会資源の利用などについての意義や方法を理解できること。					
関心・意欲・態度	DP5：社会貢献力	学内相談室でクライアントを受け持つための基本的な技能や知識を活用できるようになること。					
技能	DP6：実践力						
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	オリエンテーション				福田 小山 吉岡		
2~9	ペアレントトレーニング：発達障がい児の保護者に対してどのようなコンサルタントが可能かについて学習する。		コンサルタント場面に同席してもらい、その後、解説を行う。				
10~12	カウンセリングにおける基本的な話の聴き方、関わり方		大学内で、ロールプレイを行う。		岩橋		
13~15	地域援助における基本的なスキルについて		大学内で、講義・ロールプレイを行う。		小嶋		
16	オリエンテーション				全員		
17~29	・病院精神科において、外来診察の見学や病棟活動への参加などを行う。 ・学内相談室において電話受付を担当する。またインテイク面接に陪席し、事例検討会で報告する。 ・子どもを対象とする心療内科クリニックにおけるインテイク面接の方法や見立て及びグループ療法について学習する。 ・教育分野における支援活動を理解するために、適応指導教室のプログラムに参加する。		班に分かれて、精神科・心療内科クリニック・学内相談室・適応指導教室での実習を行う。 実習内容によって、方法は異なるが、実際に行われる臨床心理行為を陪席等によって見学したり、アシスタントとして参加する。				
30	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎				20	
授業態度・授業への参加度		◎		◎	◎	80	
テキスト・参考文献等	【参考文献】①福田恭介（編）『ペアレントトレーニング実践ガイドブック—きょうまくいく。子どもの発達支援』あいり出版②高橋三郎・大野 裕・染矢俊幸（訳）『DSM - IV - TR 精神疾患の分類と診断の手引き』医学書院③小此木啓吾・大野 裕・深津千賀子（編）『心の臨床家のための精神医学ハンドブック』創元社④津川律子・橋 玲子（編）『臨床心理士をめざす大学院生のための精神科実習ガイド』誠信書房 その他、必要な場合は適宜追加する						
履修条件	心理臨床専攻の大学院生						
学習相談・助言体制	授業中に質問に答えていく。さらに必要な場合は予約を取り、研究室に来てください。						

授業科目名	臨床心理実習（学内）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	必修	1	2年
担当教員	岩橋宗哉・池 志保・小嶋秀幹・ 小山憲一郎・福田恭介・吉岡和子						
授業の概要	学内心理相談施設で電話受付業務や、インテークの陪席、心理面接など実践的な学習を継続し、実際に心理面接を行なうことができるようにする。心理面接などの実践に対して、電話受付チームの主任によって行われる個人スーパーヴィジョンや、担当教員によるケースカンファレンスによって指導を行う。本科目は、毎回、教員全員が出席し、常に全受講生の実習に関与し、それぞれの教員がその専門性に応じて主たる責任を持って学生を指導する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	見立てができるようになる。					
	DP3：表現力	見立てと方針をわかりやすく説明できるようになる。					
関心・意欲・態度	DP5：社会貢献力	心理面接を行なうことができるようになる。					
技能	DP6：実践力	事例に応じて、適切なマネジメントができるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1 オリエンテーション</p> <p>2～29 電話受付、インテーク、心理面接経過などの報告を行う。 発表者のレジュメ・報告をもとにディスカッションを行う。 発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。</p> <p>30 まとめ</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度			◎	◎		50	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎	◎	50	
テキスト・参考文献等	参考文献：前田重治編「カウンセリング入門」有斐閣選書 河合隼雄「カウンセリングの実際問題」誠信書房 その他は、適宜紹介します。						
履修条件	心理臨床専攻の大学院生						
学習相談・助言体制	授業中に答えていきます。さらに必要な場合は予約を取り、研究室に来てください。						

授業科目名	臨床心理実習（施設）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	必修	1	2年
担当教員	岩橋宗哉・池 志保・小嶋秀幹・ 小山憲一郎・福田恭介・吉岡和子						
授業の概要	1) 医療機関の実習においては、実習先の臨床心理士の指導のもとで個人心理療法や集団心理療法などを体験する。 2) 適応指導教室に通い、子ども、保護者、教師に対する心理的援助の実際を体験する。 3) 指定する医療機関や適応指導教室の中から選択して、1ないし2機関で実習を行う。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP5：社会貢献力	・医療機関の実習では、心理療法や心理査定などの場面でのクライアントへの関わり方を実践的に体験し、それらの場面で関わるができるようになる。 ・教育臨床の実習として適応指導教室に通い、指導員の援助の基で子どもと関わり、信頼関係に基づきながら子どもの変化に対応した心理的援助ができるようになる。					
技能	DP6：実践力						
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1 オリエンテーション</p> <p>2～14 1) 医療機関の援助法を学ぶ。また、精神病理への理解を深める。機会があれば、予診の陪席、心理査定の陪席、実習先の指導者のもとで事例やグループを担当し、事例の理解を深めていく 医療機関の実習では、実習先の臨床心理士の指導に加えて大学内において、教員とともに事例を検討する。</p> <p>2) 適応指導教室に馴染み、自らの課題を見つける。特定の子どもと深く関わる機会を探す。心理的援助の方法を考える。指導員と支援の方法を考える。上記活動に加え、適応指導教室の活動について理解する。学校や地域との関わりにも可能な限り参加していく。 適応指導教室の実習では、日々の課題を整理し、解決策を考える。大きな課題は大学に連絡する。</p> <p>※医療機関・適応指導教室の2箇所の実習を行うことを勧める。 ※実習先によっては、後期も引き続き実習を行うことができる。</p> <p>15 実習先での体験を通して学習した内容を受講生がまとめ、報告する。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート				◎		20	
授業態度・授業への参加度				◎	◎	80	
テキスト・参考文献等	テキスト：なし。参考文献は状況に応じて教員に助言を求めること。						
履修条件	心理臨床専攻の大学院生						
学習相談・助言体制	医療機関・適応指導教室のスタッフと連携し指導する。状況に応じて、電話・メールなどを利用する。						

授業科目名	心理学研究法特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	福田 恭 介						
授業の概要	心理学における実証的な実験（調査）研究の方法について精通することを目的とする。これから心理の専門職として業務を行って行くには欠かせない科目である。各人のもつテーマについて、構想、実験計画、実験実施、データ処理と解析、結果の記述、考察、レポート執筆という流れをたどりながら、心理学研究において陥りやすい問題を考えていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	心理学における実証的な実験（調査）研究の方法についての専門的な知識を有している。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	心理学研究法に関連する課題について主体的に探究することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	心理学研究法の意味。科学と実証		テキストを読みながら、心理学実験および調査において陥りやすい問題について考えていく。		担当者は詳読し、わからない用語についても調べておく。また関連文献についても入手して調べておく。それ以外の人はテキストを読んでおき、担当者に疑問点を質問するだけでなくコメントも行う。		
2	実験と観察						
3	実証の手続き						
4	独立変数の操作						
5	従属変数の測定						
6	剰余変数の統制						
7	さまざまな実験法						
8	心理学に特有な問題						
9	調査法						
10	観察法						
11	検査法						
12	面接法						
13	研究の実施						
14	結果の解釈						
15	研究報告						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	授業態度・授業への参加度			◎		50	
	受講者の発表（プレゼン）	◎				50	
テキスト・参考文献等	高野陽太郎・岡隆（編）「心理学研究法－心を見つめる科学のまなざし－」有斐閣アルマ						
履 修 条 件	毎回、各自の発表に対してコメントを出すことにより議論を深める。						
学習相談・助言体制	質問については、時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間がないときは、メールを利用し、約束の時間を設ける。						

授業科目名	臨床心理学研究法特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1・2年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	臨床心理学の研究方法には調査研究や事例研究などがある。授業ではテキストや学術論文を用いながら、臨床心理学研究の基本、臨床心理学研究における倫理、研究を進めるためのステップ、先行研究の読み方、研究発表のスタイルなどを演習形式で学んでいく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP 1：専門的知識	臨床心理的問題を扱うための研究方法を理解できる。					
思考・判断・表現	DP 2：論理的思考力	臨床心理的問題を扱うための、研究方法、結果の分析、考察、発表を検討できる。					
関心・意欲・態度	DP 4：探求力	臨床心理的問題を扱うための問題意識や課題を主体的に探求できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、発表の順番決め						
2～14	テキスト抄読とディスカッション、感想の共有。 学術論文の抄読とディスカッション、感想の共有。		受講生が持ち回りでテキストをレジュメにまとめ、発表する。テキストを抄読し終えた後半には、臨床心理学の学術論文を読んでいく。 発表後は、皆でディスカッションをし、教員が解説して理解を深める。		事前学習： 次回のテキストを読み、分からない箇所は自身でも調べておく。 事後学習： 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。		
15	まとめと総評						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート			◎	◎	◎		100
授業態度・授業への参加度			○	◎	◎		
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎	◎		
演習			○	◎	◎		
補足事項		* 「宿題・授業外レポート」「授業態度・授業への参加度」「受講者の発表（プレゼン）」「演習」を合わせて、評価割合（100%）になります。					
テキスト・参考文献等	テキスト：『(第2版) 初心者のための臨床心理学実践研究マニュアル』(2011) 津川律子・遠藤裕乃著、金剛出版。 参考文献：臨床心理学に関する研究論文を教員が適宜紹介していく。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	基本的に授業の中で質問を受け付け、助言を行います。個人的な指導を希望する場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。						

授業科目名	発達心理学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	心理療法がうまくいくとき、「遊ぶこと playing」が広く関与している。たとえば、プレイセラピーでクライアントとセラピストが遊ぶことにはどのような臨床的意義があるのだろうか。D.W. ウィニコットは「遊ぶこと」や「創造性」の発達促進的意義を論じた小児科医であり、ウィニコットの理論は教育や臨床、福祉領域などで長く親しまれ続けている。この授業では発達心理学の中でも、子どもから大人にいたるまでの臨床実践に関わるウィニコット理論を学んでいく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	ウィニコットの発達論について理解することができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	「遊ぶこと」「創造性」「移行対象」などの臨床的意義について、考え、検討することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーションと発表の順番決め						
2~14	テキスト抄読とディスカッション、感想を共有する。 (テキストの章立て) 1. 移行対象と移行現象 2. 夢を見ること、空想すること、生活をする事 3. 遊ぶこと－論理的陳述 4. 遊ぶこと－創造活動と自己の探求 5. 創造性とその起源 6. 対象の使用と同一視を通して関係すること 7. 文化的体験の位置づけ 8. 私たちの生きている場 9. 小児発達における母親と家族の鏡としての役割 10. 相互に関係すること－本能欲動の面からではなく、交叉同一視の面からの考察 11. 青年期発達の現代的概念とその高等教育に対してもつ意味		受講生が持ち回りでテキストをレジュメにまとめ、発表する。皆でディスカッションをし、教員が解説して理解を深める。		事前学習： 今回のテキストを読み、分からない箇所は自身でも調べておく。 事後学習： 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。		
15	まとめと総評						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート			◎	◎			100
授業態度・授業への参加度			○	◎			
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎			
演習			○	◎			
補足事項		*「宿題・授業外レポート」「授業態度・授業への参加度」「受講者の発表（プレゼン）」「演習」を合わせて、評価割合（100%）になります。					
テキスト・参考文献等	テキスト：『遊ぶことと現実（現代精神分析双書Ⅱ期・4）』（1979）、D.W. ウィニコット著、橋本雅雄訳、岩崎学術出版社。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	基本的に授業の中で質問を受け付け、助言を行います。個人的な指導を希望する場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。						

授業科目名	認知心理学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	福田 恭 介						
授業の概要	<p>認知とは、外界の情報を取り入れたり、取り入れた情報を保存したり、保存した情報を元に新たな知識を構成したり、新たな外界の問題を解決するといった人の行う情報の処理全般を意味する。さまざまな臨床場面においても認知活動は行われている。ここでは、人がどのように認知処理が行われ、さまざまな経験によってどのように認知処理が変容するのかを考えていく。ここでは認知に関連する心理学関係の学術論文を読み発表する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP 1：専門的知識	認知心理学についての専門的な知識を有している。					
関心・意欲・態度	DP 4：探求力	認知心理学に関連する課題について主体的に探究することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	認知心理学の序論						
2～15	各自の研究論文の紹介と論評		報告・検討（学生）、支援・指導（グループ、教員）		自分の担当する文献の詳読と報告の準備		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	授業態度・授業への参加度			◎		50	
	受講者の発表（プレゼン）	◎				50	
テキスト・参考文献等	授業中にいくつかの学術雑誌を紹介する。						
履 修 条 件	毎回、各自の発表に対してコメントを出すことにより議論を深める。						
学習相談・助言体制	質問については、時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間がないときは、メールを利用し、約束の時間を設ける。						

授業科目名	社会心理学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	上野行良						
授業の概要	本授業では社会心理学のうち、社会的自己と社会的認知の研究をとりあげる。すなわち他者や自己をどう意識し、どう捉え、どう評価していることが個人にどのような心理状態と行動を引き起こすのかを概観する。これは臨床場面、臨床心理学研究において、人を理解するために必要な基本的な知識である。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	臨床場面で人間を理解するための社会心理学の知識を有している。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	人の心理や行動について社会心理学的な視点から理解しようとすることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己概念と自尊心 2. 自己と動機付け 3. 文化と自己 4. 自己と他者 <p>【授業方法と事前事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①テキストを読む ②段落ごとに質問等を受け、解説し、話し合う。 ③最後に学んだ内容を各自一枚にまとめる。（自分がした質問等も併記する） 							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業内レポート		◎				50	
質問・考察				◎		50	
テキスト・参考文献等	参考文献：北村英哉・浦光博編著「展望 現代の社会心理学1 個人の中の社会」誠信書房						
履修条件	日本語のテキストを読み、日本語で議論できること。						
学習相談・助言体制	授業構成に質問が含まれている。						

授業科目名	人間関係特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	上野行良						
授業の概要	本授業では社会心理学のうち、対人関係の研究をとりあげる。すなわち人と関わること、人との関係の中で生きるときに起きる諸側面を概観する。各自が臨床場面、臨床心理学研究において、対人関係の作用を理解するために役立つ知識を中心に選ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	臨床場面で人間関係を理解するための社会心理学の知識を有している。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	対人関係について社会心理学的な視点から理解しようとすることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 対人関係と怒り・攻撃 ソーシャルサポートとソーシャルネットワーク 家庭の人間関係 学校の人間関係 職場の人間関係 <p>ただし受講者の研究テーマにより変わることがある</p> <p>【授業方法と事前事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①テキストを読む ②段落ごとに質問等を受け、解説し、話し合う。 ③最後に学んだ内容を各自一枚にまとめる。（自分がした質問等も併記する） 							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業内レポート		◎				50	
質問・考察				◎		50	
テキスト・参考文献等	参考文献：相川充・高井次郎編著「展望 現代の社会心理学2 コミュニケーションと対人関係」誠信書房						
履修条件	日本語のテキストを読み、日本語で議論できること。						
学習相談・助言体制	授業構成に質問が含まれている。						

授業科目名	神経生理学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	心理臨床における様々な事象を理解する際、心理学的事象の源となる脳の機能を検討することも必要なアプローチの一つである。本講では、神経系の機能についての基礎科学を論じる。さらに、心理臨床において重要となる精神疾患等の問題について、脳の機能的不全という側面から検討する。また、行動療法等の心理療法と神経系の機能との関連を考える。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	心理臨床の土台となる神経科学について理解する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	複雑な脳が合理性に基づいて機能していることを理解する。					
	DP3：表現力	修士論文作成や学会発表等で必要となる論理的な伝達力を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		<p>◎ 初回に、受講者に対してアンケートを課し、その結果より、次回以降の授業形式と授業レベルを決定する。</p> <p>1) 受講者が神経科学について、学部レベルの知識をもっていて、かつ、講義形式の授業を希望する場合は、左記の内容に従って解説する。</p> <p>2) 受講者が学部レベルの知識を持っておらず、かつ、講義形式の授業を希望する場合は、学部「生理心理学Ⅰ」の内容を含めて解説する。</p> <p>3) 受講者が演習形式の授業を希望する場合は、左記の内容や関連内容について、毎回発表者を割り当てて、発表を行なわせ、質疑応答をはじめとした議論をする。</p> <p>◎ 実験の見学実習の回は、心理臨床につながる神経生理学実験に触れ、実習する。</p>		各自、修士論文研究で取り上げるテーマを強く意識しつつ、修士論文の礎となるように、授業に臨むように。また、臨床心理士受験希望者には、授業の中で、この分野での出題パターンを教授するので、よく復習して、かつ自習により知識を固めることが望まれる。		
2	神経科学を理解するための物理・化学現象						
3	細胞の電気的性質						
4	神経細胞の電気的活動						
5	化学的神経伝達						
6	受容体とリガンド						
7	細胞内情報伝達の概要：リガンドによる遺伝子への働きかけ						
8	神経生理学実験の見学実習						
9	脳幹・間脳・小脳の構造と機能						
10	大脳基底核・大脳辺縁系の構造と機能						
11	大脳新皮質の構造と機能						
12	脳波						
13	統合失調症の生理学						
14	不安障害・うつ等の生理学						
15	発達障害の生理学と行動						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	宿題・授業外レポート	◎	◎			80	
	授業態度・授業への参加度					20	
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考のできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業中及び平素の質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。						

授業科目名	老年心理学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	この授業では、老年心理学における知見を踏まえつつ、高齢期に見られる脳の病的老化や器質的損傷を議論する。中でも各種の神経心理学的症状に関する研究と臨床的課題について議論する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	心理臨床の一分野である臨床神経心理学について理解する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	複雑な脳が合理性に基づいて機能していることを理解する。					
	DP3：表現力	修士論文作成や学会発表等で必要となる論理的な伝達力を身につける。					
関心・意欲・態度	DP5：社会貢献力	臨床神経心理学の分野およびこれを活かした分野で活躍するため土台を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		<p>◎ 初回に、受講者に対してアンケートを課し、その結果より、次回以降の授業形式と授業レベルを決定する。</p> <p>1) 受講者が神経科学について、学部レベルの知識をもっていて、かつ、講義形式の授業を希望する場合は、左記の内容に従って解説する。</p> <p>2) 受講者が学部レベルの知識を持っておらず、かつ、講義形式の授業を希望する場合は、学部「生心理学Ⅰ」の内容を含めて解説する。</p> <p>3) 受講者が演習形式の授業を希望する場合は、左記の内容や関連内容について、毎回発表者を割り当てて、発表を行なわせ、質疑応答をはじめとした議論をする。</p> <p>◎ 実験の見学実習の回は、心理臨床につながる神経生理学実験に触れ、実習する。</p>		各自、修士論文研究で取り上げるテーマを強く意識しつつ、修士論文の礎となるように、授業に臨むように。また、臨床心理士受験希望者には、授業の中で、この分野での出題パターンを教授するので、よく復習して、かつ自習により知識を固めることが望まれる。		
2	心理学的に重要な老年期の障害						
3	神経心理学概要						
4	神経系の構造						
5	脳損傷（1）						
6	脳卒中（2）						
7	運動まひ						
8	神経心理学的一般症状						
9	視覚の高次障害（1）						
10	視覚の高次障害（2）						
11	失語						
12	記憶の障害						
13	半球離断症候群						
14	認知症						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	宿題・授業外レポート	◎	◎	◎		80	
	授業態度・授業への参加度			○		20	
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考にできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件	神経生理学特論を履修済みであることが望ましい。						
学習相談・助言体制	授業中及び平素の質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。						

授業科目名	心理療法特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	1・2年
担当教員	田中克江						
授業の概要	具体的な家族療法の事例の検討をとおりて家族療法の基礎概念について習得するとともに、自分の家族や対人関係についての理解を深め、現代日本社会の変貌する家族の問題行動に対する効果的な心理的援助について、共に解明する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	家族療法の基礎概念、アセスメント、回復過程と介入法についての専門的知識を有している。					
技能	DP6：実践力	自分自身の家族や対人関係についての理解や気づきを心理的支援活動の実践に生かすことができる。現代日本の家族の問題行動に対する新しい心理的援助について主体的に探究することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		授業計画、発表、文献検索などの共有		参加動機の発表や自己紹介など		
2	不登校の家族療事例		発表、討議、講義		FamilyTree、家族自我境界		
3	いじめの家族療事例		発表、討議、講義		被害者・加害者の心理		
4	非行、食行動、依存症の家族療事例		発表、討議、講義		IP、両親連合、兄弟連合		
5	典型的な家族療事例の回復過程		ロールプレイ		肯定的処方箋、リフレイミング、変化の理論		
6	典型的な家族療事例のアセスメントと介入法		講義、討議		甘え焦点化法		
7	ひきこもりの家族療事例		発表、討議、講義		ひきこもりの回復過程		
8	虐待の家族療事例		発表、討議、講義		夫婦連合、世代間連鎖		
9	発達障害の家族療事例		発表、討議、講義		愛着障害		
10	リストカットの家族療事例		発表、討議、講義		ParentalChild		
11	効果的な家族療法の効用と限界		発表、討議		今までの基礎概念について		
12	新しい心理的援助についての取組		講義		家族画のスクールカウンセリング		
13	新しい心理的援助についての取組		講義、体験学習、討議		アサーティブな物の見方		
14	新しい心理的援助についての取組		講義、体験学習、討議		アサーションとCRAFT		
15	まとめ・コミュニティアプローチ		講義、討議		富山型デイサービス		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎			◎	30	
宿題・授業外レポート		◎			◎	30	
授業態度・授業への参加度		◎			◎	20	
受講者の発表（プレゼン）		◎			◎	20	
テキスト・参考文献等	田中克江『思春期危機をのりこえて』サイエンス社、家族療法の実践例の本、心理臨床研究や各大学の心理教育相談室紀要など。						
履修条件	家族療法の事例についてのレポートを行ったり、ロールプレイで演じたりと主体的に授業に参加することが望まれる。						
学習相談・助言体制	毎回のミニ・レポートで質問や相談を受け付け、回答する。						

授業科目名	投影法特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	1・2年
担当教員	濱野清志						
授業の概要	心理臨床においてクライアントの心を主として言葉を通して理解していくことになるが、その言葉の延長にあるさまざまな非言語的な表現をどう理解し、受け止めていくかということがクライアント理解と援助に豊かな色合いを付加することになる。その非言語的な表現の理解のあり方をアセスメントの一部としての投影法を通して理解することを目的とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	投影法のうち、さまざまな描画法の使い方を体験的に理解する。また、箱庭療法の意義についても理解を深める。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		授業は、講義とその実際的な体験とを並行して進めていく。		事前学習は特に定めない。事後学習はその都度、講義中に指示する。		
2	投影法とは						
3	言語的アプローチと非言語的アプローチ1						
4	言語的アプローチと非言語的アプローチ2						
5	バウムテストについて1						
6	バウムテストについて2						
7	風景構成法について1						
8	風景構成法について2						
9	自由画について						
10	粘土による表現						
11	身体を使った表現						
12	身体感覚に目を向ける						
13	箱庭療法について1						
14	箱庭療法について2						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
レポート課題		◎				60	
授業態度・授業への参加度		○				40	
テキスト・参考文献等	テキストは特に定めない。参考文献として、山中康裕他編著『京大心理臨床シリーズ1 バウムの心理臨床』創元社、濱野清志著『覚醒する心体』新曜社。						
履修条件	心理臨床専攻の学生						
学習相談・助言体制							

授業科目名	学校臨床心理学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次			
	担当教員	内田利広	後期集中	講義	選択	2	1・2年			
授業の概要	<p>学校臨床心理学の実践として、スクールカウンセラーの役割や機能について、理解を深めていく。そのために、まずスクールカウンセラーの歴史的経緯や現状、その課題について理解する。さらに、実際にスクールカウンセラーとして、学校に入って行く際に、どのような姿勢や専門性が必要になるかについて、習得する。</p> <p>また、学校臨床において出会う不登校や虐待、さらに保護者への対応や教員とのコンサルテーションについての理解を深める。</p>									
学生の到達目標										
知識・理解	DP1：専門的知識	学校臨床心理学に関わる専門的知識を有している。								
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	専門的知識をもとに、学校における心理的課題を検討し、必要な援助の方針を適切に表現できる。								
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）										
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）					
1	オリエンテーション：本講義のねらい	講 義								
2	スクールカウンセラーの歴史と現状									
3	第1章 学校に行くまでにやっておくこと							テキスト1章		
4	第2章 初めて学校に行く							テキスト2章		
5	第3章 面接をスタートするまで							テキスト3章		
6	第4章 カウンセリングの実施と構内連携							テキスト4章		
7	第5章 学校という組織になじむ							テキスト5章		
8	第6章 スクールカウンセラーの限界と他機関との連携							テキスト6章		
9	第7章 小学校におけるスクールカウンセラーの第一歩							テキスト7章		
10	第8章 スクールカウンセラーを継続していくために							テキスト8章		
11	学校臨床と不登校	具体例による事例検討								
12	学校臨床と虐待									
13	学校臨床といじめ									
14	学校臨床と発達障害									
15	まとめ									
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）										
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）				
授業内ミニレポート		○				20				
最終レポート		◎	○			30				
授業態度・授業への参加度		○	○			30				
事例課題での発表			◎			20				
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：内田利広他著 『スクールカウンセラーの第一歩』、創元社、1600円 参考文献：内田利広著 『期待とあきらめの心理－親と子の関係をめぐる教育臨床－』、創元社、3200円</p>									
履 修 条 件	特になし。									
学習相談・助言体制	毎回、授業の最初に質問の時間を取る。									

授業科目名	特別研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	福田恭介・岩橋宗哉・上野行良・小嶋秀幹・ 麦島 剛・吉岡和子		通年	演習	必修	4	1～2年
授業の概要	心理臨床に関する修士論文の作成のために必要な知識や研究のための技能を修得する。各受講者は自らの問題意識を明確にするために、研究文献、資料等を読み、その領域における基礎的な概念、専門的知識の理解を深め、受講者同士の討論を通して、研究テーマを探求し、研究方法を決定し、調査や実験を行い、修士論文を完成させる。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP4：探求力	研究テーマを探求するために必要な科学的思考や心理学における研究方法に習熟し、修士論文を書き上げる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>【授業内容】</p> <p>1～15：自らの問題意識を明確にすることを目指す。</p> <p>16～30：さらに自分のテーマについての文献レビューをするなど、自らの研究の位置づけや目的などを明確にしていく。</p> <p>31～45：研究方法を検討し、調査を開始する。</p> <p>46～60：研究結果を整理し、考察を加え修士論文を書き上げる。</p> <p>【授業方法】</p> <p>各自の研究を進めるために、それぞれの課題をまとめ、発表し、他の受講者とともにディスカッションする。</p> <p>【事前・事後学習（学習課題）】</p> <p>それぞれの進行具合に応じて、明確になった課題に対して、文献にあたりたり、予備的な調査を行うなど自ら必要と考えることを行い、それをもとに発表できるように準備する。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート				◎		10	
授業態度・授業への参加度				○		10	
その他：修士論文				◎		80	
テキスト・参考文献等	各教員により指示						
履修条件	心理臨床専攻の学生						
学習相談・助言体制	各教員により指示						

VII. 授 業 案 内

看 護 学 研 究 科

授業科目名	担当教員	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	ページ
看護理論	永嶋由理子・瀧野由夏・加藤法子	前期	講義	必修	2	1年	95
看護倫理	小西恵美子	前期	講義	必修	2	1年	96
看護研究法	佐藤(香)・松浦・尾形・四戸	前期	講義	必修	2	1年	98
コンサルテーション論	宇佐美・岩切・安藤・廣瀬・安永(浩)	前期	講義	選択	2	1年	99
看護教育学	石田智恵美	後期	講義	選択	2	1年	100
英語文献講読特論	小池祐子	前期	講義	選択	2	1年	101
看護政策論	滝・尾形・小出・山下	通年	講義	選択	2	1年	102
Advanced 生理学・病態生理学	田中美智子・江上千代美	前期	講義	選択	2	1年	104
Advanced フィジカルアセスメント	永嶋・瀧野・本田・飛野・山田・名取・倉員・吉川(英)・渡邊(智)	後期	講義	選択 (38単位の専門看護師コースの学生は必修)	2	1年	105
Advanced 臨床薬理学	笹栗・高橋・吉原・城戸・村田	通年	講義	選択	2	1年	106
看護管理学	田中洋子	後期	講義	選択	2	1年	107
臨床心理学特論	岩橋宗哉・村田節子	後期	講義	選択	2	1年	108
家族社会学特論	四戸智昭	後期	講義	選択	2	1年	109
ヘルスプロモーション科学	松浦賢長	後期	演習	選択	2	1年	110
哲学的人間学	重松順二	後期	講義	選択	2	1年	111
データ解析特論	小出昭太郎	前期集中	講義	選択	2	1年	112
データ解析演習	増満 誠	後期	演習	選択	2	1年	113
ウイメンズヘルステ論	佐藤(香)・石村・吉田 静	前期	講義	選択	1	1年	114
ウイメンズヘルス演習	佐藤(香)・石村・吉田 静・佐藤(蘭)	後期	演習	選択	1	1年	115
看護教育学特論	石田智恵美	前期	講義	選択	2	1年	116
看護教育学演習	石田智恵美	後期	演習	選択	2	1年	117
基礎看護学特論	瀧野由夏・藤野靖博	前期	講義	選択	2	1年	118
基礎看護学演習	瀧野由夏・藤野靖博	後期	演習	選択	2	1年	119
看護心理学特論	永嶋由理子・加藤法子	前期	講義	選択	2	1年	120
看護心理学演習	永嶋由理子・加藤法子	後期	演習	選択	2	1年	121
実験看護学特論	田中美智子・江上千代美	前期	講義	選択	2	1年	122
実験看護学演習	田中美智子・江上千代美	後期	演習	選択	2	1年	123
基盤看護学特別研究	永嶋・田中美智子・石田・江上(千)・瀧野	通年	演習	領域において必修	8	1～2年	124
思春期ヘルスプロモーション特論	松浦賢長・原田直樹	前期	講義	選択	2	1年	125
思春期ヘルスプロモーション演習	松浦賢長・原田直樹	後期	演習	選択	2	1年	126
地域看護学特論	尾形由起子・山下清香・小野順子	前期	講義	選択	2	1年	127
地域看護学演習	尾形由起子・山下清香・小野順子	後期	演習	選択	2	1年	128
在宅看護学特論	吉田恭子	前期	講義	選択	2	1年	129
在宅看護学演習	吉田恭子	後期	演習	選択	2	1年	130
ヘルスプロモーション看護学特別研究	松浦・尾形・山下	通年	演習	領域において必修	8	1～2年	131
小児看護学特論	田中美樹・吉川未桜	前期	講義	選択	2	1年	132
小児看護学演習	田中美樹・吉川未桜	後期	演習	選択	2	1年	133
代替・補完看護学特論	佐藤香代・猪狩 崇	前期	講義	選択	2	1年	134
代替・補完看護学演習	佐藤香代・猪狩 崇	後期	演習	選択	2	1年	135
老年看護学特論	渡邊・芋川・水谷・吉岡(佐)・櫛	前期	講義	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	2	1年	136
老年看護学演習	渡邊智子・櫛 直美	後期	演習	選択	2	1年	137
高齢者健康生活アセスメント論	渡邊智子・西山みどり	前期	講義	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	2	1年	138
老年病診断治療学	遠藤・芋川・渡邊	前期	講義	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	1	1年	139
老年病診断治療学演習	遠藤・向野・渡邊	前期	演習	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	1	1年	140
高齢者看護方法論	渡邊・吉岡(佐)・高梨・マーレー	前期	講義	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	2	1年	141
高齢者地域・家族看護方法論	渡邊・尾形・大谷	後期	講義	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	1	1年	142
高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論	渡邊・櫛・屋良・小出・大谷・山口	後期	講義	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	2	1年	143
終末期高齢者看護論	赤司・渡邊・田中美智子・奥・廣瀬・Je-Kan・森山・柏木・藤崎	後期	講義	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	2	1年	145
認知症高齢者看護論	渡邊・江上史子・高山・木村・小路・マーレー・大谷・得居・大塚・稲野・吉岡薫・屋良	前期	講義	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	2	2年	147
終末期老年看護実習Ⅰ	渡邊智子・廣瀬理絵	後期	実習	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	2	1年	149
終末期老年看護実習Ⅱ	渡邊智子・廣瀬理絵	後期	実習	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	3	1年	150
認知症老年看護実習Ⅰ	渡邊智子	前期	実習	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	2	2年	151
認知症老年看護実習Ⅱ	渡邊智子・江上史子	前期	実習	選択 (老年看護専門看護師コース必修)	3	2年	152
成人看護学特論	村田・赤司・宮園・中井・大島・柳迫・本田	前期	講義	選択	2	1年	153
成人看護学演習	村田・赤司・宮園・中井・大島・柳迫・瀧	後期	演習	選択	2	1年	154

授業科目名	担当教員	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	ページ
がん病態学	平田・芋川・渡邊(壽)・齋藤・佐伯・油布	前期	講義	選択	2	1年	155
がん看護学特論Ⅰ	村田節子・奥 祥子・鈴木志津枝	前期	講義	選択	2	1年	156
がん看護学特論Ⅱ	村田・近藤・平田・齋藤・油布	前期	講義	選択	2	1年	157
精神看護学特論 (26単位がん看護専門看護師コース)	松枝美智子・安永薫梨	前期	講義	がん看護専門 看護師コース必修	2	1年	158
がん看護学演習Ⅰ	村田・宮園・野口・安永・江藤・晴野	後期	演習	選択	2	1年	160
がん看護学演習Ⅱ	村田・奥・栗秋・荒木・植木・村田(久)・ 野口・今丸	後期	演習	選択	2	1年	161
がん看護学実習Ⅰ	村田節子・宮園真実	前期	実習	選択	4	2年	162
がん看護学実習Ⅱ	村田節子・宮園真実	前期	実習	選択	2	2年	163
精神看護学特論 (38単位精神看護専門看護師コース)	松枝美智子・安永薫梨	前期	講義	選択 (精神看護学分野必修)	2	1年	164
精神看護学演習	松枝美智子・安永薫梨・宮崎 初	後期	演習	選択 (精神看護学研究コース必修)	2	1年	166
精神看護関連法規・制度・政策論	松枝美智子・安永薫梨・増満 誠・ 川野雅資・末安民生	通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年	168
精神看護論	松枝美智子	通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年	170
精神看護アセスメント論	松枝美智子・小嶋享二・連理貴司・ 吉岡和子	通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年	172
精神看護セラピーⅠ	松枝美智子・連理貴司・宇佐美しおり	通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年	174
精神看護セラピーⅡ	松枝美智子・白石裕子・小嶋秀幹	通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年	175
リエゾン精神看護論	安永薫梨・安藤光子・寺岡征太郎・ 松枝美智子・倉持裕子・池田 智	通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年	177
精神障がい者地域移行・地域定着看護論	松枝美智子・宮崎 初・福山敦子・ 熊本勝治・山本智之	通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年	179
精神看護専門看護師直接ケア実習	松枝美智子	通年	実習	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年	182
精神看護専門看護師役割実習	宮崎 初・松枝美智子	通年	実習	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年	184
精神科診断治療実習	松枝美智子・安永薫梨	通年	実習	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	2年	186
Advanced 精神看護専門看護師直 接ケア実習	松枝美智子・安永薫梨・宮崎 初	通年	実習	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	2年	188
Advanced 精神看護専門看護師役 割実習	松枝美智子・安永薫梨・宮崎 初	通年	実習	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	2年	190
臨床看護学特別研究	村田・赤司・樺・松枝・田中美樹・宮園・ 渡邊・古田	通年	演習	選択 (研究コース必修)	8	1～2年	192
課題研究	村田・松枝・渡邊・樺・宮園	通年	演習	選択 (専門看護師コース必修)	4	1～2年	193
基礎助産学特論	佐藤(香)・石村・吉田 静・豊平	前期	講義	選択	2	1年	194
基礎助産学演習	佐藤(香)・古田・鳥越・石村・安河内・ 吉田 静・小林・佐藤	通年	演習	選択	2	1年	195
助産学特論	佐藤(香)・鳥越・古田・石村・吉田 静・ 小林・佐藤	前期	講義	選択	2	1年	196
助産学演習	佐藤(香)・鳥越・古田・石村・安河内・ 吉田 静・小林・佐藤	後期	演習	選択	2	1年	197
ホリスティック助産学特論	佐藤(香)・小林	前期	講義	選択	1	1年	198
ホリスティック助産学演習	佐藤(香)・小林・城村・高井	後期	講義・演習	選択	2	1年	199
助産実践学Ⅰ(妊娠期)	佐藤(香)・吉田 静・佐藤(蘭)・下川	前期	講義	選択	2	1年	200
助産実践学Ⅱ(分娩期)	鳥越・石村・吉田 静・小林・佐藤(蘭)・ 藤田・稲富	通年	講義・演習	選択	4	1年	201
助産実践学Ⅲ(産褥・新生児期)	古田・小林・佐藤(蘭)・白川	後期	講義	選択	2	1年	203
助産実践学Ⅳ(ハイリスクケア)	古田・小林・下川	後期	講義	選択	2	1年	204
マネジメント助産学特論	古田・稲富・林	前期	講義	選択	2	2年	205
コミュニティ助産学特論	古田・鳥越・安河内・村田	後期	講義	選択	1	1年	206
コミュニティ助産学演習	古田・鳥越・安河内	後期	演習	選択	2	1年	207
助産学実習Ⅰ(外来ケア実習)	佐藤(香)・古田・鳥越・石村・吉田 静・ 小林・佐藤	前期	実習	選択	1	1年	208
助産学実習Ⅱ(周産期ケア実習)	佐藤(香)・鳥越・古田・石村・安河内・ 吉田 静・小林・佐藤	後期	実習	選択	8	1年	209
助産学実習Ⅲ(助産所実習・継続ケア実習)	佐藤(香)・古田・鳥越・石村・吉田 静・ 小林・佐藤	前期	実習	選択	2	2年	210
助産学実習Ⅳ(ハイリスクケア実習)	佐藤(香)・古田・鳥越・石村・吉田 静・ 小林・佐藤	前期	実習	選択	1	2年	211
助産学実習Ⅴ(マザークラス実習)	佐藤(香)・鳥越・石村・安河内・ 吉田 静・小林・佐藤(蘭)	後期	実習	選択	2	2年	212
助産実践アドバンス特論	佐藤(香)・古田・鳥越・石村	後期	講義	選択	1	1年	213
助産実践アドバンス実習	佐藤(香)・古田・鳥越・石村	前期	実習	選択	4	2年	214
助産学課題研究	佐藤(香)・鳥越・古田	通年	演習	選択	4	1～2年	215
助産学特別研究	佐藤(香)・鳥越・古田	通年	演習	選択	8	1～2年	216

授業科目名	看護理論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			前期	講義	必修	2	1年		
担当教員	永嶋由理子・瀧野由夏・加藤法子								
授業の概要	看護理論の成り立ちとその発展について、関連する近隣学問や理論を通して概観し理解を深めるとともに、実践科学の基盤となる看護の本質について学ぶ。また、看護における主要な理論を検討し、看護実践と理論の関連性について理解を深める。								
学生の到達目標									
知識・理解	DP1：専門的知識	<ul style="list-style-type: none"> ・理論とは何かを理解することができる。 ・看護理論の発展過程を他の諸理論との関連において理解することができる。 ・看護理論の特徴を理解することができる。 ・看護理論と看護実践の関連性について理解することができる。 							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	看護実践における看護理論適用の可能性について検討できる。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当					
1	ガイダンス・理論とは何か (理論の成り立ちと構造)	講義	適宜、事前学習課題とレポート課題を提示する。	永嶋					
2	看護理論とは何か (看護理論の変遷と関連学問との共通性)	講義・ディスカッション			瀧野 加藤				
3	看護理論の特徴と検討① (大理論・中範囲理論・小範囲理論の基本構造と分析)	講義・ディスカッション				永嶋 瀧野			
4	看護理論の特徴と検討② (オレム看護理論の特徴と実践活用の検討)	講義・ディスカッション							
5	看護理論の検討・考察① (基本概念：人間・環境)	講義・ディスカッション							
6	看護理論の検討・考察② (基本概念：健康・看護)	講義・ディスカッション							
7	看護理論の検討・考察③ (理論抄読1：ナイチンゲール理論分析と実践への有効性)	プレゼンテーション・ ディスカッション							
8	看護理論の検討・考察④ (理論抄読2：ヘンダーソン理論分析と実践への有効性)	プレゼンテーション・ ディスカッション							
9	看護理論の検討・考察⑤ (理論抄読3：ロイ理論分析と実践への有効性)	プレゼンテーション・ ディスカッション							
10	看護理論の検討・考察⑥ (理論抄読4：ペプロウ理論分析と実践への有効性)	プレゼンテーション・ ディスカッション							
11	看護理論の検討・考察⑦ (理論抄読5：マーガレット・ニューマン理論分析と実践への有効性)	プレゼンテーション・ ディスカッション							
12	看護理論の検討・考察⑧ (理論抄読6：ベナー／ワトソン理論分析と実践への有効性)	プレゼンテーション・ ディスカッション							
13	看護理論と看護実践の連関① (受け持ち事例と理論適用)	プレゼンテーション・ ディスカッション							
14	看護理論と看護実践の連関② (受け持ち事例と理論適用)	プレゼンテーション・ ディスカッション							
15	看護理論と看護実践の連関③ (受け持ち事例と理論適用)	プレゼンテーション・ ディスカッション							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）			
宿題・授業外レポート		◎	◎			40			
授業態度・授業への参加度		◎	◎			20			
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			40			
テキスト・参考文献等	<p><参考文献> 1. 都留伸子 訳：看護理論家とその業績 第3版、医学書院、2004年、6,912円 2. 筒井真由美 編集：看護理論、南江堂、2008年、2,376円 必要時、資料を配布する。</p>								
履修条件	特になし。								
学習相談・助言体制	オフィスアワー、メールにより受け付け、時間を指定し回答する。								

授業科目名	看護倫理		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	1年
担当教員	小西恵美子						
授業の概要	看護倫理の歴史的発展、今日の医療における看護職者の倫理的責任、看護倫理アプローチとしての「原則の倫理」と「徳の倫理」、看護専門職組織の社会的役割及び日本の文化の中での倫理的問題解決について探求する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	看護倫理の基礎的知識を理解する。 看護倫理のアプローチについて理解する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	臨床現場で遭遇する倫理的問題や葛藤について分析する。					
	DP3：表現力	西洋と日本における倫理について自分の意見を述べる。 文献をとおして看護の倫理を考え、意見を述べる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	高度実践看護師としての倫理的判断を行い、判断に基づいた態度をとれる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習（学習課題）		担当	
1	倫理の基礎：価値、文化、規範、法律と倫理		講義、Discussion	日常の中の規範や教を列挙しておく。		小西	
2	看護倫理の歴史の変遷		講義、Discussion、Presentation	上記：その規範や教えが自分にどう影響しているかを1枚に記す。			
3	看護倫理のアプローチ		講義、Discussion、Presentation	臨床で経験した嘘の例と、それについて思うことを1枚に記す。			
4	看護師の責任、倫理的ジレンマ		講義、Discussion、Presentation	上記：嘘はどのような要素で成り立っているかを1枚に記す。			
5	道徳的発達とケアの倫理		講義、Discussion	インフォームドコンセントと日本の文化についてまとめる。			
6	西洋の倫理と日本の倫理		講義、Discussion	日本の看護師の行動の中の日本の倫理について1枚に記す。			
7	責務と責任：終末期ケアにおける倫理的ジレンマの調整		講義、Discussion	代理意思決定に関する文献を読み、終末期ケアにおける倫理調整の在り方について1枚に記す。			
8	研究の倫理 臨床の倫理との違い		講義、Discussion	研究における倫理的問題とその改善点をまとめる。			

9	看護専門職組織の倫理的役割、ICN 及び日本の倫理綱領の Critique	講義、Discussion、Presentation	日本の看護倫理について思うことを1枚に記す。	小西
10	日本における看護倫理：実践、教育、政策	講義、Discussion	左記のいずれかの視点で、日本の看護倫理の現状と課題を文献の Critique を通して1枚に記す。	
11	看護師の徳と日本の伝統的倫理	講義、Discussion、Presentation	臨床で出会った「よい看護師」について、なぜよいと思ったかとともに記す。	
12	よい看護師、よくない看護師	講義、Discussion、Presentation	今回の授業の感想を1枚に記す。	
13	倫理的意思決定のステップ	講義、Discussion、Presentation	経験したり感じた倫理的問題を1例記述しておく。	
14	倫理的意思決定のステップを用いた分析	事例検討	上記：なぜそれが問題と思うのかを1枚に記す。	
15	看護倫理の諸概念：アドボカシー、「和」、思いやり等を用いた解決方法の提案	講義、事例検討	上記：どうすればよいと思うかを1枚に記す。 この授業についての全体的な Critique を1枚に記す。	

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)
宿題・授業外レポート		◎	◎			40
授業態度・授業への参加度			◎	◎		30
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		30

テキスト・参考文献等	<p>小西恵美子編. (2014). 看護倫理 (改正第2版) -よい看護・よい看護師への道しるべ、南光堂。</p> <p>Anne J. Davis, Verena Tschudin, Louise de Raevé 編. (2008). 看護倫理を教える・学ぶ：倫理教育の視点と方法 (小西恵美子監訳). 東京：日本看護協会出版会。</p> <p>サラ T. フライ, メガン・ジェーン・ジョンストン. (2010). 看護実践の倫理第3版. 東京：日本看護協会出版会。</p> <p>厚生労働省. (2007). 終末期医療の意思決定プロセスに関するガイドライン http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/05/dl/s0521-11a.pdf その他、代理意思決定支援に関する最新の看護研究を適宜紹介する。</p>
履修条件	看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。
学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室へはメール又は電話で予約をとっておいください。急を要する場合は、この限りではありません。

授業科目名	看護研究法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	1年
担当教員	佐藤香代・松浦賢長・尾形由起子・四戸智昭						
授業の概要	看護における研究の意義と特徴を理解し、研究における理論・概念枠組みの重要性と研究プロセス、研究デザインと方法、研究倫理を学ぶ。世界基準における学問の見取り図を頭にいれ、近代学問（科学）における研究という取り組みの意義を学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	看護における研究の意義と研究における知識を有している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	看護現象を科学的にとらえ、看護実践の課題を専門的に述べるができる。					
	DP3：表現力	専門性のある学術的手法を用い、自分の考えを適切に表現できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	看護学の発展と科学的アプローチ：研究	講義	事前学習：テキスト① 事後学習：レポート	佐藤			
2	研究における理論と概念枠組み	講義	事前学習：テキスト①	佐藤			
3	研究テーマの発見 研究倫理	講義	事前学習：テキスト①	佐藤			
4	文献検索と文献検討 研究のクリティーク	講義・演習	事前学習：テキスト①	佐藤			
5	研究デザインと方法	講義	事前学習：テキスト①	佐藤			
6	量的研究（1）：データ収集・データ分析の方法	講義		松浦			
7	量的研究（2）：研究事例の検討	講義		松浦			
8	さまざまな測定尺度の概要	講義	事前学習：参考書①	四戸			
9	測定尺度開発に求められるもの	講義	自らの研究テーマに関連する尺度について調査のこと	四戸			
10	フォーカスインタビュー法の実際と分析方法	講義及びグループ ディスカッション	グループインタビューに関する文献を読んでくる。テキスト②	尾形			
11	地域における健康教育の評価方法	講義及びグループ ディスカッション		尾形			
12	研究計画書作成の方法	講義	事前学習：テキスト②研究計画をまとめ、プレゼンに備える	佐藤			
13	世界基準における学問の見取り図	講義		松浦			
14	近代学問（科学）における研究とは何か	講義		松浦			
15	研究計画の発表	プレゼンテーション ディスカッション		佐藤 松浦 尾形 四戸			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			50	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			40	
補足事項	欠席、遅刻は減点する。						
テキスト・参考文献等	[テキスト] 佐藤 ① D.F. ポーリット & C.T. ベック（近藤潤子監訳）：看護研究、原理と方法（第2版）、2010 尾形 ② ホロウェイ、ウィーラー（野口美和子訳）：ナースのための質的研究入門（第2版）、医学書院、2006 [参考文献] 随時、講義中に紹介する ① 心理測定尺度集Ⅰ～Ⅳ、サイエンス社						
履修条件	自らの研究テーマに必要な測定尺度を学ぶため、研究テーマをしっかりと説明できるようにしておくこと（四戸）						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに質問を受ける。メールによる相談は随時可。						

授業科目名	コンサルテーション論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	宇佐美しおり・岩切真砂子・安藤光子・廣瀬理絵・安永浩子						
授業の概要	看護実践の実践的な問題を解決するために、コンサルテーションの概念、タイプ、プロセス、役割、及び特徴について学ぶ。さらに、コンサルテーションの実際についても学び、相談者に対して適切な援助ができることを目指す。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	高度専門職業人に必要なコンサルテーションの概念、モデル、タイプ、展開の方法について理解できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	専門的知識を使って、コンサルテーションが実際に展開できるようになる。					
	DP3：表現力						
関心・意欲・態度	DP4：探求力						
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	CNSの役割と機能	講義	専門看護師の現状と課題について把握しておく	宇佐美			
2	コンサルテーションの概念およびコンサルテーションのタイプ	講義	文献学習を行っておく	岩切			
3	コンサルテーションの実践モデル	講義	同上	岩切			
4	コンサルテーションのプロセス	講義	同上	岩切			
5	コンサルタントの役割	講義	同上	岩切			
6	課題適合型コンサルテーション	講義と討議	これまでの実践事例を思い起こして持ってくる	廣瀬			
7	プロセス適応型コンサルテーション	講義と討議	同上	安永			
8	管理者中心のコンサルテーション	講義と討議	同上	安藤			
9	グループコンサルテーション	講義と討議	同上	安藤			
10	組織へのコンサルテーション	講義と討議	同上	安藤			
11	コンサルテーションの実際：事例検討	発表と討議	同上	廣瀬			
12	コンサルテーションの実際：事例検討	発表と討議	同上	廣瀬			
13	コンサルテーションの実際：事例検討	発表と討議	同上	廣瀬			
14	コンサルテーションの実際：事例検討	発表と討議	同上	宇佐美			
15	コンサルテーションの実際：まとめ	講義と討議	同上	宇佐美			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			40	
授業態度・授業への参加度			◎	◎		30	
演習			◎	◎		30	
テキスト・参考文献等	1. G. Lippitt. (1986) : The Consulting Process in Action, Second Edition, Pfeiffer. 2. Hamric, A.B., Spross, J.A. (2000) : Advanced Nursing Practice, An Integrative Approach, Second Edition.						
履 修 条 件	概念と演習を両方実施するため、欠席、遅刻をしないこと。						
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問や相談は、メールでも受け付け、オフィスアワーで回答します。						

授業科目名	看護教育学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	石田 智恵美						
授業の概要	看護職者のケアの向上のために求められる専門家像、患者および看護職者への効果的な教育的関わりについて理解する。さらに、看護継続教育が実現できるための知識・技術を修得する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	教育学、看護教育学の考え方を理解し、教育のあり方を考察できる。					
	DP3：表現力	教育方法の理論と技法を学び、看護教育者としての自己の課題を明確にする。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	看護の専門家像について学び、看護専門職者としてのあり方を考察する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	コースオリエンテーション		講義・討議				
2	教育と教育学 看護と看護学 看護教育と看護教育学		講義・討議				
3	教育課程		講義・討議				
4	学習理論と学習方法		講義・討議				
5	授業形態と教授方略		講義・討議				
6	教育評価		講義・討議				
7	看護教育のあり方 まとめ		発表・討議		2～6回の授業内容を踏まえて自己の考えをまとめるレポート①		
8	The Reflective Practitioner 「専門家の知恵」を読む i		発表・討議				
9	The Reflective Practitioner 「専門家の知恵」を読む ii		発表・討議				
10	The Reflective Practitioner 「専門家の知恵」を読む iii		発表・討議				
11	The Reflective Practitioner 「専門家の知恵」を読む iv		発表・討議				
12	The Reflective Practitioner 「専門家の知恵」を読む v		発表・討議				
13	看護専門家のありかた まとめ		討議				
14	現任教育の考え方と実際		討議				
15	健康教育の考え方と実際		討議		看護教育者としての自己の課題 レポート②		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度				○		20	
受講者の発表（プレゼン）				○		30	
その他 ※課題レポート ① ②			◎			50	
テキスト・参考文献等	①ドナルド・ショーン著；佐藤学・秋田喜代美訳（2001）：専門家の知恵、ゆみる出版。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	面談、E-mailなどで随時対応する emishida@fukuoka-pu.ac.jp						

授業科目名	英語文献講読特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	小池 祐子		前期	講義	選択	2
授業の概要	この科目では履修生の専門分野から選んだ英語論文を読みます。この科目の目的は2つあります。第1に、英語論文を大量に読みながら、論文の構成に慣れる、論文全体の趣旨を把握する、ある特定の情報を読み取る、推測をするなどの、読む上での技術の向上を目指します。第2に、論文を批判的に読み、それがそれぞれの研究分野にどのように貢献しているか、未解決の問題は何かなどを考え、今後の履修生の研究に結びつけます。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	辞書を使って専門分野における英語文献を読めるようになる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	英語文献を読んで探求すべき問題点を積極的に見つける態度が見られる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
履修生の専門分野、研究テーマを参考にして講読する論文を決定します。履修生は講読する論文を図書室にて検索・特定し、ハードコピー一部を教員まで持参してください。教員はそれを教材化し、予習のためのワークシートを作成します。授業はこのワークシートの解答について話し合ったり、論文に記されている研究について考えを述べ合う形で進めます。なお、一編の論文を二回の授業で講読します。加えて、学期の半ばと最後に、論文をクリティカルに論評した書き物の提出を課す予定です。							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎		◎		30	
宿題・授業外レポート		◎		◎		20	
授業態度・授業への参加度		◎		◎		50	
テキスト・参考文献等	無し（複写資料を事前に配布します）。						
履修条件	無し。						
学習相談・助言体制	メール、電話、もしくは、授業の前後に連絡してください。						

授業科目名	看護政策論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	講義	選択	2	1年
担当教員	滝 麻衣・尾形由起子・小出昭太郎・山下清香						
授業の概要	保健医療福祉政策の基本的な枠組み、政策決定過程、看護政策の歴史についての基本的な知識を修得し、日本の看護の現状と問題点、今後の看護政策の方向性について考え、現状の変革に必要な看護政策提言のプロセスと具体化の方法について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	保健医療福祉政策の基本的な枠組みを理解し、説明できる。 保健医療福祉政策提言のプロセスとパワーダイナミクスについて理解し、説明できる。 大まかな看護政策の歴史について理解し、説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	日本の看護の現状と問題点について、これまでの臨床での自分達の経験、現在の保健・医療・福祉政策、国内・外の社会の動きから考え、抽出する。					
	DP3：表現力	抽出した問題や課題に関する制度、政策、法律や法令を調べ、どこをどのように変えれば現状を変えることができるかを説明できる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	現状を変えるための方策を具体化する方法を考え、企画する。					
	DP5：社会貢献力	企画したことを全員で共有し、より実現可能性が高い企画に精錬する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	現状と歴史、日本と他国－医療政策に焦点を当てて（1）	講義	事前学習 WHO、厚生労働省のホームページ、職場での現状などから、学生自身が医療政策として必要性を感じるテーマ、その根拠となるデータを収集する。 事後学習 データを分析して政策提言の課題を考え、企画に必要なデータを揃えて持参する。	小出			
2	現状と歴史、日本と他国－医療政策に焦点を当てて（2）	講義		小出			
3	日本の保健医療福祉制度の体系	講義		滝			
4	保健医療福祉制度決定のプロセスとパワーダイナミクス	講義		滝			
5	日本の保健医療福祉政策の重点課題	講義		滝			
6	日本の看護政策の重点課題	講義		滝			
7	政策提言の基本的なプロセス	講義		滝			
8	看護政策企画立案の基本的な考え方	講義		尾形			
9	看護政策企画立案の実際	講義		尾形			
10	看護政策の企画書の立案	討議		尾形			
11～15	看護政策の企画書の発表まとめ	発表 講義 討議	事前学習 発表準備をしてくる。 事後学習 発表時に出た意見や助言を受けて企画書を修正し、提出する。	尾形			

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート		◎	◎			40
授業態度・授業への参加度			◎	◎		30
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		30
補足事項	授業への参加状況とプレゼンテーションの内容、レポートで評価する。					
テキスト・参考文献等	<p>東京大学医療政策人材養成講座編。（2009）。「医療政策」入門：医療を動かすための13講。医学書院。（2,520円）</p> <p>岩淵豊。（2013）。日本の医療政策：立ちと仕組みを学ぶ。東京：中央法規出版。</p> <p>見藤隆子編。（2007）。看護職者のための政策過程入門：制度を変えると看護が変わる！。東京：日本看護協会出版会。（1,890円）</p> <p>日本看護協会。（2010）。日本看護協会の政策提言活動。東京：日本看護協会出版会。（2,100円）</p> <p>日本学術会議健康・生活科学委員会 看護学分科会。（2011）。高度実践看護師制度の確立に向けて：グローバルスタンダードからの提言。 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t135-2.pdf</p> <p>南裕子，他，日本学術会議健康・生活科学委員会 看護学分科会。（2008）。看護職の役割拡大が安全と安心の医療を支える。 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-20-t62-14.pdf</p> <p>日本学術会議基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会。（2011）。わが国の健康の社会格差の現状理解とその改善に向け http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t133-7.pdf</p> <p>近藤克則。（2012）。「医療クライシス」を超えて：イギリスと日本の医療・介護のゆくえ。東京：医学書院。（2,940円）</p> <p>久常節子。（2004）。看護職のもてる力を高めるために：おそれず、ひるまず、あきらめず。日本看護管理学会誌。7(2)，6-9。</p>					
履修条件	看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。					
学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室へはメール又は電話で予約をとっておいください。急を要する場合は、この限りではありません。					

授業科目名	Advanced 生理学・病態生理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	田中美智子・江上千代美	前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	看護実践に生かしていくために、生体が安定した状態をどのようなメカニズムで維持しているかについて学ぶ。また、安定した状態から逸脱した場合に生じる症状をもとに、病態生理について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	病態生理に関する知識について説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	正常な安定した状態から障害が生じるしくみを具体的に述べることができる。					
	DP3：表現力						
関心・意欲・態度	DP4：挑戦力	自ら選んだ項目について主体的に調べることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	オリエンテーション:ホメオスタシスとは、症状が起こるしくみ（病態生理とは）	演習の進め方・講義・ミニテスト	講義中に配布したマニュアルで事後学習を行う。				
2	外部からの刺激が加わった状態でも、体内を安定させるために、どこが働いているか。ストレス（G.A.S.）について	講義・討論・ミニテスト	講義中に配布したマニュアルで事後学習を行う。及び事前課題をもとに講義				
3	内部環境（体液）・体液の働きと障害（脱水・むくみなど）	〃	〃				
4	血糖コントロールと障害（高血糖・低血糖）	〃	〃				
5	酸塩基平衡とその障害（アシドーシス・アルカローシス）	〃	〃				
6	換気・ガス交換とその障害（低酸素及び高炭酸ガス）	〃	〃				
7	呼吸調節とその障害（呼吸困難）	〃	〃				
8	消化吸収とその障害（下痢・便秘など）	〃	〃				
9	循環反応とその障害①（高血圧など）	〃	〃				
10	循環反応とその障害②（ショック・チアノーゼなど）	〃	〃				
11	血液とその障害（貧血・出血傾向）	〃	〃				
12	体温調節とその障害（発熱など）	〃	〃				
13	中枢神経系とその障害（けいれん・意識障害・頭痛など）	〃	〃				
14	運動器系とその障害（麻痺・疼痛）	〃	〃				
15	排泄系とその障害（排尿異常・多尿・無尿・尿閉など）	〃	〃				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎	○		40	
宿題・授業外レポート		○	○	○		30	
授業態度・授業への参加度				○		15	
受講者の発表（プレゼン）		○	○	○		15	
補足事項	ミニテスト						
テキスト・参考文献等	参考図書:Cannon,W.B.(1932).からだの知恵. 館鄰,館澄江訳(1992). 講談社. Physiology for Nursing Practice. S.M.Hinchliff, S.E.Montague, R.Watson. (1996) Bailliere Tindall. 新看護生理学テキスト. 深井喜代子監修(2008) 南江堂. 学生のための疾病論. 人間が病気になるということ. 井上泰. 医学書院. 標準病理学(第4版) 坂本穆彦他編 医学書院. 病態生理学 疾患への理解を深める 副島昭典,小池秀海 東京医学社. チャートで学ぶ病態生理学第2版 川上義和 中外医学社.						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	メールにて受け付ける。						

授業科目名	Advanced フィジカルアセスメント		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	永嶋由理子・瀧野由夏・本田宜久・飛野和則・山田 明・名取良弘・倉員健一・吉川英里・渡邊智子	後期	講義	選択 (38単位の専門 看護師コースの 学生は必修)	2	1年
授業の概要	複雑な健康問題をもった対象の身体・精神状況を診査し、臨床看護判断を行うために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	臨床看護判断を行うためのフィジカルアセスメントの必要性を説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	健康問題と看護介入の方法に優先順位をつけることができる。 臨床推論を働かせながら、フィジカルアセスメントができる。 現在の症状、身体所見の正常・異常について鑑別でき、説明できる。					
技能	DP6：実践力	フィジカルアセスメントの基本的な技術ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	フィジカルアセスメント総論・ フィジカルアセスメントに共通する技術	講義	事例課題提示	永嶋			
2～3	消化器のフィジカルアセスメント	臨床講義 演習	事例課題提示	本田			
4～5	呼吸器のフィジカルアセスメント	臨床講義 演習	事例課題提示	飛野			
6～7	循環器のフィジカルアセスメント	臨床講義 演習	事例課題提示	山田			
8～9	脳神経のフィジカルアセスメント	臨床講義 演習	事例課題提示	名取			
10	感覚器のフィジカルアセスメント	臨床講義 演習	事例課題提示	倉員			
11	腎泌尿器系のフィジカルアセスメント	講義 演習	事例課題提示	永嶋			
12	運動器のフィジカルアセスメント	講義 演習	事例課題提示	瀧野			
13～14	事例を用いた臨床看護判断を行うためのフィジカルアセスメントの実際	臨床講義 演習	事例課題提示	吉川			
15	臨床看護判断を行うためのフィジカルアセスメント	プレゼンテーション・討 議・講義	フィジカルアセスメント1 事例（事前課題）、臨床看護 判断を行うためのフィジカル アセスメントレポート （事後課題）	永嶋 渡邊 瀧野			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎				30	
授業態度・授業への参加度		◎				20	
演習			◎		◎	50	
補足事項	授業への2/3以上の出席でレポート提出の権利が生じる。						
テキスト・参考文献等	適宜、紹介する。						
履 修 条 件	看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。						
学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室へはメール又は電話で予約をとっておいください。急を要する場合は、この限りではありません。						

授業科目名	Advanced 臨床薬理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員		通年	講義	選択	2	1～2年
授業の概要	薬理学の基本的事項が「何故そうなるのか」、「何故そうするのか」について物理学、化学、人体構造学、生理学、生化学、分子生物学、病態学などの諸知識を統合することで導き出す。この統合作業を基に、薬物と生体の相互作用や薬物の作用機序を考えながら、薬剤使用の判断について、医師・薬剤師と共に検討できる能力を養う。また、薬剤使用中の患者のモニタリング、回復力の促進の為の知識と看護技術を習得する。さらに患者の生活調整、服薬管理能力の向上を図るために多職種と協働しながら計画立案できる能力を養う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	薬理・薬剤に関する基本的な知識に加え、作用機序や適応などについて最新の知見を用いて説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	薬剤の作用機序などを踏まえ、有害事象の発現や予期すべき症状に関して説明できる。					
	DP3：表現力	薬物療法に関して、処方理由と服薬の必要性、服薬方法、副作用に関する説明を対象者にあわせて、説明できる力を身につける。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	薬剤使用による日常生活への影響をアセスメントし、看護の留意点について検討することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	臨床薬理学に関する基本的考え方 対象者の特性に応じた薬物療法 (妊婦・小児・高齢者)	講義	事後学習：事例検討	笹栗			
2	薬物の動態と作用・副作用・相乗効果	講義	事後学習：課題を提示する	笹栗			
3	薬物有害反応：薬の安全性と問題点 薬と薬、薬と食品の相互作用	講義	事後学習：課題を提示する	笹栗			
4	緊急応急処置に用いられる薬剤と使用方法 (循環改善に使用される薬剤、ステロイド剤、血液製剤など)	講義	事後学習：課題を提示する	吉原			
5	疼痛緩和を目的として用いられる薬剤と使用方法 (がん性疼痛、頭痛など)	講義	事後学習：課題を提示する	吉原			
6	精神の安定をはかることを目的として用いられる薬剤と使用方法 (向精神薬など)	講義	事後学習：課題を提示する	吉原			
7	循環器系疾患に用いられる薬剤と使用方法 (不整脈、心不全、心筋梗塞など)	講義	事後学習：課題を提示する	笹栗			
8	内分泌系疾患に対して用いられる薬剤と使用方法 (糖尿病、痛風など)	講義	事後学習：課題を提示する	笹栗			
9	中枢神経系疾患に用いられる薬剤と使用方法 (脳梗塞、てんかん、パーキンソン病など)	講義	事後学習：課題を提示する	笹栗			
10	感染症・呼吸器系疾患に用いられる薬剤と使用方法 (抗菌薬、気管支喘息など)	講義	事後学習：課題を提示する	高橋			
11	消化器系疾患に対して用いられる薬剤と使用方法 (消化性潰瘍、過敏性腸症候群など)	講義	事後学習：課題を提示する	高橋			
12	腫瘍の臨床における薬剤と使用方法 (化学療法など)	講義	事後学習：課題を提示する	高橋			
13	漢方薬の効果と問題点	講義	事後学習：課題を提示する	城戸			
14	薬物治療による日常生活（排泄、睡眠など）への影響	講義	事後学習：課題を提示する	城戸			
15	講義内容の看護への活用・展開についての討議	事例検討	事後学習：課題を提示	村田			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		60	
その他 事前・事後課題		◎	◎	◎		40	
補足事項	事前事後課題は村田から提示あり。						
テキスト・参考文献等	適宜、紹介する。						
履 修 条 件	看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。						
学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じる。原則として研究室へはメール又は電話で予約をとって。						

授業科目名	看護管理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	田中洋子	後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	看護管理学の基盤となる諸理論をふまえ、科学的見地から看護の提供者（護管理者、専門看護師等を含む）としての看護の提供・調整に必要なマネジメント上の知識と技術を学修する。既習および学修した知識を活かし、昨今の課題である「看護業務の拡大とその責任」「看護業務上の患者安全」にいかに対処すべきか討議する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	看護管理を深めるために隣接する経営及び管理の諸理論の知識を有している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	看護専門職として看護管理の概念から事象をとらえ問題を明らかにすることができる。					
	DP3：表現力						
関心・意欲・態度	DP4：探求力	保健福祉医療の現状をふまえ、看護の新たな提供のあり方、拡大する看護の責任について関心を寄せ考察することができる。					
技能	DP6：実践力	看護の専門性を活かし多職種と連携しながら対象者への看護ケアを調整できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）			
1	看護および看護管理の定義	講義	ディスカッション	自己の課題を発表			
2	医療行政と看護	講義					
3	看護のマネジメント	講義					
4	看護のマネジメント	講義					
5	看護組織	講義					
6	看護組織	講義					
7	患者安全	講義					
8	患者安全	ディスカッション					
9	看護業務、新たな看護業務の考え方	ディスカッション					
10	専門看護師に求められる看護水準	ディスカッション					
11	課題検討	プレゼンテーション					
12	課題検討	プレゼンテーション					
13	課題検討	プレゼンテーション					
14	課題検討	プレゼンテーション					
15	まとめ	ディスカッション					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート			◎			30	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
受講者の発表（プレゼンテーション）		○	◎	◎	○	50	
テキスト・参考文献等	参考文献：看護管理学習テキスト1・2・3・別巻資料集：日本看護協会出版会						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	学生の発意で授業の展開を調整する。						

授業科目名	臨床心理学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	岩橋宗哉・村田節子						
授業の概要	この授業では、がん看護実践の充実を目指して、心理療法的な理解の仕方や関わり方についての理解を深めることを目標とする。この講義は2つの部分から構成されている。1つは、心理療法的なかかわりを体験的に学習するためのロールプレイ実習である。ここでは、スタッフ役や患者役を体験しながら、そのかかわりを学習する。2つめは、がん治療を専門とする内科医でがん患者への心理療法的アプローチを積極的に行っている岸本寛史氏のテキストを読み、がん治療における心理療法的アプローチについてディスカッションし理解を深めることである。このように実習やディスカッションを中心に進めるので、授業内容の順序や内容について、変更する場合がある。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	癌治療における心理療法的アプローチの意義を理解し、具体的ながん患者の看護や心理的援助について述べることができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	癌患者の心理的状态に目を向け、自らの体験を通して理解し、そこからどのような心理療法的な関わりが必要か理解し、それを述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	患者にとって必要な心理療法的な関わりが何かを主体的に発見し、それを述べるができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション						
2	心理療法の基本的姿勢		演習形式		事前にテキストを読んでおいてください。		
3	夢の体験－内的世界の理解－						
4～10	患者の体験に耳を傾けること		がん患者とのかかわりの看護場面を想定し、患者役、看護師役、観察者に分かれてロールプレイによる実習を行う。		実習部分については事後学習として、自分自身の体験を振り返り、その体験を記録しておいてください。その際、看護師役のみならず、患者役の体験も同様にしてください。		
11～14	がん患者への心理療法的アプローチの事例		事例を読み、ディスカッションすることを通して、がん看護のあり方を考える。		前もって、ディスカッションするテキストや事例を読んでおいてください。		
15	がん治療における心理療法のモデル		テキストを読み、ディスカッションすることを通して、がん看護への適用法を模索する。				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		50	
授業態度・授業への参加度			○	○		10	
受講者の発表（プレゼン）		○	○	○		10	
その他		◎	◎	◎		30	
補足事項		その他：ロールプレイ及びディスカッションを行う。					
テキスト・参考文献等	岸本寛史「癌と心理療法」 誠信書房 1999						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	質問はできるだけ授業時間中にしてください。授業以外ではメールで連絡してください。						

授業科目名	家族社会学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	四戸智昭						
授業の概要	<p>本講義では、わが国の家族が抱えている数々の問題について取り扱うものである。それらの問題とは、夫婦間の暴力である Domestic Violence (DV) や、親と子どもの中で起きる虐待問題、親離れしたいと願う子に多く見受けられる摂食障害、ひきこもりの問題など。こういった家族が抱えている問題を嗜癖 (アディクション) という視点から主に論ずる。</p> <p>なぜ、そのような諸問題が現代家族に発生するのかについて、単に家族内の依存問題 (共依存) だけでなく、家族がおかれた現代社会についても考察を深めることが本講義の目的である。また、家族問題という現象を通じて、学生一人ひとりが自らの研究課題に取り組むための糸口を発見することも本講義の大きな目的である。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	問題を抱えた家族について、アディクションシステムの視点から捉えることができるようになる。					
関心・意欲・態度	DP5：社会貢献力	問題を抱えた家族の課題について適切に捉え、援助職として支援する糸口を知る。					
授業計画 (授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習 (学習課題)		
1	オリエンテーション	講義			特になし		
2~3	アディクションシステムについて	講義・ディスカッション			授業時に示した課題に取り組む		
4~5	嗜癖行動と人間関係						
6~7	共依存システムについて						
8~9	「家族」とは何か・症状は何を意味するか						
10~11	家族療法の実際・「家族神話」にしばられる						
12~13	子は親の人生を引きずる・外傷体験を語る						
14~15	変化に挑戦する・エンパワメントの13ステップ						
成績評価方法および成績評価基準 (到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
授業態度・授業への参加度			○	○		40	
受講者の発表 (プレゼン)				◎		60	
テキスト・参考文献等	参考文献・教科書は授業時に紹介する。授業情報は、 http://www.family21.jp/ を参照されたい。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	メールによる質問を受け付ける。必要があれば、講義外での助言時間を設ける (要メール予約)。						

授業科目名	ヘルスプロモーション科学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	松浦賢長						
授業の概要	世界において Health Promotion という考え方が共有されるに至った経緯を学術的に把握し、Health Promotion という理念が掲げられたオタワ憲章の原文に書かれた西欧の健康観の変遷と今後の展望について探求していく。実践に展開できる題材として、Health Education と Health Promotion との親和性について考究する。特に健康教育の新しい考え方および学校保健に導入されつつある新しい考え方を Health Promotion の視点から理解する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	・健康とは何かについて議論できる学術的題材を把握する。 ・糖尿病健康教育などの実践における新しい考え方を理解する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	・世界基準の Health Promotion の本質をとらえ、同理念のわが国への再導入について考える。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	理念とは何か（西欧）		講義		テキスト1		
2	健康とは何か（西欧・日本）		講義		テキスト1		
3	Primary Health Care の考え		講義		テキスト1		
4	Health for All の考え		講義		テキスト1		
5	健康における公正		講義		テキスト1		
6	Health Promotion の本質 その1		講義		テキスト1		
7	Health Promotion の本質 その2		講義		テキスト1		
8	Health Promotion の本質 その3		講義		テキスト1		
9	わが国における健康課題		講義		テキスト2		
10	健康教育：生活習慣1		講義		テキスト2		
11	健康教育：生活習慣2		講義		テキスト2		
12	健康教育：行動変容		講義		テキスト2		
13	患者教育		講義		テキスト2		
14	健康教育：予防と治療		講義		テキスト2		
15	総合議論		講義		事前配付資料		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート			◎	◎			80
授業態度・授業への参加度			○	○			20
テキスト・参考文献等	適宜紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設定する。						

授業科目名	哲学的人間学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	重松 順二						
授業の概要	<p>当たり前だと漠然と考えていることを改めて問われるとき、その問いに戸惑いを感じることは無いだろうか。「人間とは何か」ということも、そうした問いの一つであろう。もちろんこの問いを深く考えないとしても日常生活には何ら支障はない。しかしながら看護の現場で人間と密に関わる者にとって、この問題は、一度は真剣に取り組むべき課題ではないだろうか。本講義では、近代哲学の思索を手がかりにしつつ「人間とは何か」という問題を徹底的に掘り下げてみたい。</p> <p>本講義では、一方的に講師が話すだけでなく、受講者が積極的に発言でき、楽しく議論できるように工夫します。だから、哲学に興味はあるが、講義に参加するには敷居が高いと感じている人でも、気軽に参加して欲しい。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	人間についての哲学的思索を学び、人はひとりで生きているものではなく、自分（私）と自分以外の人（他者）からなる共同体のなかでしか生きることができないものだと理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	「人間とは何か」という問いを自分の問題として引き受けて、他の人に説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	序論：哲学的人間学とは何か	講義・ディスカッション	適宜配布する資料をもとに授業を復習し、次回の授業前にそれを思い返してから授業に参加すること。				
2	現代における哲学的人間学の意味	講義・ディスカッション					
3	哲学的人間学と相対主義	講義・ディスカッション					
4	哲学的人間学と還元主義	講義・ディスカッション					
5	デカルトのコギト・エルゴ・スム	講義・ディスカッション					
6	コギトの問題性	講義・ディスカッション					
7	デカルトと心身問題	講義・ディスカッション					
8	心と身体の関係についての哲学的思索	講義・ディスカッション					
9	カント哲学における自己（私）	講義・ディスカッション					
10	デカルトのコギトとカントの自己（私）	講義・ディスカッション					
11	カントのコギト批判	講義・ディスカッション					
12	カントと心身問題	講義・ディスカッション					
13	行為する私	講義・ディスカッション					
14	人格とパーソン論	講義・ディスカッション					
15	全体のまとめ－「人間とは何か」－	講義・ディスカッション					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			100	
テキスト・参考文献等	テキストは特に指定しない。参考文献は次のものである。①デカルト『省察』（ちくま学芸文庫）②デカルト『方法序説』（岩波文庫）③カント『純粹理性批判』（講談社学術文庫）④カント『実践理性批判』（岩波文庫）						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業後に受け付ける。またメールでも受け付ける。						

授業科目名	データ解析特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	1年
担当教員	小出 昭太郎						
授業の概要	統計的分析総論、2変量の分析と群間比較および多変量解析についての講義と、統計的分析の実践演習を行う。演習では、本授業の担当教員が用意するデータを用いて、各人が分析計画作成と分析を行う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	1. 多変量解析を含む統計的分析を計画し実行するための知識を理解し身につける。 2. 多変量解析を含む統計的分析を用いた研究論文を正確に読むための知識を理解し身につける。					
技能	DP6：実践力	3. 多変量解析を含む統計的分析を実行するための技能を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	統計的分析の概要		講義		配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。演習の提出物の作成は、授業時間内に終了しなかった場合は事後課題とする。その他、必要に応じて授業時に指示する。		
2	統計的推測		講義				
3	クロス集計		講義				
4	相関係数		講義				
5	検定における誤りと検出力		講義				
6	統計的推測における留意点		講義				
7	2変量の分析		演習				
8	単回帰、偏相関、偏回帰		講義				
9	重回帰分析		講義				
10	ロジスティック回帰分析、分散分析		講義				
11	統計的分析と影響－被影響関係、測定の適切さ		講義				
12	因子分析		講義				
13~15	多変量解析		演習				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
演習			◎			◎	100
テキスト・参考文献等	授業時に紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	随時、対応する。						

授業科目名	データ解析演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	増 満 誠						
授業の概要	統計学の基礎から多変量解析に至る領域を、コンピュータによる解析演習とともに学び、データ解析を自ら選択し実施するための能力を身につけることを目的とする。また、質的なデータ分析についても演習を通してその概略を知り身につけることを目的とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	問題や課題を探求するために必要なデータ解析の方法を身につけることができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	看護上の現象や諸問題について、データ解析を通して論理的に筋道を立てて考えることができる。					
	DP3：表現力	多様なデータを用いて論点となる議論について自己の意見を述べることができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	あらゆるデータの中から問題の本質や論点の提示に必要なものを探求することができる。					
技能	DP6：実践力	量的、質的なデータ解析方法を自己の課題に活かすことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1～2	授業概論		講義		レディネス調査		
3～4	確率分布：確率と統計の基本		講義・演習				
5～6	推定と検定（F検定、カイ二乗検定）		講義・演習				
7～8	推定と検定（t検定、一元配置分散分析）		講義・演習				
9～10	推定と検定（ノンパラメトリック検定）		講義・演習				
11～12	データ処理の基本（Excelの使い方）		講義・演習				
13～14	データ処理の実際		講義・演習				
15～16	多変量解析の考え方		講義・演習				
17～18	多変量解析（重回帰分析）		講義・演習				
19～20	多変量解析（因子分析）		講義・演習				
21～22	多変量解析		講義・演習				
23～24	データを活用したプレゼンテーション方法Ⅰ		講義・演習		プレゼンテーション課題		
25～26	データを活用したプレゼンテーション方法Ⅱ		演習				
27～28	質的分析方法		講義・演習				
29～30	質的分析方法（テキスト・マイニング法）		講義・演習				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○	◎	○		15	
授業態度・授業への参加度		○	○	◎	○	30	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎	○	◎	20	
演習		○	○	○	◎	35	
テキスト・参考文献等	授業開始時、受講者のレディネス、授業進度に応じて指定する。						
履 修 条 件	前期でデータ解析特論を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	受講者のレディネス、理解度、到達目標に合わせ集団又は個別にPCを用いて演習を進めていきます。相談がある場合は、授業終了直後かメールでの対応、または直接研究室を訪ねてください。						

授業科目名	ウイメンズヘルスト論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	1	1年
担当教員	佐藤香代・石村美由紀・吉田 静						
授業の概要	1. ウイメンズヘルスの概念および女性の健康支援の基本理論を理解する。 2. ウイメンズヘルスの概念および女性の健康支援理論に基づき、対象の理解を深め、女性のライフサイクルを通じた健康支援のあり方を考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	ウイメンズヘルスの概念および女性の健康支援の基本理論を理解している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	ウイメンズヘルスの概念および女性の健康支援理論に基づき、女性のライフサイクルを通じた健康支援のあり方を考察することができる。					
	DP3：表現力	対象を理解し、適した健康支援のあり方を述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	女性のライフサイクルを通じた健康支援を主体的に探究することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	ウイメンズヘルスの概念 女性の健康と歴史	講義	レポート	佐藤			
2	女性のライフサイクルと健康 女性の健康とヘルスプロモーション 女性の健康とリプロダクティブヘルス/ライツ	講義	レポート	佐藤			
3	女性の健康とセクシュアリティ 出産 STD 性暴力	講義	レポート	佐藤			
4	女性の健康と基本理論 コントロール・エンパワーメント・危機理論・フェミニスト アプローチ・意思決定理論	講義	レポート	佐藤			
5	女性の健康とメンタルヘルス	講義	レポート	吉田			
6	女性の健康と倫理	講義	レポート	石村			
7	女性の健康と環境	講義	レポート	佐藤			
8	女性の健康と政策	講義	レポート	佐藤			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			80	
小テスト・授業内レポート		○	◎			10	
授業態度・授業への参加度		○		◎		10	
テキスト・参考文献等	[テキスト] 村本淳子他「ウイメンズヘルスナーシング概論」、ヌーヴェルヒロカワ、2014						
履 修 条 件	なし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに、個別に質問に回答する。						

授業科目名	ウイメンズヘルス演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	1年
担当教員	佐藤香代・石村美由紀・吉田 静・佐藤繭子						
授業の概要	ウイメンズヘルス特論で学んだ概念・理論をもとに、ライフステージ各期の女性の健康ケアニーズと課題を見出すことで、実効的な健康支援ケアモデルを検討し、支援の実際を探究する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	ウイメンズヘルス特論で学んだ概念・理論をもとに、ライフステージ各期の女性の健康ケアニーズと課題を見出すことができる。					
	DP3：表現力	ウイメンズヘルス特論で学んだ概念・理論をもとに、ライフステージ各期の女性の健康ケアニーズと課題を述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	実効的な健康支援ケアモデルを検討し、支援の実際を探究することができる。					
技能	DP6：実践力	ライフステージ各期の女性への支援の実践力を身につけることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	オリエンテーション 特定のライフステージ、ヘルスケアニーズを持つ女性のケアモデルの検討 実践モデルの構造化と妥当性の検証	講義		佐藤香			
2	小児期女性の健康のアセスメントとケア	演習		佐藤繭			
3	思春期女性の健康のアセスメントとケア	演習	レポート	佐藤香 佐藤繭			
4	成熟期女性の健康のアセスメントとケア	演習	レポート	佐藤香 石村 吉田			
5	不妊女性の健康のアセスメントとケア	演習	レポート	石村			
6	更年期女性の健康のアセスメントとケア	演習	レポート	佐藤香			
7	老年期女性の健康のアセスメントとケア	演習	レポート	佐藤香			
8	喪失経験を持つ女性の健康のアセスメントとケア	演習	レポート	吉田			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
レポート			◎	○		30	
授業態度・授業への参加度			○	◎	○	40	
演習			○	○	◎	30	
テキスト・参考文献等	[テキスト] 村本淳子他「ウイメンズヘルスナーシング概論」、ヌーヴェルヒロカワ、2014						
履 修 条 件	ウイメンズヘルス特論を選択していること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに、個別に質問に回答する。						

授業科目名	看護教育学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	石田 智恵美						
授業の概要	看護教育の方法論が、指導型から学習援助型へとパラダイムシフトしてきた歴史的背景について学習する。さらに学習援助型の教育について、自己効力理論、エンパワメントモデル、ケアリングの理論と具体的な方法論について学習する。又、教育学者であるJ. デューイの哲学的思想を中心に発展させた経験型実習教育の方法論について学習し、実習教育の方法論としての妥当性について検討を行い、看護教育のあり方について考察する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	教育と看護教育との関係性について多角的な視点で考察できる。					
	DP3：表現力	看護教育に関する自己の考えを説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	自己の看護教育観を明らかにすることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	コースオリエンテーション		講義・自己紹介				
2	看護教育における「知識の構造化」		講義・討議				
3	タスクマネジメント		講義				
4	看護教育と自己効力理論		講義・討議				
5	看護教育とエンパワメント		講義・討議				
6	ケアリングとは メイヤロフ ノディングス		講義・討議				
7	ケアリングカリキュラム 1	－行動主義モデルの限界－	発表・討議		該当箇所を読んでくる。		
8	ケアリングカリキュラム 2	－カリキュラム開発の新しいパラダイム－	発表・討議		該当箇所を読んでくる。		
9	ケアリングカリキュラム 3	－transformative thinking－	発表・討議		該当箇所を読んでくる。		
10	ケアリングカリキュラム 4	－教育カリキュラムの理論モデル	発表・討議		該当箇所を読んでくる。		
11	ケアリングカリキュラム 5	－意思決定－	発表・討議		該当箇所を読んでくる。		
12	ケアリングカリキュラム 6	－教授と学習－	発表・討議		該当箇所を読んでくる。		
13	ケアリングカリキュラム 7	－解釈的批評のモデル－	発表・討議		該当箇所を読んでくる。		
14	実習における看護教育－事例検討		討議		実習での困難事例		
15	まとめ				課題レポート：わたしの「看護教育観」		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度			○			20	
受講者の発表（プレゼン）			○			30	
その他 ※課題レポート				◎		50	
テキスト・参考文献等	ベヴィス&ワトソン著（安酸史子監訳）：ケアリングカリキュラム 看護教育の新しいパラダイム、医学書院、1999.						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	面談、E-mailなどで随時対応する emishida@fukuoka-pu.ac.jp						

授業科目名	看護教育学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	石田 智恵美						
授業の概要	看護教育学および、看護教育学特論で学んだ知識を基盤とし、「患者教育」、「学生教育」、「看護師教育」の各分野のうち、各人が自らの関心をもとに文献を選出し、文献の読み解き、サブストラクションの方法を用いて批判的に文献を読む方法、について演習を通して学ぶ。又、種々の看護教育学研究方法論について理論を学ぶとともに、実際にデータ分析の演習を通して学ぶ。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP 2：論理的思考力	文献の読み解きを行い、各文献の研究課題を述べることができる。					
	DP 3：表現力	文献検討した内容を説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP 4：探求力	看護教育学の研究方法について理解し、自己の研究に活用する手がかりとすることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	コースオリエンテーション 文献購読について		講義				
2	文献購読 1		発表・討議		各自が事前に文献を配布。		
3	文献購読 2		発表・討議		各自が事前に文献を配布。		
4	看護教育学研究方法 1	インタビュー法	講義・討議				
5	看護教育学研究方法 2	インタビュー法	発表・討議		文献を事前に読んでくる。		
6	看護教育学研究方法 3	グループインタビュー	講義・討議		文献を事前に読んでくる。		
7	看護教育学研究方法 4	グループインタビュー	発表・討議		文献を事前に読んでくる。		
8	看護教育学研究方法 5	グランデッド・セオリー・アプローチ	講義・討議		文献を事前に読んでくる。		
9	看護教育学研究方法 6	グランデッド・セオリー・アプローチ	発表・討議		文献を事前に読んでくる。		
10	看護教育学研究方法 7	アクションリサーチ	講義・討議		文献を事前に読んでくる。		
11	看護教育学研究方法 8	アクションリサーチ	発表・討議		文献を事前に読んでくる。		
12	看護教育学研究	文献検討 1	発表・討議		文献を事前に読んでくる。		
13	看護教育学研究	文献検討 2	発表・討議		文献を事前に読んでくる。		
14	看護教育学研究	文献検討 3	発表・討議		文献を事前に読んでくる。		
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	授業態度・授業への参加度		○			40	
	受講者の発表（プレゼン）		◎	○		60	
テキスト・参考文献等	テキスト：戈木クレイグヒル滋子, グランデッド・セオリー・アプローチを用いたデータ収集法 新曜社						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	面談、E-mailなどで随時対応する emishida@fukuoka-pu.ac.jp						

授業科目名	基礎看護学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	澁野由夏・藤野靖博						
授業の概要	看護学の基本構造について理解を深め、看護理論に基づく看護実践のあり方や効果的な看護技術の実施、教育方法について探求する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	・看護学の基本構造について理解する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	・看護技術の効果的な実施方法について探究し、理解を深める。 ・看護技術の効果的な教育方法について探究し、理解を深める。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	・文献学習やディスカッションを通して自己の課題を主体的に探究し、学びを意識的に看護・教育実践に適用する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			担 当	
1	ガイダンス 看護学の基本構造（1）：看護の目的論	講義・討議	その都度、学習課題を提示する。			澁野 藤野	
2	看護学の基本構造（2）：看護の目的論	討議					
3	看護学の基本構造（3）：看護の対象論	講義・討議					
4	看護学の基本構造（4）：看護の対象論	討議					
5	看護学の基本構造（5）：看護の方法論	講義・討議					
6	看護学の基本構造（6）：看護観と看護技術との連関	講義・討議					
7	看護学の基本構造（7）：看護技術の基本構造①	講義・討議					
8	看護学の基本構造（8）：看護技術の基本構造②	討議					
9	看護学の基本構造（9）：看護技術の基本構造③	討議					
10	看護技術の科学性（1）	講義・討議					
11	看護技術の科学性（2）	討議					
12	看護技術の教育方法（1）	講義・討議					
13	看護技術の教育方法（2）	討議					
14	看護技術の教育方法（3）	討議					
15	看護技術の教育方法（4）	討議					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度				◎		30	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎	○		50	
テキスト・参考文献等	<参考文献> 薄井坦子：科学的看護論第3版、日本看護協会出版会、2015年、2,484円						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	随時、対応する。						

授業科目名	基礎看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次					
			後期	演習	選択	2	1年					
担当教員	淵野由夏・藤野靖博											
授業の概要	看護技術や看護技術教育に関する文献検討、ならびに看護場面や技術教育場面（教授－学習過程）の構造分析を通して、効果的な看護技術の実施方法や教育方法を探究する。											
学生の到達目標												
思考・判断・表現	DP 2：論理的思考力	<ul style="list-style-type: none"> 自己の看護場面および看護技術の教育場面（教授－学習過程）を再構成し、分析・考察できる。 看護技術の効果的な実施方法、教育方法を考察できる。 										
関心・意欲・態度	DP 4：探求力	<ul style="list-style-type: none"> 文献学習やディスカッションを通して自己の課題を主体的に探究し、学びを意識的に看護・教育実践に適用する。 										
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）												
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当								
1～2	ガイダンス 文献レビュー（1）	講義・討議	その都度、学習課題を提示する。	淵野 藤野								
3～4	文献レビュー（2）	発表・討議										
5～6	文献レビュー（3）	発表・討議										
7～8	文献レビュー（4）	発表・討議										
9～10	文献レビュー（5）	発表・討議										
11～12	看護場面の構造分析（1）	講義・討議										
13～14	看護場面の構造分析（2）	発表・討議										
15～16	看護場面の構造分析（3）	発表・討議										
17～18	看護場面の構造分析（4）	発表・討議										
19～20	看護場面の構造分析（5）	発表・討議										
21～22	看護技術の教授－学習過程の構造分析（1）	講義・討議										
23～24	看護技術の教授－学習過程の構造分析（2）	発表・討議										
25～26	看護技術の教授－学習過程の構造分析（3）	発表・討議										
27～28	看護技術の教授－学習過程の構造分析（4）	発表・討議										
29～30	看護技術の教授－学習過程の構造分析（5）	発表・討議										
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）												
成績評価方法	到達目標	知識・理解						思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	授業態度・授業への参加度								◎		40	
	受講者の発表（プレゼン）							◎	○		60	
テキスト・参考文献等	<参考文献> 薄井坦子監修：Module 方式による看護方法実習書、現代社、2006年、3,456円 薄井坦子：科学的看護論第3版、日本看護協会出版会、2015年、2,484円											
履修条件	特になし。											
学習相談・助言体制	随時、対応する。											

授業科目名	看護心理学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	永嶋由理子・加藤法子						
授業の概要	本講では、心理学を基軸として看護学を論理的・科学的に探究していくための理論と方法を教授する。特に、看護技術の熟達化と思考深化との関係性を解明し、看護技術の修得過程に必要な諸要因について検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	<ul style="list-style-type: none"> 看護技術の概念構造について理解できる。 看護技術の熟達過程について理解できる。 看護技術の熟達過程と思考との関係性について理解できる。 					
思考・判断・表現	DP3：表現力	看護技術の修得過程に必要な諸要因について検討し、自己の見解を述べることができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	看護技術の熟達化について論理的・科学的に考察できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	オリエンテーション 看護技術の概念構造①	講義		永嶋			
2	看護技術の概念構造②	〃					
3	看護技術の熟達化①：ベナー看護論	〃					
4	看護技術の熟達化②：ベナー看護論	〃					
5	看護技術の熟達化③：ベナー看護論	講義・ディスカッション	文献講読（事前学習）	永嶋 加藤			
6	熟達化の概念①：学習・教育心理学の側面から	〃	文献講読（事前学習）				
7	熟達化の概念②：認知心理学の側面から	〃					
8	熟達プロセスとその諸要因①	〃	文献講読（事前学習）				
9	熟達プロセスとその諸要因②	〃					
10	看護技術の熟達化と認知の諸研究①	〃	文献講読（事前学習）				
11	看護技術の熟達化と認知の諸研究②	〃					
12	看護技術の熟達化と感情の諸研究①	〃	文献講読（事前学習）				
13	看護技術の熟達化と感情の諸研究②	〃					
14	看護技術熟達化についての検証法①	〃	文献講読（事前学習）				
15	看護技術熟達化についての検証法②	〃	事後レポート提出				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート			◎	◎		40	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			50	
受講者の発表（プレゼン）		○	○			10	
テキスト・参考文献等	テキスト：パトリシア・ベナー著、井部敏子監訳『ベナー看護論新訳版』、医学書院、2005年、3800円（税抜）。						
履修条件							
学習相談・助言体制	講義時間外でも質問等に個別対応する。						

授業科目名	看護心理学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	永嶋由理子・加藤法子	後期	演習	選択	2	1年
授業の概要	本演習では、看護技術の熟達過程を特に思考の深まり及び看護スキルの側面から検討し、さらに、関連する様々な文献を活用しながらそれぞれの関係性について探求していく。また、看護技術の習得プロセスとそれぞれの関係性について科学的な見地から検証し、独自の実験技法を創出する。さらには、看護技術の熟達化を促進させるための看護技術教育のあり方についても検討する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	看護技術の熟達化を検証するための理論と方法について探究できる。					
	DP3：表現力	看護技術の修得過程に必要な諸要因について科学的な見地から検証できる。					
関心・意欲・態度	DP5：社会貢献力	看護技術の質向上に必要な教育手法について考察できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	オリエンテーション 文献講読①	ディスカッション		永嶋 加藤			
2	文献講読②	プレゼンテーション ディスカッション	関連文献検索（事前学習）				
3	文献講読③	〃	〃				
4	文献講読④	〃	〃				
5	文献講読⑤	〃	〃				
6	文献講読⑥	〃	〃				
7	熟達過程の構造化①	〃	文献講読（事前学習）				
8	熟達過程の構造化②	〃	事後レポート提出				
9	熟達過程と認知の関係性についての概念化①	〃	文献講読（事前学習）				
10	熟達過程と認知の関係性についての概念化②	〃	〃				
11	熟達過程と認知の関係性についての概念化③	〃	事後レポート提出				
12	熟達化の心理学的実験法①	〃	文献講読（事前学習）				
13	熟達化の心理学的実験法②	〃	〃				
14	熟達化の心理学的実験法③	〃	〃				
15	新たな技術教育のあり方についての検討	ディスカッション	事後レポート提出				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート				◎		50	
授業態度・授業への参加度			◎	○		50	
テキスト・参考文献等	テキスト：パトリシア・ベナー著、井部敏子監訳『ベナー看護論新訳版』、医学書院、2005年、3800円（税抜）。						
履 修 条 件	看護心理学特論を履修していること						
学習相談・助言体制	演習時間外でも質問等に個別対応する。						

授業科目名	実験看護学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	田中美智子・江上千代美						
授業の概要	看護学の研究を主に実験的手法を用いて行う研究方法について講義を行う。研究テーマに関連する文献収集、文献レビューを行い、実験的研究をデザインすることについて学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	実験的手法を用いる研究方法の利点について述べるができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	研究における概念図を作成することができる。					
	DP3：表現力	自らの実験研究の内容を説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP4：挑戦力	文献を収集、検討することで、自らの研究内容を主体的に探究することができる。					
	DP5：社会貢献力	研究からもたらせるアウトカムに関しての意義について言及できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション・実験的研究デザイン		講義		配布した資料		
2～4	実験的研究デザイン①：文献の目的・仮説から実験計画を立てる		講義・発表		配布資料に目を通し、自分の計画をまとめておく。		
5～6	実験的研究デザイン②：自分の立てた実験計画と論文の計画を比較		講義・ディスカッション		配布資料に目を通し、自分の計画の違い・類似点をまとめておく。		
7～11	各自の研究課題に関連する文献抄読 テーマが上がってこない場合は睡眠－覚醒サイクル・呼吸機能・循環機能・ストレス・加齢などについて検討する。それぞれの文献から研究目的（仮説）・計画・結果を読み取り、目的に対して適切な研究計画か、結果に対して考察が適切であるかなど、論文をクリティークする。		講義・ディスカッション		配布資料に目を通して内容を把握しておく。		
12～14	各自の研究課題に関連した研究計画 文献抄読を参考にし、自分の課題の研究計画を検討する。		講義・発表		配布資料に目を通して内容を把握しておく。		
15	まとめ		ディスカッション				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		50	
授業態度・授業への参加度				○		15	
受講者の発表（プレゼン）		○	○			35	
補足事項		受講生のテーマによって変更する場合もある。					
テキスト・参考文献等	参考文献：Stephen B Hulley et al, Designing Clinical Research. 木原雅子, 木原正博訳. 医学的研究のデザイン. メディカル・サイエンス・インターナショナル, Frederick Grinnell 著, The Scientific Attitude, 白楽ロクケビル訳 グリンネルの研究成功マニュアル, 共立出版。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	メールにて受け付ける。						

授業科目名	実験看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	田中美智子・江上千代美						
授業の概要	看護学の研究の中で主に実験的研究について、実際の測定・分析法及びデータ解析技術について演習を行い、これらの手法を習得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	測定、分析方法及び解析方法について具体的に説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	測定、分析、解析方法を的確に選び、遂行できる。測定結果を解釈し、考察できる。					
	DP3：表現力	自らの研究目的を描きながら、研究方法やその結果について説明することができる。					
技能	DP6：実践力	正確に測定することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1～2	オリエンテーション：分析・測定法とデータ解析技術		講義		配布した資料		
3～16	生理学的測定方法 脳波の測定と解析 筋電図の測定と解析 循環動態の測定と解析 呼吸機能の測定と解析 その他の測定方法と解析		実習		配布資料に目を通して、内容を把握しておく。		
17～28	生化学的測定方法 ホルモンの測定 (高速液体クロマトグラフィーの使用) 酵素活性の測定 (マイクロプレートリーダーの使用) その他の測定		実習		配布資料に目を通して内容を把握しておく。		
29～30	まとめ		プレゼンテーション				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			40	
授業態度・授業への参加度			○			20	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			25	
その他（測定）		○	○		○	15	
テキスト・参考文献等	特になし。						
履修条件	実験看護学特論を履修していること。						
学習相談・助言体制	メールにて受け付ける。						

授業科目名	基盤看護学特別研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	領域において必修	8	1～2年
担当教員	永嶋由理子・田中美智子・石田智恵美・江上千代美・澁野由夏						
授業の概要	学習援助型の看護教育の探求、看護心理学の臨床実践・研究への適応に関する研究および看護問題の解決に有用な看護技術の科学的検証を行う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	・研究課題を解決するための研究手法について理解できる。 ・看護上の問題と看護研究の関係性について理解できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	研究課題について科学的及び学際的な観点から検討し、論文としてまとめることができる。					
	DP3：表現力	研究課題に関する論点について自己の考えを適切に論じる（述べる）ことができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	研究課題の解決に向けて主体的に探究することができる。					
技能	DP6：実践力	研究過程を通して倫理的態度を身につけることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	1. 自らの研究問題に関連する文献を収集し、文献を批判的に検討する。 2. 文献検討や指導教員とのディスカッションを重ね、自己の研究テーマ、目的を絞り込む。 3. 研究計画書を作成する。 4. 研究計画の審査および研究倫理委員会の審査を受ける。 5. 研究を実施する。 6. 研究結果を考察する。 7. 論文として構成し執筆する。 8. 研究発表会で発表する。 9. 必要加筆・修正を行い、修士論文を提出する。	個別指導又はグループディスカッション。 ＊適宜プレゼンを行う。	自己の研究疑問を明確にする。				
2			文献を収集し、文献を検討する。				
3			文献を収集し、文献を検討する。				
4			研究テーマを絞る。				
5			研究計画書を作成する。				
6			研究計画書を修正する。				
7			研究倫理審査申請書を作成する。				
8			研究倫理審査申請書を修正する。				
9			研究を実施する。				
10			研究結果を分析する。				
11			研究結果を分析する。				
12			研究結果を考察する。				
13			論文を作成する。				
14			発表準備をする。				
15			論文を修正する。				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
研究論文・その他		◎	◎	◎	◎	100	
補足事項	＊成績評価の詳細については担当教員から別途説明する。 ＊研究論文については評価表に基づき評価を行う。						
テキスト・参考文献等	適宜紹介する。						
履 修 条 件	基盤看護学領域の各分野の特論及び演習を履修しておくこと。						
学習相談・助言体制	担当教員と相談の上、質問や相談等についての対応方法を定める。						

授業科目名	思春期ヘルスプロモーション特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・原田直樹	前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	妊娠期から思春期への学術的発達モデルをベースに、思春期にいたるライフステージに焦点をあてたヘルスプロモーションのありかたについて理論的探究をおこなう。とくに近年、科学の進歩によってもたらされた新しい考え方、たとえば「遺伝-環境論」や「脳の構造-機能」についても俯瞰し、人間の（健康）行動を読み解く鍵としていく。これからの新しい時代のヘルスプロモーションについて、科学的根拠とモデルを創出していくことの重要性を学び、自らが新たなモデルの構築に挑戦できる学術的基礎を養う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	・モデルとは何か、メタ理論とは何かを理解する。 ・妊娠期から思春期までの発達のモデルを理解する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	思春期の課題について、新しい考え方に基づいた仮説を組み立てる。					
	DP3：表現力	思春期の課題についての仮説を論理的に伝えることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）		
1	モデルとは何か	講義			事前配布資料		
2	メタ理論とは何か	講義			事前配布資料		
3	妊娠期・周産期の特徴	講義			事前配布資料		
4	乳児期の特徴	講義			事前配布資料		
5	幼児期の特徴	講義			事前配布資料		
6	学童期の特徴	講義			事前配布資料		
7	思春期の特徴	講義			事前配布資料		
8	発達モデル その1	講義			事前配布資料		
9	発達モデル その2	講義			事前配布資料		
10	遺伝-環境の新しい考え	講義			事前配布資料		
11	脳科学の知見	講義			事前配布資料		
12	思春期の健康課題1	講義			事前配布資料		
13	思春期の健康課題2	講義			事前配布資料		
14	思春期の健康課題3	講義			事前配布資料		
15	総合議論	講義					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	宿題・授業外レポート	◎	◎			80	
	授業態度・授業への参加度	○	○			20	
テキスト・参考文献等	参考図書：Judith Rich Harris, No Two Alike, 参考図書：服部祥子「人間発達論」医学書院 参考図書：鯨岡峻「育てられるものから育てるものへ」朝日選書						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設定する。						

授業科目名	思春期ヘルスプロモーション演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・原田直樹	後期	演習	選択	2	1年
授業の概要	思春期ヘルスプロモーション特論において修得した学術的フレームをもとに、思春期にいたるライフステージに焦点をあてたヘルスプロモーションのあり方について、例示された題材をもとに独自のヘルスプロモーション・モデルを構築していくことのできる能力を養う。題材として取り上げるのは、母子保健の現代的運動である「健やか親子21」にとりあげられた60余りの課題を中心とする、性に関する問題、薬物乱用に関する問題、自殺に関する問題、「いじめ」に関する問題、不登校に関する問題、食に関する問題、等である。さらに、ライフサイクルの視点からの、子育てや発達環境についての新しいモデルを検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	思春期の現代的課題を整理することができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	・思春期の現代的課題についてオリジナリティのある解説をすることができる。 ・思春期の現代的課題を解決していくための仮説を組み立てることができる。					
	DP3：表現力	思春期の現代的課題を解決するための仮説を論理的に伝えることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	思春期の課題を整理する	1	演習		事前配布資料		
2	思春期の課題を整理する	2	演習		事前配布資料		
3	思春期の課題を整理する	3	演習		事前配布資料		
4	思春期の性の問題	1	演習		事前配布資料		
5	思春期の性の問題	2	演習		事前配布資料		
6	思春期の性の問題	3	演習		事前配布資料		
7	思春期の精神的問題	1	演習		事前配布資料		
8	思春期の精神的問題	2	演習		事前配布資料		
9	思春期の精神的問題	3	演習		事前配布資料		
10	学校保健の課題	1	演習		事前配布資料		
11	学校保健の課題	2	演習		事前配布資料		
12	思春期の食の問題	1	演習		事前配布資料		
13	思春期の食の問題	2	演習		事前配布資料		
14	次の世代へのアプローチ		演習		事前配布資料		
15	総合議論		演習				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			40	
授業態度・授業への参加度		○	◎			40	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎			20	
テキスト・参考文献等	その都度、英文文献などを指定する。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設定する。						

授業科目名	地域看護学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子						
授業の概要	地域看護学の理念と枠組みを理解し、各ライフステージの地域看護実践における個人、家族およびグループ・コミュニティ（集団・地域）に関するケアや効果的な支援方法を探究する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	地域看護学の理念と枠組みを理解し、各ライフステージの地域看護実践における個人、家族およびグループ・コミュニティ（集団・地域）に関するケアや効果的な支援方法を理解する。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	地域看護の対象を多角的に捉え、援助につなげるために、理論的枠組みを用いて個人、家族およびグループ、コミュニティ（集団・地域）の角度から対象について論じ、地域看護学の研究を用いて課題を表現できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	保健・医療・福祉システムにおける地域看護活動に関する文献検討方法		講義				
2	地域看護の理論的枠組み1		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
3	地域看護の理論的枠組み2		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
4	地域看護の理論的枠組み3		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
5	地域看護の理論的枠組み4		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
6	地域看護の理論的枠組み5		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
7	地域看護の理論的枠組み6		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
8	地域看護の理論的枠組み7		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
9	地域看護の理論的枠組み8		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
10	地域看護の理論的枠組み9		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
11	地域看護の理論的枠組み10		講義 ゲストティーチャー		配布資料を読んでくる。		
12	先駆的な活動事例研究その1		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
13	先駆的な活動事例研究その2		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
14	先駆的な活動事例研究その3		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
15	相互評価		講義 ゲストティーチャー				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート			◎	◎		70	
授業態度・授業への参加度				◎		10	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		20	
テキスト・参考文献等	「コミュニティパートナー・モデル」 金川克子、早川和生 監修 医学書院 2006						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに質問を受ける。メールによる相談は随時可。						

授業科目名	地域看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子						
授業の概要	地域看護に関わる保健・医療・福祉のシステムについてトピックを選びフィールドに出かけて現状を把握、問題の所在を考察する。地域看護の果たす役割を検討する。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP4：探求力	地域看護に関わる保健・医療・福祉のシステムについてトピックを選びフィールドに出かけて現状を把握、問題の所在について表現できる。					
	DP5：社会貢献力	具体的な活動事例と関連づけながらケアや効果的な支援方法について学習し、対象にあわせた支援について探究する。					
技能	DP6：実践力	関心のある領域（母子・高齢者・障害者等）の保健・医療・福祉の様々な実践フィールドに出かけ、地域看護の基盤となる理論を用いて実態を把握し、地域の問題を構造的に捉えて、地域のニーズに対する地域看護の果たす役割について考察できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	地域看護活動に関する文献検討方法		講義				
2	関心のある領域（母子・高齢者・障害者等）の文献レビュー1		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
3	関心のある領域（母子・高齢者・障害者等）の文献レビュー2		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
4	関心のある領域（母子・高齢者・障害者等）の文献レビュー3		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
5	先駆的な活動事例研究その1		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
6	先駆的な活動事例研究その2		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
7	先駆的な活動事例研究その3		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
8	先駆的な活動事例研究その4		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
9	先駆的な活動事例研究その5		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
10	先駆的な活動事例研究その6		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
11	先駆的な活動事例研究その7		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
12	先駆的な活動事例研究その8		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
13	事例分析報告1		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
14	事例分析報告2		講義・グループディスカッション		配布資料を読んでくる。		
15	事例分析評価		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート				◎	◎	50	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表（プレゼン）				◎	◎	30	
テキスト・参考文献等	開講後、随時、指示する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに質問を受ける。メールによる相談は随時可。						

授業科目名	在宅看護学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	吉田 恭子						
授業の概要	在宅で療養生活を送る療養者および家族の特徴、提供されている看護実践の現状と課題を考察し、課題解決のための方法について探求する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	在宅看護の歴史や変遷を知り、在宅看護の現状と課題を説明できる。 在宅療養の継続に必要な地域資源について説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	在宅看護に関わる保健医療福祉制度の現状と課題を説明できる。					
	DP3：表現力	在宅看護の対象者の特徴と看護実践について説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	在宅看護学の基盤となる理論・概念1		講義・討議				
2	在宅看護学の基盤となる理論・概念2		講義・討議				
3	在宅看護学の目的1		講義・討議				
4	在宅看護学の目的2		発表と討議				
5	在宅看護学の目的3		発表と討議		事後レポート提出		
6	在宅看護学の対象1		講義・討議				
7	在宅看護学の対象2		講義・討議				
8	在宅看護学における看護過程1		講義・討議				
9	在宅看護学における看護過程2		発表と討議				
10	在宅看護学における看護過程3		発表と討議		事後レポート提出		
11	在宅看護学における看護実践1		講義・討議				
12	在宅看護学における看護実践2		講義・討議				
13	在宅看護学における看護実践3		討議				
14	在宅看護学における看護実践4		討議				
15	在宅看護学における看護実践5		討議		事後レポート提出		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート			◎			50	
授業態度・授業への参加度		○				20	
受講者の発表（プレゼン）		◎				30	
テキスト・参考文献等	開講時に参考資料を配布、提示する。						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する。						

授業科目名	在宅看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	吉田 恭子						
授業の概要	在宅療養者と家族への看護実践や各自が関心ある領域から選択した文献を講読し、在宅看護学の研究上の課題を検討する。また、地域における実践の場での看護職の役割を考察する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	在宅看護学に関連する文献を批判的に講読できる。					
	DP3：表現力	在宅看護学における研究上の課題と解決方法を説明できる。					
技能	DP6：実践力	在宅療養継続をめざした看護実践のあり方を提案できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、文献講読		講義・討議				
2	在宅ケアに関わる政策と変遷1		発表と討議		関連文献検索（事前学習）		
3	在宅看護に関わる政策と変遷2		発表と討議		関連文献検索（事前学習）		
4	在宅看護に関わる政策と変遷3		発表と討議		関連文献検索（事前学習）		
5	在宅看護に関わる政策と変遷4		発表と討議		関連文献検索（事前学習）		
6	在宅看護における看護実践1		発表と討議		関連文献検索（事前学習）		
7	在宅看護における看護実践2		発表と討議		関連文献検索（事前学習）		
8	在宅看護における看護実践3		発表と討議		関連文献検索（事前学習）		
9	在宅看護における看護実践4		演習		事前レポート提出		
10	在宅看護における看護実践5		演習		関連文献検索（事前学習）		
11	在宅看護における看護実践6		演習		関連文献検索（事前学習）		
12	在宅看護における看護実践7		演習		事後レポート提出		
13	在宅看護における看護管理1		発表と討議		関連文献検索（事前学習）		
14	在宅看護における看護管理2		演習		関連文献検索（事前学習）		
15	在宅ケアにおける看護の検討		討議		事後レポート提出		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート			◎			50	
授業態度・授業への参加度					◎	20	
受講者の発表（プレゼン）					◎	30	
テキスト・参考文献等	開講時に参考資料などを配布、提示する。						
履修条件	在宅看護学特論を選択していること。						
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する。						

授業科目名	ヘルスプロモーション看護学特別研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・尾形由起子・山下清香	通年	演習	領域において必修	8	1～2年
授業の概要	ヘルスプロモーションの理念にそった看護実践活動の基礎的能力を育成する。ヘルスプロモーションに関連する実践研究を深め、幅広い視野で地域の連携構築に当たることができる視点を養い、地域の政策立案に関与できる能力を高めることを目的とした研究の取り組みをおこなう。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	<ul style="list-style-type: none"> ・世界基準の Health Promotion の本質をとらえ、同理念のわが国への再導入について考えることができる。 ・各所でおこなわれているヘルスプロモーションに関する実践研究の概要をとらえることができる。 ・幅広い視野で地域の連携構築について考えることができる。 					
	DP3：表現力	ヘルスプロモーションの理念にそった看護実践活動について論理的にまとめ、伝えることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：社会貢献力	地域の政策立案に関与できる能力を身に付けることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	授業の進め方	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
2	実践研究に関する基本的視点1	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
3	実践研究に関する基本的視点2	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
4	実践研究に関する基本的視点3	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
5	実践研究における仮説の構築1	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
6	実践研究における仮説の構築2	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
7	実践研究における仮説の構築3	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
8	実践研究における研究概要1	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
9	実践研究における研究概要2	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
10	実践研究における研究概要3	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
11	実践研究における研究実施1	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
12	実践研究における研究実施2	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
13	実践研究における研究実施3	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
14	実践研究における研究実施4	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
15	まとめ	特別研究	事前に配布	松浦・尾形			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート			◎			20	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		60	
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の詳細については担当教員から別途説明する。 ・研究論文については評価表に基づき評価を行う。 						
テキスト・参考文献等	参考文献は授業内容の関連事項を扱う場合に、その都度指定する。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設定する。						

授業科目名	小児看護学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	田中美樹・吉川末桜						
授業の概要	子どもの成長発達を促進し、健康な生活を送れるための看護を実践するために必要な発達理論、さらに子どもの健康に関連した概念について教授する。また現代社会における子どもの権利を擁護し、さらに養育者である家族の支援について概説する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	子どもの発達理論を理解することができる。 子どもの健康に関する理論、概念について理解することができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	「子どもの権利」について教育・福祉・医療場面における現状を考え検討することができる。					
	DP3：表現力	子どもの発達理論に関する文献検討を行いプレゼンテーションができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	子どもの健康を支えるための看護援助について考察することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	オリエンテーション この科目のねらいと授業方針		講義・自己紹介		田中・吉川		
2	発達理論の理解1		講義・ディスカッション		田中・吉川		
3	発達理論の理解2		講義・ディスカッション		田中・吉川		
4	発達理論のまとめ		プレゼンテーション		田中・吉川		
5	子どもの権利1		講義・ディスカッション		田中・吉川		
6	子どもの権利2		プレゼンテーション		田中・吉川		
7	小児看護におけるセルフケア理論		講義・ディスカッション		田中・吉川		
8	小児看護におけるソーシャルサポート		講義・ディスカッション		田中・吉川		
9	乳児期の発達における現代の課題		講義・ディスカッション		田中・吉川		
10	幼児期の発達における現代の課題		講義・ディスカッション		田中・吉川		
11	健康障害と看護援助	NICUにおける看護	講義・ディスカッション		田中・吉川		
12	健康障害と看護援助	急性期における看護	講義・ディスカッション		田中・吉川		
13	健康障害と看護援助	慢性期における看護	講義・ディスカッション		田中・吉川		
14	健康障害と看護援助	障害をもった子どもの看護	講義・ディスカッション		田中・吉川		
15	課題に関するプレゼンテーション		プレゼンテーション		田中・吉川		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		○	◎	◎		40	
授業態度・授業への参加度		○	○	○		20	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		40	
テキスト・参考文献等	適宜紹介。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	適宜対応。						

授業科目名	小児看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	田中美樹・吉川末桜						
授業の概要	<p>子どもや家族に関わる際に必要な援助関係を形成していく態度を培い、子どものフィジカルアセスメントの方法、子どもや家族の権利を養護する態度、子どもや家族の健康増進のための支援について概説する。</p> <p>小児看護における成長発達のアセスメントと、子どもや家族の健康増進のための支援について体験し、実践フィールドにおいて子どもと家族への支援方法を習得できることをめざす。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	子どもの成長発達をふまえたフィジカルアセスメントを理解することができる。教育・福祉・医療の場面における子どもや家族の発達段階や心理状態を理解する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	小児看護において関心のあるトピックを選び、文献を活用した上で専門的立場から考察できる。					
	DP3：表現力	各自でテーマを選択し、その現状と問題点を把握し、子どもの健康を促進するため自己の考えを表現できる。					
技能	DP6：実践力	子どもの健康状態、成長発達をアセスメントする技術を習得することができる。教育・福祉・医療において子どもの成長発達をふまえツールを用いて子どもの権利を尊重したケアの実践ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法			担 当	
1	オリエンテーション -この科目のねらいと授業方針		講義			田中・吉川	
2～3	子どもの健康アセスメントと評価方法		講義・演習			田中・吉川	
4～5	乳幼児健康診査・予防接種・子どもへのインタビュー		講義・演習			田中・吉川	
6～7	子どもの観察（1） 臨床講義・演習		演習			森田	
8～9	子どもの観察（2） 臨床講義・演習		演習			森田	
10～11	子どもの観察（3） 臨床講義・演習		演習			森田	
12～13	演習のまとめ		プレゼンテーション			田中・吉川	
14～15	プレパレーションインフォームドコンセント・インフォームドアセント		講義・ディスカッション			田中・吉川	
16～17	子どもへの健康教育		講義・ディスカッション			田中・吉川	
18～19	乳幼児をもつ家族への支援		講義・ディスカッション			田中・吉川	
20～21	プレパレーション・健康保育のロールプレイング		講義・ディスカッション			田中・吉川	
22～23	プレパレーションの実際（1）		演習			田中・吉川	
24～25	プレパレーションの実際（2）		演習			田中・吉川	
26～27	健康保育の実際（1）		演習			田中・吉川	
28～29	健康保育の実際（2）		演習			田中・吉川	
30	まとめ		プレゼンテーション			田中・吉川	
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度		○	○		○	20	
受講者の発表（プレゼン）			◎			20	
演習					◎	40	
テキスト・参考文献等	適宜紹介。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	適宜対応。						

授業科目名	代替・補完看護学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	佐藤香代・猪狩 崇						
授業の概要	<p>Complementary Alternative Medicine（代替補完医療：CAM）の概念、哲学を、その歴史や背景を踏まえ理解する。</p> <p>CAMを導入したさまざまなケアの文献を、エビデンスにのっとして分析し、ケア哲学を明らかにする。以上から、自己の研究課題を洗練し、詳細な研究プランを組み立てる。</p> <p>いまだ研究・理論化されないままに看護実践に導入されてきたCAMのエビデンスを明確化するとともに内容を精選し、新たな代替・補完看護学構築に取り組み、統合医療における看護学の役割を明確化する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	代替・補完医療の概念、哲学を理解することができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	CAMを導入したさまざまなケアの文献を、EBMの視点から分析でき、説明できる。					
	DP3：表現力						
関心・意欲・態度	DP4：探求力	上記エビデンスを主体的に探究できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	授業の目的・目標及び評価	講義／ディスカッション／演習	配付資料	佐藤香猪狩			
2	研究方法 質的・量的研究法、アクション・リサーチ、現象学、質問紙法等		文献検索・分析				
3	学術的記述および文献様式						
4	概念とCAMの哲学						
5	問題の定型化と文献検索						
6	課題の抽出						
7	文献の吟味						
8	健康と疾病の中国的概念						
9	健康と疾病の西洋的概念						
10	健康と疾病のインド的概念						
11	文献の吟味						
12	文献の吟味						
13~14	研究デザインのプランニング						
15	統合医療における看護学の役割	発表および討議		学生による発表			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		○	◎	○		30	
授業態度・授業への参加度		○	○	○		10	
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		50	
受講者の発表（プレゼン）		○	○	○		10	
テキスト・参考文献等	文献等は講義中に指示する。						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに質問する。						

授業科目名	代替・補完看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	佐藤香代・猪狩 崇						
授業の概要	代替・補完看護学特論で学んだ知識を元に、代替・補完療法や東洋医学で行う技術の体験を通して、セルフケアの方法、セルフケアを高めるための技術を学ぶ。 さらにケアの安全性、根拠を明らかにし、ケアの開発について考察する。 自己の研究課題を追究し、洗練させる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	代替・補完療法を看護に取り入れるために必要な専門知識を有している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	演習を通して、ホリスティックな視点からケアの有用性を検討できる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	よりよいケアを探究する。					
	DP5：社会貢献力	学んだケアを看護活動に貢献できる。					
技能	DP6：実践力	学んだケアを看護実践に活用できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）		担 当		
1～2	呼吸	講義・演習	文献検討 事後レポート		佐藤香猪狩		
3～4	氣功						
5～6	氣功 エネルギーヒーリング						
7～8	アーユルヴェーダ						
9～10	瞑想						
11～12	食養						
13～14	食養						
15～16	カウンセリングスキル						
17～18	ホメオパシー						
19～20	アロママッサージ						
21～22	イメージリー						
23～24	ヒーリングマッサージ						
25～26	ヒーリングマッサージ						
27～28	文献検討						
29～30	テスト	実技試験	レポート				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		○	◎			20	
授業態度・授業への参加度				○		10	
受講者の発表（プレゼン）			○			10	
演習		◎	○		◎	60	
テキスト・参考文献等	講義・演習中に指示する。						
履 修 条 件	代替・補完看護学特論を履修していること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに質問する。						

授業科目名	老年看護学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	講義	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	2	1年	
担当教員	渡邊智子・水谷信子・芋川 浩・吉岡佐知子・ 椋 直美							
授業の概要	高齢者とその家族が健やかに老いるための概念や理論の知識を深め、高齢者とその家族への老年看護実践の基盤となる諸理論を学び、倫理的思考による倫理的課題を探究する能力を養う。老年看護の歴史と課題から、老年看護専門看護師としての役割と機能を考察する。							
学生の到達目標								
知識・理解	DP1：専門的知識	エイジングを生物学・心理学・社会学・看護学の視点から述べる						
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	老年看護の歴史と課題を述べ、老年看護専門看護師の役割・機能を説明する。老年看護実践に用いられる概念と理論を説明する。						
	DP3：表現力	老年期を生きる人々の健康の概念を説明する。高齢者の特徴を全体論的視点から説明する。						
関心・意欲・態度	DP4：探求力	老年看護実践における倫理的課題を説明する。						
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）								
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			担 当		
1	オリエンテーション老年看護の歴史と課題	講義	【事後課題】 高齢社会白書のデータを使って今後の老年看護の課題を検討しレポート提出。			渡邊		
2～3	老年看護実践を支える概念と理論		【事前・事後課題】 その都度提示する。			水谷		
4	エイジング 生物学の視点		【事前・事後課題】 その都度提示する。			芋川		
5	エイジング 心理学・社会学の視点		【事前課題】 1回目の講義で提示した本を読み、内容をまとめてくる。			渡邊		
6～7	エイジング 看護学の視点（老いの意味）		【事前課題】 老年看護学特論にファシリテーターとして参加し、学生の学びからの気づきをまとめてくる。1回目の講義で提示した本を読み、内容をまとめてくる					
8	看護学における老年期を生きる人々の健康の概念		【事前課題】 1回目の講義で提示した本を読み、内容をまとめてくる。					
9～10	高齢者の特徴の全体論的視点からの理解		【事前課題】 地域で生活する高齢者2名と対話（テーマは1回目に提示） 【事後課題】 9回目講義時に課題を提示する。					
11～12	高齢者と家族の看護実践に用いられる理論		【事後課題】 家族の役割理論、キャリア発達理論、家族適応の二重ABCXモデル、等の理論を活用した家族支援について自己の考えをまとめレポート提出。					椋
13～14	老年看護実践領域における倫理的課題		【事前・事後課題】 その都度提示する。			吉岡		
15	老年看護専門看護師の機能と役割					吉岡 渡邊		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）								
成績評価方法	到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート			◎	◎			40	
授業態度・授業への参加度					◎		30	
受講者の発表（プレゼン）					◎		30	
テキスト・参考文献等	プリシラ エバーソール、パトリシア ヘス、アン シュミット ルゲン著、竹花 富子翻訳：ヘルシー・エイジング－人間のニーズと看護の対応、エルゼビア・ジャパン、2007。 その他テキストや参考文献はその都度提示する。							
履 修 条 件	なし							
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。遠慮せずに相談されてください。吉岡老人看護専門看護師の講義は、活動しているフィールド（鳥根県）で行う。							

授業科目名	老年看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	渡邊智子・榎直美						
授業の概要	老年期を生きる人と家族の看護援助を振り返り、看護方法を分析し、看護実践方法について探求する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	老年期を生きる人と家族の看護ニーズと看護実践方法を理解できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	老年期を生きる人と家族の看護に関する文献をテーマに沿って検索し、文献検討できる。 老年期を生きる人と家族の看護実践方法を文献検討で得られた理論・概念を用いて分析できる。					
	DP3：表現力	老年期を生きる人と家族の看護実践を振り返り、述べることができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	分析した老年期を生きる人と家族の看護実践方法を考察し、特別研究のテーマを絞ることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1～4	老年期にある人の看護ニーズと看護実践方法	講義・プレゼンテーション・討論	老年期にある人の看護ニーズを整理し、看護実践方法を検討	渡邊			
5～6	老年期にある人の家族の看護ニーズと看護実践方法		家族の看護ニーズを整理し、看護実践方法を検討	榎			
7～8	保健・医療・福祉システムにおける看護職の役割、機能や看護実践方法		保健・医療・福祉システムにおける看護職の役割と機能に関する資料について整理				
9～10	老年期にある人のフィジカルアセスメント		老年期にある人のフィジカルアセスメントを実践と評価	渡邊			
11～12	老年期にある人と家族に対する看護実践の評価・分析		看護実践の振り返りと整理	榎			
13～14	国内外の文献購読		看護実践に関連する文献の購読と整理				
15	看護実践方法と研究方法の分析		看護実践のまとめと考察	渡邊			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			40	
授業態度・授業への参加度				◎		30	
受講者の発表（プレゼン）				◎		30	
テキスト・参考文献等	その都度提示する。						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。インターネットやメールと電話による相談を受ける。遠慮せず相談してください。						

授業科目名	高齢者健康生活アセスメント論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	2	1年
担当教員	渡邊智子・西山みどり						
授業の概要	高齢者の健康生活上に影響する加齢に伴う身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの側面や環境のアセスメントと生活機能、家族と介護力の評価方法を習得する。健康障害を把握し、健やかに老いるための支援に反映できる評価能力を修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	全体論的視点で捉えるときに活用できる指標とツールを修得する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	複雑な健康障害をもつ高齢者への看護実践の評価方法を説明できる。					
	DP3：表現力	老年看護専門看護師として説明できる。					
技能	DP6：実践力	環境の影響を評価する必要性と方法を修得する。 全体論的視点で高齢者の健康生活を捉える方法を修得する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）			担当	
1～2	オリエンテーション 高齢者の健康生活評価とアセスメント ICF生活機能評価、 高齢者総合機能評価	講義	【事後課題】 高齢者総合機能評価とICF生活機能評価の相違と看護への適用についてレポートを提出する。			渡邊	
3	QOL評価（生きがい、主観的幸福感も含む）	講義・プレゼンテーション・討議	【事前課題】 QOL評価に関する文献を検討して、プレゼンテーション用にまとめる。				
4～5	基本的日常生活動作と手段的日常生活動作の評価	講義・プレゼンテーション・討議	【事前課題】 基本的日常生活動作と手段的日常生活動作の評価に関する文献を検討して、プレゼンテーション用にまとめる。				
6～7	高齢者の心理・精神的・スピリチュアル側面のアセスメント（認知機能アセスメントも含む）	講義・プレゼンテーション・討議	【事前課題】 高齢者の心理・精神的スピリチュアル側面に関する文献を検討して、プレゼンテーション用にまとめる。				
8～9	高齢者の社会的アセスメント（家族と介護力アセスメントも含む）	講義・プレゼンテーション・討議	【事前課題】 高齢者の家族と介護力評価に関する文献を検討して、プレゼンテーション用にまとめる。				
10	高齢者の環境アセスメントと必要性	講義・討議	【事後課題】 高齢者の環境評価に関する文献検討をレポートとして提出。				
11～12	複雑な健康障害を持つ高齢者への包括的アセスメント	講義・事例検討	【事前・事後課題】 その都度提示する。			西山	
13～14	老人看護専門看護師としての複雑な健康障害を持つ高齢者への看護実践の評価	講義・事例検討	【事前・事後課題】 その都度提示する。				
15	まとめ 高齢者の健康生活アセスメントの看護への適用	プレゼンテーション・討論	【事前課題】 高齢者の健康生活アセスメントの看護への適用について、プレゼンテーション用にまとめる。 【事後課題】 討議の結果から、高齢者の健康生活アセスメントの看護への適用についてレポートを提出。			渡邊	
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎		◎	40	
授業態度・授業への参加度			◎		◎	30	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	30	
テキスト・参考文献等	その都度提示する。						
履修条件	研究コースの学生は、看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。専門看護師コース（老年看護専門看護師）の学生は、看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。遠慮せずに相談されたい。西山老人看護専門看護師の講義は、活動しているフィールド（兵庫県）で行う。						

授業科目名	老年病診断治療学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	講義	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	1	1年	
担当教員	遠藤英俊・芋川 浩・渡邊智子							
授業の概要	<p>老年看護において留意すべき老年病を理解し、早期発見と適切な治療につなぐことができるように、加齢による身体的及び生理・生化学的特徴、病態生理学的変化、薬物動態と薬力学の変化の知識を修得する。</p> <p>老年看護専門看護師として Care と Cure を融合した高度な看護実践ができるよう、老年期に特有な疾病の診断治療に関する知識を修得する。</p>							
学生の到達目標								
知識・理解	DP 1：専門的知識	老化の機序、加齢による身体的、生理・生化学的变化とその特徴を説明できる。						
思考・判断・表現	DP 3：表現力	老年期に特有の疾病に関連する、病態生理学的変化と老化現象との関連について説明できる。						
関心・意欲・態度	DP 4：探求力	加齢による薬物動態や薬力学的な変動の特徴を説明し、老年期における薬物療法の原則を説明できる。						
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）								
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当				
1	老化の機序 加齢による身体的・精神的特徴	講義	【事前課題】 その都度提示する	遠藤				
2~3	加齢による生理・生化学的特徴		【事前・事後課題】 その都度提示する	芋川				
4	病態生理学的変化の理解 脳神経系、循環器系、消化器系		【事前・事後課題】 その都度提示する 【講義終了後課題】 薬物療法を受ける高齢者に関する事例検討（渡邊担当）	遠藤 (渡邊)				
5	病態生理学的変化の理解 呼吸器系、腎・泌尿器系、血液造血器系、代謝系、骨関節系							
6	病態生理学的変化の理解 自覚症状と老化現象との関連							
7~8	加齢による薬物動態と薬力学の変化と薬物療法の原則							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）								
成績評価方法	到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		40		
授業態度・授業への参加度		◎	◎	◎		20		
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		40		
テキスト・参考文献等	その都度提示する。							
履 修 条 件	研究コースの学生は、看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。専門看護師コース（老年看護専門看護師）の学生は、看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あり、そのうち老年看護学分野での看護師としての実務経験が3年以上あること。							
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。遠慮せずに相談されたい。事例検討で、Care と Cure を融合した高度な看護実践につなげるようにした。遠藤医師の講義は、国立長寿医療センター（愛知県大府市）で行う。							

授業科目名	老年病診断治療学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	1	1年
担当教員	遠藤英俊・向野義人・渡邊智子						
授業の概要	成人と異なる高齢者の特異的な疾病の症状・兆候の見分け方と治療、健康維持のための診断・治療について実践的に学び、老年看護においての臨床判断に必要な基礎知識を修得する。 老年看護専門看護師として Care と Cure を融合した高度な看護実践を行えるよう、老年期にある人の特異的な疾病の症状・兆候の見分け方と治療に必要な技術、態度を実践的に修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP 1：専門的知識	高齢者の疾病の特徴を説明できる。					
思考・判断・表現	DP 2：論理的思考力	高齢者の特異的な疾病の症状・兆候からリスクのレベルを診分けられる。 高齢者の特異的な疾病の症状・兆候からリスクのレベルに合わせた、適切な治療につなげるための知識を選択できる。					
	DP 3：表現力	高齢者の健康維持のための人体の捉え方と治療を東洋医学の視点から説明できる。					
関心・意欲・態度	DP 4：探求力	Care と Cure を融合した高度な看護実践ができるよう、老年期にある人の特異的な疾病の症状・兆候の見分け方と治療に必要な技術を使って、事例を検討できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	高齢者の問題点と老年病の特質	講義・演習	【事前課題】 老年病症候群の病態、症状、治療について、それぞれ、A4・1枚に関連図としてまとめる。 【事後課題】 課題をパワーポイントにまとめ、プレゼンテーション用資料を作成する。 ★課題を行うにあたり、看護教員の助言を受ける。	遠藤			
2	高齢者の疾病の特徴						
3	老年看護において留意すべき全身的兆候と治療 頭痛、意識障害、脱水、呼吸困難、発熱						
4	老年看護において留意すべき全身的兆候と治療 嚥下困難、排尿障害、めまい、しびれ、搔痒感						
5	老年看護において留意すべき全身的兆候と治療 認知症、うつ、せん妄						
6	老年看護において留意すべき症状と治療 脳血管疾患について						
7	老年看護において留意すべき症状と治療 神経系疾患について						
8	老年看護において留意すべき症状と治療 循環器系疾患について						
9	老年看護において留意すべき症状と治療 消化器系疾患について						
10	老年看護において留意すべき症状と治療 呼吸器系疾患について						
11	老年看護において留意すべき症状と治療 泌尿器系疾患・代謝性疾患について						
12	東洋医学からみた老年病				講義・演習	【事後課題】 M-Test を用いて高齢者の症状緩和事例を1例まとめて提出	向野
13	東洋医学における高齢者の診かた						
14~15	漢方治療 薬物療法も含む		【事後課題】 その都度提示する 【事後課題】 漢方治療を活用した高齢者の日常生活支援に関する事例検討（担当渡邊）	渡邊			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		40	
授業態度・授業への参加度		◎	◎	◎		30	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		30	
テキスト・参考文献等	その都度提示する						
履 修 条 件	研究コースの学生は、看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。専門看護師コース（老年看護専門看護師）の学生は、看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あり、そのうち老年看護学分野での看護師としての実務経験が3年以上あること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。遠慮せずに相談されてください。事例検討で、Care と Cure を融合した高度な看護実践につなげるようにした。遠藤医師の講義・演習は、国立長寿医療センター（愛知県大府市）、向野医師の講義・演習は、福岡大学スポーツ健康科学部（福岡県福岡市）で行う。						

授業科目名	高齢者看護方法論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	講義	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	2	1年	
担当教員	渡邊智子・吉岡佐知子・高梨早苗・マーレー寛子							
授業の概要	高齢者が起こしやすい複雑な健康事象について、倫理的な判断を含む高度な臨床看護判断により、高齢者とその家族の健康生活の維持・向上を支える看護実践方法を探る。							
学生の到達目標								
知識・理解	DP1：専門的知識	高齢者看護における臨床判断技術を説明できる。						
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	あらゆる健康レベル、障害レベルに応じた高齢者が健康的に老いることを支援する方法を説明できる。 疾病を持った高齢者への支援の方法を説明できる。 手術を受ける高齢者への支援の方法を説明できる。 薬物療法を受ける高齢者への支援の方法を説明できる。						
	DP3：表現力	高齢者の生活の質の向上に寄与する支援の方法を説明できる。						
関心・意欲・態度	DP4：探求力	高齢者が意思決定して、望む場で望む生活ができるように支援する方法を説明できる。						
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）								
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習（学習課題）		担当		
1	オリエンテーション 高齢者看護における臨床判断		講義	【事前課題】 提示資料を読んでくる。		渡邊		
2	高齢者の意思決定支援			【事後課題】 その都度提示する。		吉岡		
3～4	高齢者の健康レベルに応じた支援			【事後課題】 困難事例検討し、レポート提出		渡邊		
5～6	老年看護において留意すべき全身的兆候のある高齢者への支援 摂食・嚥下障害、排泄障害、脱水、呼吸困難			【事前課題】 授業内容に関する文献を検索 【事後課題】 その都度提示する。		高梨		
7～8	薬物療法を受ける高齢者への支援			【事前課題】 授業内容に関する文献を検索 【事後課題】 その都度提示する				
9～10	老年看護において留意すべき疾患に罹患している高齢者への支援 脳血管疾患（せん妄や認知症を含む） 循環器疾患、呼吸器疾患、運動器疾患、代謝性疾患、神経系疾患			【事前課題】 授業内容に関する文献を検索 【事後課題】 その都度提示する		渡邊		
11	手術を受ける高齢者への支援			【事前課題】 授業内容に関する文献を検索 【事後課題】 困難事例検討し、レポート提出				
12～13	「楽しむことができる」：心の健康への支援			【事後学習課題】 楽しさの経験と心の健康との関係についてのレポート		マーレー 渡邊		
14～15	高齢者の日常生活支援 感染対策も含む			【事前課題】 授業内容に関する文献を検索 【事後課題】 困難事例検討し、レポート提出		渡邊		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）								
成績評価方法	到達目標	知識・理解		思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎		◎	◎		40	
授業態度・授業への参加度				◎	◎		30	
受講者の発表（プレゼン）				◎	◎		30	
テキスト・参考文献等	その都度提示する。							
履修条件	研究コースの学生は、看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。専門看護師コース（老年看護専門看護師）の学生は、看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あること。							
学習相談・助言体制	オフィスパワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。遠慮せずに相談されてください。吉岡老人看護専門看護師（鳥根県松江市）、高梨老人看護専門看護師（愛知県大府市）の講義は、活動しているフィールドで行う。							

授業科目名	高齢者地域・家族看護方法論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	1	1年
担当教員	渡邊智子・尾形由起子・大谷るみ子						
授業の概要	高齢者とその家族が住んでいる地域の特性を理解し、家族への介入方法を習得し、老年看護専門看護師として、在宅高齢者と家族の効果的なケアと健康促進を支える看護実践方法を探る。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	地域における高齢者と家族の健康生活を支える地域看護の理論的枠組みを説明できる。高齢者の地域・家族の健康を地域看護の理論的枠組みを用いて説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	高齢者と家族介護者のケアニーズを説明できる。高齢者と家族介護者への介入方法を説明できる。					
	DP3：表現力	実践事例から、ケア過程を明確にし、支援のあり方を引き出すことができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	地域に住む高齢者と家族介護者ケアを探究し、老年看護専門看護師として活動するための自らの課題を挙げるができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			担 当	
1	地域における看護実践のための理論的枠組み：ヘルスプロモーション	講義	【事前課題】 コミュニティアズパートナーモデルについて学んでおく。 【事後課題】 住んでいる市町村における高齢者の健康課題を抽出する。			尾形	
2	地域における看護実践のための理論的枠組みを用いた高齢者と家族、地域の健康アセスメント						
3	高齢者と家族介護者のケアニーズアセスメント	講義	【事前・事後課題】 その都度提示する。			渡邊	
4	高齢者と家族介護者への介入						
5	地域での認知症高齢者と家族ケア 大牟田での実践事例	講義	【事前課題】 大牟田での実践を見学 【事後課題】 検討して学んだケア過程と支援のあり方をまとめて、レポート提出			大谷 渡邊	
6	実践者のケア過程から、健康促進支援のあり方の検討	報告者との対話					
7	地域に住む高齢者と家族介護者が健康生活を送る上での困難と工夫	プレゼンテーション、 講義、討論	【事前課題】 在宅高齢者と家族介護者に健康生活を送る上での困難と工夫と専門職への要望をテーマとして、対話し、困難と工夫についてまとめて、発表の準備			渡邊	
8	地域に住む高齢者と家族介護者への効果的なケア開発 専門職者からの話題提供	講義、ゲストスピーカーによる話題提供、 対話	【事前課題】 ゲストスピーカーが活動する地域包括ケア病棟と在宅医療連携室での看護実践を見学 【事後課題】 老年看護専門看護師として在宅高齢者と家族介護者へのケアを行う上での自らの課題についてレポート提出				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		40	
授業態度・授業への参加度			◎	◎		30	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		30	
テキスト・参考文献等	その都度提示する。						
履 修 条 件	研究コースの学生は、看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。専門看護師コース（老年看護専門看護師）の学生は、看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。遠慮せずに相談されてください。大谷講師の講義は、活動するフィールド（大牟田市）で行う。第8回目の講義は、ゲストスピーカーが活動するフィールド（飯塚市）で講義を行う。						

授業科目名	高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	渡邊智子・榎直美・屋良利枝・小出昭太郎・大谷るみ子・山口のり子	後期	講義	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	2	1年
授業の概要	<p>高齢者の保健医療福祉制度と政策の現状と展望をグローバルな視点から理解し、看護の立場から政策提言するまでのプロセスを学ぶ。</p> <p>また、高齢者とその家族を包括的視点からとらえ、最適なサービス調整や関係職種や住民との連携・協働を促進し、倫理的意思決定による継続看護を展開するための能力を養う。ソーシャルサポートの知識を用い、フィールドワークにより、高齢者に必要とされるサポートシステムの組織化と活用を促進するための計画を立案し、提案する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	<p>日本や諸外国の高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷を比較し、共通点と相違点とその影響要因を説明できる。</p> <p>日本の高齢者保健医療福祉の法律・政策・制度の現状と課題を明らかにし、説明できる。介護保険制度における市町村の役割と質保障のためのケアシステムのあり方を説明できる。</p> <p>高齢者とその家族の健康生活を支えるケアマネジメントにおける社会資源について説明できる。</p>					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	<p>高齢者ケア施設の組織を踏まえたチーム活動について説明できる。</p> <p>高齢者ケア施設でのコーディネーションの必要性和方法を説明できる。</p>					
	DP3：表現力	<p>高齢者とその家族の健康生活を支えるケアシステムの改善における老年看護専門看護師の役割と他職種との連携に関する課題を文献検討で明らかにする。</p>					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	<p>認知症高齢者とその家族のソーシャル・サポートシステム構築の実践事例から成功の秘訣を導き出すことができる。</p> <p>地域・在宅で生活する高齢者とその家族のソーシャル・サポートシステムの開発のための計画を立案し、提案する。</p>					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）			担当	
1	オリエンテーション 日本の高齢者保健医療福祉制度と政策の歴史の変遷	講義	【事後課題】 日本の高齢者保健医療福祉制度と政策の歴史の変遷をまとめて、レポートを提出			渡邊	
2	諸外国における高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷		【事前・事後課題】 なし			小出	
3	日本における高齢者保健医療福祉制度と政策の現状と課題		【事後課題】 介護保険制度での仕組みの課題について諸外国との比較から考えをまとめレポートを提出				
4	介護保険制度におけるサービスの質保障のためのシステムのあり方		【事後課題】 高齢者とその家族を支えるケアマネジメントの在り方について考えをまとめレポート提出			榎	
5	ケアマネジメントと社会資源の活用		【事後課題】 地域包括ケアシステムの仕組みについて調べレポート提出				
6	家族介護者のニーズを満たすためのケアシステムのあり方		【事後課題】 高齢者の自己効力感やエンパワメントに関連する文献レビューを行いレポート提出				
7	地域住民参加・共同型における保健行動変容への動機付け		【事前・事後課題】 なし			屋良	
8	高齢者ケア施設の組織の理念・目標と組織活動		【事前・事後課題】 その都度提示する				
9	高齢者ケア施設でのコーディネーション（倫理調整も含む）		【事前課題】 退院調整事例を1件ケースレポート				
10	高齢者ケア施設でのチーム活動と他職種との協働		【事後課題】 文献検討により高齢者とその家族の健康生活を支えるケアシステムの改善における老年看護専門看護師の役割と他職種との連携に関する課題についてレポート提出			渡邊	
11	包括的視点からのサービス調整や関係職種や住民との連携・協働と老年看護専門看護師の役割	講義 プレゼンテーション 討論					

12	認知症高齢者と家族のソーシャル・サポートケアシステム構築 大牟田での看護職による実践事例	講義	【事前課題】 大牟田での実践を見学 【事後課題】 実践事例の成功の過程と成功の秘訣についてレポート提出	大谷 渡邊		
13	実践事例から成功の過程の明確化	報告者との対話				
14	地域・在宅で生活する高齢者と家族のソーシャル・サポートケアシステムの現状	講義・報告者との対話	【事後課題】 田川市地域包括支援センターでの高齢者と家族のソーシャル・サポートケアシステムの現状分析とソーシャル・サポートケアシステムの開発のための計画を立案	山口		
15	地域・在宅で生活する高齢者と家族のソーシャル・サポートケアシステムの開発 専門職者からの評価	プレゼンテーション 講義 討論	【事後課題】 老年看護専門看護師として在宅高齢者と家族介護者へのケアを行う上での自らの課題についてレポート提出	小出 山口 渡邊		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		30
授業態度・授業への参加度			◎	◎		30
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎	◎		40
テキスト・参考文献等	その都度提示する。					
履修条件	研究コースの学生は、看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。専門看護師コース（老年看護専門看護師）の学生は、看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あること。					
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。遠慮せずに相談されてください。大谷講師（大牟田市）、山口講師（田川市）の講義は、講師が活動するフィールドで行う。					

授業科目名	終末期高齢者看護論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	赤司千波・渡邊智子・田中美智子・奥 祥子・廣瀬理絵・Je-Kan・Adler-Collins・森山由香・柏木秀行・藤崎陽子	後期	演習	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	2	1年
授業の概要	終末期にある高齢者を全人的に理解し、健やかに老い、安らかに永眠することを支え、その家族が高齢者を看取り、悲嘆作業を支える看護実践方法を修得する。 高齢者が人生の終末期に尊厳を持ち、生を全うできるよう、老年看護専門看護師として高度な看護実践を行うための知識、技術、価値を修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	終末期にある高齢者を取り巻く社会的背景と看護の歴史の変遷を説明できる End of Life Care の概念を説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	終末期にある高齢者を取り巻くソーシャルサポート・ネットワークの拡大と質の向上のための看護介入と多職種連携の方法を説明できる。 終末期にある高齢者を、理論・先行研究・自己の経験知を統合し全人的に理解し、説明できる。 終末期にある高齢者の家族が高齢者を看取り、悲嘆作業を行えるよう、理論・先行研究・自己の経験知を統合し全人的に理解し、説明できる。					
	DP3：表現力	終末期にある高齢者の尊厳ある生と死に関わる権利擁護のための倫理的意思決定の方法を理解し、実際の事例に適用してプレゼンテーションできる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	終末期にある高齢者のアセスメント方法・日常生活支援の方法を理解し、事例に適用して説明できる。					
技能	DP6：実践力	終末期の安寧な生活を支えるためのヒーリングが実践できる。 終末期にある高齢者とその家族への介入を実践して、老年看護専門看護師として、終末期老年看護の今後の課題を明確にする。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1～2	オリエンテーション 終末期にある高齢者を取り巻く社会的背景と看護の歴史の変遷	講義・演習	【事前課題】 厚生労働省のHPから終末期医療について検索し、まとめてくること。	赤司 (渡邊)			
3～4	エンドオブライフケアの概念		【事前・事後課題】 その都度提示する	赤司			
5～6	終末期にある高齢者の尊厳ある生と死に関わる権利と倫理的意思決定		【事前課題】 「concordance」で文献検索と文献検討 【事後課題】 緩和ケアに関するケースレポート提出	廣瀬			
7～8	終末期にある高齢者のヘルスアセスメント		【事前・事後課題】 その都度提示する	奥			
9～10	終末期にある高齢者の緩和ケア（ペインコントロールを中心に）と意思決定支援		【事後課題】 授業終了後課題テーマに沿ってレポート提出	渡邊			
11～12	終末期を迎える準備		【事前・事後課題】 その都度提示する	奥			
13～14	家族の悲嘆作業の支援		【事後課題】 授業終了後課題テーマに沿ってレポート提出	渡邊			
15～16	終末期にある高齢者のソーシャルサポート・ネットワークと連携・協働のあり方		【事前・事後課題】 その都度提示する	Je-Kan			
17～20	終末期にある高齢者と家族の安寧な生活を支える方法 ヒーリングの実践		【事前課題】 呼吸器の解剖生理に関しての事前に提示した課題、提出 【事後課題】 講義内容のポイント（呼吸を整える方法）に関してレポート提出	田中（美）			

23~24	終末期にある高齢者と家族の安寧な生活を支える方法1 排泄支援 ゲストスピーカーとの対話による支援方法の検討	講義・演習	【事前課題】 終末期にある高齢者と家族の安寧な生活の阻害要因を文献検討 【事後課題】終末期にある高齢者への日常生活援助（食事、排泄、衣生活、清潔、レクリエーション）から一つテーマを選択し、テーマに関するケースレポート提出	渡邊			
25~26	終末期にある高齢者と家族の安寧な生活を支える方法2 日常生活援助 (食事、衣生活、清潔、レクリエーション等) 事例からの支援方法の検討						
27~28	フィールドでの事例検討Ⅰ 終末期高齢者看護の課題		【事前課題】 ケースレポート作成 【事後課題】 事例検討後の学びに関してレポート提出	森山 柏木 廣瀬 渡邊			
29~30	フィールドでの事例検討Ⅱ 老年看護専門看護師としての終末期高齢者看護の課題		【事前課題】 ケースレポート作成 【事後課題】 事例検討後の学びに関してレポート提出	藤崎 廣瀬 渡邊			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート			◎	◎	◎		30
授業態度・授業への参加度				◎	◎		20
受講者の発表（プレゼン）				◎	◎		30
演習						◎	20
テキスト・参考文献等	その都度提示する。						
履修条件	研究コースの学生は、看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。専門看護師コース（老年看護専門看護師）の学生は、看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。遠慮せずに相談されたい。第27回～第30回のフィールドでの事例検討は、実習場で行う。						

授業科目名	認知症高齢者看護論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	渡邊智子・高山成子・木村武実・小路純央・江上史子・マーレー寛子・大谷るみ子・吉岡 薫・得居みのり・大塚尊子・稲野聖子・屋良利枝	前期	演習	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	2	2年
授業の概要	<p>認知症とともに生きる高齢者とその家族を全人的に理解し、健やかに老い、自分の持っている力を最大限に発揮し、安心して、尊厳ある生活を送ることを支える看護実践方法を修得する。</p> <p>認知症とともに生きる高齢者とその家族が尊厳を持ち生活を送れるよう、老年看護専門看護師として高度な看護実践を行うための知識、技術、価値を修得する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	認知症高齢者を取り巻く社会的背景と看護の歴史の変遷を説明できる。 認知症高齢者看護支援の概念を説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	認知症高齢者との対話の方法を説明できる。 認知症高齢者とその家族ととりまくソーシャルサポート。ネットワークの拡大と質の向上のための看護介入と他職種連携のための方法を説明できる。 認知症高齢者を理論・先行研究・自己の経験知を統合し、全人的に理解し、説明できる。					
	DP3：表現力	認知症高齢者が、安心して、尊厳ある生活を送るために、権利擁護のための倫理的意思決定を支える方法を理解し、実際の事例に適用してプレゼンテーションできる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	認知症高齢者とその家族のアセスメント方法・日常生活支援の方法を理解し、事例に適用して説明できる。					
技能	DP6：実践力	認知症高齢者とその家族が、安心して、尊厳ある生活を送ることを支えるためのレクリエーションを企画し、実践できる。 認知症高齢者とその家族への介入を実践して、老年看護専門看護師として、認知症高齢者看護の今後の課題を明確にする。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1～2	認オリエンテーション 認知症高齢者を取り巻く社会的背景と看護の歴史の変遷	講義・演習	【事前課題】 厚生労働省 HP から認知症高齢者対策について検索し、まとめてくること。	渡邊			
3～4	認知症高齢者看護支援とは		【事前課題】 認知症高齢者の1事例の生活情報を持参。	高山			
5～6	認知症高齢者との対話		【事前課題】 認知症高齢者との対話をプロセスレコードにする。 【事後課題】 1例、認知症高齢者のヘルスアセスメントを実践して、看護の方向性を導き出し、レポートとして提出。	渡邊			
7～8	認知症高齢者へのヘルスアセスメントと認知機能評価		【事前・事後課題】 その都度提示する	小路			
9～10	疾患の種類と診断基準、検査・治療、症状 (アルツハイマー病、レビー小体病、前頭側頭葉認知症等)		【事前課題】 指定した体験記を読み、要約する。	渡邊			
11～12	認知症高齢者、家族介護者の体験世界		【事前課題】 BPSD の考え方や対応についての文献を持ち寄る。 【事後課題】 演習での話し合いも含めてレポートにまとめる。	江上			
13～14	BPSD の理解と看護						

15~16	認知症高齢者の倫理的意思決定	講義・演習	【事前課題】 医療倫理の基本原則の知識 学習と倫理的問題の発生し た実践事例	高山
17~18	成年後見制度		【事前課題】 ポジティブな事例検討の仕 方に関する文献を1つ調べ てくる 【事後課題】 スタッフ教育方法としての 事例検討を用い実践して、 ケースレポート提出	渡邊
19~20	認知症高齢者看護におけるスタッフ教育と連携・協働		【事後課題】 認知症高齢者の健康生活を 支える方法としてのレクリ エーション計画立案	マーレー
21~22	認知症高齢者の健康生活を支える方法 「楽しさ」を支援する		【事前課題】 講師が準備したグループ ホームで日常生活援助を実 践 【事後課題】 認知症高齢者の日常生活援 助（食事、排泄、衣生活、清 潔）から一つテーマを選択 し、実践して、ケースレポ ートを作成し、提出	大谷
23~24	認知症高齢者の健康生活を支える方法 日常生活の援助（食事、排泄、衣生活、清潔等）		【事後課題】 認知症予防又は生活リズム 調整、レスパイトケアの テーマで、文献検討をして、 まとめて提出	渡邊
25~26	認知症高齢者と家族の健康生活を支える方法 認知症予防、生活リズム調整、レスパイトケア		【事前課題】 ケースレポート作成 【事後課題】 事例検討のまとめについて レポート提出	木村 吉岡 渡邊
27~28	フィールドでの事例検討Ⅰ 認知症高齢者看護実践での困難		【事前課題】 ケースレポート作成 【事後課題】 事例検討のまとめについて レポート提出	得居 又は 大塚・稲野 又は 屋良 江上・渡邊
29~30	フィールドでの事例検討Ⅱ 老年看護専門看護師としての認知症高齢者看護実践での困難			

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		
授業態度・授業への参加度			◎	◎		
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		
演習					◎	

テキスト・参考文献等	その都度提示する。
------------	-----------

履修条件	研究コースの学生は、看護師免許を有し、看護職者としての実務経験があること。専門看護師コース（老年看護専門看護師）の学生は、看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あること。
------	---

学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。遠慮せずに相談されてください。小路講師（久留米市）、大谷講師（大牟田市）の講義は、講師が活動するフィールドで行う。また、マーレー講師の講義は、講師が指定したフィールドで行う。第27回～第30回のフィールドでの事例検討は、実習場で行う。第29回～第30回の講師は、選択した実習場の実習指導も兼ねている。
-----------	---

授業科目名	終末期老年看護実習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	渡邊智子・廣瀬理絵	後期	実習	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	2	1年
授業の概要	急性期病院に入院中の終末期にある高齢者を受け持ち、病院から在宅・病院・施設への移行を見据えて、これまで学んだ理論やモデル、アセスメントや看護実践方法に関する知識と技術を統合して実践に適用し、高齢者が人生の終末期に尊厳を持ち、生を全うできるよう症状をコントロールしながら、その家族は高齢者を看取り、悲嘆作業ができるような看護実践能力を養う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	終末期にある高齢者を複数受け持ち、高齢者の診断や病態、治療方針を説明できる。受け持ち高齢者とその家族の状況と診断や病態、治療方針から包括的にアセスメントし、受け持ち高齢者とその家族の健康課題を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	終末期にある高齢者が入院している医療機関の特性、看護部と病棟が目指す看護理念を理解し、実習計画を立案できる。受け持ち高齢者とその家族の担当看護師と共に、医師の指示を理解し、治療処置と生活支援を統合した看護目標を設定し、共有する					
関心・意欲・態度	DP5：社会公権力	担当看護師と受け持ち高齢者とその家族と共に、在宅・病院・施設への移行を視野に入れて、倫理的な意思決定を含む具体的な援助方法に関して合意形成できる。担当看護師と協議して、実践した看護を振り返り、評価できる。					
技能	DP6：実践力	担当看護師と協働して、緩和ケアチームにコンサルテーションしながら、病棟看護チームの意見を取り入れながら、受け持ち高齢者とその家族への看護実践(症状コントロール)ができる。 老年看護専門看護師として、終末期高齢者看護での直接ケアにおける自己の課題をレポートとしてまとめ、自己の実践を振り返りかえることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1. 実習期間：1年次後期 2週間（10日間）2単位</p> <p>2. 実習場所：教員が準備した施設で実習する。</p> <p>3. 実習内容：治療処置と生活支援を統合した看護目標を設定し、直接ケアを実践する。</p> <p>1) 教員に指導を受けながら実習計画を立案する。</p> <p>2) 常に倫理的視点をもちながら、3例以上の終末期にある高齢者とその家族の看護を実践する。</p> <p>3) 実践の内容は、研究的視点をもって高齢者の健康状態の包括的な把握とかかわる人々との関係性の把握、高齢者の健康課題に関する病態生理把握と分析、適用される治療方法とそれに伴う高齢者と家族の健康課題の把握を行う。</p> <p>4) 実習10日間の直接ケア事例の3例を所定の用紙にまとめる。</p> <p>5) 老年看護専門看護師として、直接ケアにおける自己の課題を明確にし、今後に反映させる。</p> <p>※ 詳細は、2016年度版 終末期老年看護実習 I 実習要項を参照すること。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
実習計画		◎	◎			20	
実習態度実習への参加度				◎	◎	20	
実習記録		◎			◎	30	
カンファレンス				◎		20	
実習場看護管理者評価			◎			10	
テキスト・参考文献等	その都度提示する。						
履修条件	看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あり、そのうち老年看護学分野での看護師としての実務経験が3年以上あること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。リフレクションによって、自己の傾向に気付き、経験を意味づけし、実践力向上につながるように、実習の間で、演習としての事例検討を入れている。						

授業科目名	終末期老年看護実習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	渡邊智子・廣瀬理絵	後期	実習	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	3	1年
授業の概要	<p>終末期にある高齢者（特に認知症高齢者）を受け持ち、病院・施設・在宅間の移行を見据えて、これまで学んだ理論やモデル、アセスメントや看護実践方法に関する知識と技術を統合して実践に適用し、研究的視点を持ち、保健医療福祉チームとの連携・協働等のケアマネジメントしながら、高齢者が人生の終末期に尊厳を持ち、生を全うできるよう症状をコントロールし、その家族は高齢者を看取り、悲嘆作業ができるような看護実践能力を養う。将来、老年看護専門看護師として活動する場を選択して、その場に応じた臨床看護判断能力を獲得する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	<p>終末期にある高齢者を複数受け持ち、受け持ち高齢者の診断や病態、治療方針を説明できる。 受け持ち高齢者とその家族の状況と診断や病態、治療方針から包括的にアセスメントし、受け持ち高齢者とその家族の健康課題を説明できる。</p>					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	<p>終末期にある高齢者やその家族を擁護するために、倫理的な問題や葛藤の有無をアセスメントし、解決する。 終末期にある高齢者とその家族へのケア内容やケア提供システムについて現状を把握し、病棟・施設看護チーム、臨書実習指導者と共によりよい方向に向けたケア提供について検討できる。</p>					
	DP3：表現力	<p>終末期にある高齢者が入院している医療機関の特性、看護部と病棟が目指す看護理念を理解し、実習計画を立案できる。 受け持ち高齢者とその家族の担当看護師と共に、治療処置と生活支援を統合した看護目標を設定し、共有する。 必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる他職種と連携し、他職種との調整を行うことができる。</p>					
関心・意欲・態度	DP5：社会貢献力	<p>担当看護師と受け持ち高齢者とその家族と共に、在宅・病院・施設への移行を視野に入れて、倫理的な意思決定を含む具体的な援助方法に関して合意形成できる。 担当看護師と協働して、実践した看護を振り返り、評価できる。</p>					
技能	DP6：実践力	<p>担当看護師と協働して、臨床実習指導者にコンサルテーションしながら、病棟・施設のケアチームの意見を取り入れ、エンド・オブ・ライフケアの視点で、理論・知識・技術を実践に適用・統合し、看護実践する。 老年看護専門看護師として、終末期高齢者看護での直接ケア、調整（倫理調整を含む）における自己の課題をレポートとしてまとめ、自己の実践を振り返りかえることができる。</p>					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1. 実習期間：1年次後期 3週間（15日間）3単位 2. 実習場所：教員が準備した施設の中で、1施設選択して実習する。 3. 実習内容：直接ケア、調整（倫理調整を含む）を実践する。 1）教員に指導を受けながら実習計画を立案する。 2）常に倫理的視点を持ちながら、3例以上の終末期高齢者とその家族の看護を実践する。 3）実践の内容は、研究的視点をもって高齢者の健康状態の包括的な把握とかかわる人々との関係性の把握、高齢者の健康課題に関する病態生理把握と分析、適用される治療方法とそれに伴う高齢者と家族の健康課題の把握を行う。 4）実習15日間の直接ケア事例の3例、調整（倫理調整を含む）の事例2例を所定の用紙にまとめる。 5）老年看護専門看護師として、直接ケア、調整（倫理調整を含む）における自己の課題を明確にし、今後に反映させる。 ※ 詳細は、2016年度版 終末期老年看護実習Ⅱ実習要項を参照すること。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
実習計画		◎	◎			10	
実習態度・実習への参加度			○	◎	◎	30	
実習記録		◎	◎	○	◎	40	
カンファレンス				◎		10	
実習場看護管理者評価			◎			10	
テキスト・参考文献等	その都度提示する。						
履修条件	看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あり、そのうち老年看護学分野での看護師としての実務経験が3年以上あること。終末期老年看護実習Ⅰを履修していること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。実習の間で、授業としての事例検討を入れることで、リフレクションによって、自己の傾向に気づき、経験を意味づけし、実践力向上につながる工夫をした。						

授業科目名	認知症老年看護実習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	2	2年
担当教員	渡邊 智子						
授業の概要	認知症治療専門病院に入院中のBPSDと健康障害により身体管理が必要となった認知症高齢者を受け持ち、これまで学んだ理論やモデル、アセスメントや看護の方法に関する知識と技術を統合して実践に適用し、症状をコントロールしながら、認知症高齢者とその家族が尊厳を持ち生活を送れるような看護実践能力を修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	認知症高齢者が入院している医療機関の特性、看護部と病棟が目指す看護理念を理解し、説明できる。 BPSDで健康障害のある認知症高齢者を複数受け持ち、受け持ち高齢者の診断や病態、治療方針を説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	受け持ち高齢者とその家族の状況と診断や病態、治療方針から包括的にアセスメントし、受け持ち高齢者とその家族の健康課題を説明できる。					
	DP3：表現力	受け持ち高齢者とその家族の担当看護師と共に、医師の指示を理解し、治療処置と生活支援を統合した看護目標を設定し、共有する。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	老年看護専門看護師として、直接ケアと教育における今後の課題を明確にすることができる。					
	DP5：社会貢献力	担当看護師と受け持ち高齢者とその家族と共に、在宅・病院・施設への移行を視野に入れて、倫理的な意思決定を含む具体的な援助方法に関して合意形成できる。					
技能	DP6：実践力	担当看護師と共に、他職種と協働して、受け持ち高齢者とその家族への看護実践(身体管理、症状コントロール)ができる。 病棟看護管理者の協力を得て、病棟カンファレンスを開催し、受け持ち高齢者とその家族ケアについて、問題点や改善すべき点について情報共有し、病棟でのチームによる看護実践ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1. 実習期間：2年次前期 2週間（10日間）2単位</p> <p>2. 実習場所：教員が準備した施設で実習する。</p> <p>3. 実習内容：治療処置と生活支援を統合した看護目標を設定し、直接ケア、教育を実践する。</p> <p>1) 教員に指導を受けながら実習計画を立案する。</p> <p>2) 常に倫理的視点をもちながら、3例以上の認知症高齢者とその家族の看護を実践する。</p> <p>3) 実践の内容は、研究的視点をもって高齢者の健康状態の包括的な把握とかかわる人々との関係性の把握、高齢者の健康課題に関する病態生理把握と分析、適用される治療方法とそれに伴う高齢者と家族の健康課題の把握を行う。</p> <p>4) 実習10日間の直接ケア事例の3例を所定の用紙にまとめる。</p> <p>5) 老年看護専門看護師として、直接ケアにおける自己の課題を明確にし、今後に反映させる。</p> <p>※ 詳細は、2016年度版 認知症老年看護実習 I 実習要項を参照すること。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
教育計画		◎	◎			10	
実習態度・実習への参加度			◎	◎	◎	30	
実習記録		◎	◎	◎	◎	40	
カンファレンス				◎		10	
実習場看護管理者評価			◎			10	
テキスト・参考文献等	その都度提示する。						
履修条件	看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あり、そのうち老年看護学分野での看護師としての実務経験が3年以上あること。終末期老年看護実習 I・IIを履修していること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。リフレクションによって、自己の傾向に気づき、経験を意味づけし、実践力向上につながるように、実習の間で、演習としての事例検討を入れている。						

授業科目名	認知症老年看護実習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択 (老年看護 専門看護師 コース必修)	3	2年
担当教員	渡邊智子・江上史子						
授業の概要	老人看護専門看護師が活動している病院又は施設で、認知症高齢者とその家族に対して、急性期病院から在宅移行、在宅での継続を見据えて、研究的視点を持ち、倫理的判断を含む臨床看護判断による高度な看護実践を行う。ケアスタッフからの相談とスタッフ教育、保健医療福祉チームとの連携・協働によるケア開発能力を修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	受け持ち高齢者とその家族の状況と診断や病態、治療方針から包括的にアセスメントし、受け持ち高齢者とその家族の健康課題を説明できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	認知症高齢者と家族へのケア内容やケア提供システムについて現状を把握し、病棟又は施設ケアチームと共によりよい方向に向けたケア提供について検討できる。					
	DP3：表現力	認知症高齢者が入院・入所や施設利用している医療機関又は施設の特性、看護部と病棟が目指す看護理念を理解し、実習計画を立案できる。 受け持ち高齢者とその家族の担当看護師と共に、治療処置と生活支援を統合した看護目標を設定し、共有する。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	研究的視点を持って、担当看護師と共に、老人看護専門看護師にコンサルテーションしながら、病棟・施設のケアチームの意見を取り入れ、認知症高齢者とその家族が尊厳をもち生活が送れるよう看護実践できる。					
	DP5：社会貢献力	担当看護師と受け持ち高齢者とその家族と共に、在宅・病院・施設への移行を視野に入れて、倫理的な意思決定を含む具体的な援助方法に関して合意形成できる。					
技能	DP6：実践力	担当看護師と協働して、実践した看護を振り返り、評価できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1. 実習期間：2年次前期 3週間（15日間）3単位</p> <p>2. 実習場所：教員が準備した老人看護専門看護師が活躍する病院や施設の中で、1箇所選択し、実習を行う。</p> <p>3. 実習内容：認知症（終末期も含む）高齢者看護での直接ケア中心に専門看護師役割実習を行う。</p> <p>1）教員に指導を受けながら実習計画を立案する。</p> <p>2）常に倫理的視点を持ちながら、3例以上の認知症高齢者とその家族の看護を実践する。</p> <p>3）実践の内容は、研究的視点をもって高齢者の健康状態の包括的な把握とかかわる人々との関係性の把握、高齢者の健康課題に関する病態生理把握と分析、適用される治療方法とそれに伴う高齢者と家族の健康課題の把握を行う。</p> <p>4）実習15日間の直接ケア事例の3例、調整（倫理調整を含む）の事例2例、教育事例1例を所定の用紙にまとめる。</p> <p>5）老年看護専門看護師として、サブスペシャリティ分野の直接ケア、教育、調整、倫理調整、コンサルテーションにおける自己の課題を明確にし、今後に反映させる。</p> <p>※ 詳細は、2016年度版 認知症老年看護実習Ⅱ実習要項を参照すること。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
実習計画		◎	◎			10	
実習態度・実習への参加度			◎	◎	◎	30	
実習記録		◎	◎	◎	◎	30	
カンファレンス				◎		10	
実習場老人看護専門看護師と看護管理者による評価			◎	○	◎	20	
テキスト・参考文献等	その都度提示する。						
履修条件	看護師免許を有し、看護の実務経験が5年以上あり、そのうち老年看護学分野での看護師としての実務経験が3年以上あること。終末期老年看護実習Ⅰ・Ⅱ、認知症老年看護実習Ⅰを履修していること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを設ける。メールや電話・テレビ電話等による相談を受ける。リフレクションによって、自己の傾向に気づき、経験を意味づけし、実践力向上につながるように、実習の間で、演習としての事例検討を入れている。						

授業科目名	成人看護学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	村田節子・赤司千波・宮園真美・大島 操・中井裕子・柳迫昌美・本田裕美						
授業の概要	成人期の特徴を振り返り、成人が疾患を抱えて生活する状況について個人、家族、コミュニティーなどさまざまなレベルでの影響を考える。その中で、疾患が身体機能や行動にどのように影響するかを検討し、それが対象者の生活に及ぼす影響について考察を深める。さらにがんに対する治療が行動や生活に及ぼす影響について検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	成人看護分野及び関連分野の中から自分の研究テーマに沿った知識を深め適切に引用することができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	適切な文献を元に、研究テーマに関連する内容について根拠や推論を示しながら論述することができる。					
	DP3：表現力	研究テーマに関して、適切な表現や方法を用いてわかりやすく論述できる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	研究テーマ及び関連分野に関して最新のトピックスや研究の動向を探り、常に自分の次の課題を明確にして取り組むことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	成人の特徴及び成人期の疾病行動		講義		村田・赤司・宮園・中井		
2	成人の特徴及び成人期の疾病行動：急性期疾患の特徴		文献のクリティーク及び討論		村田・赤司・宮園・中井		
3	成人の特徴及び成人期の疾病行動：急性期疾患の特徴		文献のクリティーク及び討論		村田・赤司・宮園・中井		
4	成人の特徴及び成人期の疾病行動：慢性期疾患の特徴		講義		村田・赤司・宮園・中井		
5	同成人の特徴及び成人期の疾病行動：慢性期疾患の特徴		文献のクリティーク及び討論		村田・赤司・宮園・中井		
6	急性期看護とアセスメントの特徴		文献のクリティーク及び討論		村田・赤司・宮園・中井		
7	急性期看護とアセスメントの特徴		講義		村田・赤司・宮園・中井		
8	慢性期看護とアセスメントの特徴		文献のクリティーク及び討論		村田・赤司・宮園・中井		
9	慢性期看護とアセスメントの特徴		文献のクリティーク及び討論		村田・赤司・宮園・中井		
10	事例を用いたアセスメント		事例検討		村田・赤司・宮園・中井・柳迫		
11	同上		事例検討		村田・赤司・宮園・中井・本田		
12	同上		事例検討		村田・赤司・宮園・中井		
13	同上		事例検討		村田・赤司・宮園・中井		
14	同上		文献のクリティーク及び討論		村田・赤司・宮園・中井		
15	まとめ		討論		村田・赤司・宮園・中井		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート			◎	◎	○		50
授業態度・授業への参加度					◎		20
受講者の発表（プレゼン）					◎		30
その他					○		10
補足事項			教員と時間調整を行い、スケジュールを決定する。授業参加態度はディスカッションの状況（準備、参加等を含む）。				
テキスト・参考文献等	適宜紹介。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	学生との時間調整、メールなどで適宜対応した内容を学生にフィードバック。						

授業科目名	成人看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	村田節子・赤司千波・宮園真美・中井裕子・大島 操・柳迫昌美・瀧 雅子						
授業の概要	前期で学習した、成人期の対象者の特徴を踏まえ、事例や文献を基に、援助方法に関するディスカッションを行う。 これまでのケアの成り立ちやエビデンスを検証し、より良い援助方法について検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	専門分野の看護を計画、実践するための根拠を文献を用いて述べることができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	専門知識を用いてケア必要性や実施の根拠を示しながら適切なケア方法を選択できる。また実施するための条件や適切な実施方法について根拠を用いて論述できる。研究テーマに関して学んだことを応用して論述することができる。					
	DP3：表現力	適切な表現や方法を用いてわかりやすく論述できる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	最新のトピックスや研究の動向を探り、常に自分の次の課題を明確にして取り組むことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1～2	模擬事例による看護計画と看護診断：情報収集		文献レビュー、クリティーク		村田・赤司・宮園・中井		
3～4	模擬事例による看護計画と看護診断：アセスメント		文献レビュー、クリティーク		村田・赤司・宮園・中井		
5～6	模擬事例による看護計画と看護診断：アセスメント		文献レビュー、クリティーク		村田・赤司・宮園・中井		
7～8	模擬事例による看護計画と看護診断：目標設定		文献レビュー、クリティーク		村田・赤司・宮園・中井		
9～10	模擬事例による看護計画と看護診断：看護介入の選択とエビデンス		文献レビュー、クリティーク		村田・赤司・宮園・中井		
11～12	模擬事例による看護計画と看護診断：看護介入の選択とエビデンス		文献レビュー、クリティーク		村田・赤司・宮園・中井		
13～14	事例検討		討論		村田・赤司・宮園・中井・柳迫		
15～16	事例検討		討論		村田・赤司・宮園・中井・瀧		
17～18	事例検討		討論		村田・赤司・宮園・中井		
19～20	事例検討		討論		村田・赤司・宮園・中井		
21～22	テーマに基づいた文献レビュー		文献レビュー、クリティーク		村田・赤司・宮園・中井		
23～24	テーマに基づいた文献レビュー		文献レビュー、クリティーク		村田・赤司・宮園・中井		
25～26	テーマに基づいた文献レビュー		文献レビュー、クリティーク		村田・赤司・宮園・中井		
27～28	テーマに基づいた文献レビュー		グループワーク		村田・赤司・宮園・中井		
29～30	テーマに基づいた文献レビュー		グループワーク		村田・赤司・宮園・中井		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		40	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表（プレゼン）		○	○	◎		20	
演習		◎	◎			20	
補足事項	教員と時間調整を行い、スケジュールを決定する。討論では学生が主体的に方法について検討し実施する。						
テキスト・参考文献等	適宜紹介。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	教員と時間調整を行い、スケジュールを決定する。授業参加態度はディスカッションの状況（準備、参加等を含む）。						

授業科目名	がん病態学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	平田秀紀・芋川 浩・渡邊壽美子・齋藤俊章・佐伯由香・油布祐二						
授業の概要	前期で学習した、成人期の対象者の特徴を踏まえ、事例や文献を基に、援助方法に関するディスカッションを行う。 これまでのケアの成り立ちやエビデンスを検証し、より良い援助方法について検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	専門分野の看護を計画、実践するための根拠を文献を用いて述べることができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	専門知識を用いてケア必要性や実施の根拠を示しながら適切なケア方法を選択できる。また実施するための条件や適切な実施方法について根拠を用いて論述できる。研究テーマに関して学んだことを応用して論述することができる。					
	DP3：表現力	適切な表現や方法を用いてわかりやすく論述できる					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	最新のトピックスや研究の動向を探り、常に自分の次の課題を明確にして取り組むことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法			担 当	
1～3	DNA複製、細胞増殖		講義			芋川	
4	がんの病態学		講義			渡邊	
5～6	浸潤・転移の機序		講義			渡邊	
7	診断		講義			齋藤	
8	治療（摘出手術及び合併症）		講義				
9	治療（化学療法ならびにその副作用）		講義			油布	
10	治療（放射線療法ならびにその副作用）		講義				
11	がん患者の代謝異常		講義			平田	
12			講義				
13～14	がんの病態生理		講義			佐伯	
15			演習				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		70	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
その他		○	○	○		10	
補足事項		教員と時間調整を行い、スケジュールを決定する。討論では学生が主体的に方法について検討し実施する。					
テキスト・参考文献等	適宜紹介。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	教員と時間調整を行い、スケジュールを決定する。授業参加態度はディスカッションの状況（準備、参加等を含む）。						

授業科目名	がん看護学特論Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	村田節子・奥 祥子・鈴木志津枝						
授業の概要	<p>1. がん患者及びその家族ががんと生きることを支援するために必要な看護インターベンションの理論と援助方法及び臨床における活用方法を理解する。</p> <p>2. がんサバイバーシップの概念を踏まえて、これからの看護インターベンションのあり方を理解する。</p> <p>3. がん看護に関する研究をクリティークし、国内外の動向を理解するとともに、自らが目指す看護のあり方について論述することができるようになる。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	がんに看護及びがん医療に関する幅広い知識を深め論述できる。適切な理論や概念を活用して論述できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	がん看護専門看護師に求められる6つの役割に沿って必要な内容を選択し論述できる。					
	DP3：表現力	専門的な知識に基づき、適切な方法と媒体を用いて表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	がん看護及びがん医療に関して常に自分の次の課題を明確にして取り組むことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	がんサバイバーシップの概念の理解・これからのがん看護、看護インターベンションの定義・分類システムの考え方など		講義及び演習（テキスト2）		村田		
2			講義及び演習		村田		
3	全体性のパラダイムからのがん看護インターベンション（マーサ・ロジャーズやマーガレット・ニューマンの理論を踏まえたインターベンションモデル）		講義及び演習		村田		
4			講義及び演習		村田		
5			講義及び演習		村田		
6	がん患者の家族に関する理論		講義		鈴木		
7			講義		鈴木		
8			文献のクリティークとそれに基づく討論		鈴木		
9	がん患者に対する心理・社会的介入及び意思決定に関する理論		講義（テキスト1）		村田		
10			文献のクリティークとそれに基づく討論（テキスト1）		村田		
11			文献のクリティークとそれに基づく討論		村田		
12	悲嘆に関する理論		講義		奥		
13			文献のクリティークとそれに基づく討論		奥		
14	看護インターベンションに関する研究論文の検討		文献のクリティークとそれに基づく討論		村田		
15			文献のクリティークとそれに基づく討論		村田		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		60	
授業態度・授業への参加度				◎		10	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎	◎		10	
その他		◎	◎	◎		20	
テキスト・参考文献等	<p>1. 朝倉隆監訳デヴィッド・スピーゲル著：がん患者と家族のためのサポートグループ、医学書院</p> <p>2. 野島／富川監訳、Snyder & Lindquist：心とからだの調和を生むケア、医学書院</p> <p>その他、適宜、必要なものを紹介する。</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	<p>村田：学生との時間調整、メールなどで対応する。</p> <p>奥・鈴木：メール等で対応する。</p>						

授業科目名	がん看護学特論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	村田節子・近藤恵子・平田秀紀・齋藤俊章・油布祐二						
授業の概要	がん患者及びその家族への病名・予後の告知に伴う援助法及び化学療法や放射線療法などの治療選択、診断、治療に関する援助法について学ぶ。さらにがんの終末期にみられる症状のアセスメント、緩和方法について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	がんに看護及びがん医療に関する幅広い知識を深め論述できる。適切な理論や概念を活用して論述できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	がん看護専門看護師に求められる6つの役割に沿って必要な内容を選択し論述できる。					
	DP3：表現力	専門的な知識に基づき、適切な方法と媒体を用いて表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	がん看護及びがん医療に関して常に自分の次の課題を明確にして取り組むことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	がんの薬物療法と看護：薬物療法の原理、がん治療薬の動向と開発		講義		油布・村田		
2			講義		油布・村田・宮園		
3	最新のがん診断と放射線治療と看護		文献のクリティークとそれに基づく討論		平田・村田		
4			文献のクリティークとそれに基づく討論		平田・村田・宮園		
5	がんの遺伝学及び遺伝子治療と看護		講義と原著論文の講読		齋藤・村田		
6			講義と原著論文の講読		齋藤・村田・宮園		
7	化学療法・放射線療法等の治療を受ける患者の看護		文献のクリティークとそれに基づく討論		村田・宮園		
8			文献のクリティークとそれに基づく討論		村田・宮園		
9			文献のクリティークとそれに基づく討論		村田・宮園		
10			文献のクリティークとそれに基づく討論		村田・宮園		
11			文献のクリティークとそれに基づく討論		村田・宮園		
12			文献のクリティークとそれに基づく討論		村田・宮園		
13	症状マネジメントの考え方		講義及び演習		近藤		
14	症状のマネジメント（倦怠感）		講義及び演習		近藤		
15	症状のマネジメント（末梢神経障害）		講義及び演習		近藤		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		50	
授業態度・授業への参加度				◎		10	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎	◎		10	
その他		◎	◎	◎		10	
テキスト・参考文献等	適宜、必要なものを紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	村田：オフィスアワーを設定する。 近藤・油布：メール等で対応する。						

授業科目名	精神看護学特論 (26単位がん看護専門看護師コース)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松枝美智子・安永薫梨	前期	講義	がん看護専門 看護師コース 必修	2	1年
授業の概要	精神力動理論、発達理論、不安と防衛、喪失と悲嘆、危機理論、ストレス・コーピング理論（がん患者のストレス・コーピングとストレスマネジメントを含む）、ストレス-脆弱性-対処-力量モデル（ストレス-脆弱性モデルとSSTを含む）、システム理論、精神機能の査定など、個人や集団の精神の健康をアセスメントし、看護介入するために必要な理論やモデルについて学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	既存のモデルの概要を理解し、実践や研究への適用の可能性を考察する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	既存の理論やモデルの実践への適用の範囲と限界を考察する。 各種の理論やモデルを臨床で経験した事例に適用して分析し、レポートする。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	精神力動理論①	講義・討議	事前学習 自分が選択した理論又はモデルを臨床で経験した事例に適用し、プレゼンテーションの資料を作成する。 事後学習 授業後に授業で出た意見をもとにしてレポートを作成し、全員に配付する。	松枝			
2	発達理論② 不安と防衛③	講義・討議					
3	喪失と悲観④	講義・討議					
4	危機理論⑤	講義・討議					
5	ストレス・コーピング理論（がん患者のストレス・コーピング、ストレスマネジメントを含む）⑥	講義		安永			
6	システム理論⑦	講義		松枝			
7	ストレス-脆弱性-対処-力量モデル（ストレス-脆弱性モデルとSSTを含む）⑧	講義					
8	健康な人の精神機能⑨	講義					
9	精神力動理論①	発表・討議					
10	発達理論② 不安と防衛③	発表・討議					
11	喪失と悲観④	発表・討議					
12	危機理論⑤	発表・討議					
13	ストレス・コーピング理論（がん患者のストレス・コーピング、ストレスマネジメントを含む）⑥	発表・討議					
14	システム理論⑦	発表・討議					
15	ストレス-脆弱性-対処-力量モデル（ストレス-脆弱性モデルとSSTを含む）⑧	発表・討議					

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート		◎	◎			50
授業態度・授業への参加度		◎				20
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			30
テキスト・参考文献等	<p>南裕子, 稲岡文昭監, 柏田孝行編. (1987). セルフケア理論と看護実践, 東京:へるす出版. (2678 円)</p> <p>南裕子編. (2005). アクティブ・ナーシング:実践オレム-アンダーウッド理論:心を癒す. 東京:講談社. (3990 円)</p> <p>南裕子監, 宇佐美しおり編. (2010). 精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして. 東京:スーヴェルヒロカワ. (4000 円)</p> <p>寺崎明美. (2010). 対象喪失の看護:実践の科学と心の癒し. 東京:中央法規出版. (3150 円)</p> <p>フォン・ベルタランファイ. (1973). 一般システム理論. 東京:みすず書房. (Ludwig von Bertalanffy. (1968). General System Theory. New York: George Braziller. (4725 円)</p> <p>野嶋佐由美, 中野綾美編著. (2005). 家族エンパワメントをもたらす看護実践. 東京:へるす出版. (6050 円)</p> <p>Robert Paul Liberman. (2008). 精神障害と回復:リバーマンのリハビリテーション・マニュアル (西園昌久総監修, 池淵恵美監訳, SST 普及協会訳). 東京:星和書店. (Robert Paul Liberman.(2011).Recovery from Disability: Manual of Psychiatric Rehabilitation. , Washington D.C. & London: American Psychiatric Publishing, Inc.</p> <p>Glen o. Gabbard. (2012). 精神力動的な精神療法:基本テキスト (熊野力八郎監訳, 池田暁史訳). 東京:岩崎学術出版社. (Glen o. Gabbard.(2010).Long-term Psychodynamic Psychotherapy: A Basic Text, Second Edition, Washington D.C. & London: American Psychiatric Publishing, Inc.</p> <p>適宜紹介するが、学生も文献検索エンジンを用いて文献を収集し活用する必要がある。</p>					
履修条件	がん看護専門看護師コースの学生であること。					
学習相談・助言体制	授業に関する御意見、御質問、御相談があれば、メール、電話、研究室訪問を活用してください。研究室訪問の場合は、事前に電話やメールでアポイントメントをとることが望ましい。					

授業科目名	がん看護学演習Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	村田節子・宮園真美・野口玉枝・安永浩子・江藤聖子・晴野まゆみ	前期	講義	選択	2 (60時間)	1年
授業の概要	がん看護援助特論（がん看護学特論Ⅱ）で学んだことをもとに、がん治療を受ける患者に生じる苦痛を伴う症状や副作用の予防・早期発見・早期対処を学び、がん治療に伴う患者・家族の苦悩を緩和するための援助方法を検討する。その上で、がん患者・家族が質の高い療養生活を送ることができるようなケアを探求する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	がんの治療とケアのトピックスについて述べられる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	専門知識をふまえ、根拠を示しながら論理的に論述できる。					
	DP3：表現力	適切な資料を提示し、媒体を工夫してわかりやすく表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	サブスペシャリティーを視野に入れながら常に自分の次の課題を明確にして取り組むことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1～2			講義及び演習		安永		
3～4	がん患者の症状緩和と援助技術 がん患者・家族の心理過程と看護の実際		講義及び演習		安永		
5～6			講義及び演習		安永		
7～8	外来で化学療法を受ける患者の看護		講義及び演習		江藤		
9～10			演習		村田		
11～12			演習		村田		
13～14			演習		村田		
15～16	化学療法を受ける患者の副作用の症状緩和 化学療法を受ける患者・家族への援助		演習		村田		
17～18			演習		村田		
19～20			演習		村田		
21～22			演習		村田		
23～24			事例検討		野口・村田		
25～26	がん治療に伴う患者・家族の看護 心理・社会的支援		事例検討		野口・村田		
27～28	がん治療を受ける患者・家族の倫理的問題とその援助		グループワーク		村田・晴野・宮園		
29～30			グループワーク		村田・宮園		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		50	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			10	
その他		◎	◎	◎		20	
補足事項	教員と連絡を取り、授業調整を行う。						
テキスト・参考文献等	適宜、必要なものを紹介する。						
履修条件	がん病態学、がん看護学特論Ⅰ・Ⅱを履修していること。						
学習相談・助言体制	村田：学生と時間調整、メールなどで対応する。 江藤・安永：メール等で対応する。						

授業科目名	がん看護学演習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	村田節子・奥 祥子・野口玉枝・栗秋佐智恵・荒木 謙・植木昭代・村田久行・山本みゆき・今丸満美						
授業の概要	がん性疼痛をはじめとして、がんによっておこるあらゆる苦痛を全人的にとらえ緩和するための方法としての薬物療法、代替・相補療法について学ぶ。また終末期にあるがん患者が、その人らしい最期を迎えられるように、全人的に援助する方法と、その家族に対して予期的悲嘆、死別後の悲嘆が正常な経過をたどることができるための援助方法について検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	がんの治療とケアのトピックスについて述べられる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	専門知識をふまえ、根拠を示しながら論理的に論述できる。					
	DP3：表現力	適切な資料を提示し、媒体を工夫してわかりやすく表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	サブスペシャリティを視野に入れながら常に自分の次の課題を明確にして取り組むことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1～2	日本及び海外におけるがん専門看護師とターミナルケア		講義及び討論		村田		
3～4	終末期ケアの基本		講義及び討議		奥		
5～6	終末期の全人的ケア・パリアティブケアの概念		講義及び演習		植木		
7～8	がん性疼痛のケア		講義及び演習		栗秋		
9～10			講義及び演習		栗秋		
11～12			講義及び演習		栗秋		
13～14	心理・社会的・霊的苦痛への援助		講義及び演習		村田久行・村田節子		
15～16							
17～18	地域での緩和ケアの実際と課題（在宅ホスピス）		講義及び演習		荒木・村田		
19～20			講義及び演習		今丸		
21～22			講義及び演習		今丸		
23～24	がん患者に対する healing（代替・相補療法）		講義及び演習		山本		
25～26			講義及び演習		山本		
27～28	がん看護コンサルテーション		講義及び演習		野口		
29～30			講義及び演習		野口		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		50	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			10	
その他		◎	◎	◎		20	
補足事項	教員と連絡を取り、授業調整を行う。						
テキスト・参考文献等	適宜、必要なものを紹介する。						
履 修 条 件	がん病態学、がん看護特論Ⅰ・Ⅱを履修していること。						
学習相談・助言体制	村田（節子）：オフィスアワーを設定する。 奥、植木、栗秋、村田（久行）、荒木、今丸、野口：メール等で対応する。						

授業科目名	がん看護学実習Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択	4	2年
担当教員	村田節子・宮園真美						
授業の概要	対応困難な問題をもつがん患者及び家族に対して、高度な専門的知識、技術及び倫理的な態度をもって、適切で質の高い看護ケアを提供する能力を養う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	がん看護専門看護師の6つの機能に照らして、患者及び家族に対するケアに必要な知識について理論を活用しながら述べられる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	専門知識をふまえ、根拠を示しながら論理的に論述できる。					
	DP3：表現力	適切な資料を提示し、媒体を工夫してわかりやすく表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	常に自分の次の課題を明確にして取り組むことができる。					
	DP5：社会貢献力	社会や医療の動向を踏まえ、がん看護専門看護師の6つの機能に照らして、取り組むべき課題を述べられる。自己の役割を明確にして実践のためのプランニングが行える。					
技能	DP6：実践力	がん看護専門看護師の6つの機能に照らして必要な内容を実践できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>実習方法：実習要項参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の前後には、教員のスーパービジョンを受け、実習の計画、分析、評価を行う。 原則として学生は、適宜、教員によるスーパービジョンを受ける。 2. 実習中は、担当教員と看護部長、病棟師長、がん看護専門看護師との連絡・連携のもとで指導を受ける。 3. 対応困難な問題をもつがん患者を3例以上受け持ち、看護を評価する。 4. 実習内容の習熟が不十分である場合には、実習期間の延長を考慮する。 <p>実習期間：原則として2年前期</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
その他		◎	◎	◎	◎	100	
補足事項		がん看護専門看護師実習評価表によって評価する。					
テキスト・参考文献等	適宜、必要なものを紹介する。						
履修条件	がん病態学、がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ、がん看護学演習Ⅰ・Ⅱを履修していること。						
学習相談・助言体制	適宜、教員のスーパービジョンを受ける。 実習中は、担当教員と看護部長、病棟師長、がん看護専門看護師との連絡・連携のもとで指導を受ける。						

授業科目名	がん看護学実習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択	2	2年
担当教員	村田節子・宮園真美						
授業の概要	がん看護専門看護師が行っている活動場面を通して、専門看護師としての役割の一部を実践してみる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	がん看護専門看護師の6つの機能に照らして、患者及び家族に対するケアに必要な知識について理論を活用しながら述べられる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	専門知識をふまえ、根拠を示しながら論理的に論述できる。					
	DP3：表現力	適切な資料を提示し、媒体を工夫してわかりやすく表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	サブスペシャリティを視野に入れながら常に自分の次の課題を明確にして取り組むことができる。					
	DP5：社会貢献力	社会や医療の動向を踏まえ、がん看護専門看護師の6つの機能に照らして、取り組むべき課題を述べられる。自己の役割を明確にして実践のためのプランニングが行える。					
技能	DP6：実践力	がん看護専門看護師の6つの機能に照らして必要な内容を実践できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>実習方法：実習用校参照</p> <ol style="list-style-type: none"> がん看護専門看護師の役割は、病院、病棟単位で計画し実践する。 適宜、教員のスーパービジョンを受け、実習の計画、分析、評価を行う。 実習中は、教員と看護部長、看護副部長、がん看護専門看護師との連絡・連携のもとで指導を受け、専門看護師としての役割の理解を評価する。 実習内容の習熟が不十分である場合には、実習期間の延長を考慮する。 <p>実習期間：原則として2年前期</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
その他		◎	◎	◎	◎	100	
補足事項		がん看護専門看護師実習評価表によって評価する。					
テキスト・参考文献等	適宜、必要なものを紹介する。						
履修条件	がん病態学、がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ、がん看護学演習Ⅰ・Ⅱを履修していること。						
学習相談・助言体制	実習の前後及び原則として週に1回は、教員のスーパービジョンを受ける。 実習中は、教員と看護部長、看護副部長、がん看護専門看護師との連絡・連携のもとで指導を受け、専門看護師としての役割の理解を評価する。						

授業科目名	精神看護学特論 (38単位精神看護専門看護師コース)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択 (精神看護学 分野必修)	2	1年
担当教員	松枝美智子・安永薫梨						
授業の概要	精神の健康に関連する理論やモデルを学び、がんに代表される一般身体疾患をもち精神的な問題をもつ人や、精神疾患を持つ人の精神状態のアセスメントの視点、援助方法を考察すると共に研究的な視点を培う。その過程を通して、既存の理論の適用の範囲とその限界、理論やモデルの看護実践や看護研究への活用可能性を考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	既存の理論やモデルの概要を理解し、記述する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	各種の理論やモデルを臨床で経験した事例に適用して分析し、現象の意味をアセスメントできる。 ディスカッションしたことを反映させてレポートに記述する。 既存の理論やモデルの実践や研究への適用の可能性と限界を考察し、レポートを作成する。					
	DP3：表現力	理論やモデルを用いた事例分析をめぐって学生同士で建設的にディスカッションを行う。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	課題に主体的に取り組む。					
技能	DP6：実践力	シミュレーション事例の状況設定を行い、ロールプレイングでストレス・マネジメントの指導を実施する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				担 当
1	発達理論①：エリクソン	講義	事前学習 ①紹介した文献や図書を読み、問題意識を持って授業に参加する。 ②専門看護師コース（精神看護）の学生は理論を臨床事例に適用して分析し、発表用資料を作成する。 研究コースの学生は、担当部分のモデルや理論に関する文献レビューを行い発表用資料を作成する。 ③15は状況設定を行い、呼吸法と漸進的筋弛緩法の指導が患者にできるよう、ロールプレイングを実施する。 事後学習 既存の理論やモデルの概要、実践や研究への適用の可能性と限界を考察し、A4用紙2枚にレポートする。				松枝
2	発達理論②：マラー、ピアジェ、スターン	講義					松枝
3	発達理論③：事例検討（コースやサブスペシャリティにより、検討する対象となる事例を変える）	事例紹介 討議					松枝
4	喪失と悲嘆①	講義					松枝
5	喪失と悲嘆②事例検討（コースやサブスペシャリティにより、検討する対象となる事例を変える）	事例紹介 討議					松枝
6	危機理論①	講義					安永
7	危機理論②事例検討（コースやサブスペシャリティにより、検討する対象となる事例を変える）	事例紹介 討議					
8	システム理論①	講義					松枝
9	システム理論②事例検討（コースやサブスペシャリティにより、検討する対象となる事例を変える）	事例紹介 討議					松枝
10	ストレス・コーピング理論①	講義					松枝

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）						
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当		
11	ストレス・コーピング理論②事例検討（コースやサブスペシャリティにより、検討する対象となる事例を変える）	事例紹介 討議		松枝		
12	心身関連の理論	講義		安永		
13	人間の精神的回復力についての理論：レジリエンス、ベネフィット・ファインディング、健康生成理論	講義		松枝		
14	ストレス・マネージメントの理論	講義		松枝		
15	ストレス・マネージメントの実践への適用（コースやサブスペシャリティにより、指導の対象となる事例を変える）	演習（患者役と看護師役に分かれて、呼吸法、漸進的筋弛緩法などの指導方法をロールプレイング）		松枝		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）
宿題・授業外レポート		◎	◎			60
授業態度・授業への参加度				◎		20
演習				◎		20
テキスト・参考文献等	<p>アーロン・アントノフスキー．（2001）．健康の謎を解く－ストレス対処と健康保持のメカニズム（山崎喜比古他訳）．東京：有信堂高文社．</p> <p>アントン・オブホルツァー，ヴェガ・ザジェロバツ編．（2014）．組織のストレスとコンサルテーション：対人援助サービスと職場の無意識．東京：金剛出版．</p> <p>服部祥子．（2010）．生涯人間発達論．東京：医学書院．</p> <p>小島操子．（2013）．看護における危機理論・危機介入－フィンク／コーン／アグイレラ／ムース／家族の危機モデルから学ぶ．改訂3版，東京：金芳堂．</p> <p>小島操子，佐藤禮子．（2011）．危機状況にある患者・家族の危機の分析と看護介入－事例集－フィンク／コーン／アグイレラ／ムース／家族の危機モデルより．東京：金芳堂．</p> <p>松山あゆみ．（2011）．自我理想の起源：フロイトにおけるメランコリーと同一化の問題．文明構造論：京都大学大学院人間・環境学研究所現代文明論講座文明構造論分野論集，7，45-62．</p> <p>松山あゆみ．（2010）．メランコリーの精神分析的研究：フロイト、アブラハムからラドーへ．文明構造論：京都大学大学院人間・環境学研究所現代文明論講座文明構造論分野論集，6，35-53．</p> <p>南裕子，稲岡文昭監，粕田孝行編．（1987）．セルフケア理論と看護実践，東京：へるす出版．（2678円）</p> <p>南裕子編．（2005）．アクティブ・ナーシング：実践オレム－アンダーウッド理論：心を癒す．東京：講談社．（3990円）</p> <p>南裕子監，宇佐美しおり編．（2010）．精神科看護の理論と実践：卓越した看護実践をめざして．東京：スーヴェルヒロカワ．（4000円）</p> <p>坂口幸弘．（2012）．悲嘆学入門：死別の悲しみを学ぶ．東京：昭和堂．</p> <p>寺崎明美．（2010）．対象喪失の看護：実践の科学と心の癒し．東京：中央法規出版．（3150円）</p> <p>フォン・ベルタランフィ．（1973）．一般システム理論．東京：みすず書房．（Ludwig von Bertalanffy．（1968）．General System Theory．New York: George Braziller．（4725円）</p> <p>リチャード・S・ラザルス，スーザン・フォルクマン．（1991）．ストレスの心理学－認知的評価と対処の研究（本明寛他訳）．東京：実務教育出版．</p> <p>リチャード・S・ラザルス．（2004）．ストレスと情動の心理学－ナラティブ研究の視点から（本明寛訳）．東京：実務教育出版．</p> <p>山崎喜比古．（2011）．思春期のストレス対処力SOC－親子・追跡調査と提言．東京：有信堂高文社．論文は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。</p>					
履 修 条 件	看護師免許を保有し、精神保健医療福祉分野での実務経験が3年以上あること。					
学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室へはメール又は電話で予約をとっておいください。急を要する場合は、この限りではありません。					

授業科目名	精神看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択 (精神看護学研究コース必修)	2	1年
担当教員	松枝美智子・安永薫梨・宮崎 初						
授業の概要	自己の研究テーマに関連する文献のクリティーク、研究方法の図書の講読、シミュレーション・データの分析により研究方法を修得し、自己の研究に活用する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	マトリックス法を用いて、研究テーマに関連する事柄の何がどこまでわかっているかを明確にできる。 選択した研究方法に関連する図書や文献を抄読し、研究方法を学ぶ。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	先行研究を批判的に検討できる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	文献クリティークを行い、研究テーマの絞り込みができる。 文献のクリティークを通して、研究テーマに最も適した研究方法を選択できる。					
技能	DP6：実践力	シミュレーション・データをデータに適した分析方法で分析し、研究方法を修得できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			担 当	
1~2	オリエンテーション 入学前の研究計画と今後取り組むべき課題を発表する	発表・討議	事前学習 研究計画書を見直し、プレゼンテーション資料を作成する。 今後の課題を明確にしてくる。			松枝 安永 宮崎	
3~4	文献クリティークの方法 マトリックス法, サブトラクション	講義	事後学習 講義資料で復習する。			松枝 安永 宮崎	
5~8	文献クリティーク（文献カードに整理してきたことを発表し、当該研究の意義と課題、自己の研究に活用できること、自己の研究テーマのどこに位置づく研究なのかを明確にする）	発表・討議 同上	事前学習 文献カードを作成する。 文献カードに整理した文献を人数分持参する。			松枝	
9~10	マトリックス法で分析した結果、自己の研究テーマに関して、何がどこまでわかっているのかを明確にすることで、自分が取り組んでいる課題の看護学における位置づけについて理解する	発表・討議	事前 研究テーマについてマトリックス法で整理してくる。			松枝	
11~12	研究テーマに合った研究方法を選択する 見直した研究計画の発表	発表・討議	事前 研究方法のところまで研究計画を立案してくる。			松枝	
13~14	研究方法に関する図書や文献を講読する	抄読・討議	事前 自己の研究の分析方法の図書を読んで参加する。 事後 インタビューガイドの参考にする文献を読む。			松枝	
15~16	研究方法に関する図書や文献を講読する	抄読・討議	事前 自己の研究の分析方法の図書を読んで参加する。 事後 インタビューガイドの参考にする文献を読む。			松枝	
17~18	研究方法に関する図書や文献を講読する	抄読・討議					

19~20	面接法の演習のためのインタビューガイドの検討	抄読・討議	自己の研究テーマに関するインタビューガイドを作成してくる。	松枝 安永 宮崎		
21~22	面接法	演習	事前 インタビューガイドを熟読してくる。 事後 演習で収集したデータの逐語録を作成してくる。	松枝 安永 宮崎		
23~30	演習で収集したデータを適切な方法で分析する	演習	事前 データ分析をしてくる。 事後 理論的メモを書く分析の修正をする。 事前 データ分析をしてくる。	松枝 安永 宮崎		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
成績評価方法						
宿題・授業外レポート		◎	◎			50
授業態度・授業への参加度				◎		20
受講者の発表（プレゼン）		○	○	○	○	30
テキスト・参考文献等	<p>戈木クレイグヒル滋子. (2014). グラウンデッド・セオリー・アプローチ分析ワークブック第2版. 東京：日本看護協会出版会.</p> <p>戈木クレイグヒル滋子. (2013). グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いたデータ収集法. 東京：新曜社.</p> <p>Judith Garrard 著, 安部陽子訳. (2012). 看護研究のための文献レビュー：マトリックス方式. 東京：医学書院.</p> <p>(Judith Garrard. (2011). Health sciences literature review made easy : The matrix method third edition, USA: Jones & Bartlett Learning LLC.)</p> <p>Pamela J. Brink, Marilyn J. Wood 著, 小玉香津子, 輪湖史子訳. (1999). 看護研究計画書：作成のステップ. 東京：日本看護協会出版会. (Pamela J. Brink, Marilyn J. Wood. (1994). Basic Steps in Planning Research: From Question to Proposal Fourth Edition. MA: Jones and Bartlett Publishers, inc.)</p> <p>北素子, 谷津裕子. (2012). 質的研究の実践と評価のためのサブトラクション. 東京：医学書院.</p> <p>適宜紹介するが、学生も文献検索エンジンを用いて文献を収集し、活用する必要がある。</p>					
履修条件	精神看護学特論を修得していること。					
学習相談・助言体制	授業に関する御意見、御質問、御相談があれば、メール、電話、研究室訪問を活用してください。研究室訪問の場合は、事前に電話やメールでアポイントメントをとることが望ましい。					

授業科目名	精神看護関連法規・制度・政策論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年
担当教員	松枝美智子・安永薫梨・増満 誠・川野雅資・末安民生						
授業の概要	精神保健医療福祉の歴史、世界と日本の精神保健医療福祉の現状、関連する法律、制度、政策を看護倫理の視点から検討することを通して、精神看護専門看護師として看護倫理に貫かれた実践ができるよう倫理的感受性を高めると共に、患者の権利擁護と看護倫理の観点からのシステムの改善や政策提言ができる能力を育成する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	世界及び日本の精神看護の歴史を理解し、精神に障害を持つ人の権利擁護について記述する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	ノーマライゼーションの理念を実現するための世界的な動向を理解し、日本の現状との比較により人権擁護や看護倫理の観点から今後の課題を考察し記述する。 今後の精神保健医療福祉政策の展望と精神看護専門看護師の役割を考察し記述する。 看護倫理の視点からみた精神保健福祉法の問題点を考察し記述する。 看護倫理の視点からみたノーマライゼーションを促進する法律や制度のあり方と臨床現場の課題を考察し記述する。 看護倫理の視点からみた医療観察法の問題点を考察し、記述する。 セルフヘルプ・グループとの協働や支援のあり方を考察し、記述する。					
	DP3：表現力	精神保健医療福祉看護政策の展望と精神看護専門看護師の役割をわかりやすくプレゼンテーションを行う。 自己の考えや感情を建設的に表現しながら参加者とディスカッションを深める。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	課題に主体的に取り組む。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			担 当	
1	世界の精神看護の歴史と精神に障害を持つ人の人権（古代～中世）	講義と討議	事前学習 事前配布した資料を読み、問題意識を持って授業に参加する。 11-12回目：「医療観察法の問題点と今後の課題」、14-15回目：「精神保健医療福祉看護政策の展望と精神看護専門看護師の役割」について、担当教員の指導のもとにプレゼンテーション資料を作成する。 事後学習 各授業後にA4用紙1枚で学んだことをレポートする。 最終回はディスカッションを加味してA4用紙5枚に「精神保健医療福祉看護政策の展望と精神看護専門看護師の役割」についてレポートを作成する。 精神看護専門看護師コース以外の学生は、臨床看護又は看護教育の観点からみた政策の展望と自己の役割についてレポートを作成する。			松枝	
2	世界の精神看護の歴史と精神に障害を持つ人の人権（近世～現代）	講義と討議				松枝	
3	日本の精神看護の歴史と精神に障害を持つ人の人権	講義と討議				松枝	
4	ノーマライゼーションとは ソーシャル・インクルージョンとは	講義と討議				松枝	
5	ノーマライゼーション、ソーシャル・インクルージョンの理念を実現するための世界的な動向、法的基盤	講義と討議				松枝	
6	精神保健福祉法の現状	講義と討議				安永	
7	看護倫理の視点からみた精神保健福祉法の課題	講義と討議				安永	
8	ノーマライゼーションやソーシャル・インクルージョンを促進する法律と制度の現状	講義と討議				増満	
9	看護倫理の視点からみたノーマライゼーションやソーシャル・インクルージョンを促進する法律と制度の課題	講義と討議				増満	
10	医療観察法の現状	講義と討議				川野	
11	看護倫理の視点からみた医療観察法の課題	講義と討議				川野	

12	精神障害をもつ人とその家族のリカバリーモデル、ストレングスモデル、パートナーシップモデルを基盤にしたセルフヘルプ・グループとの協働：各概念の定義、現状と課題	講義と討議			松枝	
13	地域移行・地域定着看護に関連する精神障がいをもつ人とその家族のセルフヘルプ・グループとの協働、支援のあり方	講義と討議			松枝	
14	地域包括ケア時代の精神保健医療福祉看護政策の展望	発表・討議			末安 松枝 安永	
15	地域包括ケア時代の精神保健医療福祉看護政策における精神看護専門看護師の役割	講義と討議				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		50
授業態度・授業への参加度				◎		30
受講者の発表（プレゼン）			◎			20
テキスト・参考文献等	<p>Charles A. Rapp, Richard J. Goscha. (2006). ストレングスモデル：精神障害者のためのケースマネジメント. 東京：金剛出版.</p> <p>法務省, 厚生労働省. (2014). 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律の施行の状況についての検討結果. http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002gk0i-att/2r9852000002gk49.pdf</p> <p>岩田泰夫. (2008). セルフヘルプグループへの招待：患者会や家族会の進め方ガイドブック. 東京：川島書店.</p> <p>池添志乃, 田井雅子, 中野綾美, 川上理子, 高田早苗, 横尾京子, 片田範子, 野嶋佐由美. (2011). 倫理的判断を基盤とした抑制についての調査. 日本看護倫理学会誌, 3 (1), 2011.</p> <p>河東田博. (2009). ノーマライゼーション原理とは何か：人権と共生の原理の探求. 東京：現代書館.</p> <p>近藤克己. (2010). 「健康格差社会」を生き抜く. 東京：朝日新書.</p> <p>厚生労働省. (2014). 長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策の今後の方向性. http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyo-kushougai-hoken-fukushibu-Kikakuka/0000051138.pdf</p> <p>松嶋健. (2014). プシコ ナウティカ：イタリア精神医療の人類学. 東京：世界思想社.</p> <p>中井久夫. (1999). 西欧精神医学背景史. 東京：みすずライブラリー.</p> <p>日本看護協会. (2014). 看護白書平成26年版：地域包括ケアシステムと看護. 東京：日本看護協会出版会.</p> <p>西池絵衣子, 三宅美智, 末安民生, 吉浜文洋, 吉川隆博, 美濃由紀子, 宮本真巳. (2013). 全国の精神科病棟を有する施設における行動制限最小化委員会の実態に関する調査 運営のあり方と看護職の役割. 日本精神科看護学術集会誌, 56 (2), 266-270.</p> <p>野田寿恵, 杉山直也, 三宅美智, 末安民生, 伊藤弘人. (2013). 行動制限の国際比較 日本フィンランド精神科急性期医療における隔離・身体拘束研究から. 精神科治療学, 28 (10), 1265-1271.</p> <p>吉川隆博, 三宅美智, 井田裕子, 宮本真巳, 末安民生, 吉浜文洋, 野田寿恵, 揚野裕紀子, 西池絵衣子. (2013). 精神科病棟における隔離と看護勤務者数の変動要因に関する調査研究. 日本精神科看護学術集会誌, 56 (2), 281-285.</p> <p>吉川隆博, 末安民生, 東美奈子, 渡辺とよみ, 南方英夫, 吉野百合, 仲野栄. (2013). 精神科病棟入院基本料算定病棟における退院支援に向けた看護ケア等と看護人員に関する調査研究. 病院・地域精神医学 56 (1), 57-59, 61.</p> <p>小俣和一郎. (1997). 精神医学とナチズム：裁かれるユング、ハイデガー. 東京：講談社現代新書.</p> <p>小俣和一郎. (1998). 精神病院の起源. 東京：太田出版.</p> <p>小俣和一郎. (2000). 精神病院の起源：近代編. 東京：太田出版.</p> <p>田中美恵子, 濱田由紀, 小山達也. (2010). 精神科病棟で働く看護師が体験する倫理的問題と価値の対立. 日本看護倫理学会誌, 12 (1), 6-14.</p> <p>宇佐美しおり (熊本大学 大学院生命科学研究所), 田中 美恵子, 永井 優子, 相澤 和美, 岡谷 恵子, 小山 達也, 福川 麻耶. (2014). 精神看護実践における倫理的課題と対処方法の実態. 日本精神保健看護学会誌, 23 (1), 112-131.</p> <p>吉浜文洋, 杉山直也, 野田寿恵. (2010). Reducing Seclusion & Restraint Use in Mental Health Settings: Core Strategies for Prevention. 精神科看護, 37 (6), 52-56.</p> <p>吉浜文洋, 杉山直也, 野田寿恵. (2010). Reducing Seclusion & Restraint Use in Mental Health Settings: Core Strategies for Prevention. 精神科看護, 37 (7), 54-57.</p> <p>吉浜文洋, 杉山直也, 野田寿恵. (2010). Reducing Seclusion & Restraint Use in Mental Health Settings: Core Strategies for Prevention. 精神科看護, 37 (8), 49-53.</p> <p>吉浜文洋, 杉山直也, 野田寿恵. (2010). Reducing Seclusion & Restraint Use in Mental Health Settings: Core Strategies for Prevention. 精神科看護, 37 (9), 65-73.</p> <p>論文は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。</p>					
履修条件	看護師免許を保有し、精神保健医療福祉分野での実務経験が3年以上あること。					
学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室へはメール又は電話で予約をとっておいください。急を要する場合は、この限りではありません。					

授業科目名	精神看護論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年
担当教員	松 枝 美智子						
授業の概要	複雑で解決困難な精神の健康問題をもつ人とその家族に、精神看護専門看護師としてCareとCureを融合した高度な看護実践を行うために必要なオレム-アンダーウッド・モデル、家族看護エンパワメント・モデル、発達理論、精神力動理論、精神状態の査定、自我・自己・人格の状態の査定などを統合して活用し、専門職者及び多職種チームの力を引き出しながら援助を提供する能力を育成する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	オレム看護理論の概要を記述する。 オレム-アンダーウッド・モデルの修正点を記述する。 患者とその家族に効果的なケアを提供するための精神科ケース・マネジメントを理解し、記述する。 家族エンパワメント・モデルを理解し、概要を記述する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	オレム-アンダーウッド・モデル、家族エンパワメント・モデル、発達理論、精神力動理論、精神状態の査定、自我状態の査定などを活用して、情報を整理し、総合的なアセスメントができる。 オレム-アンダーウッド・モデル、家族エンパワメント・モデルの事例への適用を行い、看護計画を立案する。					
	DP3：表現力	自分の考えや感情を建設的に表現する。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	ディスカッションに主体的に参加する。 課題に主体的に取り組む。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	対人関係理論	講義・討議	事前学習 紹介した図書や先行研究を読み、問題意識を持って授業に参加する。 7は臨床事例をデータベースにまとめ看護計画を立案する。 10と15は検討する事例を大学院生同士で話し合っ決めて、事例検討ができるように資料を作成してくる。 事後学習 理論の概要、授業で学んだことを到達目標の視点にそってA4用紙2枚にレポートする。	松枝			
2	オレムのセルフケア不足看護理論	講義・討議					
3	オレムのセルフケア不足看護理論	講義・討議					
4	オレム-アンダーウッド・モデルの誕生と展開の歴史、現状	講義・討議					
5	オレム-アンダーウッド・モデルのオレム理論からの修正点と特徴	講義・討議					
6	オレム-アンダーウッド・モデルの効果を高めるためのケアシステム（ユニット・マネージメント、精神科ケース・マネージメント）、精神障害者のセルフケア質問紙（宇佐美, 他, 2015）	講義・討議					
7	事例へのオレム-アンダーウッド・モデルの適用：データベースの整理、発達段階の査定、精神状態の査定（Mental health Examination, Mental health Assessment）自我状態の査定、セルフケアの査定、WHODAS2.0、総合的アセスメント、問題の明確化、長期目標・短期目標の設定退院のイメージ図の作成、計画立案	事例紹介・討議					
8	オレム-アンダーウッド・モデルを用いた事例検討	講義・討議					

9	家族エンパワメント・モデルとは	講義・討議	<p>事前学習 紹介した図書や先行研究を読み、問題意識を持って授業に参加する。 7は臨床事例をデータベースにまとめ看護計画を立案する。 10と15は検討する事例を大学院生同士で話し合っ決めて、事例検討ができるように資料を作成してくる。 事後学習 理論の概要、授業で学んだことを到達目標の視点にそってA4用紙2枚にレポートする。</p>	松枝
10	家族発達理論、家族危機理論、家族システム理論	講義・討議		
11	家族の情緒的支援、家族のセルフケアの促進	講義・討議		
12	家族教育、家族の役割移行支援、家族の意思決定支援	講義・討議		
13	家族エンパワメント・モデルを用いた事例検討	事例紹介・討議		
14	チーム・ビルディング、多職種によるチーム・ケアの展開	講義・討議		
15	精神看護における看護倫理	講義・討議		

成績評価方法および成績評価基準 (到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)
宿題・授業外レポート		◎	◎			50
授業態度・授業への参加度				◎		20
演習			◎			30

テキスト・参考文献等	<p>D.E Orem. (2005). オレム看護理論 (小野寺杜紀訳). 東京：医学書院. 古山祐可, 田中能理子, 二神嘉代, 牧原加奈, 牧野耕次, 比嘉勇人. (2011). 精神科看護師によるうまくいかなかったという思いのある事例解釈の変化：看護における「かかわり (involvement) を学習して. 人間看護学研究, 9,107-115. 南裕子, 稲岡文昭監修, 粕田孝行編. (1987). セルフケア概念と看護実践：Dr.P.R.Underwood の視点から. 東京：へるす出版. 野末聖香, 宇佐美しおり. (2007). 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 東京：日本看護協会出版会. 南裕子監, 宇佐美しおり. (2010). 精神科看護の理論と実践：卓越した看護実践をめざして. 東京：ヌーヴェルヒロカワ. 安酸史子監. 安酸史子, 松枝美智子, 安永薫梨, 坂田志保路. 経験型実習教育の展開：精神看護学. (株) Raid. (平成 21 年度～ 23 年度文部科学省科学研究費：研究代表者 安酸史子) Patricia R. Underwood 著, 南裕子監, 野嶋佐由美, 勝原裕美子編. (2003). パトリシア・R・アンダーウッド論文集看護理論の臨床活用. 東京：日本看護協会出版会. (Patricia R. Underwood. (2003). Thoughts of Patricia R. Underwood: Making Use of Nursing Theory at the Bedside. Tokyo: Japan Nursing Association.) ペプロウ. (199). ペプロウ看護論. 東京：医学書院. 牧野耕次, 比嘉勇人, 甘佐京子, 山下裕子, 松本行弘. (2011). 精神科看護師による境界の調整に関する技術的要素. 人間看護学研究, 9,117-125.http://hdl.net/11355/141 宮本真巳. (1996). 「異和感」と援助者アイデンティティ. 東京：日本看護協会出版会. 宇佐美しおり, 山口雅也, 田口尚子, 藤井美香, 日高貴子, 市川麻紀. (2015). 日本精神保健学会第 25 回学術集会・総会プログラム・抄録集, p.92. ※論文は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。</p>
------------	---

履修条件	看護師免許を保有し、精神保健看護医療福祉分野での実務経験が3年以上あること。
------	--

学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室にはメール又は電話で予約をとっておいでください。急を要する場合は、この限りではありません。
-----------	--

授業科目名	精神看護アセスメント論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年
担当教員	松枝美智子・小嶋享二・連理貴司・吉岡和子						
授業の概要	精神看護専門看護師として多職種チームと協働して Care と Cure を融合した卓越した看護実践を行うために必要な、多角的な視点からの診断やアセスメントの原理と実際を学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	精神疾患の診断面接の原理と実際を理解し、記述する。 主な画像診断の方法と適用を理解し記述する。 主な心理検査の方法と適用を理解し記述する。 Mental Health Examination、Mental Health Assessment の方法を理解し、記述する。 WHODAS2.0 から見た社会的機能のアセスメントの方法を理解し、記述する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	各種のアセスメントの視点をを用いて対象のセルフケアへの影響要因を総合的にアセスメントする能力を身につける。 精神科医への紹介や協働が必要かの判断を行う能力を修得する。					
技能	DP6：実践力	各種のアセスメントや診断のプロセスを体験し、アセスメントや診断を行う。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	精神疾患の診断面接の原理と実際：総論 睡眠・覚醒障害群	講義・演習		小嶋			
2	精神疾患の診断面接の原理と実際：不安症／不安障害群、心的外傷およびストレス因関連障害群、強迫症及び関連症群／強迫性障害および関連障害群	講義・演習		小嶋			
3	精神疾患の診断面接の原理と実際：双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群	講義・演習		小嶋			
4	精神疾患の診断面接の原理と実際：統合失調スペクトラム症および他の精神病性障害群	講義・演習	事前学習 紹介した文献を読む 構造化診断面接のビデオを視聴する。 事後学習 各授業後に A4 用紙 1 枚で学んだことを到達目標の視点によってレポートする。	小嶋			
5	精神疾患の診断面接の原理と実際：身体症状と関連のある障害群摂食障害群	講義・演習	大学院生同士で、診断面接の練習をし、看護実践に活用できるようにしておく。	連理			
6	精神疾患の診断面接の原理と実際：物質関連障害および嗜癖性障害群	講義・演習		連理			
7	精神疾患の診断面接の原理と実際：パーソナリティ障害群	講義・演習		連理			
8	精神疾患の診断面接の原理と実際：神経発達症群／神経発達障害群	講義・演習		連理			

9	精神疾患の補助診断としての各種の心理検査：総論 知能検査	講義	吉岡
10	精神疾患の補助診断としての各種の心理検査：人格検査	講義	
11	精神疾患の補助診断としての各種の心理検査：投影法、その他	講義	
12	Mental health Examination、Mental health Assessment WHODAS2.0	講義	松枝
13	リエゾン精神看護に活用できるアセスメント・ツール	講義	
14	地域精神看護に活用できるアセスメント・ツール	講義	
15	診断と総合的アセスメント：ロールプレイング演習	演習・討議	

事前学習
紹介した文献を読む
15回目は臨床事例をもちより、面接のロールプレイングを実施する準備をする。
事後学習
各授業後にA4用紙1枚で学んだことを到達目標の視点にそってレポートする。
大学院生同士で、アセスメントのための面接の練習をし、看護実践に活用できるようにしておく。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート		◎	○			40
授業態度・授業への参加度				◎		20
演習			◎		◎	40

テキスト・参考文献等	<p>Allen Frances. (2014). <i>DSM-5 精神疾患診断のエッセンス：DSM-5 の上手な使い方</i> (大野裕, 中川敦夫, 柳沢圭子訳). 東京：金剛出版. (Allen frances. (2013). <i>Essentials of Psychiatric Diagnosis Responding to the challenge of DSM-5</i>.USA:A Division of Guilford Publications Inc.</p> <p>AmericanPsychiatric Association. (2013). <i>DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル</i> (高橋三郎, 大野裕監訳, 染谷俊幸, 神庭重信, 尾崎紀夫, 三村将, 村井俊哉訳). 東京：医学書院. (AmericanPsychiatric Association. (2014) .<i>Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorder</i>.USA:American Psychiatric Publishing)</p> <p>Benjamin J. Sadock, Virginia A. Sadock, Norman Sussman. (山田和男, 黒木俊英, 神庭重信監訳). (2007). <i> Kaplan精神科薬物ハンドブック：エビデンスに基づく向精神薬療法</i>. 第4版, 東京：メディカル・サイエンス・インターナショナル. (Benjamin J. Sadock, Virginia A. Sadock, Norman Sussman. (2006). <i>Kaplan & Sadock's Pocket Handbook of Psychiatric Drug Treatment</i>. fourth edition, USA: Lippincott Williams & Wilkins, Inc.)</p> <p>稲田俊也. (2014). <i>観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド改訂第3版</i>. 東京：じほう.</p> <p>南裕子監, 宇佐美しおり. (2010). <i>精神科看護の理論と実践：卓越した看護実践をめざして</i>. 東京：ヌーヴェルヒロカワ.</p> <p>沼初枝. (2013). <i>臨床心理アセスメントの基礎</i>. 東京：ナカニシヤ出版.</p> <p>野末聖香, 宇佐美しおり. (2007). <i>精神看護スペシャリストに必要な理論と技法</i>. 東京：日本看護協会出版会.</p> <p>World Health Organization. (1993). <i>CD-10：精神および行動の障害：臨床記述と診断ガイドライン新訂版</i> (融道男, 中根允文, 小見山実, 岡崎祐士, 大久保善郎監訳). 東京：医学書院. (World Health Organization. (2013) .<i>The ICD-10 Classification of Mental and Behavioural Disorders: Clinical descriptions and diagnostic guidelines</i>.</p> <p>論文は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。</p>
------------	--

履修条件	看護師免許を保有し、精神保健医療福祉分野での実務経験が3年以上あること。
------	--------------------------------------

学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室へはメール又は電話で予約をとっておいでください。急を要する場合は、この限りではありません。
-----------	--

授業科目名	精神看護セラピー I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年
担当教員	松枝美智子・連理貴司・宇佐美しおり						
授業の概要	精神看護専門看護師として Care と Cure を融合した看護実践を行うために必要な、精神力動的療法法の原理と実際を実践的に学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	精神力動的個人精神療法の原理を理解し記述する。 精神力動的集団精神療法の原理を理解し記述する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	精神力動的療法における精神看護専門看護師の役割について考察する。					
	DP3：表現力	自己の感情や考えを建設的に表現しながらディスカッションを深めることができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	課題に主体的に取り組む。 授業に主体的に参加する					
技能	DP6：実践力	理解した個人精神療法の原理を活用してロールプレイングを実施する。 理解した精神力動的集団精神療法を活用してロールプレイングを実施する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当		
1	精神力動的個人精神療法の基礎理論：精神の機能と構造 精神性の発達理論		講義	事前学習 紹介した先行研究や 図書を読む。 演習で用いる事例を 準備してくる。 9-14はグループの リーダー、コリーダー としてグループを運 営する体験をする為、 事前学習と共に心構 えをして参加する。 事後学習 各授業毎に学んだこ とを到達目標の視点 にそってA4用紙1枚 にレポートする。	松枝		
2	精神力動的個人精神療法の基礎理論：防衛機制と自我防衛機制、転移と抵抗		講義		松枝		
3	精神力動的個人精神療法の基礎理論：精神分析的システムズ理論（PAS理論）		講義		宇佐美		
4	精神療法・カウンセリングの前提：病態水準の理解、パーソナリティスタイルのアセスメント、自我機能のアセスメント		講義				
5	カウンセリングの目的と導入・展開技法		講義		松枝		
6	個人精神療法の目的と治療構造		講義				
7	個人精神療法の実際①		講義・討議		松枝		
8	個人精神療法の実際②		演習・討議		松枝		
9	精神力動的集団精神療法の原理：集団の機能 日本版治療共同体の治療構造		講義 演習		連理		
10	精神力動的集団精神療法の実際：構造化されていない大集団ミーティング						
11	精神力動的集団精神療法の実際：構造化された大集団ミーティング						
12	精神力動的集団精神療法の実際：構造化された小集団ミーティング						
13	精神力動的集団精神療法の実際：構造化された疾患や状態像に対応した治療のための小集団ミーティング						
14	個人精神療法と集団精神療法の事例への適用		事例検討		松枝		
15	精神療法における精神看護専門看護師の役割		討議				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		40	
授業態度・授業への参加度			◎	◎		20	
演習					◎	40	
テキスト・参考文献等	Glen o. Gabbard. (2012). <i>精神力動的療法：基本テキスト</i> （熊野力八郎監訳、池田暁史訳）. 東京：岩崎学術出版社. (Glen o. Gabbard. (2010). <i>Long-term Psychodynamic Psychotherapy: A Basic Text, Second Edition</i> , Washington D.C. & London: American Psychiatric Publishing, Inc. 小谷英文. (2008). <i>ダイナミック・コーチング：個人と組織の変革</i> . 東京：PAS 総合研究所. 小谷英文. (2014). <i>集団精神療法の進歩：ひきこもりからトップリーダーまで</i> . 東京：金剛出版. 山口隆, 増野肇, 中川賢幸編. (1987). <i>やさしい集団精神療法入門</i> . 東京：星和書店. 武井麻子. (2002). <i>グループという方法</i> . 東京：医学書院. 近藤喬一, 鈴木純一編. (1999). <i>集団精神療法ハンドブック</i> . 東京：金剛出版. ※論文は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。						
履修条件	看護師免許を保有し、精神保健医療福祉分野での実務経験が3年以上ある。						
学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室にはメール又は電話で予約をとっておいでください。急を要する場合は、この限りではありません。						

授業科目名	精神看護セラピーⅡ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年
担当教員	松枝美智子・白石裕子・小嶋秀幹						
授業の概要	精神看護専門看護師として Care と Cure を融合した看護実践を行うために必要な、認知行動療法、心理教育、薬物療法などの各種治療やリハビリテーションを活用した看護の原理と実際を実践的に学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	主体的な治療への参加を促進する技術を理解し、記述する。 向精神薬を用いた薬物療法について理解し、記述する。 認知行動療法について理解し、記述する。 心理教育の原理を理解し、記述する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	心理教育の原理を臨床事例に適用してプログラムを作成する。 精神科における各種セラピーを看護実践に活用すると共に、それを受ける人とその家族に対する精神看護専門看護師の役割と責任を考察し、記述する。					
	DP3：表現力	自己の感情や考えを建設的に表現しながらディスカッションを深める。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	課題に主体的に取り組む。 授業に主体的に参加する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	向精神薬を用いた薬物療法の原理と実際：総論 日本の精神医療における薬物療法の課題	講義	事前学習 紹介した先行研究や図書を読む。 14 は実習で受け持った患者に対する、個別心理教育のプログラムを作成する。 15 は役割と責任を自分なりに考え、A4用紙1枚にレポートする。	小嶋			
2	向精神薬を用いた薬物療法の原理と実際：精神障害をもつ人への薬物療法；抗精神病薬、抗パーキンソン病薬	講義					
3	向精神薬を用いた薬物療法の原理と実際：精神障害をもつ人への薬物療法；抗うつ薬、気分安定薬	講義					
4	向精神薬を用いた薬物療法の原理と実際：精神障害をもつ人への薬物療法；抗不安薬、睡眠薬、抗酒薬、抗てんかん薬	講義					
5	認知行動療法の原理	講義	事後学習 各授業で学んだことを到達目標の視点にそって A4用紙1枚にレポートする。 14 は討議を通じて改善が必要なことは、プログラムの追加・修正を行う。 15 は討議を通じて考えたことを A4用紙1枚にレポートする。	白石			
6	認知再構成法、行動的技法、マインドフルネス認知行動療法	講義					
7	不安障害 / 不安症群の人の認知行動療法	講義					
8	抑うつ障害群の人の認知行動療法	講義					
9	統合失調スペクトラム症および他の精神病性障害群の人の認知行動療法	講義					

10	パーソナリティ障害群の人の認知行動療法	講義				白石
11	認知行動療法の実際：認知再構成法、行動的技法	演習			事前学習 紹介した先行研究や図書を読む。 14は実習で受け持った患者に対する、個別心理教育のプログラムを作成する。 15は役割と責任を自分なりに考え、A4用紙1枚にレポートする。	白石
12	リバーマンのストレス・脆弱性・保護因子モデル	講義				松枝
13	心理教育の原理	講義・討議			事後学習 各授業で学んだことを到達目標の視点にそってA4用紙1枚にレポートする。 14は討議を通じて改善が必要なことは、プログラムの追加・修正を行う。 15は討議を通じて考えたことをA4用紙1枚にレポートする。	松枝
14	心理教育の実際	発表・討議				松枝
15	患者の主體的な治療への参加の促進：コンコーダンス・スキル、Shared decision making 精神科治療における精神看護専門看護師の役割と責任	講義・発表・討議				松枝

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート		◎	◎			60
授業態度・授業への参加度				○		20
受講者の発表（プレゼン）				○		20

テキスト・参考文献等	<p>Benjamin J. Sadock, Virginia A. Sadock, Norman Sussman. (山田和男, 黒木俊英, 神庭重信監訳). (2007). <i> Kaplan精神科薬物ハンドブック：エビデンスに基づく向精神薬療法</i>. 第4版, 東京：メディカル・サイエンス・インターナショナル. (Benjamin J. Sadock, Virginia A. Sadock, Norman Sussman. (2006). Kaplan & Sadock's Pocket Handbook of Psychiatric Drug Treatment. Fourth edition, USA: Lippincott Williams & Wilkins, Inc.)</p> <p>岩切幸子, 白石裕子. (2014) 復職支援に向けた認知行動療法介入事例の検討. 日本精神科看護学術集会誌, 57 (3), 231-235.</p> <p>則包 和也, 白石 裕子. (2014). 統合失調症患者が行っている幻聴への対処. 認知療法研究, 7 (1), 66-75.</p> <p>則包和也, 白石裕子. (2015). 幻聴を多角的に評価する面接マニュアル「ホットチャート」を用いた面接が及ぼす精神科看護師への影響：幻聴を訴える患者への認知・感情・対処の評価から. 日本精神保健看護学会誌, 24 (1), 43-50.</p> <p>白石裕子. (2014). <i>看護のための認知行動療法</i>. 東京：金剛出版.</p> <p>白石裕子, 青石恵子, 田上博喜. (2014). 認知行動療法 (Cognitive Behavioral Therapy:CBT) への関与度が精神科看護師の看護職自律性に及ぼす影響要因の検討. 日本精神保健看護学会誌, 23 (2), 58-64.</p> <p>Sharon Morgillo Freeman, Arthur Freeman. (白石裕子監訳, 國方弘子, 榮玲子, 白石裕子, 則包和也, 海江七海子, 吉永純子訳). (2008). <i>看護実践における認知行動療法</i>. 東京：星和書店. (Sharon Morgillo Freeman, Arthur Freeman. (2004). Cognitive Behavior Therapy in Nursing Practice. LLC: Springer Publishing Company.)</p> <p>論文は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。</p>
------------	---

履修条件	看護師免許を保有し、精神保健医療福祉分野での実務経験が3年以上ある。
------	------------------------------------

学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室へはメール又は電話で予約をとっておいでください。急を要する場合は、この限りではありません。
-----------	--

授業科目名	リエゾン精神看護論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	講義	選択 (精神看護専門看護コース必修)	2	1年
担当教員	安永薫梨・安藤光子・寺岡征太郎・松枝美智子・倉持裕子・池田 智						
授業の概要	一般身体疾患のために精神的な危機状態にある個人とその家族、それらの人々を援助する看護師・看護チーム・多職種チームに、精神看護専門看護師として Care と Cure を融合した卓越した看護を行うために必要な、リエゾン精神看護における直接ケア・間接ケアについて学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	リエゾン精神看護における精神看護専門看護師の活動の歴史、目的、対象、役割、現状を理解し、今後の課題を理解し、記述する。 一般身体疾患を持つ人が陥りやすい精神の健康問題を理解し、記述する。 状況に特有な看護技術を理解し、記述する。 一般身体疾患を持つ人の精神的健康とセルフケアや発達を促進する直接ケア、コンサルテーション、調整、教育の機能を統合した看護実践を理解し、記述する。 一般身体疾患を持つ人の精神的健康とセルフケアを促進するチームを活用した直接ケア、コンサルテーション、調整、教育を統合した看護実践について理解し、記述する。 一般身体疾患を持つ人をケアする看護師のメンタルヘルス支援の在り方について理解し、記述する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	リエゾン精神看護の現代的課題と展望を文献を用いて考察し、記述する。 リエゾン精神看護における倫理的意思決定のあり方について文献を用いて考察し、レポートを作成できる。					
	DP3：表現力	自分の考えや感情を建設的に表現する。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	ディスカッションに主体的に参加する。 課題に主体的に取り組む。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	リエゾン精神看護専門看護師の活動の歴史、目的、対象、役割、現状と課題	講義・討議	事前学習 教科書の該当箇所、関連文献を読んで問題意識を持って出席する。 13は担当教員から提示された事例を倫理調整のステップに沿って分析し、発表用資料を作成する。 15は、所属組織の組織分析、リエゾン精神看護専門看護師への顕在的・潜在的支援ニーズと役割開発とキャリア形成の方略を考え、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習 授業で学んだことを到達目標の視点にそってA4用紙1枚にレポートする。 13回目の授業の事例検討会を受けて、発表した資料に追加修正、文献的な考察を加えてレポートする。	安藤			
2	リエゾン精神看護専門看護師が用いる看護技術と治療技法						
3	リエゾン精神看護専門看護師の6つの機能を統合した活動の特徴						
4	地域包括ケア時代のリエゾン精神看護専門看護師としての役割開発のあり方と展望						
5	人格的な問題をもち、医療不信、医療者への怒りによる攻撃性、操作性の高い患者へのリエゾン精神看護専門看護師の直接ケア			安永			
6	不安状態にある患者へのリエゾン精神看護専門看護師の直接ケア						
7	せん妄状態にある患者へのリエゾン精神看護専門看護師の直接ケア						
8	うつ状態、そう状態、幻覚妄想状態により自殺念慮、自殺企図がある人へのリエゾン精神看護専門看護師の直接ケア			寺岡			
9	患者や家族への陰性感情によりケアに向かえない医療チームのチーム・ビルディング						
10	リエゾンチームの実践の構造と機能、リエゾン精神看護専門看護師のリーダーシップ リエゾン精神看護専門看護師と認定看護師との協働のあり方						

11	一般身体疾患の患者とその家族をケアする看護師に対するメンタルヘルス支援におけるリエゾン精神看護専門看護師と看護管理者の協働	講義・討議	松枝 池田
12	リエゾン精神看護における倫理調整	講義・討議	
13	リエゾン精神看護における倫理調整の実際	事例検討	
14	リエゾン精神看護における教育、研究	講義・討議	
15	所属組織におけるリエゾン精神看護専門看護師としての役割開発とキャリア形成の展望と方法論	発表・討議	
			倉持
			安永
			安永 松枝 池田

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート		◎	◎			60
授業態度・授業への参加度			○	○		20
受講者の発表（プレゼン）			◎			20

テキスト・参考文献等	<p>安藤 光子. (2012). リエゾン精神看護専門看護師の実践：看護師へのメンタルヘルス支援を中心に. <i>滋賀医科大学看護学ジャーナル</i>, 10 (1), 4-7.</p> <p>アントン・オブホルツァー、ヴェガ・ザジェ・ロバーツ. (2014). <i>組織のストレスとコンサルテーション</i> (武井麻子, 榎恵子, 他訳). 東京: 金剛出版.</p> <p>EH, シャイン. (2002). <i>プロセス・コンサルテーション: 援助関係を築くこと</i> (稲葉元吉, 尾川丈一訳). 東京: 白桃書房.</p> <p>平井元子. (2014). <i>リエゾン: 身体とところをつなぐかわり</i>. 東京: 仲村書林.</p> <p>井手径子, 安藤光子, 井手敬昭, 山本みな子, 島田あずみ. (2015). 精神科および一般科のみの臨床経験では看護師のアセスメントはどのように異なるか. <i>日本看護学会論文集: 精神看護</i>, 45, 203-206.</p> <p>池田智. (2014). 大学病院に勤務する新卒看護師の Sense of Coherence と精神健康度の関連. 平成 25 年度福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文.</p> <p>萱間真美他. (2006). <i>リエゾン精神看護</i>. 精神看護エクスペール, 東京: 中山書店.</p> <p>倉持裕子, 切明幸, 山本広美, 奥本ますみ. (2012.02). 院内暴力に対する看護師の意識改革! ロールプレイを取り入れた実践的な暴力対策研修. <i>看護人材教育</i>, 8 (6), 49-54.</p> <p>南裕子監, 宇佐美しおり. (2010). <i>精神科看護の理論と実践: 卓越した看護実践をめざして</i>. 東京: スーヴェルヒロカワ.</p> <p>南裕子監, 平井元子. (2014). <i>リエゾン身体 (からだ) とところをつなぐかわり (SERIES. 看護のエスプリ)</i>. 東京: 仲村書林.</p> <p>ナースツールズ編, 武用百子. (2014). <i>リエゾンナースと考える「困りごと」にどうかかわるか</i>. 東京: ナースツールズ.</p> <p>野末聖香, 宇佐美しおり. (2007). <i>精神看護スペシャリストに必要な理論と技法</i>. 東京: 日本看護協会出版会.</p> <p>野末聖香. (2004). <i>リエゾン精神看護: 患者ケアとナースの支援のために</i>. 東京: 医歯薬出版株式会社.</p> <p>サラ・T・フライ. (2005). <i>看護実践の倫理第2版</i>. 東京: 日本看護協会出版会.</p> <p>小川 和美, 寺岡 征太郎, 寺坂 陽子, 江藤 栄子. (2014). 臨床看護師が体験している倫理的問題の頻度とその程度. <i>日本看護倫理学会誌</i>, 6 (1), 53-60.</p> <p>寺岡 征太郎. (2013). 「専門看護師」実践報告と看護管理者の視点 精神看護 リエゾン精神看護 CNS として院内外の看護の質向上に取り組む. <i>看護</i>, 65 (14), 040-044.</p> <p>寺岡貴子, 上野恵美子, 寺岡征太郎. (2014). 心理教育プログラムに参加しているうつ病患者に対する自殺予防を意図した介入: 精神科看護師に対する面接調査の分析より. <i>活水論文集</i>, 2, 9-21.</p> <p>山内 典子, 安田 妙子, 小林 清香, 異儀田 はづき, 筒井 順子, 西村 勝治, 田中 美恵子. (2013). 精神科コンサルテーション・リエゾンチームにおける各職種の役割構築に向けたパイロットスタディ: リエゾンナースと臨床心理士に焦点をあてて. <i>総合病院精神医学</i>, 25 (1), 23-32.</p> <p>安田 妙子, 山内 典子, 山田 咲樹子, 三村 直美, 小泉 雅子, 金子 真理子. (2012). 大学病院における専門領域の異なる CNS の協働に関する研究. <i>木村看護教育振興財団看護研究集録</i>, 19, 69-80.</p> <p>安永薫梨. (2015). 「精神看護における患者から看護師への暴力 (Violence)」に関する文献レビュー. <i>日本精神保健看護学会誌</i>, 24 (1), 1-11.</p> <p>※論文は適宜紹介するが、学生も文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手し活用する必要がある。</p>
履修条件	看護師免許を保有し、精神保健看護医療福祉分野での実務経験が3年以上あること。
学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室にはメール又は電話で予約をとっておいください。急を要する場合は、この限りではありません。

授業科目名	精神障がい者地域移行・地域定着看護論	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	松枝美智子・宮崎 初・福山敦子・熊本勝治・山本智之	通年	講義	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年

授業の概要
急性期にある患者の地域移行・地域定着の促進、長期入院予備軍患者の地域移行・地域定着の促進、精神科長期・超長期入院患者の希望に添った地域移行・地域定着の促進における、精神看護専門看護師の6つの機能を駆使し、Care と Cure を融合した高度実践の理論的な基盤と介入の方略、具体的な介入方法について学ぶ。

学生の到達目標

知識・理解	DP1：専門的知識	精神障がい者の地域移行・地域定着促進を目的とした精神看護専門看護師の活動の歴史、定義、対象、方法を理解する。 急性期にある患者の地域移行・地域定着促進における、患者、家族、精神保健医療福祉チームの状況のアセスメントに基づく介入の方略と介入プロセスを理解する。 長期入院予備軍患者の地域移行・地域定着促進における、病院、地域での患者、家族、精神保健医療福祉チームの状況のアセスメントに基づく介入の方略と介入プロセスを理解する。 精神科長期入院・超長期入院患者の地域移行・地域定着促進における、アセスメントに基づく介入の方略と介入プロセスを理解する。 各種の地域資源における、患者、家族、患者仲間、精神保健医療福祉チームの状況のアセスメントにもとづく介入の方略と介入プロセスを理解する。 地域移行・地域定着促進における精神障がい者の家族への精神看護専門看護師の、家族とそれを巻き込む状況のアセスメントに基づく介入の方略と介入プロセスを理解する。 陰性感情のためにケアに向かえない専門職者に対する精神看護専門看護師の、専門職者の状況のアセスメントに基づく、チーム・ビルディングの方略と介入プロセスを理解する。 重度の精神障害をもつ人が質の高い地域生活を実現するための調整やコンサルテーションの機能を用いた地域資源のネットワーク化と新たな地域資源の開発の方略と介入プロセスを理解する。 ケアマネジメント+IPSにおける精神看護専門看護師のリーダーシップと協働について理解する。
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	地域精神看護の現代的課題と展望を文献を用いて考察し、記述する。 精神障がい者の地域移行、地域定着を促進する、国内外のモデルやプログラムについて理解し、精神看護専門看護師としての活用可能性、活用する場合の方略について考察する。 地域移行・地域定着促進における倫理調整のあり方を考察する。
	DP3：表現力	各授業で理解した事や考察したことをレポートに記述する。 自分の考えや感情を建設的に表現しながらディスカッションを深める。
関心・意欲・態度	DP4：探求力	授業や授業外の課題に関心と意欲を持って取り組み、教師や仲間との対話を通して学びを深める。 地域包括ケア時代に精神看護専門看護師が取り組むべき教育、研究、所属組織における役割開発とキャリア形成の展望を探求する。

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当
1	精神障がい者の地域移行・地域定着を促進することを目的とした精神看護専門看護師の活動の歴史、定義、対象、方法、今後の課題	講義・討議		松枝
2	イギリスの The Meriden Family Program、フィンランドの Open Dialogue、イタリアの地域精神医療の実践	講義・討議	事前学習 紹介した図書や先行研究を読み、問題意識を持って授業に参加する	福山
3	コミュニテ風と虹の日本版治療共同体モデル、北海道浦賀市（べてるの家を含む）における当事者の力を活用した地域精神医療福祉の実践	講義・発表・討議	3はコミュニテ風と虹、12は地域包括支援センター、13はACTでの1日研修を行い、学んだこと、各場所での専門職者の精神看護専門看護師に対する支援ニーズを発表用資料としてまとめる。	松枝
4	日米の Transitional Care Modelにおける精神看護専門看護師の直接ケアと間接ケア	講義・討議	14は提示された事例を倫理調整のステップに沿って分析し、発表用資料を作成する。	松枝
5	急性期にある重度の精神障がい者の地域移行・地域定着促進における精神看護専門看護師の病院、地域での直接ケアと間接ケア（暴力のある患者に焦点をあてて）	講義・討議	15は、所属組織の組織分析、精神看護専門看護師への顕在的・潜在的支援ニーズ、役割開発とキャリア形成の方略を考え、プレゼンテーションの準備をする。	宮崎 山本
6	長期入院予備軍の精神障がい者の地域移行・地域定着促進のための、病院、地域での精神看護専門看護師の直接ケアと間接ケア（物質依存のある患者に焦点をあてて）	講義・討議		
7	精神科長期・超長期入院している重度の精神障がい者の地域移行・地域定着促進のための、病院、地域での精神看護専門看護師の直接ケアと間接ケア（生きる意味を見失っている患者に焦点をあてて）	講義・討議		松枝

8	地域で精神障がい者の生活をサポートする資源（デイケア、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、就労移行・就労継続支援事業所など）における直接ケアと間接ケア	講義・討議	事後学習 授業で学んだことを到達目標の視点にそって A4用紙1枚にレポートする。 14回目の授業で発表した資料に、授業でのディスカッションを踏まえて追加修正、文献的な考察を加えてレポートを作成する。	松枝
9	地域移行・地域定着促進における精神障がい者の家族への精神看護専門看護師の直接ケアと間接ケア（家庭内の不和に焦点をあてて）	講義・討議		松枝 熊本
10	地域で生活する重度の精神障がい者への危機介入における精神看護専門看護師の直接ケアと間接ケア（急激なソーシャル・サポートの低下から自殺企図に至った患者に焦点をあてて）	講義・討議		
11	陰性感情のためにケアに向かえない専門職者に対する精神看護専門看護師の調整やコンサルテーションの機能を用いたチーム・ビルディング（人格的な問題をもつ患者へのケア提供者の陰性感情に焦点をあてて）	講義・討議		福山
12	重度の精神障害をもつ人が質の高い地域生活を実現するための医療機関、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、就労移行支援事業、就労継続支援事業、保健所、精神保健福祉センター、保健福祉事務所、民生委員等に対する、調整やコンサルテーションの機能を用いた地域資源のネットワーク化と新たな地域資源の開発	講義・発表・討議		
13	ACT・CBCM+IPSにおける精神看護専門看護師の直接ケアと間接ケア（未治療、治療中断者への薬物療法をしないケア）	講義・発表・討議		
14	重度の精神障がい者の地域移行・地域定着促進における倫理調整（家族の反対で退院が困難になっている患者に焦点をあてて）	事例検討		松枝
15	地域包括ケア時代に精神看護専門看護師が取り組むべき教育、研究、所属組織における役割開発とキャリア形成の展望	講義・発表・討議	松枝 宮崎	

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート		◎	◎			60
授業態度・授業への参加度			○	○		20
受講者の発表（プレゼン）			◎			20

テキスト・参考文献等	<p>安藤満代, 川野雅資, 谷多江子, 八谷美絵. (2015). 精神障がい者が病院から地域へ移行する思いの理解. <i>インターナショナル Nursing Care Research</i>, 14 (1), 81-88.</p> <p>浅井初. (2009). 統合失調症と診断されている発病後間もない当事者の病気とのつきあい方. <i>高知女子大学看護学会誌</i>, 34 (1), 29-35.</p> <p>Barbara L. Drew.(2014).The Evolution of the Role of the Psychiatric Mental Health Advanced Practice Registered Nurse in the United States. <i>Archives of Psychiatric Nursing</i>, 28,(5), 298-300. http://www.psychiatricnursing.org/article/S0883-9417(14)00097-1/pdf</p> <p>Daniel M. Blumberger and Dallas P. Seitz.(2013). Transitional interventions to reduce early psychiatric readmissions in adults: systematic review. <i>The British Journal of Psychiatry</i>, 202, 187-194. doi: 10.1192/bjp.bp.112.115030</p> <p>Eassom E, Giacco D, Dirik A, et al. (2014). Implementing family involvement in the treatment of patients with psychosis: a systematic review of facilitating and hindering factors. <i>BMJ Open</i>,4:e006108,doi:10.1136/bmjopen-2014-006108</p> <p>Elizabeth C.Elliott, Marlene walden.(2013). Development of transformational advanced professional practice model. <i>Journal of American association of nurse practitioners</i>. doi:10.1002/2327-6924.12171.</p> <p>堀川公平, 松下航. (2013). 精神科病院づくりから街づくりへ スティグマ, アンチスティグマ. <i>精神医学</i>, 55 (11), 1041-1045.</p> <p>堀川公平. (2014). 統合失調症の退院支援と住居プログラム:「治療共同体」から「生活共同体」へ. <i>精神科治療学</i>, 29 (1), 77-83.</p> <p>堀川 公平. (2015). のぞえ便り「力動的チーム医療」からみた「精神科病院」のあるべき姿 (その1). <i>精神科臨床サービス</i>, 15 (2), 241-248.</p> <p>堀川 公平. (2015). のぞえ便り:「力動的チーム医療」からみた「精神科病院」のあるべき姿 (その2):入院、外来部門に共通する医療ソフト. <i>精神科臨床サービス</i>, 15 (3), 397-404.</p> <p>伊藤順一郎. (2015). 統合失調症患者の家族支援. <i>精神保健研究</i>, 61, 13-21.</p> <p>川内健三, 天ヶ谷真奈美. (2013). 精神科訪問看護において病棟看護師が感じる困難. <i>日本看護研究学会誌</i>, 36 (2), 1-11.</p> <p>宮川 治美, 兒玉 幸子, 田島 美幸, 小嶋 秀幹, 木村 忍, 佐藤 亜紀, 中村 純. (2010) 地域医療機関での自殺予防対策「こころのケアナース養成研修会」. <i>精神科</i>, 17 (6), 660-668</p> <p>小嶋 秀幹. (2014). 自殺の危険が切迫した人と関わる際の心構えとは:地域の事例を通して考えたこと. <i>自殺予防と危機介入</i>, 32 (1), 88-91.</p> <p>小嶋秀幹. (2013. 05). 民生委員が関わった自殺事例のプロセス:インタビュー調査内容の質的分析. <i>日本社会精神医学会雑誌</i>, 22 (2), 92-105.</p>
------------	---

小嶋 秀幹. (2014). 民生委員からみた自殺対策の現状と課題:自由記述内容の質的分析から. *自殺予防と危機介入*, 34 (1), 41-47.

福川 摩耶, 宇佐美 しおり, 野末 聖香, 福嶋 好重, 寺岡 征太郎, 大井 美樹. (2014). 精神障害者への精神科ケア・マネジメントチームおよびチーム内における精神看護専門看護師 (CNS) の役割と評価. *熊本大学医学部保健学科紀要*, 10, 27-35

福山なおみ, 石川幸代, 矢野章永, 奥山貴弘, 丸山絢子, 小杉信之, 藤松久恵, 坂本敦子, 大江基. (2006). 在宅における精神障害者をもつ家族の困難体験の内容と対処および家族の力(第1報). *共立女子短期大学看護学科紀要*, 1, 67-79.

松枝美智子. (2003). 精神科超長期入院患者の社会復帰への援助が成功する要因:日本版治療共同体における看護師の変化. *日本精神保健看護学会誌*, 12 (1), 45-57.

松枝美智子. (2005). 精神科超長期入院患者の社会復帰援助が成功するシステム上の要因:日本版治療共同体の実践の分析から. *福岡県立大学看護学部紀要* 2 (2), 80-91.

松枝美智子, 坂田志保路, 安永薫梨, 浅井初, 他. (2011). 精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の検討:因子分析と信頼性の検証. *福岡県立大学看護学部紀要*, 9 (1), 1-10.

南裕子監, 宇佐美しおり. (2010). *精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして*. 東京:ヌーヴェルヒロカワ.

EH. シャイン. (2002). *プロセス・コンサルテーション:援助関係を築くこと* (稲葉元吉, 尾川丈一訳). 東京:白桃書房. 福山敦子, 岡田愛編. (2013). 精神障がい者地域包括ケアのすすめ:ACT-Kの挑戦:実践編. 東京:批評社.

蔭山正子, 代田由美, 藤賀美枝子, 川畑佳奈子, 田口敦子. (2012). 統合失調症の本人を治療につなげる際の行政専門職による家族支援. *日本公衆衛生雑誌*, 59 (4), 259-268.

熊本勝治. (2015). 初発統合失調症患者の家族に対する面会を活用した看護:精神科急性期病棟入院後2週間に焦点をあてて. *平成26年度福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻修士論文*.

小西恵美子, 麻原きよみ, 小野若菜子, 倉岡有美子, 田代真理. (2013). ケーススタディ:倫理的意思決定の枠組みを使わないアプローチと対話. 5 (1), *日本看護倫理学会誌*, 28-33.

小山明美. (2013). 長期入院を経て退院に至った統合失調症患者の自己決定のプロセス. *日本看護倫理学会誌*, 5 (1), 40-45.

野末聖香, 宇佐美しおり. (2007). *精神看護スペシャリストに必要な理論と技法*. 東京:日本看護協会出版会.

斎藤環. *オープン・ダイアログとは何か*. 東京:医学書院.

坂田三允, 萱間真美, 他. (2009). *精神科訪問看護. 精神看護エキスパート*. 8 (8), 東京:中山書店.

サラ・T・フライ. (2005). *看護実践の倫理第2版*. 東京:日本看護協会出版会.

Simone N. Vigod, Paul A. Kurdyak, Cindy-Lee Dennis, Talia Leszcz, Valerie H. Taylor. (2013). Transitional interventions to reduce early psychiatric readmissions in adults systematic review. *The British Journal of Psychiatry*, 202, 187-194. doi:10.1192/bjp.bp.112.

白石潔, 堀川百合子, 坂口信貴, 連理貴司, 吉島秀和, 堀川公平. (2013). のぞえ総合心療病院と統合失調症地域連携クリティカルパス. *日本社会精神医学会雑誌*, 22 (2), 178-182.

白石裕子, 東サトエ, 田上博喜, 國方弘子. (2014). ナラティブ・アプローチの視点からとらえた浦河べつるの家における実践の意味. *精神科看護*, 41 (6), 062-069

白川 裕一, 宇佐美 しおり, 高橋 教朗, 右田 香魚子. K県内の身体疾患を有する入院患者の不安・抑うつ状態と関連要因、精神的ケア・ニーズとケア満足度、看護師の精神的ケアの実態. *熊本大学医学部保健学科紀要*, 7, 33-49.

高木俊介. (2008). *ACT-Kの挑戦:ACTがひらく精神医療・福祉の未来*. 東京:批評社.

高木俊介, 福山敦子, 岡田愛編. (2014). *精神障がい者地域包括ケアのすすめ-ACT-Kの挑戦 実践編*. 東京:批評社.

田中美恵子, 濱田由紀, 小山達也. (2010). 精神科病棟で働く看護師が体験する倫理的問題と価値の対立. *日本看護倫理学会誌*, 12 (1), 6-14.

土屋幸己. (2014). 【統合失調症をもつ高齢者への医療と生活支援】(第3章) 精神障害を抱える高齢者を生活の場で支える工夫:高齢精神障害者を地域で見守るためのネットワークづくり 精神障害領域と高齢者領域との連携. *精神科臨床サービス*, 14 (1), 74-78.

宇佐美しおり, 中山洋子, 野末聖香, 藤井美香, 大井美樹. (2014). 再入院予防を目的とした精神障害者への看護ケアの実態. *日本精神保健看護学会誌*, 23 (1), 70-80.

宇佐美しおり, 田中美恵子, 永井優子, 相澤和美, 岡谷恵子, 小山達也, 福川摩耶. (2014). 精神看護実践における倫理的課題と対処方法の実態. *日本精神保健看護学会誌*, 23 (1), 112-131.

宇佐美しおり, 吉田智美, 高山良子, 他. (2015.05). 在宅療養移行支援 (Transitional Care) における専門看護師の活動実態と評価. *看護*, 67 (7), 078-090.

山口まどか, 堀川公平, 堀川百合子, 菊池清美, 川口玲華, 古賀禎也, 後田純子. (2013). 入院治療期間の短縮化と患者-スタッフミーティング. *集団精神療法*, 29 (2), 195-199.

山口淑恵, 石竹達也, 西田和子. (2015). 地域包括支援センター三職種の職業性ストレスとバーンアウトとの関連. *純真学園大学雑誌*, 4, 107-116.

山本智之. (2011). 患者理解を深めて、寄り添う看護:仮説を立てて取り組んだアルコール依存症看護から学んだこと. *アルコール看護研究*, 1 (1), 71-74.

山本智之. (2015). アルコール依存症回復者の断酒の動機づけと入院中の看護の関係. *平成26年度福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻修士論文*.

安田妙子, 長濱ゆか, 石井志津代, 斉藤みよ子. (2012). 統合失調症患者に対する多職種協働外来支援システムの開発. *日本精神科看護学術集誌*, 55 (1), 20-27.

※論文は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。

テキスト・参考文献等

履修条件

看護師免許を保有し、精神保健看護医療福祉分野での実務経験が3年以上あること。

学習相談・助言体制

メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室にはメール又は電話で予約をとっておいでください。急を要する場合は、この限りではありません。

授業科目名	精神看護専門看護師直接ケア実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	松枝美智子(科目担当者) 藤瀬一裕・山本智之・大石正信・古川弘典・秋吉ゆか・古田和弘・ 佐々木 潤・矢野幸一・斉藤利幸(一本松すずかけ病院臨床指導者) 吉田敏勝・熊本勝治・中川正義(見立病院臨床指導者)		通年	実習	選択 (精神看護 専門看護師 コース必修)	2	1年
授業の概要	複雑で解決困難な精神の健康問題を持つ人とその家族に、オレム-アンダーウッドモデル、家族看護エンパワメント・モデル、精神力動理論、発達理論、MSE、MHA、自我・自己・人格の査定、患者を取り巻く保健医療福祉職者やチームの状況の視点からアセスメントし、受け持ち看護師、看護チーム、多職種チームの力を引き出しながら、CareとCureを融合した高度な直接ケアを展開する能力を培う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	精神看護専門看護師としての直接ケアに必要な最新の理論知と実践知を統合して活用する。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	<p>複雑で解決困難な患者を2名受け持ち、精神状態や生活機能の状態をMental Status Examination、Mental Health Assessment、WHODAS2.0、精神力動的な視点、自我・自己・人格の側面から査定する。</p> <p>過去最高のセルフケアレベルと現在のセルフケアレベルを特定し、どこまで回復が可能かを査定し、援助の方向性を見出す。</p> <p>患者の疾患、学業や就業の状況、家族歴、病歴、現在の精神状態、成育歴、生活歴、発達の状態、自我状態、治療とそれへの反応、ソーシャル・サポート、患者が置かれている状況や希望、家族の状況や希望などが現在のセルフケアにどのように影響しているかを総合的にアセスメントする。</p> <p>総合的なアセスメントに基づき、問題の明確化、長期目標、短期目標を設定し、看護計画を立案する。</p> <p>家族看護エンパワメント・モデルを用いて、家族、記録物、看護師等から家族の情報を収集する。</p> <p>家族の総合的なアセスメント、問題の明確化、長期目標、短期目標、計画を受け持ち看護師や看護チーム、多職種チームとカンファレンスで共有し、必要に応じて追加・修正する。</p> <p>患者の精神の健康問題を複雑にしている患者を取り巻く、受け持ち看護師、看護チーム、多職種チームの状況のアセスメントを実施し、それらの人やチームへの介入計画を立案する。</p>					
	DP3：表現力	カンファレンスなどで教員や臨床の専門職者と対話したことを、看護実践、記録、プレゼンテーション、レポートに反映させる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	臨床状況に主体的に参加する。 日々の看護実践のリフレクションを通して、看護現象と自己の直接ケアの意味を探求する。 自己の目標					
技能	DP6：実践力	<p>情報収集を行いながらその場での臨床判断に基づき看護を提供し、患者や家族との信頼関係を構築、発展させる。</p> <p>患者とその家族へのCureとCareを融合した高度な看護実践を、受け持ち看護師や看護チーム、多職種チームの力を引き出し、チーム・ビルディングしながら協力して行う。</p> <p>自分の思考、感情、行動を治療的に活用しながら看護を展開する。</p> <p>患者とその家族への直接ケアを効果的に行うために、必要な範囲で看護管理者に報告し管理的な視点からの助言を受け、直接ケアに反映させる。</p>					

1. 授業内容

患者や家族の状況、受け持ち看護師の状況、看護チームの状況、多職種チームの状況をアセスメントし直接ケアを用いた介入の組み立てを行い、受け持ち看護師、看護チーム、多職種チームと協力して直接ケアを展開する実習である。

2. 授業方法

- 1) 実習施設：和光会一本松すずかけ病院、昌和会見立病院のうち1か所選択して実習する。
- 2) 最初の3日間は集中してアセスメントを行い、残りの7日間は患者の状況や病棟の状況に合わせて実習を計画し、合計10日間（臨地での実習は9日間。）の実習を行う。
- 3) 患者とその家族を1～2ケース受け持ち、受け持ち看護師や看護チーム、多職種チームと協力して看護を展開する。

3. 事前学習

- 1) 教員に指導を受けながら実習計画を作成する。
- 2) 実習施設の臨床指導者（精神看護専門看護師もしくはそれを指す人）に実習計画について相談し、調整する。
- 3) 実習で必要となることが想定される、これまでに学んだ知識を確実なものにしておく。

4. 事後学習

- 1) 行った直接ケアの全体像をケースレポートとしてまとめ文献を用いて考察する。
- 2) 直接ケアを振り返り、目標の達成度を患者、家族、受け持ち看護師、看護チーム、多職種チームの反応から評価する。
- 3) 直接ケアにおける自分の課題と今後の目標を明確化する。

※詳細は実習要項を参照。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
その他		◎	◎	◎	◎	100
補足事項	実習記録、実践、発表、最終レポートなどにより、学生の到達目標で評価する。					

テキスト・参考文献等	<p>Patricia R. Underwood 著、南裕子監、野嶋佐由美、勝原裕美子編。（2003）. <i>パトリシア・R・アンダーウッド論文集看護理論の臨床活用</i>. 東京：日本看護協会出版会。（Patricia R. Underwood.(2003).Thoughts of Patricia R. Underwood: Making Use of Nursing Theory at the Bedside. Tokyo: Japan Nursing Association.)</p> <p>南裕子、稲岡文昭、セルフケア概念と看護実践. 東京：へるす出版.</p> <p>野嶋佐由美監著、中野綾美編著。（2005）. <i>家族エンパワーメントをもたらす看護実践</i>. 東京：へるす出版.</p> <p>野末聖香、宇佐美しおり。（2007）. <i>精神看護スペシャリストに必要な理論と技法</i>. 東京：日本看護協会出版会.</p> <p>南裕子監、宇佐美しおり。（2010）. <i>精神科看護の理論と実践：卓越した看護実践をめざして</i>. 東京：スーヴェルヒロカワ.</p> <p>Robert Paul Liberman. (2008). <i>精神障害と回復：リバーマンのリハビリテーション・マニュアル</i>（西園昌久総監修、池淵恵美監訳、SST普及協会訳）. 東京：星和書店.（Robert Paul Liberman.(2011). <i>Recovery from Disability: Manual of Psychiatric Rehabilitation.</i>, Washington D.C. & London: American Psychiatric Publishing, Inc.</p> <p>宇佐美しおり、山口雅也、田口尚子、藤井美香、日高貴子、市川麻紀。（2015）. 日本精神保健学会第25回学術集会・総会プログラム・抄録集、92.</p> <p>※論文は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。</p>
------------	---

履修条件	精神看護専門看護師コースの学生であること。
------	-----------------------

学習相談・助言体制	臨床指導者と教員が協力して指導する。メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室にはメール又は電話で予約をとっておいください。急を要する場合は、この限りではありません。
-----------	---

授業科目名	精神看護専門看護師役割実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	選択 (精神看護専門看護師コース必修)	2	1年
担当教員	松枝美智子・宮崎 初 (科目担当者) 田巻宏之・後藤優子・五味麻里・勝部真由 (長谷川病院臨床指導者)						
授業の概要	精神看護専門看護師の活動に主体的に参加し、6つの機能を用いた高度な看護実践の目的、方法、構造、内容、機能、成果とその意味、そこに貫かれている価値と卓越性を理解する。精神看護専門看護師の活動の追体験や自己の活動の体験を通して精神看護専門看護師としての活動のイメージを形成し、活動するために必要な能力を明確化する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	<p>精神看護専門看護師が所属している組織の精神看護専門看護師の活用の歴史、活用の背景、現在の看護管理者が精神看護専門看護師を活用している目的、期待、効果的に活用するための看護管理上の工夫などを理解する。</p> <p>精神看護専門看護師がとらえている、所属組織の看護管理者のニーズ、患者や家族のニーズ、専門職者の支援ニーズ、そのニーズにこたえるために実際に果たしている役割、具体的な活動について理解する。</p> <p>精神看護専門看護師が関与している場や対象・対象集団の特性、現象の背景や文脈、影響要因を専門看護師の活動への参加、精神看護専門看護師との対話、記録物や専門職者からの情報収集を通して理解する。</p> <p>精神看護専門看護師の介入の目的、主として用いている機能（直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）を精神看護専門看護師の活動への参加、精神看護専門看護師との対話、記録物や専門職者からの情報収集を通して理解する。</p> <p>主要な機能を果たすために精神看護専門看護師が行なっている高度な臨床判断に基づく実践の目的、用いている技術・治療技法、成果とその意味、一連の過程に貫かれている価値と卓越性を、精神看護専門看護師の活動への参加、対話、情報収集を通して理解し記述する。</p> <p>精神看護専門看護師が看護管理者に行っている報告や相談の目的と方法、看護管理者からの期待や具体的な依頼についての対応方法を理解する。</p> <p>精神看護専門看護師の役割を果たすために必要な看護の理論知を理解し実践知と統合して活用する。</p>					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	<p>実習全体を目標に沿って振り返り文献を用いて考察し、記述する。</p> <p>自組織での精神看護専門看護師としての活動のイメージ、活動するために必要な自己の能力について精神看護専門看護師、教員、学生間での対話や文献を用いて考察し、レポートにまとめる。</p>					
	DP3：表現力	<p>自分の考えや感情を建設的に表現しながら関係者との対話を深める。</p> <p>実習全体を振り返りまとめたことを発表会で分かりやすくプレゼンテーションする。</p>					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	<p>臨床状況に主体的に参加し、自分なりの臨床判断、アセスメントや介入の方向性を探求する。</p> <p>精神看護専門看護師の活動への参加をリフレクションし、看護現象の意味や精神看護専門看護師の実践の意味を探求する。</p> <p>自己の目標</p>					
技能	DP6：実践力	<p>精神看護専門看護師の実践場面に、臨床的推論を働かせながら適切な立ち位置で参加する。</p> <p>精神看護専門看護師が担当する院内研修のグループワークなどで教育やコンサルテーションの機能の一部を積極的に担う。</p> <p>精神看護専門看護師が担当する院内の研究計画発表会などで研究や教育の機能の一部を積極的に担う。</p>					

1. 授業内容

精神看護専門看護師の活動への参加観察、参加観察場面に関する情報の収集、精神看護専門看護師との対話を通してアセスメントし、精神看護専門看護師の介入の目的、方法、構造、内容、機能、成果とその意味を理解し、将来精神看護専門看護師として役割を果たしていくために必要な自己の能力を見出していく実習である。

2. 授業方法

- 1) 実習施設：碧水会長谷川病院。
- 2) 合計10日間（臨地での実習は9日間。臨地での実習は9日間。）連続して（土日、祝祭日を除く）実習する。

3. 事前学習

- 1) 教員に指導を受けながら実習計画を作成する。
- 2) 実習施設の臨床指導者（精神看護専門看護師）にアポイントメントをとり、実習計画について相談し調整する。
- 3) 到達目標を達成するために必要な、知識や技術を確かなものにしておく。

4. 事後学習

- 1) 実習全体を振り返り、レポート（20,000字）を作成する。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
その他		◎	◎	◎		100

テキスト・参考文献等	<p>アントン・オブホルツァー、ヴェガ・ザジェ・ロバーツ。（2014）. 組織のストレスとコンサルテーション（武井麻子，榊恵子，他訳）. 東京；金剛出版.</p> <p>EH. シャイン.（2002）. プロセス・コンサルテーション：援助関係を築くこと（稲葉元吉，尾川丈一訳）. 東京；白桃書房.</p> <p>南裕子，稲岡文昭，セルフケア概念と看護実践. 東京；へるす出版.</p> <p>南裕子監，宇佐美しおり.（2010）. 精神科看護の理論と実践：卓越した看護実践をめざして. 東京；スーヴェルヒロカワ.</p> <p>野嶋佐由美監著，中野綾美編著.（2005）. 家族エンパワーメントをもたらす看護実践. 東京；へるす出版.</p> <p>野末聖香，宇佐美しおり.（2007）. 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 東京；日本看護協会出版会.</p> <p>Patricia R. Underwood 著，南裕子監，野嶋佐由美，勝原裕美子編.（2003）. パトリシア・R・アンダーウッド論文集看護理論の臨床活用. 東京；日本看護協会出版会.（Patricia R. Underwood.(2003). <i>Thoughts of Patricia R. Underwood: Making Use of Nursing Theory at the Bedside.</i> Tokyo: Japan Nursing Association.)</p> <p>論文は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。</p>
------------	---

履修条件	精神看護専門看護師コースの学生であること。
------	-----------------------

学習相談・助言体制	臨床指導者と教員が協力して指導する。実習地での直接指導以外に、メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室にはメール又は電話で予約をとっておいでください。急を要する場合は、この限りではありません。
-----------	---

授業科目名	精神科診断治療実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	松枝美智子・安永薫梨（科目担当者） 小嶋亨二・櫻井敬子・秋山 勇・伊藤志津子・若松伸宏 （福岡県立精神医療センター太宰府病院臨床指導者）		通年	実習	選択 （精神看護 専門看護師 コース必修）	2	2年
授業の概要	精神科外来で診断治療を受ける患者とその家族の状況を初期アセスメントしケアを提供しながら、精神看護専門看護師として他職種と連携し Care と Cure を融合した高度な看護実践を展開するために必要な、精神科診断治療技術の基礎を修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP 1：専門的知識	精神疾患の診断基準、精神科での各種治療についての最新の知識を活用する。					
思考・判断・表現	DP 2：論理的思考力	医師がどのようなプロセスを通して診断治療を行っているのかを、シャドウイングや対話を通じて理解し、カンファレンスや記録で記述する。 各種の精神科治療にメディカルスタッフやコメディカルスタッフと連携して参加し、診断や各種治療に対する患者や家族の反応をとらえ、各種治療の患者や家族にとっての意味、必要な援助を考え、記述する。					
	DP 3：表現力	実習全体を目標に沿って振り返り文献を用いてパワーポイントにまとめ、発表会で分かりやすくプレゼンテーションする。 自分の考えや感情を積極的に表現しながら関係者と対話する。					
関心・意欲・態度	DP 4：探求力	外来での医師の診断治療の場面に参加し、臨床指導者や教員の指導のもと診断や治療の方向性を探求し、それを表現する。 臨床状況に主体的に参加する。 日々の実習をリフレクションし、看護現象の意味を探求する。 自己の目標					
技能	DP 6：実践力	外来受診をする患者や家族のおかれている状況や体験している世界に配慮しながら予診を実施し、本診を行う医師との連携を図り、患者やその家族にとって診断や治療が意味のあるものになるよう働きかける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1. 実習内容</p> <p>精神看護専門看護師として患者とその家族に他職種と協働して質の高いケアを提供するために必要な、精神科診断と精神科に特有な治療やリハビリテーションを実践する能力を培う実習である。</p> <p>2. 実習方法</p> <p>1) 実習施設：福岡県立精神医療センター太宰府病院。</p> <p>2) 連続して合計10日間（土日、祝祭日を除く。臨地での実習は9日間。）実習を行う。</p> <p>3) 基本的に外来での医師に指導を受けながらの実習であるが、集団精神療法、認知行動療法、心理教育などの各種治療やリハビリテーションについては、臨床心理士、作業療法士、看護師と協力して、病棟や集団療法室などで実習を行う。</p> <p>3. 事前学習</p> <p>1) 教員に指導を受けながら実習計画を作成する。</p> <p>2) 実習施設の臨床指導者（外来看護師長）とアポイントメントをとり、実習計画について相談し調整する。</p> <p>3) 到達目標を達成するために必要な、精神科診断治療に関するこれまでに学んだ知識を確実なものにしておく。</p> <p>4. 事後学習</p> <p>1) 実習で行った精神科診断や各種の精神科治療やリハビリテーションとそれに伴う看護を振り返り、患者や家族にとっての意味を文献を用いて考察する。</p> <p>2) 診断や治療、それに伴う看護実践を振り返り、患者や家族の反応、看護師や他職種の反応、到達目標から評価する。</p> <p>3) 診断治療やそれに伴う看護についての自己の課題と目標を明確化する。</p> <p>※詳細は実習要項を参照のこと。</p>							

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
その他		◎	◎	◎	◎	100
補足事項	実習記録、実践、発表、最終レポートなどにより、学生の到達目標で評価する（実習要項の評価表を参照）。					
テキスト・参考文献等	<p>アメリカ集団精神療学会、日本集団精神療学会。（2014）. <i>AGPA 集団精神療法実践ガイドライン</i>（西村馨ほか訳）. 東京：創元社.</p> <p>American Psychiatric Association. (2013). <i>DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル</i>（高橋三郎，大野裕監訳，染谷俊幸，神庭重信，尾崎紀夫，三村將，村井俊哉訳）. 東京：医学書院.（American Psychiatric Association. (2014). <i>Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorder</i>. USA：American Psychiatric Publishing）</p> <p>Benjamin J. Sadock, Virginia A. Sadock, Norman Sussman.（山田和男，黒木俊英，神庭重信監訳）.（2007）. <i>カプラン精神科薬物ハンドブック：エビデンスに基づく向精神薬療法</i>. 第4版，東京：メディカル・サイエンス・インターナショナル.（Benjamin J. Sadock, Virginia A. Sadock, Norman Sussman. (2006). <i>Kaplan & Sadock's Pocket Handbook of Psychiatric Drug Treatment</i>. fourth edition, USA：Lippincott Williams & Wilkins, Inc.）</p> <p>World Health Organization. (1993). <i>ICD-10：精神および行動の障害：臨床記述と診断ガイドライン新訂版</i>（融通男，中根允文，小見山実，岡崎祐士，大久保善郎監訳）. 東京：医学書院.（World Health Organization. (2013). <i>The ICD-10 Classification of Mental and Behavioural Disorders: Clinical descriptions and diagnostic guidelines</i>.</p> <p>Allen Frances. (2014). <i>DSM-5 精神疾患診断のエッセンス：DSM-5 の上手な使い方</i>（大野裕，中川敦夫，柳沢圭子訳）. 東京：金剛出版.（Allen Frances. (2013). <i>Essentials of Psychiatric Diagnosis Responding to the challenge of DSM-5</i>. USA：A Division of Guilford Publications Inc.</p> <p>白石裕子. (2014). <i>看護のための認知行動療法</i>. 東京：金剛出版.</p> <p>岡田佳詠. (2011). <i>看護のための認知行動療法：進め方と方法がはつきりわかる</i>. 東京：医学書院.</p> <p>論文は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。</p>					
履修条件	精神看護専門看護師コースの学生であること。					
学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室にはメール又は電話で予約をとっておいください。急を要する場合は、この限りではありません。					

授業科目名	Advanced 精神看護専門看護師直接ケア実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	松枝美智子・安永薫梨・宮崎 初 (科目担当者) 西村路子・加賀有未・安藤光子 (滋賀医科大学医学部附属病院臨床指導者) 藤原 薫・岩切真砂子 (慈恵病院臨床指導者) 村上順子・円城寺由貴 (みろく訪問看護ステーション臨床指導者) 鷹子 剛・津田祥子 (Q-ACT 福岡臨床指導者) 植村美紀・須田竜太 (Q-ACT 北九州臨床指導者) 熊谷紀子 (福岡プライマリケア訪問看護ステーション臨床指導者)		通年	実習	選択 (精神看護 専門看護師 コース必修)	2	2年
授業の概要	サブスペシャリティの特徴を踏まえながら、複雑で解決困難な精神の健康問題を持つ人とその家族に対して、受け持ち看護師、看護チーム、多職種チームの力を引き出しながら看護を展開することで、精神看護専門看護師に求められる Care と Cure を融合した高度な直接ケアを展開する能力を培う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP 1 : 専門的知識	精神看護専門看護師としての直接ケアに必要な最新の理論知と、実践知を統合して活用する。 精神看護専門看護師としての直接ケア全体を目標に沿って振り返り、文献を用いて裏付ける。					
思考・判断・表現	DP 2 : 論理的思考力	精神看護専門看護師の直接ケアの前提となる地域や組織の分析を行い、記述する。 選択したサブスペシャリティの実習の場で複数の患者を受け持ち、患者と患者を取り巻く家族、受け持ち看護師、看護チーム、多職種チームの状況のアセスメントを実施し記述する。 患者と患者を取り巻く状況のアセスメント、サブスペシャリティの特徴を踏まえて介入の組み立てを考え、記述する。					
	DP 3 : 表現力	記述したことに関して精神看護専門看護師、教員、他の学生とディスカッションし、アセスメント、介入の組み立ての妥当性を確認する。 自分の考えや感情を建設的に表現しながら関係者と対話する。 実習全体の学びと残った課題を発表会で分かりやすくプレゼンテーションする。 発表会での意見交換を反映させてレポートを作成する。					
関心・意欲・態度	DP 4 : 探求力	日々の看護実践をリフレクションし、看護現象の意味やサブスペシャリティにおける精神看護専門看護師の直接ケアの意味やその特徴を探求する。 自己の目標					
技能	DP 6 : 実践力	臨床的推論を働かせながらサブスペシャリティの特徴、実践の目的や場の状況、介入の組み立てに合わせて直接ケアを展開する。 自分が行った直接ケアの効果を、患者、家族、受け持ち看護師、看護チーム、多職種チームの反応から介入の目的や目標に照らして評価し、状況に応じて柔軟に軌道修正しながら直接ケアを展開する。 精神看護専門看護師としての直接ケアを効果的に行うために、看護管理者に必要な範囲で報告し管理的な視点からの助言を受け、実践に反映させる（直接の報告が難しい組織では、精神看護専門看護師もしくは臨床指導者との対話や看護実践の振り返りにより考察する）。					

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

1. 授業内容

これまでに学んださまざまな理論知や経験知を統合して活用し、患者、家族、受け持ち看護師、看護チーム、多職種チームの状況をアセスメントし、リエゾン精神看護又は地域精神看護の特徴に合わせて介入の組み立てをして直接ケアを行い、その結果を評価し介入計画を見直しながらさらに直接ケアを展開することで、精神看護専門看護師の中心的な機能である直接ケアの能力を更に向上させる実習である。

2. 授業方法

- 1) 実習施設:リエゾン精神看護をサブスペシャリティにする学生は滋賀医科大学医学部附属病院、地域精神看護をサブスペシャリティにする学生は慈恵病院、Q-ACT 福岡、Q-ACT 北九州、みろく訪問看護ステーション、福岡プライマリケア訪問看護ステーションのいずれかの施設を1か所選択し、連続して10日間（土日祝祭日を除く。臨地での実習は9日間）実習する。Advanced精神看護専門看護師役割実習で選択する実習施設と同じ施設を選択する必要がある。
- 2) 患者とその家族を2ケース（実習施設の状況によっては変更の可能性がある）受け持って、受け持ち看護師や看護チーム、多職種チームと協力して直接ケアを展開する。

3. 事前学習

- 1) 教員に指導を受けながら実習計画を作成する。
- 2) 実習施設の臨床指導者（それぞれのサブスペシャリティの精神看護専門看護師）とアポイントメントをとり、実習計画について相談し調整する。
- 3) 到達目標を達成するために必要な、これまでに学んだ知識やそれに関する最新の知識を獲得し、知識や技術を確実なものしておく。

4. 事後学習

- 1) 行った看護介入の全体像を発表会でプレゼンテーションすると共に、発表会で出た質問や意見を反映させてケースレポートとしてまとめ文献を用いて考察する。
- 2) 行った直接ケアの実践を振り返り評価する。
- 3) 精神看護専門看護師としての直接ケアにおける自己の課題と今後の目標を明確化する。

※詳細は実習要項を参照。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)
その他		◎	◎	◎	◎	100
補足事項	実習記録、実践、発表、最終レポートなどにより、到達目標で評価する（実習要項の評価表を参照）。					

テキスト・参考文献等	<p>Patricia R. Underwood 著, 南裕子監, 野嶋佐由美, 勝原裕美子編. (2003). <i>パトリシア・R・アンダーウッド論文集看護理論の臨床活用</i>. 東京: 日本看護協会出版会. (Patricia R. Underwood. (2003). <i>Thoughts of Patricia R. Underwood: Making Use of Nursing Theory at the Bedside</i>. Tokyo: Japan Nursing Association.)</p> <p>南裕子, 稲岡文昭, <i>セルフケア概念と看護実践</i>, 東京: へるす出版.</p> <p>野嶋佐由美監著, 中野綾美編著. (2005). <i>家族エンパワメントをもたらす看護実践</i>. 東京: へるす出版.</p> <p>野末聖香, 宇佐美しおり. (2007). <i>精神看護スペシャリストに必要な理論と技法</i>. 東京: 日本看護協会出版会.</p> <p>南裕子監, 宇佐美しおり. (2010). <i>精神科看護の理論と実践: 卓越した看護実践をめざして</i>. 東京: ヌーヴェルヒロカワ.</p> <p>論文は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。</p>
------------	--

履修条件	精神看護専門看護師コースの学生であること。
------	-----------------------

学習相談・助言体制	臨床指導者と教員が協力して指導する。メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室にはメール又は電話で予約をとっておいでください。急を要する場合は、この限りではありません。
-----------	--

授業科目名	Advanced 精神看護専門看護師役割実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	松枝美智子・安永薫梨・宮崎 初 (科目担当者) 西村路子・加賀有未・安藤光子 (滋賀医科大学医学部附属病院臨床指導者) 藤原薫・岩切真砂子 (慈恵病院臨床指導者) 村上順子・円城寺由貴 (みろく訪問看護ステーション臨床指導者) 鷹子 剛・津田祥子 (Q-ACT 福岡臨床指導者) 植村美紀・須田竜太 (Q-ACT 北九州臨床指導者) 熊谷紀子 (福岡プライマリケア訪問看護ステーション臨床指導者)		通年	実習	選択 (精神看護 専門看護師 コース必修)	2	2年
授業の概要	それぞれのサブスペシャリティの特徴を踏まえ、複雑で解決困難な精神の健康問題をもつ対象者や対象集団、組織のニーズに合わせて、直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究の機能を発揮し、自己のサブスペシャリティにおける精神看護専門看護師としての実践能力とアイデンティティを一層形成すると共に大学院修了後の活動のイメージを確かなものにする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP 1：専門的知識	看護の実践知や理論知を活用する。					
思考・判断・表現	DP 2：論理的思考力	実習施設での役割開発の戦略を練ることを目的に場の特徴やそれぞれのサブスペシャリティで求められていること、精神看護専門看護師に対する実習施設の関係者のニーズのアセスメントを Advanced 精神看護直接ケア実習での学びを活用して深める。 アセスメントやサブスペシャリティの特徴に基づき、役割開発の戦略と具体的な介入の組み立てを行い、記述する。 直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究の中からサブスペシャリティの特徴や対象者や対象集団のニーズに合わせて主要な機能とそこで用いる知識・技術を特定し、記述する。 実習全体を振り返り、経験した事実とそこから学んだことを先行研究と実践知を活用して考察する。					
	DP 3：表現力	アセスメントや介入の組み立てに関して実習施設の精神看護専門看護師、教員とディスカッションし、組織アセスメント、介入戦略や具体的な介入の組み立ての妥当性を確認する。 介入の組み立てに基づき実践した結果をカンファレンスや記録で記述する。 実習全体の学びを発表会でわかりやすくプレゼンテーションする。 実習全体を通して自分の考えや感情を建設的に表現しながらディスカッションを深める。 ディスカッションを踏まえ、先行研究を活用して実習全体の学び、大学院修了後の活動のイメージ、理解したサブスペシャリティに特有の精神看護専門看護師の実践の構造や機能、現時点で到達した自己のサブスペシャリティにおける精神看護専門看護師としてのアイデンティティについて、レポートを作成する。					
関心・意欲・態度	DP 4：探求力	日々の看護実践のリフレクションを通して、看護現象の意味や自己の実践の意味を探求する。 自己の目標					
技能	DP 6：実践力	理論知と経験知を統合し、臨床的推論を働かせながら場の状況、目的や介入の組み立てに合わせて精神看護専門看護師の6つの機能を組み合わせて実践する。 実践の効果を評価し、状況に応じて柔軟に軌道修正しながら実践する。 精神看護専門看護師としての役割を効果的に発揮するために、看護管理者に必要な範囲で報告し管理的な視点からの助言を受け、実践に反映させる (直接の報告が難しい組織では、精神看護専門看護師もしくは臨床指導者との対話や看護実践の振り返りにより考察する)。					

授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）

1. 授業内容

- 1) 対象者や対象者対象組織（リエゾン精神看護又は地域精神看護に関連する施設や地域）のニーズをアセスメントし、そのニーズを満たすための直接ケアと間接ケアの介入の組み立てを行い実践、評価、再実践し、精神看護専門看護師に求められる役割を果たす能力を培う実習である。
- 2) 行った実践の効果を評価し、自分のサブスペシャリティにおける精神看護専門看護師としての能力開発の課題を見出す。

2. 方法

- 1) 実習施設:リエゾン精神看護をサブスペシャリティにする学生は滋賀医科大学医学部附属病院、地域精神看護をサブスペシャリティにする学生は慈恵病院、Q-ACT 福岡、Q-ACT 北九州、みろく訪問看護ステーション、福岡プライマリケア訪問看護ステーションのいずれかの施設を1か所選択し、連続して10日間（土日祝祭日を除く。臨地での実習は9日間。）実習する。Advanced精神看護専門看護師役割実習で選択する実習施設と同じ施設を選択する必要がある。
- 2) 精神看護専門看護師に紹介された対象に6つの機能のうちのいずれか又はいくつかを組み合わせる精神看護専門看護師としての実践を行う。

3. 事前学習

- 1) 目的・目標を達成する為に必要な知識や技術を確かなものしておく。
- 2) これまでの授業を通して学習した事、自己の課題を明確にし、自己目標を立てる。
- 3) 実習目標、サブスペシャリティ、実習先の組織の特徴等を考慮しながら実習計画を立案し、教員に相談しながら調整する。
- 4) 臨床指導者に相談して実習計画を調整する。

4. 事後学習

- 1) 実習を振り返って到達目標に沿って学びを具体的に記述し、文献を用いて考察する。
- 2) 学びを発表会で分かりやすく発表する。
- 3) 発表会での質問や意見をもとに最終的なレポートを作成する。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)
その他		◎	◎	◎	◎	100
補足事項	実習記録、実践、発表、最終レポートなどにより、到達目標で評価する（実習要項の評価表を参照）。					

テキスト・参考文献等	<p>アントン・オブホルツァー、ヴェガ・ザジェ・ロバーツ. (2014). <i>組織のストレスとコンサルテーション</i> (武井麻子, 榊恵子, 他訳). 東京; 金剛出版.</p> <p>EH. シヤイン. (2002). <i>プロセス・コンサルテーション:援助関係を築くこと</i> (稲葉元吉, 尾川丈一訳). 東京; 白桃書房.</p> <p>南裕子, 稲岡文昭. <i>セルフケア概念と看護実践</i>. 東京; へるす出版.</p> <p>南裕子監, 宇佐美しおり. (2010). <i>精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして</i>. 東京; スーヴェルヒロカワ.</p> <p>野嶋佐由美監著, 中野綾美編著. (2005). <i>家族エンパワメントをもたらす看護実践</i>. 東京; へるす出版.</p> <p>野末聖香, 宇佐美しおり. (2007). <i>精神看護スペシャリストに必要な理論と技法</i>. 東京; 日本看護協会出版会.</p> <p>Patricia R. Underwood 著, 南裕子監, 野嶋佐由美, 勝原裕美子編. (2003). <i>パトリシア・R・アンダーウッド論文集看護理論の臨床活用</i>. 東京; 日本看護協会出版会. (Patricia R. Underwood. (2003). <i>Thoughts of Patricia R. Underwood: Making Use of Nursing Theory at the Bedside</i>. Tokyo: Japan Nursing Association.)</p> <p>文献は適宜紹介するが、自分でも文献検索エンジンを用いて最新の知見を入手する必要がある。</p>
------------	--

履修条件	精神看護専門看護師コースの学生であること。
------	-----------------------

学習相談・助言体制	メール、電話、研究室訪問などによる相談に応じます。原則として研究室にはメール又は電話で予約をとっておいください。急を要する場合は、この限りではありません。
-----------	---

授業科目名	臨床看護学特別研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	領域において必修	8	1～2年
担当教員	村田節子・赤司千波・櫛直美・松枝美智子・田中美樹・宮園真美・渡邊智子・古田祐子						
授業の概要	人がより健康で質の高い生活を実現できるよう、さまざまな健康課題を持つ人とその家族への援助のあり方を研究する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	研究テーマに沿った必要な知識を述べることができる。適切な文献を選択できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	研究テーマと目的に沿って論理的に記述できる。					
	DP3：表現力	研究テーマと研究方法に沿って適切な方法を用いて表現できる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	看護研究としてふさわしい内容と自分の次の課題を明確にして取り組むことができる。					
	DP5：社会貢献力	看護職者として社会に貢献する研究テーマに取り組める。					
技能	DP6：実践力	自らのテーマについて、倫理的側面に配慮しながら専門分野の教員や他分野のエキスパート共に諸科学のエビデンスを基に討議する能力を身につける。また、計画の見直しを行い柔軟に対処しながら研究を遂行し、論文作成及び発表することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1			個人面接 またはグループワーク		自己の研究課題を明確にする。		
2	①オリエンテーション		個人面接 またはグループワーク		文献を収集しクリティークを十分に行う。		
3	②自らの研究課題に関連する文献を収集する		個人面接 またはグループワーク		研究テーマを決定する。		
4	③文献を批判的に検討する		個人面接 またはグループワーク		研究計画書を作成する。		
5	④文献検討や他教員、他学生とのディスカッションを重ねながら 自己の研究テーマ、目的を絞り込む		個人面接 またはグループワーク		研究計画発表会で質疑応答を行う。		
6	⑤倫理的側面に配慮しながら目的に合った研究方法を選択する		個人面接		研究計画書を修正する。		
7	⑥研究計画書を作成する		個人面接		倫理審査申請書を作成する。		
8	⑦研究計画の審査及び研究倫理委員会の審査を受ける		個人面接		倫理審査を受ける。		
9	⑧研究を実施する		個人面接		研究を行う。		
10	⑨結果を明らかにし分析する		個人面接		結果を適切に表記する。		
11	⑩先行研究との照らし合わせや担当教員とのディスカッションを通 して結果を考察する		個人面接		研究結果について文献を用い、指導教員とディスカッションしながら考察する。		
12	⑪論文としての構成を考え執筆する		個人面接		論文を作成する。		
13	⑫口頭試問を受ける		個人面接		抄録や発表資料を作成する。		
14	⑬研究発表会で発表する		個人面接		プレゼンテーションを行い、質疑応答を行う。		
15	⑭必要な変更や加筆修正を行い、修士論文を提出する (履修の手引き参照)		個人面接		論文を修正し提出する。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
その他		◎	◎	◎	◎	100	
補足事項	成績評価の詳細については担当教員から別途説明する。 研究論文については評価表に基づき評価を行う。						
テキスト・参考文献等	適宜、必要な図書や文献を紹介する。						
履修条件	履修要件に沿って専門科目を履修していること。						
学習相談・助言体制	学生と時間調整、メール等で対応する。						

授業科目名	課題研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択 (専門看護師 コース必修)	4	1～2年
担当教員	村田節子・松枝美智子・渡邊智子・椋直美・宮園真美						
授業の概要	<p>1. 専門必修科目、共通選択科目の履修を基盤に専門看護師コースの履修モデルにある専門科目で学んだ内容を踏まえて、看護実践の中で生じる問題を取り上げ、実証的に研究を行う能力を育成する。</p> <p>2. 其々の専門分野に関わる新しい知見を得る研究を行い、修士論文としてまとめ発表する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	研究テーマに沿って必要な知識を述べることができる。適切な文献を選択できる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	研究テーマと目的に沿って論理的に記述できる。					
	DP3：表現力	研究テーマと研究方法に沿って適切な方法を用いて表現できる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	専門看護師にふさわしい内容と常に自分の次の課題を明確にして取り組むことができる。					
	DP5：社会貢献力	専門看護師として社会に貢献できる内容である。					
技能	DP6：実践力	専門看護師として、実践上の課題を解決するために必要な研究能力を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>① 研究テーマは、看護実践の中から生じる問題や課題を取り上げる。</p> <p>② 文献検討や担当教員、他の学生とのディスカッションを重ねながら研究計画書を作成し、研究計画の審査及び研究倫理委員会の審査を受けてから、研究を実施する。</p> <p>③ 学生自身が修士論文としての質の向上を図るために他の教員や臨床家の助言を受けたり、学生同士のディスカッションなどの機会を学生自らが積極的に設ける。</p> <p>④ 研究の遂行に当たっては、定期的に指導教官と進捗を確認しながら行う。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
その他		◎	◎	◎	◎	100	
	補足事項	修士論文を用いて評価する。					
テキスト・参考文献等	適宜、必要な図書や文献を紹介する。						
履修条件	専門看護師コースの履修モデルに沿って専門科目を履修していること。						
学習相談・助言体制	学生と時間調整、メールなどで対応する。						

授業科目名	基礎助産学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	佐藤香代・石村美由紀・吉田 静・豊平由美子	前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	1. 助産の概念、意義、助産のパラダイム、倫理、母子保健と助産の変遷を学習し、助産の機能と役割、責務への理解を深める。 2. 助産実践の基盤となる助産学教育・研究について今後のあり方を考察する。 3. 女性のライフサイクルを通じた性と生殖に関する健康を学び、今後の援助のあり方と方向性を探究する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	助産の概念と助産のパラダイムを理解している。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	日本と外国の助産の変遷を理解し、将来の展望を述べることができる。 将来の日本の助産学教育のあり方を考え、述べることができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探究力	女性のライフサイクルを通じた性と生殖の健康課題を探究することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1～2	助産哲学：助産の概念・助産の意義 助産師と倫理	講義 学生プレゼンテーション	事前学習： テキスト①②③④、 参考文献①②③④	佐藤			
3～4	助産の変遷：母子保健の変遷と助産の歴史	講義 学生プレゼンテーション	事前学習： テキスト①②③④ 参考書①②③	佐藤			
5～7	助産の展開：実践のアートとしての助産 助産のエビデンス 助産学教育と研究	講義 ディスカッション	事前学習：テキスト②④ 事後レポート提出	佐藤			
8	妊娠の成立と維持、胎児と胎児付属物	講義	事前学習：テキスト③ 事後レポート提出	石村			
9	妊娠による母体の変化（ホルモン、生殖器）	講義	テキスト③	石村			
10	性と生殖の形態・機能 先天異常と生命倫理	講義	テキスト③	石村			
11	女性の健康と環境：妊娠・出産・母乳と薬剤①	講義	テキスト③	豊平 佐藤			
12	女性の健康と環境：妊娠・出産・母乳と薬剤②	講義	テキスト③	豊平 佐藤			
13	性と生殖の健康：障害をもつ児、周産期の死と助産	講義	テキスト③	吉田			
14	性と生殖の健康：女性特有の疾患	講義	テキスト③	石村			
15	妊産褥婦の心理・社会的変化 まとめ	講義	テキスト③ 事後レポート提出	佐藤			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			80	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎	○		20	
補足事項	欠席、遅刻は減点する。						
テキスト・参考文献等	[テキスト] ① レズリー・ページ、鈴木江三子監訳「新助産学」、メディカ出版、2002 ② 佐藤香代「日本助産婦史研究」、東銀座出版社、2009 ③ 我部山キヨ子他「助産学講座1、2、3、4」、医学書院、2015、2014 ④ 佐藤香代他「絆」、大学コンソーシアム京都、2008 [参考文献] ① 佐藤香代「助産婦は正常産の専門家」、助産婦雑誌、54、医学書院、2000 ② 佐藤香代「性ってなーに」、西日本新聞社、1992 ③ ミシェル・オダン「プライマルヘルス」、メディカ出版、1995（女性看護学／助産学領域の助手室で貸出可） ④ ジョイス E. トンプソン他「看護倫理のための意思決定 10のステップ」、日本看護協会、2010						
履修条件	助産学領域の学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに、個別質問に回答する。						

授業科目名	基礎助産学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	1年
担当教員	佐藤香代・鳥越郁代・古田祐子・石村美由紀・安河内静子・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子・福原洋子						
授業の概要	基礎助産学特論で学んだ女性のライフサイクルを通じた性と生殖に関する健康の知識および相談・教育・支援に関する理論、原理を活用し、個人および集団への健康教育、支援の技法を習得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	助産の概念とパラダイムに則り、助産実践を展開することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：社会貢献力	助産の専門的知識に基づき、さまざまな助産活動に貢献できる。					
技能	DP6：実践力	女性のライフサイクルを通じた性と生殖の健康課題を述べ、対象に応じた健康教育及び助産ケアができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）		担 当		
1～8	Holistic Midwifery・助産の歴史・妊婦の家庭訪問	教育案作成、資料作成 ロールプレイ	テキスト①		佐藤香 吉田		
9～10	女性の健康と環境：人の食性と食の原理	講義・演習	事後レポート提出		福原		
11～12	家族計画・受胎調節	講義・演習・テスト	テキスト①②		佐藤香 吉田		
13～14	性に関する健康教育	教育案作成、資料作成 ロールプレイ	テキスト①② 参考文献①②		佐藤香		
15～16	産褥期女性への健康教育（授乳教育、BS ケア）	健康教育案作成 パンフレット作成、資料作成 発表・評価	テキスト① 事後レポート提出		佐藤香 佐藤繭		
17～20	産褥期女性への健康教育（沐浴教育）	健康教育案作成 パンフレット作成、資料作成 発表・評価	テキスト① 事後レポート提出		佐藤香 鳥越 古田 石村 安河内 吉田 小林 佐藤繭		
21～24	産褥期女性への健康教育（退院時教育）	健康教育案作成 パンフレット作成、資料作成 発表・評価	テキスト① 事後レポート提出		佐藤香 鳥越 石村 安河内 吉田 小林 佐藤繭		
25～30	出産準備クラス運営の実際	身体感覚活性化マザークラス運営に参加	事後レポート提出		佐藤香 鳥越 石村 安河内 吉田 小林 佐藤繭		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		○	◎			20	
授業態度・授業への参加度		○		○		10	
受講者の発表（プレゼン）					◎	30	
演習					◎	40	
補足事項	欠席・遅刻は減点する。						
テキスト・参考文献等	[テキスト] ①我部山キヨ子他「助産学講座5, 6, 7, 8」、医学書院、2013 ②木村好秀他「家族計画指導の実際」、医学書院、2005 [参考文献] ①佐藤香代「助産婦は正常産の専門家」、助産婦雑誌、54、医学書院、2000 ②佐藤香代「性ってなーに」、西日本新聞社、1992 ③ミシェル・オダグ「プライマルヘルス」、メディカ出版、1995（女性看護学／助産学領域の助手室で貸出可）						
履修条件	助産学領域の学生を対象とする。基礎助産学特論を選択していること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに、個別に質問に回答する。						

授業科目名	助産学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	佐藤香代・鳥越郁代・古田祐子・石村美由紀・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子						
授業の概要	周産期の女性や家族の健康に関する課題を抽出し、Evidence-based Midwifery (EBM) の視点から助産実践を行うための基本的能力を養う。EBMの基本的理解、文献をEBMのステップに沿って吟味し、エビデンスの追究を行う技術・態度を習得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	助産学を探究するために必要な主要概念について理解することができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	EBMの視点から助産実践における課題をとらえ、解決のための方略について考え、表現することができる。					
	DP3：表現力						
関心・意欲・態度	DP4：探求力	助産実践のエビデンスを主体的に探究することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	オリエンテーション	講義	配布資料	佐藤香			
2	EBMのステップ① 問題の定型化と文献検索	講義	配布資料	佐藤香			
3~4	EBMのステップ② 助産実践に関する課題の抽出	講義・演習	配布資料	佐藤香			
5	EBMのステップ③ 文献の吟味	講義	配布資料	佐藤香			
6~14	EBMのステップ④ 文献の批判的吟味・エビデンスの追究	発表および討議	学生による発表	佐藤香 他			
15	まとめ 助産実践の探究	講義	レポート作成	佐藤香			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
レポート		◎	○	○		20	
授業態度・授業への参加度			○	○		10	
受講者の発表（プレゼン）・討論		◎	◎	◎		70	
テキスト・参考文献等	[参考書] ① 「JAMA 医学文献の読み方」, 中山書店, 2001 ② Enkin, M:A Guide to Effective Care in Pregnancy and Childbirth」, Oxford University Press, 2000 ③ 「WHO 勧告にみる望ましい周産期ケアとその根拠」, メディカ出版, 2002 ④ Tew M:Safer childbirth:a critical history of maternity care. Third edition, Free Association Books Ltd,1998 ⑤ Downe S:Normal birth evidence and debate, Churchill Livingstone,2004						
履 修 条 件	助産学領域の学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに、個別に質問に回答する。						

授業科目名	助産学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	佐藤香代・鳥越郁代・古田祐子・石村美由紀・安河内静子・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子						
授業の概要	1. 助産学特論で学んだ理論・手法を活用し、各人が関心ある領域の文献を選出し批判的吟味を行う。 2. 自己の研究課題を追究し、洗練させる。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	自己の研究課題を明確にし、助産学特論で学んだ手法を活用し、自己の考えを表現できる。					
	DP3：表現力						
関心・意欲・態度	DP4：探求力	自己の研究課題について主体的に探究することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）		担 当		
1～2	演習の進め方 オリエンテーション	講義	事前資料配布		佐藤香		
3～8	関心ある領域の文献レビュー① ・リプロダクティブヘルス・ライツ ・ジェンダーと女性の健康 ・ウイメンズヘルスと意思決定 ・フェミニストアプローチ ・エンパワーメント	発表および討議	報告者が準備		佐藤香 鳥越 古田 石村 安河内 吉田 小林 佐藤繭		
9～14	関心ある領域の文献レビュー② ・思春期、成熟期、更年期女性	発表および討議	報告者が準備				
15～22	関心ある領域の文献レビュー③ ・周産期における母子と家族のケア ・ハイリスク妊産婦／新生児のケア ・周産期ケアシステム	発表および討議	報告者が準備				
23～28	関心ある領域の文献レビュー④ ・助産のわざ、助産院経営	発表および討議	報告者が準備				
29～30	まとめ	講義	学習の整理とこれからの課題		佐藤香		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	授業態度・授業への参加度		○	○		10	
	受講者の発表（プレゼン）・討論		◎	◎		90	
テキスト・参考文献等	[参考書] 参考文献は適宜紹介する。						
履 修 条 件	助産学領域の学生を対象とする。助産学特論を選択していること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに、個別に質問に回答する。						

授業科目名	ホリスティック助産学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	1	1年
担当教員	佐藤香代・小林絵里子						
授業の概要	<p>1. 東洋医学・代替補完療法の理解を深め、人間を「身体・気・霊性」の有機的統合体としてとらえ、それは環境と深くつながっているというホリスティックな視点にたち、助産におけるホリスティックアプローチのさまざまな理論や手法を学ぶ。</p> <p>2. 生命が持つ身体のを癒しの原点に置き、身体に起こる現象をホリスティックにとらえアプローチする卓越した助産ケアを学ぶ。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	助産におけるホリスティックアプローチのさまざまな理論や知識を有している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	ホリスティックケアの安全性と根拠を検討できる。					
	DP3：表現力	ホリスティックケアの安全性と根拠を述べるができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習（学習課題）		担当	
1	ホリスティックの概念 女性の健康と歴史		講義	レポート		佐藤	
2	ホリスティックな人間観 健康観 医療のモデル・西洋医学と伝統医学 代替医療・統合医療 病 未病 身体・気・スピリチュアルティ		講義	レポート		佐藤	
3	健康の本質 ・自然治癒力 生命に内在する力 いのち 治癒力を高める 癒し		講義	レポート		佐藤	
4	生命観と生き方 ・養生 ・環境		講義	レポート		佐藤	
5	統合的診断法 東洋医学的診断法：四診 証		講義	レポート		佐藤	
6	気功 助産の役割		講義	レポート		佐藤	
7	代替医療の国内外での現状		講義	レポート		小林	
8	ホリスティックケアと助産		ディスカッション	最終レポート： ホリスティックと助産		佐藤	
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
宿題・授業外レポート		◎	◎			50	
授業態度・授業への参加度受講者の発表		○	○			10	
受講者の発表（プレゼン）		○	○			10	
テキスト・参考文献等	文献は、講義中に適宜指示する。						
履修条件	助産学領域の学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに質問する。						

授業科目名	ホリスティック助産学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義・演習	選択	2	1年
担当教員	佐藤香代・小林絵里子・城村和宏・高井佳世子						
授業の概要	ホリスティック助産学特論で学んだ知識を元に、代替補完療法や東洋医学で行う技術の体験を通して、妊産婦のセルフケアの方法、セルフケア能力を高めるための健康教育、助産ケアの一環として行う技術を学ぶ。さらにケアの安全性と根拠の追究や開発について考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	ホリスティック助産ケアを実践するために必要な代替補完療法の専門知識を有している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	演習を通して、ホリスティックな視点からケアの有用性について検討することができる。					
	DP5：社会貢献力	ホリスティック助産ケアを助産活動に貢献できる。					
関心・意欲・態度	DP6：実践力	ホリスティック助産ケアを助産実践に活用できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1～3	中医学・気功	講義・演習		佐藤 城村			
4	ホメオパシー	講義・演習		佐藤			
5～6	アーユルヴェーダ	講義・演習		佐藤			
7～8	食養【マクロビオティック】・冷え	講義・演習		佐藤			
9～10	頭蓋仙骨療法	講義・演習		佐藤 高井			
11～12	カイロプラクティック	講義・演習		佐藤 小林			
13～14	アロマセラピー	講義・演習		小林			
15	文献検討	プレゼンテーション		佐藤 小林			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度				○		10	
演習		◎	○		◎	90	
補足事項	欠席、遅刻は減点する。						
テキスト・参考文献等	文献は、講義中に適宜指示する。						
履修条件	助産学領域の学生を対象とする。ホリスティック助産学特論を選択していること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに質問する。						

授業科目名	助産実践学Ⅰ（妊娠期）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	佐藤香代・吉田 静・佐藤繭子・下川 浩						
授業の概要	1. 助産哲学、リプロダクティブヘルス／ライツ、プライマル・ヘルス、ウイメンズヘルスと関連させながら、助産の実践を展開するために必要なアセスメント能力を養う 2. 妊婦の主体性を尊重した支援、正常に経過している妊婦の助産診断とケア、正常から逸脱した妊婦へのアセスメント等、実践に必要な技法を習得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP 1：専門的知識	妊婦の支援に必要な専門的知識を有している。					
思考・判断・表現	DP 2：論理的思考力	妊婦と胎児の正常経過とその逸脱を判断できる。					
	DP 3：表現力	助産ケアを適切に表現できる。					
関心・意欲・態度	DP 4：探究力	対象に提供するよりよい健康ケアを探究する。					
技能	DP 6：実践力	妊婦の助産診断、ケアが確実にできる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1～2	妊娠期助産診断の概念 助産診断の定義・範囲・類型・過程	講義	テキスト①	佐藤香			
3～4	妊婦の助産診断とケア ・妊娠の経過と胎児の発育 ・妊婦の健康診査	講義	テキスト②	佐藤香 下川			
5～7	妊婦の助産診断とケア ・妊娠期の助産診断過程とケアの実践 ・正常経過からの逸脱に対する助産診断とケア	講義 演習	テキスト②③④	佐藤香 吉田			
8～9	健康教育のプロセスと展開	講義	テキスト②	佐藤香			
10～13	妊娠期の助産診断過程（ケーススタディ）	講義 演習	テキスト①②③④	佐藤香 吉田 佐藤繭			
14	出産準備クラス運営の実際	講義	テキスト②	佐藤香			
15	まとめ	講義		佐藤香 吉田			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
		◎	○			50	
定期試験		◎	◎	○	◎	20	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎	○	◎	30	
演習		◎	◎	○	◎	30	
補足事項		欠席・遅刻は減点する。					
テキスト・参考文献等	[テキスト] ①佐世正勝他「ウェルネスからみた母性看護過程」、医学書院、2009 ②我部山キヨ子他「助産学講座 5,6,7,8」、医学書院、2007 ③荒木勤「最新産科学 正常編」（改訂22版）、文光堂、2012 ④荒木勤「最新産科学 異常編」（改訂22版）、文光堂、2012						
履 修 条 件	助産学領域の学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに、個別に質問に回答する。						

授業科目名	助産実践学Ⅱ（分娩期）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	講義・演習	必修	4	1年
担当教員	鳥越郁代・石村美由紀・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子・藤田拓司・稲富博美						
授業の概要	産婦と家族が出産に安全かつ主体的に臨むために、必要な助産の知識・技術を習得するとともに助産過程（助産診断・ケア）の展開を学ぶ。演習を通して分娩経過の正常・正常からの逸脱の判断など状況に応じた知識や技術を習得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	分娩期の助産診断過程の基本的考え方を有している。 分娩介助にかかわる基礎助産技術について理解している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	ホリスティックな視点から、分娩期の助産診断過程を展開し、助産ケアの計画を表現することができる。					
	DP3：表現力						
関心・意欲・態度	DP4：探求力	分娩期の正常経過とその逸脱の現象について探究することができる。					
技能	DP6：実践力	分娩介助にかかわり基礎助産技術を習得することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1～4	助産診断の概念・助産診断過程	講義	テキスト①-6, ②	鳥越			
5～8	産婦の助産診断とケア	講義・演習	テキスト①-7, 参考文献⑤	鳥越			
9～11	分娩介助の基礎看護技術	演習		石村・吉田・佐藤（繭）他			
12～15	分娩進行にかかわる診断技法	演習	テキスト①-6	石村・吉田			
16～21	分娩期の助産診断過程の展開	講義・演習	テキスト①-6, ②③④⑤③	鳥越			
22～23	帝王切開の女性に対する助産ケア	講義	参考文献③	鳥越			
24～28	分娩介助の基礎看護技術（仰臥位分娩）	演習	テキスト①-7	石村・吉田・佐藤（繭）他			
29～30	分娩介助の基礎看護技術（胎盤の精査・演習の進め方）	演習	テキスト①-7	石村・吉田・佐藤（繭）他			
31～32	分娩介助の基礎看護技術（フリースタイル）	演習	テキスト①-7	稲富			
33～36	分娩介助演習（学生演習）	演習		石村・吉田・佐藤（繭）他			
37～38	児を喪失した産婦のケア	講義		吉田			
39～40	胎児心拍数モニタリング演習	講義・演習	参考文献⑦	鳥越			
41～42	超音波断層装置の基本的取扱い	講義・演習	参考文献⑥	鳥越			
43～46	超音波断層装置の産科的応用	講義・演習	参考文献⑥	藤田			
47～48	出生直後の新生児ケア	講義・演習	参考文献⑧	小林			
49～53	新生児蘇生法（NCPR A コース）	講義・演習	テキスト⑥	小林			
54～59	分娩介助にかかわる基礎助産技術（学生発表）	演習		石村・吉田・佐藤（繭）他			
60	まとめ			鳥越			

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験		◎	◎			60
小テスト・授業内レポート		○	○	○		20
授業・演習の態度 / 参加度		◎	◎	◎		10
分娩介助にかかわる基礎助産技術		◎	○	○	◎	10
テキスト・参考文献等	<p>[テキスト]</p> <p>①我部山キヨ子他「助産学講座 6,7」、医学書院、2014 ②北川真理子他「今日の助産」改訂第3版、南江堂、2013 ③日本助産診断・実践研究会「実践マタニティ診断」第3版、医学書院、2013 ④村本淳子他「周産期ナーシング」第2版、ヌーベルヒロカワ、2012 ⑤医療情報科学研究所「病気が見える vol.10 産科」、メディックメディア、2013 ⑥田村正徳「新生児蘇生法テキスト」、メジカルビュー社、2011 ⑦佐世正勝他「ウェルネスからみた母性看護過程」、医学書院、2009 ⑧横尾京子「新生児ベーシックケア-家族中心のケア理念をもとに」、医学書院、2011</p> <p>[参考文献]</p> <p>①荒木勤「最新産科学 正常編」（改訂22版）、文光堂、2012 ②荒木勤「最新産科学 異常編」（改訂22版）、文光堂、2012 ③竹内正人「帝王切開のすべて」、メディカ出版、2013 ④岩田塔子「体位別フリースタイル分娩介助法」、メディカ出版、2007 ⑤仁志田博司「新生児学入門」第4版、医学書院、2012 ⑥竹村秀雄「助産婦外来で役立つ超音波検査ガイドブック」、メディカ出版、2005 ⑦藤森敬也「胎児心拍数モニタリング講座」改訂2版、メディカ出版、2012 ⑧吉沢豊予子他「マタニティアセスメントガイド」、真興交易医書出版部、2012 ⑨山本あい子「助産師基礎教育テキスト『助産概論』」、日本看護協会出版会、2014</p>					
履修条件	助産学領域の学生を対象とする。					
学習相談・助言体制	オフィスアワーに、個別に質問に回答する。					

授業科目名	助産実践学Ⅲ（産褥・新生児期）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	古田祐子・安河内静子・小林絵里子・佐藤繭子・白川嘉継						
授業の概要	1. 出産後の褥婦の身体的変化および新生児の成長、発達と新たな家族関係形成のために必要なケアや支援、技術を学ぶ。 2. 母児の健康状態の査定による経過診断、今後の予測、助産ケア計画立案、評価をする診断能力を習得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	褥婦・新生児・乳幼児の健康診査とアセスメントに必要な知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	母子の健康状態をアセスメント・診断過程について専門用語を用い説明できる。					
	DP3：表現力	事例母子の産褥期の助産計画の立案ができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	産褥期の母子に対する関心があり、探究する姿勢がみられる。					
技能	DP6：実践力	子宮復古促進、母乳育児支援、健康診査に必要な基本的技術を習得している。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1～4	褥婦の助産診断とケア	講義・演習	①②③持参	古田 安河内			
5～6	産褥期の助産過程の展開	事例検討	事前：事例の助産過程の展開資料作成 事後：産褥期助産計画提出	古田 安河内			
7～9	母乳育児支援	講義・演習	④持参	小林 佐藤（繭）			
10～11	新生児の発達とケア	講義・演習	③持参	白川 小林			
12～13	新生児の助産診断とケア	講義	④⑤持参	小林			
14	乳幼児の健康診査とケア	講義・演習		安河内			
15	まとめ	講義		古田 安河内			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			100	
授業態度・授業への参加度				○			
産褥期助産計画立案資料		○	○		○		
成績評価方法および成績評価基準に関する補足事項	産褥期助産計画立案、演習、授業態度・参加度は加点し、欠席・遅刻は減点する。						
テキスト・参考文献等	① 医療情報科学研究所『病気が見える vol10.産科』メディックメディア、最新版。 ② 我部山キヨ子『助産学講座 助産診断・技術学Ⅱ 7,8』医学書院、2014。 ③ 荒木勉『最新産科学 正常編』『最新産科学 異常編』文光堂、2012。 ④ 横尾京子『新生児ベーシックケアー家族中心のケア理念をもとに』医学書院、2011。 ⑤ 福岡地区小児科医会乳幼児保健委員会編集『乳幼児健診マニュアル』医学書院、2015。						
履修条件	助産学領域の学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	質問や学習相談等はメールで受付、随時対応する。						

授業科目名	助産実践学Ⅳ（ハイリスクケア）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	古田祐子・小林絵里子・下川 浩						
授業の概要	<p>1. ハイリスク状態が予測される妊婦・産婦・褥婦・新生児のアセスメントと支援、および救急時に助産師が行う具体的対応を習得する。</p> <p>2. 母子の緊急時における専門職の連携の方法や助産師の役割、果たすべき責務を考察する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	妊娠・分娩・産褥・新生児期に起こりやすい異常の病態生理について理解している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	助産における母子の正常から逸脱した状況をアセスメント・診断し、助産計画の立案ができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	事前・事後学習を行い、積極的かつ意欲を持って状況に適したロールプレイができる。					
技能	DP6：実践力	異常時の分娩介助、会陰切開・会陰縫合、異常出血、ショック時の対応等ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	妊娠期の異常 病態生理と治療法	講義	事後：配布資料の復習	下川・古田			
2	妊娠期の異常 病態生理と治療法	講義	事後：配布資料の復習	下川・古田			
3	分娩期の異常 病態生理と治療法	講義	事後：配布資料の復習	下川・古田			
4	分娩期の異常 病態生理と治療法	講義	事後：配布資料の復習	下川・古田			
5	産褥期の異常 病態生理と治療法	講義	事後：配布資料の復習	下川・古田			
6	産褥期の異常 病態生理と治療法	講義	事後：配布資料の復習	下川・古田			
7	帝王切開術後のケア	演習・討議	事前：担当課題準備	古田・小林			
8	急速遂娩介助法 吸引分娩・鉗子分娩	演習・討議	事前：担当課題準備	古田・小林			
9	骨盤位分娩介助法	演習・討議	事前：担当課題準備	古田・小林			
10	肩甲難産の娩出法・双胎分娩介助法	演習・討議	事前：担当課題準備	古田・小林			
11	会陰切開・会陰縫合法	講義	予習：骨盤底筋解剖	古田・小林			
12	会陰切開・会陰縫合法	演習		古田・小林			
13	産科的出血法と産科ショック時の救急対応	演習・討議	事前：担当課題準備	古田・小林			
14	産科的出血法と産科ショック時の救急対応	演習		古田・小林			
15	ハイリスク状態が予測される新生児のアセスメントと支援	講義	事前：担当課題準備	小林			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			60	
授業態度・授業への参加度				○		10	
受講者のロールプレイ・演習		○	○	○	◎	30	
成績評価方法および成績評価基準に関する補足事項	欠席・遅刻は減点する。						
テキスト・参考文献等	<p>①我部山キヨ子他『助産学講座7』医学書院、2014.</p> <p>②荒木勤『最新産科学 正常編』（改訂22版）、文光堂、2012.</p> <p>③荒木勤『最新産科学 異常編』（改訂22版）、文光堂、2012.</p> <p>④京都産婦人科救急診療研究会『母体急変時の初期対応』メディカ出版、2014.</p>						
履修条件	助産学領域の学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	質問や学習相談はメールで受付、随時対応する。						

授業科目名	マネジメント助産学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	古田祐子・稲富博美・林 昭子	前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	1. 助産業務や管理に関連する法規をベースに、現代の周産期医療システムや助産所経営について理解を深める。 2. 助産実践におけるマネジメントについては、組織マネジメント、リスクマネジメント、財務マネジメント、情報マネジメントの基礎的な知識を学ぶ。リスクマネジメントについては医療訴訟になった事例の検討をとおして、助産業務の評価・調整、管理・運営・経営のありかたについて探究する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	助産業務・活動のマネジメントに必要な専門的知識と関連法規を理解している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	助産における質と安全の保障について述べることができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	安全で快適な出産環境に関心を持ち、環境改善への意欲がある。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			担 当	
1～2	助産師の業務と法的責任	講義	①③持参 ③復習			古田	
3	助産における質と安全の保障	講義	①持参			古田	
4	周産期医療システムと職種間連携	講義・討論	①②持参			古田	
5	周産期医療施設における助産業務と管理の実際	講義	①②持参			林・古田	
6～7	安全で快適な出産環境	講義・発表	事前：課題レポート作成			古田	
8	助産所経営・業務・管理の実際	講義	③持参			古田	
9			事前：課題レポート提出			稲富・古田	
10	周産期医療におけるリスクマネジメント	講義	配布資料			古田	
11	医療事故事例検討	発表	事前：事例課題のレポート作成			古田	
12	災害発生時の対応	発表	事前：事例課題のレポート作成			古田	
13	助産実践におけるマネジメントと経営戦略	講義	配布資料			古田	
14	助産所開設シミュレーション	発表	事前：助産所開設企画書作成			古田	
15	周産期医療の課題と展望	講義	事前：課題レポート作成			古田	
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			100	
課題レポート		○	○	○			
授業態度・授業への参加度				○			
受講者の発表（プレゼンテーション）		○	○	○			
成績評価方法および成績評価基準に関する補足事項		レポート、プレゼンテーション、授業参加態度は加点し、欠席・遅刻は減点する。					
テキスト・参考文献等	①福井トシ子「助産業務要覧基礎編」、日本看護協会出版会、最新版 ②福井トシ子「助産業務要覧実践編」、日本看護協会出版会、最新版 ③看護行政研究会「看護六法」平成27年版、新日本法規、2016 ④日本助産師会「助産師が行う災害時支援マニュアル」、日本助産師会出版、最新版						
履 修 条 件	助産学領域の学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	質問や学習相談等はメールで受付、随時対応する。						

授業科目名	コミュニティ助産学特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員		後期	講義	選択	1	1年
授業の概要	1. 母子とその家族が生活するコミュニティに焦点をあて、その未来をみすえた母子保健活動の意義を理解し、地域における母子の健康を支えるシステムとその活動の実際について理解を深める。 2. グローバルな視点から母子保健の課題を明らかにするプロセスと助産師としての実践的なヘルスマーシェンの展開方法を探究する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	地域母子保健活動に関連する法規と母子保健活動の現状を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	母子保健の課題を抽出し、その対策について提案できる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	母子保健に関心を持ち、活動への意欲がある。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	地域母子保健活動の概念と意義 地域母子保健活動における関連法規	講義	①の予習と復習 ①②持参	古田			
2	わが国の母子保健の動向と課題	課題発表、討論	③持参 事後：課題をまとめる	古田			
3	現代社会における母子保健の実際Ⅰ	課題発表、討論	事前：課題レポート作成	古田			
4	現代社会における母子保健の実際Ⅱ	課題発表、討論	事前：課題レポート作成	古田			
5	行政における母子保健の実際	講義	②持参	安河内			
6	助産所における母子保健の実際	講義	②持参	村田 古田			
7	諸外国における母子保健の実際	講義	②持参	鳥越			
8	母子保健の展望	討論	事前：課題レポート作成	古田 安河内			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			100	
課題レポート		○	○				
授業態度・授業への参加度				○			
受講者の発表（プレゼン）		○	○	○			
成績評価方法および成績評価基準に関する補足事項	課題レポート、プレゼン、授業参加度は加点し、欠席・遅刻は減点する。						
テキスト・参考文献等	① 看護行政研究会『看護六法』平成28年版、新日本法規、2016 ② 我部山キヨ子『地域母子保健・国際母子保健第5版』医学書院2016 ③ 母子衛生研究会『母子保健の主なる統計』、母子保健事業団、2016						
履 修 条 件	助産学領域の学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	質問や学習相談等はメールで受付、随時対応する。						

授業科目名	コミュニティ助産学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	古田祐子・鳥越郁代・安河内静子						
授業の概要	1. コミュニティ助産学特論で学んだ知識をもとに、地域が抱える母子保健上の課題を明確にする。 2. 地域に生活する母子とその家族への援助について事例をとおして理解する。 3. 多様な問題を有する母子への援助の方法を探究する。 4. 地域で生活する母子とその家族を支援するための連携の方法を探究する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	母子保健の課題を明確にし、他職種連携を含めた対策を述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	コミュニティにおける母子保健に関心を持ち、問題を抱える母子に寄り添うことができる。					
技能	DP6：実践力	産後訪問に必要な能力（診断・ケア技術）を修得している。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	コミュニティにおける母子保健活動の実際Ⅰ オリエンテーション	講義	配布資料	古田			
2～9	コミュニティにおける母子保健活動の実際Ⅱ ◎関心のある母子保健活動における課題の探究	文献学習 事例検討 コミュニティ・ワーク 研修会、学会等への参加 等	事後学習：母子保健の現状を考察し、レポートを作成する。	古田 鳥越 安河内			
10～11	母子保健に関する課題の検討	発表、討論	事前学習：母子保健の課題について検討し、課題資料を作成する。	古田 鳥越 安河内			
12～13	新生児・産婦の訪問指導の展開	演習	事前学習：訪問事例母子の訪問計画の立案資料作成	安河内 古田			
14～15	諸外国における母子保健活動	発表、討議	事前学習：諸外国の母子保健状況に関するレポートを作成する。	鳥越 古田			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
レポート			◎			50	
授業態度・授業への参加度				○		10	
受講者の発表（プレゼン）			○		○	20	
演習			○	○	○	20	
テキスト・参考文献等	配布資料						
履修条件	助産学領域の学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	質問や学習相談等はメールで受付、随時対応する。						

授業科目名	助産学実習Ⅰ (外来ケア実習)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	佐藤香代・古田祐子・鳥越郁代・石村美由紀・ 吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子		前期	実習	選択	1
授業の概要	妊娠期および産褥期、新生児期における母子を支援する助産師のケアを理解し、助産外来でのケアのあり方や役割を考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	外来における母子を支援する助産師のケアの実際を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：表現力	助産外来でのケアのあり方や役割を考察し、述べることができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探究力	外来における助産師のケアの見学を通し、妊婦の助産診断過程を探究することができる。					
技能	DP6：実践力	外来における妊婦健康診査に必要な技術を実践できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>【実習方法】 <外来における実習></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 妊婦健康診査・健康教育（妊娠初期、中期、末期） ② 助産師外来 ③ マザークラス ④ 産褥・母乳外来 <p>【事前学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① テキスト、資料を十分学習して臨む。 <p>【事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習記録物をまとめ、自己の実習評価を行う。 ② 学習不足、未経験の内容を補足学習する。 ③ 他の学生の学びから学ぶ。 <p>実習方法の詳細は「助産学実習Ⅰ・Ⅱ要項」に示す。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
実習態度・カンファレンス		○	○	○		20	
実習評価		◎	◎		○	70	
実習記録物		◎	◎			10	
補足事項	実習評価表を用いて評価する。						
テキスト・参考文献等	各種講義で使用したテキスト、資料						
履修条件	助産実践形成コース学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	実習担当教員が随時面接して相談を受け、助言する。						

授業科目名	助産学実習Ⅱ (周産期ケア実習)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	佐藤香代・鳥越郁代・古田祐子・石村美由紀・安河内静子・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子		後期	実習	必修	8
授業の概要	周産期の母子およびその家族を対象に、助産実践学で得た知識と技術を統合し、助産師としての役割と責務を遂行できる実践能力を養う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	助産実践（分娩期）に関する専門的知識を深めることができる。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	妊娠・分娩・産褥・新生児期に応じた助産診断過程を展開ができる。					
	DP3：表現力						
関心・意欲・態度	DP4：探求力	受け持ちの妊産褥婦に寄り添い、周産期における現象に関心を持ち、ホリスティックな視点から探究することができる。					
技能	DP6：実践力	周産期の助産ケアに必要な実践能力を有し、受け持ち母子に適したケアが提供できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 分娩介助：1例見学後に10例以上経験する。 ② 実習体制：原則、入院から退院まで受け持つ。分娩介助等のため、夜間に実習することもある。 ③ 健康教育：集団教育、個別教育を経験する。 ④ 助産過程展開に必要な基本的助産技術：分娩期の産痛緩和ケア技術と分娩進行状態のアセスメントに必要な技術、正常経過の分娩介助技術、乳房ケア、ポジショニング、産褥体操等を経験する。 ⑤ 助産過程の展開：分娩期・産褥期・新生児の助産過程を展開し、実習教育者に提出、助言を得る。 <p>【事前学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① テキスト、資料を十分学習して臨む。 ② 健康教育の教育案を作成する。 ③ モデル人形を用いた分娩介助のデモンストレーションがひとりのできるまで練習しておく。 ④ 周産期ケア技術がひとりのできるまで練習しておく。 <p>【事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習記録物をまとめ、自己の実習評価を行う。 ② 学習不足、未経験の内容を補足学習する。 ③ 他の学生の学びから学ぶ。 <p>実習方法の詳細は「助産学実習Ⅰ・Ⅱ要項」に示す。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
実習態度・カンファレンス		○	○	○		20	
実習評価（助産診断過程・助産技術／健康教育）		◎	◎		◎	70	
実習記録物		◎	◎			10	
補足事項		実習評価表を用いて評価する。					
テキスト・参考文献等	各種講義で使用したテキスト、資料						
履修条件	助産実践形成コースの学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	実習担当教員が随時面接して相談を受け、助言する。 スーパーバイザーによる個別面接を実習期間中に行い、学生の心身のサポートを行う。						

授業科目名	助産学実習Ⅲ (助産所実習・継続ケア実習)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択	2	2年
担当教員	佐藤香代・古田祐子・鳥越郁代・石村美由紀・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子						
授業の概要	<p>1. 助産院での助産業務や管理、運営の実際を知るとともに地域や病院・他職種との連携など助産師の持つ役割と責務、専門性の理解を深める。</p> <p>2. 1人の女性に妊娠中から出産・育児期まで継続して関わることでケアや母乳育児支援など、助産師の実践のわざを学ぶ。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	妊娠・分娩・産褥期にある女性とその家族の身体的・心理的・社会的健康状態、胎児・新生児の発育・発達及び健康状態について継続性および個別性を重視した助産過程を理解している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	実際に助産過程を展開することができる。					
	DP3：表現力	適切な診断技術、相談・教育・ケア技術を用いて、安全・安楽を考慮したケアを実践することができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	地域で活躍する助産師の役割と専門性について理解し、考察することができる。					
技能	DP6：実践力	助産所における経営管理を学び、今後の助産所の運営について考察することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>【実習方法】</p> <p>① 妊娠初期から継続事例を受け持ち、毎回の妊婦健康診査および健康教育を行う。</p> <p>② 分娩経過の診断、分娩介助とケアを行う。</p> <p>③ 入院中の褥婦および新生児の日々の健康診査とケアを行う。</p> <p>④ 産褥1ヶ月健診および生後1ヶ月健診に同行し、健康診査とケアを行う。</p> <p>⑥ 助産所助産師より助産所開設から現在に至るまでの経緯、助産所の方針、経営管理、リスクマネジメントと緊急対応、他職種、他機関との連携を学ぶ。</p> <p>【事前学習】</p> <p>① テキスト、資料を十分学習して臨む。</p> <p>② 健康教育の教育案を作成する。</p> <p>【事後学習】</p> <p>① 実習記録物をまとめ、自己の実習評価を行う。</p> <p>② 学習不足、未経験の内容を補足学習する。</p> <p>③ 他の学生の学びから学ぶ。</p> <p>実習方法の詳細は「助産学実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ要項」に示す。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
実習態度・カンファレンス		○	○	○		20	
実習評価		◎	◎		◎	70	
実習記録物		◎	◎		◎	10	
補足事項		実習評価表を用いて評価する。					
テキスト・参考文献等	各種講義で使用したテキスト、資料						
履修条件	助産実践形成コース学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	実習担当教員が随時面接して相談を受け、助言する。						

授業科目名	助産学実習Ⅳ (ハイリスクケア実習)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	佐藤香代・古田祐子・鳥越郁代・石村美由紀・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子		前期	実習	選択	1
授業の概要	1. 生命に危険が及んだ母子に提供されている医療やケアについて理解する。 2. 母子に提供されている救急蘇生や緊急時の対応などの技術を学び、その後の母子関係が円滑に行われるよう援助を考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP 1 : 専門的知識	母子の救急蘇生や緊急時の対応などの知識と技術を有している。					
思考・判断・表現	DP 2 : 論理的思考力	現場で行われているケアを考察し、生命に危険が及んだ母子に必要なケアや医療を述べることができる。					
	DP 3 : 表現力						
関心・意欲・態度	DP 4 : 探求力	母子関係が円滑に行われるためのケアに関心をもと、意欲的に取り組むことができる。					
技能	DP 6 : 実践力	母子のハイリスクケアに必要な実践力を身につけることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>【実習方法】 地域母子周産期センター、NICU、MFICUなどで、スタッフのシャドウ実習並びに、NICU入院児のケアを行う。</p> <p>見学実習：帝王切開、吸引分娩、鉗子分娩、多胎・骨盤位分娩、新生児の蘇生、異常出血時の対応、出生前診断等。</p> <p>【事前学習】 ① テキスト、資料を十分学習して臨む。</p> <p>【事後学習】 ① 実習記録物をまとめ、自己の実習評価を行う。 ② 学習不足、未経験の内容を補足学習する。 ③ 他の学生の学びから学ぶ。</p> <p>実習方法の詳細は「助産学実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ要項」に示す。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
実習態度・カンファレンス		○	○	○		20	
実習評価		◎	◎		◎	70	
実習記録物		◎	◎		◎	10	
補足事項		実習評価表を用いて評価する。					
テキスト・参考文献等	各種講義で使用したテキスト、資料						
履修条件	【助産実践形成コース】基礎助産学特論・演習、ホリスティック助産学特論・演習、助産実践学（Ⅰ～Ⅳ）を修得していること。 【助産実践アドバンスコース】助産実践学Ⅳを修得していること。						
学習相談・助言体制	実習担当教員が随時面接して相談を受け、助言する。						

授業科目名	助産学実習Ⅴ (マザークラス実習)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	佐藤香代・鳥越郁代・石村美由紀・安河内静子・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子		後期	実習	選択	2
授業の概要	基礎助産学特論・演習で学んだ知識を活用し、妊娠期の母親教育の運営・評価の過程を展開し、教育実践能力を習得する。さらに今後の妊娠期教育の課題を考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	助産の概念に基づいた妊娠期の母親教育を理解している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	助産の概念に基づいた妊娠期の母親教育の企画ができる。					
	DP3：表現力						
関心・意欲・態度	DP4：探求力	助産の概念に基づいた妊娠期の母親教育の運営に意欲的に取り組むことができる。					
技能	DP6：実践力	マザークラスの実践を通して、妊娠期の教育実践能力を身につけることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>【実習方法】 身体感覚活性化マザークラスの企画、運営、評価を行う。</p> <p>【事前学習】</p> <p>① テキスト、資料を十分学習して臨む。 ② 身体感覚活性化マザークラス各レッスンの企画案を作成する。</p> <p>【事後学習】</p> <p>① 学習不足、未経験の内容を補足学習する。 ② 他の学生の学びから学ぶ。</p> <p>実習方法の詳細は「助産学実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ要項」に示す。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
実習態度・カンファレンス		○	○	○		20	
実習評価		◎	◎		◎	70	
実習記録物		◎	◎		◎	10	
補足事項		実習評価表を用いて評価する。					
テキスト・参考文献等	各種講義で使用したテキスト、資料						
履修条件	助産学領域の学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	実習担当教員が随時面接して相談を受け、助言する。						

授業科目名	助産実践アドバンス特論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	1	1年
担当教員	佐藤香代・古田祐子・鳥越郁代・石村美由紀・安河内静子						
授業の概要	助産実践に関する文献検討を通し、Evidence-based Midwifery (EBM) の視点から批判的吟味を行い、助産実践への適応を追究する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	助産実践に関する文献の探し方とクリティークの仕方について理解している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	助産実践に関する文献をクリティークすることができる。					
	DP3：表現力	文献検討した内容を自分の言葉で表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	助産実践を探究する意欲を持っている。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション 助産のわざ		講義		配布資料		
2	Evidence-based Midwifery (EBM) のステップ① 助産実践と文献検索		講義		配布資料		
3	Evidence-based Midwifery (EBM) のステップ② 文献の批判的吟味		講義		配布資料		
4	Evidence-based Midwifery (EBM) のステップ③ 助産実践ケアの評価		講義		配布資料		
5	実践の探究 追究するテーマ（助産実践）の選定		講義 プレゼンテーション		資料の事前準備		
6	実践の探究 文献検索と検討		講義 プレゼンテーション		資料の事前準備		
7	実践の探究 エビデンスの追究		講義 プレゼンテーション		資料の事前準備		
8	実践の探究 助産実践のエビデンスの活用に影響を及ぼす因子の探求		講義 プレゼンテーション		資料の事前準備		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	授業態度・授業への参加度			○		60	
	受講者の発表（プレゼン）	○	○			20	
	資料作成	○	○			20	
	その他						
成績評価方法および成績評価基準に関する補足事項		欠席・遅刻は減点する。					
テキスト・参考文献等	配布資料等						
履修条件	助産実践アドバンスコースの学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに、個別に質問に回答する。						

授業科目名	助産実践アドバンス実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択	4	2年
担当教員	佐藤香代・古田祐子・鳥越郁代・石村美由紀・安河内静子						
授業の概要	助産実践アドバンス特論にて明確になった自己の課題に対し、エビデンスにもとづいた助産実践の実習をとおして、高度な助産実践能力を養う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	高度な助産実践に必要な知識を有している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	エビデンスにもとづいた助産実践の計画立案ができる。					
	DP3：表現力	助産実践の評価と課題について記録し、論理的に説明できる。					
関心・意欲・態度	DP4：探求力	自己の助産実践の課題に高い関心と意欲を持ち、積極的に取り組むことができる。					
	DP5：社会貢献力	習得した助産実践力を臨床の場で活用することができる。					
技能	DP6：実践力	高度な助産実践能力を有し、安全で効果的な助産実践が提供できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1～4	実習オリエンテーション 実習計画書の最終調整		説明		事前学習：実習計画書の立案		
5～76	<実習内容> 実習計画書を重視し、受講生の実習目的、到達目標を考慮した内容とする。 ①高度な助産実践能力をもつ助産師の実践と活動を見学する。 ②エビデンスを追究する。 ③実践の体験をとおして、助産実践能力を習得する。 ④実践結果の評価について担当助産師あるいは教員と面接し、フィードバックする。		<実習場所> 受講生の希望を重視して決定する。 助産所、病院（総合周産期センター、NICU、助産師外来、院内助産院等） ヘルスプロモーション実践研究センター など		事後学習 実習記録物をまとめ提出する。		
77～80	⑤実習記録をまとめ自己の実習評価を行い、担当教員から助言をもらう。 ⑥残された自己の課題を明らかにする。		面接授業		事後学習 自己の助産実践レポートを作成し、提出する。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	実習計画書立案		○	○		0	
実習態度・実習への参加度				○		20	
実習記録物・レポート		○	○			20	
実践力習得度		○	○		◎	60	
成績評価方法および成績評価基準に関する補足事項		実習施設教育者評価と実習担当教員評価から総合的に評価する。					
テキスト・参考文献等	配布資料等						
履修条件	助産実践アドバンスコースの学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	実習担当教員が随時面接して相談を受け、助言する。						

授業科目名	助産学課題研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	4	1～2年
担当教員	佐藤香代・鳥越郁代・古田祐子						
授業の概要	助産実践の改善・向上に貢献する知見を得るために、臨床上の疑問（Clinical question）または研究課題（research question）に対し研究を行い、助産実践における研究のプロセスと意義を学ぶ。その成果を助産実践に取り入れることができる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	研究課題に関連した専門的知識を有している。					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	助産実践に関する研究課題について、研究プロセスをえて、その成果を発表できる。					
	DP3：表現力						
関心・意欲・態度	DP4：探求力	助産に関する課題について、主体的に探究することができる。					
	DP5：社会貢献力	研究成果を助産実践活動に活用し、社会に貢献できる。					
技能	DP6：実践力	自己の研究課題を明確にし、研究計画から論文作成までのプロセスを身につけている。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<ol style="list-style-type: none"> ① 助産実践を通して生じた自らの研究疑問に関連する文献を収集する。 ② 文献を批判的に検討する。 ③ 文献検討や担当教員、他の学生とのディスカッションを重ねながら自己の研究テーマ、目的を絞り込む。 ④ 目的にあった研究方法を選択する。 ⑤ 研究計画書を作成する。 ⑥ 研究計画の審査及び研究倫理委員会の審査を受ける。 ⑦ 研究を実施する。 ⑧ 結果を分析し、担当教員とのディスカッションを通して考察を行う。 ⑨ 論文としての構成を考え執筆する。 ⑩ 研究発表会で発表する。 ⑪ 必要な変更や加筆を行い、修士論文を提出する。 							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
研究論文・その他		◎	◎	◎	◎	100	
成績評価基準に関する補足事項		成績評価の詳細については、担当教員から別途説明する。 研究論文については、評価表に基づき評価を行う。					
テキスト・参考文献等	[参考書] 文献は、講義中に適宜指示する。						
履修条件	助産実践形成コース、助産実践アドバンスコースの学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに、個別に質問に回答する。						

授業科目名	助産学特別研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	領域において必修	8	1～2年
担当教員	佐藤香代・鳥越郁代・古田祐子						
授業の概要	1. 助産に関連する研究課題を取り上げ、一連の研究プロセスを踏みながら、最終的に修士論文を作成する。 2. 研究を通して助産学における新たな知見を見出すことができる。 3. 研究成果を助産ケアの向上に役立てることができる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：専門的知識	助産の研究テーマに関わる専門的知識を有している					
思考・判断・表現	DP2：論理的思考力	助産学に関連した自己の研究課題について、学術的手法を用いて導き出した研究結果を論文としてまとめ、発表できる。					
	DP3：表現力						
関心・意欲・態度	DP4：探求力	助産に関する研究成果を、助産実践に活用することができる					
	DP5：社会貢献力						
技能	DP6：実践力	自己の研究課題を明確にし、研究計画から論文作成までのプロセスを身につけている。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
①オリエンテーション ②自らの研究疑問に関連する文献を収集する。 ③文献を批判的に検討する。 ④文献検討や担当教員、他の学生とのディスカッションを重ねながら自己の研究テーマ、目的を絞り込む。 ⑤目的にあった研究方法を選択する。 ⑥研究計画書を作成する。 ⑦研究計画の審査及び研究倫理委員会の審査を受ける。 ⑧研究を実施しながら、担当教員の指導を受ける。 ⑨結果を明らかにし、分析する。 ⑩先行研究との照らし合わせや担当教員とのディスカッションを通して結果を考察する。 ⑪論文としての構成を考え執筆する。 ⑫研究発表会で発表する。 ⑬必要な変更や加筆を行い、修士論文を提出する。							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
研究論文・その他		◎	◎	◎	◎	100	
成績評価基準に関する補足事項		成績評価の詳細については、担当教員から別途説明する。 研究論文については、評価表に基づき評価を行う。					
テキスト・参考文献等	[参考書] 文献は、講義中に適宜指示する。						
履修条件	助産学研究コースの学生を対象とする。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに、個別に質問に回答する。						

VIII. 教員一覧

1 人間社会学研究科

社会福祉専攻

教授	ほそい いさむ 細井 勇	担当科目：社会福祉研究、社会福祉演習、 フィールドワーク、特別研究
教授	たなか てつや 田中 哲也	担当科目：地域文化研究、地域文化演習
		担当科目：地域社会研究、地域社会演習
教授	すみとも ゆうじ 住友 雄資	担当科目：社会福祉研究法、質的研究法、 精神保健福祉研究、精神保健福祉演習、 フィールドワーク、特別研究
教授	ほんごう ひでかず 本郷 秀和	担当科目：高齢者福祉研究、高齢者福祉演習、量的研究法、 フィールドワーク、特別研究
准教授	ひらべ やすこ 平部 康子	担当科目：社会保障制度研究
准教授	むらやま こういちろう 村山 浩一郎	担当科目：地域福祉研究、地域福祉演習
准教授	おくむら けんいち 奥村 賢一	担当科目：子ども家庭福祉研究、子どもの家庭福祉演習
准教授	つつみ けいしろう 堤 圭史郎	担当科目：地域問題研究
講師	こうの たかし 河野 高志	担当科目：ソーシャルワーク研究、ソーシャルワーク演習
非常勤講師	かどた こうじ 門田 光司 (久留米大学)	担当科目：障害者福祉研究、障害者福祉演習
非常勤講師	きざき のぶよし 鬼崎 信好 (久留米大学)	担当科目：福祉制度比較研究

心理臨床専攻

教授	ふくだ きょうすけ 福田 恭介	担当科目：認知心理学特論、心理学研究法特論、 臨床心理基礎実習、臨床心理実習、特別研究
教授	こじま ひでき 小嶋 秀幹	担当科目：臨床心理面接特論、臨床心理査定演習、 臨床心理基礎実習、臨床心理実習、特別研究
教授	うえの ゆきなが 上野 行良	担当科目：人間関係特論、社会心理学特論、特別研究
准教授	いわはし もとや 岩橋 宗哉	担当科目：臨床心理学特論、臨床心理面接特論、 臨床心理基礎実習、臨床心理実習、特別研究
准教授	むぎしま こう 麦島 剛	担当科目：老年心理学特論、神経生理学特論、特別研究

准教授	よしおか 吉岡	かずこ 和子	担当科目：臨床心理学特論、臨床心理査定演習、 臨床心理基礎実習、臨床心理実習、特別研究
講師	いけ 池	しほ 志保	担当科目：臨床心理学研究法特論、発達心理学特論、 臨床心理基礎実習、臨床心理実習
講師	こやま 小山	けんいちろう 憲一郎	担当科目：臨床心理学特論、臨床心理基礎実習、臨床心理実習
非常勤講師	たなか 田中	かつえ 克江	(田中心理教育相談室) 担当科目：心理療法特論
非常勤講師	はまの 濱野	きよし 清志	(京都文教大学) 担当科目：投影法特論
非常勤講師	うちだ 内田	としひろ 利広	(京都教育大学) 担当科目：学校臨床心理学特論

2. 看護学研究科

看護学専攻（担当科目）

基盤看護学領域

教授	ながしま ゆりこ 永嶋 由理子	担当科目：看護理論、Advanced フィジカルアセスメント、看護心理学特論、看護心理学演習、基盤看護学特別研究、課題研究
教授	たなか みちこ 田中 美智子	担当科目：実験看護学特論、実験看護学演習、基盤看護学特別研究、Advanced 生理学・病態生理学、終末期高齢者看護論、課題研究
准教授	いしだ ちえみ 石田 智恵美	担当科目：看護教育学、看護教育学特論、看護教育学演習、基盤看護学特別研究
准教授	えがみ ちよみ 江上 千代美	担当科目：Advanced 生理学・病態生理学、実験看護学特論、実験看護学演習、基盤看護学特別研究、課題研究
准教授	ふちの ゆか 淵野 由夏	担当科目：基礎看護学特論、基礎看護学演習、看護理論、基盤看護学特別研究、Advanced フィジカルアセスメント
講師	ふじの やすひろ 藤野 靖博	担当科目：基礎看護学特論、基礎看護学演習
講師	かとう のりこ 加藤 法子	担当科目：看護理論、看護心理学特論、看護心理学演習

ヘルスプロモーション看護学領域

教授	まつうら けんちょう 松浦 賢長	担当科目：看護研究法、ヘルスプロモーション科学、思春期ヘルスプロモーション特論、思春期ヘルスプロモーション演習、ヘルスプロモーション看護学特別研究、課題研究
教授	おがた ゆきこ 尾形 由起子	担当科目：看護研究法、看護政策論、地域看護学特論、地域看護学演習、ヘルスプロモーション看護学特別研究、高齢者地域・家族看護方法論、課題研究
准教授	やました きよか 山下 清香	担当科目：看護政策論、地域看護学特論、地域看護学演習、ヘルスプロモーション看護学特別研究、課題研究
講師	はらだ なおき 原田 直樹	担当科目：思春期ヘルスプロモーション特論、思春期ヘルスプロモーション演習
講師	よしだ きょうこ 吉田 恭子	担当科目：在宅看護学特論、在宅看護学演習
講師	おの じゅんこ 小野 順子	担当科目：地域看護学特論、地域看護学演習

臨床看護学領域

教授	むらた せつこ 村田 節子	担当科目：Advanced 臨床薬理学、臨床心理学特論、成人看護学特論、成人看護学演習、がん看護学特論Ⅰ、がん看護学特論Ⅱ、がん看護学演習Ⅰ、がん看護学演習Ⅱ、がん看護学実習Ⅰ、がん看護学実習Ⅱ、臨床看護学特別研究、課題研究
教授	あかし ちなみ 赤司 千波	担当科目：成人看護学特論、成人看護学演習、終末期高齢者看護論、臨床看護学特別研究
准教授	わたなべ ともこ 渡邊 智子	担当科目：Advanced フィジカルアセスメント、老年看護学特論、老年看護学演習、高齢者健康生活アセスメント論、老年病診断治療学、老年病診断治療学演習、高齢者看護方法論、高齢者地域・家族看護方法論、高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論、終末期高齢者看護論、認知症高齢者看護論、終末期老年看護実習Ⅰ、終末期老健看護実習Ⅱ、認知症老年看護実習Ⅰ、認知症老年看護実習Ⅱ、臨床看護学特別研究、課題研究
准教授	いちき なおみ 榎 直美	担当科目：老年看護学特論、老年看護学演習、臨床看護学特別研究、高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論、課題研究
准教授	まつえだ みちこ 松枝 美智子	担当科目：精神看護学特論、精神看護学演習、精神看護関連法規・制度・政策論、精神看護論、精神看護アセスメント論、精神看護セラピーⅠ、精神看護セラピーⅡ、精神障がい者地域移行・地域定着看護論、リエゾン精神看護論、精神看護専門看護師直接ケア実習、精神看護専門看護師役割実習、精神科診断治療実習、Advanced 精神看護専門看護師直接ケア実習、Advanced 精神看護専門看護師役割実習、臨床看護学特別研究、課題研究
准教授	みやぞの まみ 宮園 真美	担当科目：成人看護学特論、成人看護学演習、がん看護学実習Ⅰ、がん看護学実習Ⅱ、臨床看護学特別研究、課題研究
准教授	たなか みき 田中 美樹	担当科目：小児看護学特論、小児看護学演習、臨床看護学特別研究
講師	なかい ゆうこ 中井 裕子	担当科目：成人看護学特論、成人看護学演習
講師	おおしま みさお 大島 操	担当科目：成人看護学特論、成人看護学演習
講師	やすなが かおり 安永 薫梨	担当科目：精神看護学特論、精神看護学演習、精神看護関連法規・制度・政策論、リエゾン精神看護論、精神科診断治療実習、Advanced 精神看護専門看護師直接ケア実習、Advanced 精神看護専門看護師役割実習
講師	よしかわ みお 吉川 未桜	担当科目：小児看護学特論、小児看護学演習

助教 宮崎 初 <small>みやざき はじめ</small>	担当科目：精神看護学演習、精神障がい者地域移行・地域定着看護論、精神看護専門看護師役割実習、Advanced 精神看護専門看護師直接ケア実習、Advanced 精神看護専門看護師役割実習
助教 江上 史子 <small>えがみ ふみこ</small>	担当科目：認知症高齢者看護論、認知症老年看護実習Ⅱ
助教 廣瀬 理絵 <small>ひろせ りえ</small>	担当科目：コンサルテーション論、終末期高齢者看護論、終末期老年看護実習Ⅰ、終末期老年看護実習Ⅱ

助産学領域

教授 佐藤 香代 <small>さとう かよ</small>	担当科目：看護研究法、ウイメンズヘルステ論、ウイメンズヘルス演習、代替・補完看護学特論、代替・補完看護学演習、臨床看護学特別研究、基礎助産学特論、基礎助産学演習、助産学特論、助産学演習、ホリスティック助産学特論、ホリスティック助産学演習、助産実践学Ⅰ、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産学実習Ⅲ、助産学実習Ⅳ、助産学実習Ⅴ、助産実践アドバンス特論、助産実践アドバンス実習、助産学課題研究、助産学特別研究
准教授 古田 祐子 <small>ふるた ゆうこ</small>	担当科目：臨床看護学特別研究、基礎助産学演習、助産学特論、助産学演習、助産実践学Ⅲ、助産実践学Ⅳ、マネジメント助産学特論、コミュニティ助産学特論、コミュニティ助産学演習、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産学実習Ⅲ、助産学実習Ⅳ、助産実践アドバンス特論、助産実践アドバンス実習、助産学課題研究、助産学特別研究
准教授 鳥越 郁代 <small>とりこえ いくよ</small>	担当科目：基礎助産学演習、助産学特論、助産学演習、助産実践学Ⅱ、コミュニティ助産学特論、コミュニティ助産学演習、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産学実習Ⅲ、助産学実習Ⅳ、助産学実習Ⅴ、助産実践アドバンス特論、助産実践アドバンス実習、助産学課題研究、助産学特別研究
講師 安河内 静子 <small>やすこうち しずこ</small>	担当科目：基礎助産学演習、助産学演習、助産実践学Ⅱ、助産実践学Ⅲ、コミュニティ助産学特論、コミュニティ助産学演習、助産学実習Ⅱ、助産学実習Ⅲ、助産学実習Ⅴ、助産実践アドバンス特論、助産実践アドバンス実習
講師 石村 美由紀 <small>いしむら みゆき</small>	担当科目：ウイメンズヘルステ論、ウイメンズヘルス演習、基礎助産学特論、基礎助産学演習、助産学特論、助産学演習、助産実践学Ⅱ、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産学実習Ⅲ、助産学実習Ⅳ、助産学実習Ⅴ、助産実践アドバンス特論、助産実践アドバンス実習
助教 吉田 静 <small>よしだ しずか</small>	担当科目：ウイメンズヘルステ論、ウイメンズヘルス演習、基礎助産学特論、基礎助産学演習、助産学特論、助産学演習、助産実践学Ⅰ、助産実践学Ⅱ、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産学実習Ⅲ、助産学実習Ⅳ、助産学実習Ⅴ

助教	こばやし えりこ 小林 絵里子	担当科目：基礎助産学演習、助産学特論、助産学演習、 ホリスティック助産学特論、ホリスティック助産学演習、 助産実践学Ⅱ、助産実践学Ⅲ、助産実践学Ⅳ、助産学実習Ⅰ、 助産学実習Ⅱ、助産学実習Ⅲ、助産学実習Ⅳ、助産学実習Ⅴ
助教	さとう まゆこ 佐藤 繭子	担当科目：ウイメンズヘルス演習、基礎助産学演習、助産学特論、 助産学演習、助産実践学Ⅰ、助産実践学Ⅱ、助産実践学Ⅲ、 助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産学実習Ⅲ、助産学実習Ⅳ、 助産学実習Ⅴ
助教	いがり たかし 猪狩 崇	担当科目：代替・補完看護学特論、代替・補完看護学演習

専任教員

教授	こいけ ゆうこ 小池 祐子	担当科目：英語文献講読特論
准教授	いもかわ ゆたか 芋川 浩	担当科目：老年看護学特論、老年病診断治療学、がん病態学
准教授	しのへ ともあき 四戸 智昭	担当科目：看護研究法、家族社会学特論
講師	こいで しょうたろう 小出 昭太郎	担当科目：看護政策論、データ解析特論、 高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論
講師	ますみつ まこと 増満 誠	担当科目：データ解析演習、精神看護関連法規・制度・政策論

兼任教員

教授	こじま ひでき 小嶋 秀幹	担当科目：精神看護セラピーⅡ
准教授	いわはし もとや 岩橋 宗哉	担当科目：臨床心理学特論
准教授	よしおか かずこ 吉岡 和子	担当科目：精神看護アセスメント論

IX. 施設の利用と各種手続き

1. 施設の利用

(1) 院生研究室

① 人間社会学研究科

1号館3階に各専攻の院生研究室があり、自由に利用できます。利用の際は、警備員室で鍵の貸出を受けてください。また、各研究室にはパソコンが備えられています。お互いにルールを決めて使用してください。

② 看護学研究科

5号館2階に各専攻の院生研究室があり、自由に利用できます。利用の際は、警備員室で鍵の貸出を受けてください。お互いにルールを決めて使用してください。

(2) コピー機器・印刷機

1号館の1階、3号館の3階及び5号館4階に印刷室があり、コピー機器と印刷機が設置されています。授業等のためにコピー機器を利用する場合は、コピーカードが必要です。カードは入学後に貸与します。その他、附属図書館と生協にも有料のコピー機器が設置されています。

(3) 学内施設及び大学会館

集会やその他の目的で学内の施設を使用する場合は、学生支援班に「施設利用申請書」又は「大学会館利用許可申請書」を提出し、学務部長の許可を受けてください。また、学生支援センターカウンターに備え付けてある「学内施設一覧表」等の帳簿への記入も必要です。なお大学会館の利用について詳しくは「大学会館利用要綱」(『学生便覧』に掲載)を参照してください。

(4) 附属図書館

① 開館時間

期間		本館	看護学部分館
通常期間 (下記長期休暇期間、 年末年始を除く期間)	平日(月～金)	8:45～20:00	8:45～22:00
	土曜日	8:45～17:00	8:45～21:00
	日曜日・祝日	休館	9:00～17:00
長期休暇期間 (3月1日～31日、 8月11日～9月30日)	平日(月～金)	8:45～17:00	8:45～17:00
	土曜日	休館	9:00～17:00
	日曜日・祝日	休館	9:00～17:00
年末年始 (12月24日～1月9日)	平日(月～金)	8:45～17:00	8:45～17:00
	土曜日・日曜日・祝日	休館	休館
	12月29日～1月3日	休館	休館

② その他の休館日

秋興祭、8月盆期間中、入学試験の期間、館内整理日(毎月末日。末日が土曜日・休日の場合は前日)、蔵書点検日(概ね9月上旬の1週間と3月上旬の1週間)

③ 入館

- 本館では、カウンターで図書館利用者IDカード(学生証)の提示を求められることがあります。原則として入館は自由です。図書館利用者IDカードは、携行してください。
- 入館者の統計をとっています。入館するときに、計数機を押してください。
- 入館するときは、私物はロッカーに入れ、館内には持ち込まないようにしてください。ロッカーを利用する際100円が必要ですが、戻ってきます。

書籍・辞書・ノート型パソコン本体は、入館前にカウンターで所定の手続きを行えば、持ち込むことができます。

ペットボトルや水筒など、倒れてもこぼれないふた付きの飲み物に限り持ち込むことができます。食べ物の持ち込みはできません。

- 無線LANに接続してインターネットの利用ができ、データベースや電子ジャーナルも検索できます。詳細は図書館職員にお尋ねください。

④ 図書の検索方法

○ 館内検索

ア 開架図書、閉架図書及び総合資料研究室の資料（本館）については、利用者が直接現物を検索、選定してください。

なお、閉架書庫を利用するときは、カウンターで所定の手続きにより申請をしてください。

イ 図書の検索、選定等についてはカウンターで気軽に相談してください。書庫に入り自由に選んでください。

○ 情報検索

情報検索機器による図書のオンライン検索については、使用上の注意事項を遵守し、係員の指示に従ってください。

OPAC (online public access catalog) : オンライン閲覧目録

本学図書館の蔵図書の所蔵状況（データベース入力分）が検索できます。

CD-ROM

CDに収録された文献が検索できます。

WebcatPlus : 国立情報学研究所目録データベース（学外からもアクセスできます）

全国の大学、研究施設等図書の所蔵状況が検索できます。

CiNii Articles / CiNii Books（学外からもアクセスできます）

国内の主要学術雑誌と図書の文献が検索できます。

MAGAZINEPLUS（1回線）

国内最大の雑誌・論文情報データベースです。

聞蔵Ⅱ（1回線）

朝日新聞、週刊朝日、AERAの検索・閲覧ができるデータベースです。

医学中央雑誌 Web版（3～4回線）

国内の医学および看護学関連分野雑誌の文献が検索できます。

最新看護索引 Web（3回線）

国内唯一の看護の雑誌文献情報データベースです。

CINAHL・MEDLINE（4回線・学外からもアクセスできます）

看護学関連分野の洋雑誌の文献が検索できます。

Cochrane Library

看護学関連分野のヘルスケア診療に関する検索ができます。

PsycINFO（無制限・学外からもアクセスできます）

心理学分野の洋雑誌の文献が検索できます。

Eric（無制限・学外からもアクセスできます）

教育学分野の文献が検索できます。

EBSCOhost（マイライブラリからのログインで、学外からもアクセスできます）

「CINAHL・PsycINFO・ERIC・MEDLINE」が複数選択できます。

PubMed LinkOut

PubMedの検索結果から契約EJの閲覧や、所蔵雑誌確認が可能です。

GeNii

コンポーネント（CiNii, Webcat Plus, 科学研究費成果公開サービス、学術研究データベース・リポジトリ）を統合的に検索します。

- ⑤ 貸出の手続き
- 本館ではカウンターに申し出て必要な手続きを行います。
 - 分館ではカウンターでも手続きができますが、自動貸出返却装置（ABC-ST）がありません。
 - 帯出時、返却期限の日付スタンプを、図書の所定の箇所に、利用者各自で押してください。分館では ABC-ST から返却期限付きのレシートが出ますが、返却期限スタンプの押印は必要です。
 - 院生への貸出図書は 10 冊以内で、期間は 30 日以内、雑誌は 5 冊以内、音楽 CD・カセットは 2 タイトル以内で、期間はいずれも 1 週間以内です。ただし、雑誌の最新号及び映像資料は貸し出していません。
 - 延滞した場合は、延滞日数と同期間の貸出を停止します。
- ⑥ 購入希望
- 図書館では、学生の皆さんの希望図書を購入する制度があります。全ての希望が叶うとは限りませんが、広い範囲で購入を検討しておりますので、希望がありましたら、図書館カウンターに置いてある「購入希望用紙」に必要事項を書いて、図書館の購入希望ボックスに投函してください。
- ⑦ 相互協力
(文献複写の学外依頼)
- 文献が本学図書館に所蔵されていない場合には、学外の大学図書館等に文献複写を依頼することができます。カウンターに申し出てください。
 - 複写に要する費用（複写代、郵送料等）は利用者負担です。
(図書の現物貸借)
 - 図書が本学図書館に所蔵されていない場合は、学外の大学図書館等から借用して、閲覧することができます。カウンターに申し出てください。
 - 借用に要する費用（郵送料等）は利用者負担です。
 - 他大学から借りた図書は館内閲覧のみです。館外へ貸し出すことはできません。相互貸借で借り受けた資料は原則として複写禁止です。分館でも受け付けいたしますが、受け渡し・閲覧は本館のみです。連絡から 1 週間以内に本館へご来館ください。長期間取りに来られない利用者には、他館への依頼をお断りするほか、支払いが終わるまで館内資料の貸出も停止することもあります。
- ⑧ 他大学図書館の利用
- 他の大学の図書館を利用したい方は、「利用願い」を交付しますので、学生証を提示し利用の 1 週間前までにカウンターで申し込んでください。
- ⑨ その他
- 図書館の利用について不明な点は、「(附属図書館) IV. 利用の方法」(『学生便覧』に掲載)を参照するか、係員にお尋ねください。

2. 教務入試班関係の手続き

教務入試班では、院生の研究生生活、在学関係等に関する次の事項を取り扱っています。

- (1) 院生への連絡
院生への連絡事項は、大講義室横掲示板への掲示によって周知します。
- (2) 授業科目の履修等
授業科目の履修等の手続きについては、この手引きの「VI. 6. 履修の手続き」(人間社会学研究科)、および「VI. 7. 履修の手続き」(看護学研究科)を参照してください。
- (3) 休学・退学
 - ① 病気その他やむを得ない事情により、長期(3か月以上)にわたって授業を欠席するとき

は、休学願（病気等の場合は医師の診断書を添付）を教務入試班に提出し、研究科長の許可を受けてください。

② 病気その他やむを得ない事情により、退学するときは、退学願（病気等の場合は医師の診断書を添付）を教務入試班に提出し、研究科長の許可を受けてください。

(4) 復学

退学者が復学したいときは、復学願を教務入試班に提出し、研究科長の許可を受けることが必要です。

(5) 証明書等の発行

教務入試班では、在学証明書、学業成績証明書、修了見込証明書等を発行します。必要なときは、証明書等交付願に入学年度、氏名、使用目的等を記入のうえ申し込んでください。

3. 学生支援班（3号館1階学生支援センター内）関係の手続き

学生支援センターの学生支援班では、院生の学内外の経済的・社会的生活に関する次の事項を取り扱っています。

(1) 院生への連絡

院生への連絡事項は、大講義室横掲示板への掲示、又は学内 web メールにて周知します。

(2) 住所・保証人の変更

本人又は保証人の住所・氏名・連絡先（電話番号・メールアドレス）が変更になったときは、変更届を学生支援班に提出してください。

(3) 証明書等の発行

学生支援班では、通学証明書、在寮証明書、推薦書等を発行します。必要なときは、お問い合わせください。（学生旅客運賃割引証は、管理棟1階事務局の発行機をご利用ください。）

(4) 授業料の減免

経済的な事情等のために授業料を納付できないと理事長が認めた者については、授業料の減免が行われます。減免を受けたい人は学生支援班までご相談ください。詳細については「公立大学法人福岡県立大学授業料の減免等に関する規則」（『学生便覧』に掲載）を参照してください。

(5) 奨学金

本学では日本学生支援機構奨学金、その他の奨学金の申し込み等について受け付けています。

① 日本学生支援機構奨学金

第1種（無利子貸与）（月額）50,000円又は88,000円

第2種（有利子貸与）（月額）5万円、8万円、10万円、13万円、15万円

定期採用として毎年4月に申し込みを受け付けています。希望する方は4月上旬に開催する説明会に参加してください。

② その他の奨学金

募集の連絡があれば、大講義室横掲示コーナーでの掲示により通知します。希望者は学生支援班に申し出てください。

(6) 進路・就職・キャリア支援

就職・進学を希望する院生は、学生支援センターのキャリアサポートセンターを活用してください。

キャリアサポートセンターでは、求人票の閲覧や就職・進学関係情報の提供、専門のカウンセラーによる自己理解から模擬面接まで様々な個人指導を行っています。もちろん、就職関係の悩み相談も受け付けていますし、卒業生も利用できますので、学生支援センターカウンターに申し出て、活用してください。

就職支援プログラムとして、就職ガイダンス（年12回を予定）やインターンシップ（夏季・春季）、学内企業説明会等も開催しています。

また、担当指導教員と密接な連携を保ち、就職・進学の手配も受けてください。
福岡県立大学のホームページから、本学で受け付けた求人票の一覧を確認することができます。

※ 「就職・キャリア支援」→「求人情報（学内専用ログイン）」

パスワードはキャリアサポートセンターで確認してください。

(7) アルバイトの紹介

本学に求人依頼があったものは、学生のアルバイトとして適当かを検討し、3号館1階学生支援センター前のアルバイト求人コーナーに掲示しています。希望の際は学生証を提示し、受付番号を学生支援班に伝えてください。連絡先を教えます。

(8) 下宿・アパート等の紹介

下宿・アパート等の物件情報は、住宅情報として紹介しています。いつでも閲覧できますので、学生支援センターカウンターに申し出てください。

(9) 健康管理と保健室

研究生生活において、健康の保持増進、病気等の早期発見・早期治療に十分配慮すべきことはいうまでもありません。保健室は管理棟の1階にあり、定期健康診断のほか救急処置や健康相談等を行っています。

(10) 学生相談室

学生相談室は、対人関係の問題や就職の問題など学生・院生の抱える悩みを共に考え、解決できるように力になってくれるところです。どんな小さな問題でも気軽に相談できますので、保健室に申し出てください。もちろん、個人の秘密（プライバシー）は堅く守られます。また、研究上の問題については各研究指導教員が相談にのります。

(11) 学内活動等

① 団体の結成

学生・院生が新しくサークル等の団体を作り活動を行う場合は、学生団体結成願を学生支援班に提出し、許可を受ける必要があります。

② 掲示物の掲示

学生・院生の掲示物は、学生支援班で承認を受けたうえで掲示してください。

③ 印刷物等の配布

学内で印刷物、雑誌、新聞、その他の物品を配布する場合は、責任者は学生支援班に届け出てその現物を提出する必要があります。

なお、学内活動等について詳しくは「学生の団体、集会及び掲示等に関する規則」（『学生便覧』に掲載）を参照してください。

X. 諸規程

福岡県立大学大学院学則

法人規程第 33 号

目次

第1章	総則（第1条－第3条）
第2章	入学定員及び収容定員（第4条）
第3章	学年、学期及び休業日（第5条）
第4章	教育方法等（第6条－第12条）
第5章	課程の修了及び学位の授与（第13条－第15条）
第6章	入学、退学及び休学（第16条－第19条）
第7章	除籍及び懲戒（第20条）
第8章	復学（第21条）
第9章	外国人特別学生（第22条）
第10章	聴講生、研究生（第23条）
第11章	入学考查料、入学料、授業料等（第24条）
第12章	教員組織（第25条）
第13章	研究科委員会（第26条－第28条）
第14章	特任教員等（第29条－第30条）
第15章	雑則（第31条）
附則	

第1章 総則

（目的）

第1条 福岡県立大学大学院（以下「本学大学院」という。）は、広い視野に立って専攻分野に関する専門的学術を教育研究し、学術文化の進展に寄与するとともに、社会的な場でその高度な専門的知識を活用し得る指導的人材を養成することを目的とする。

（課程）

第2条 本学大学院の課程は、修士課程とする。

2 修士課程の標準修業年限は、2年とする。ただし、特に優れた業績をあげた者は、1年以上在学すれば足りるものとする。ただし、看護学研究科看護学専攻専門看護師コースの学生は修了に2年以上の在学期間を要する。

3 在学期間は、4年を超えることができない。ただし、休学期間はこれに算入しない。

（研究科及び専攻）

第3条 本学大学院に次の研究科及び専攻を置く。

研究科名	専攻名		
人間社会学研究科	社会福祉専攻		
	心理臨床専攻		
看護学研究科	看護学専攻	コース名	研究コース
			専門看護師コース
			助産実践形成コース
			助産実践アドバンスコース

2 前項に規定する研究科及び専攻の目的は、次のとおりとする。

研究科名	目 的	
人間社会学研究科	21世紀における少子・高齢化、地方分権及び自己実現要求の高まりを踏まえ、高度福祉社会の実現に貢献できる人材の養成を行うとともに、職業人のリカレント教育（学習）の要求に応えることを目的とする。	
	専攻名	目 的
	社会福祉専攻	児童と家族、障害者及び高齢者等の援助を必要とする人びとの生活課題について、個人や家族、集団、地域等における人間関係やサービス利用状況等を含めて全体的に把握することで当事者の育成や保護、介護、社会参加及び自立支援等の在り方を研究することを目的とする。
	心理臨床専攻	心理学全般の領域を関連づけながら、心理臨床に関する知識技能を深め、心理的支援を必要とする人に対するカウンセリングなどの実践能力を身につけ、さらに、他職種とも協働する能力をもつ臨床心理士を養成することを目的とする。
看護学研究科	看護学専攻	地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進する中核的担い手である高度専門職業人としての看護職者や、看護学の創造と発展に貢献できる研究者・教育者を育成することを目的とする。

（心理教育相談室）

第3条の2 人間社会学研究科に、心理臨床専攻のための臨床実習施設として心理教育相談室を置く。

2 心理教育相談室について必要な事項は、別に定める。

第2章 入学定員及び収容定員

（入学定員及び収容定員）

第4条 研究科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	専攻名		入学定員	収容定員	
人間社会学研究科	社会福祉専攻		6	12	
	心理臨床専攻		6	12	
	合計		12	24	
看護学研究科	看護学専攻	コース名	研究コース	12	24
			専門看護師コース		
			助産実践形成コース		
			助産実践アドバンスコース		
総計			24	48	

第3章 学年、学期及び休業日

（学年、学期及び休業日）

第5条 学年、学期及び休業日については、福岡県立大学学則（平成18年法人規程第32号。以下「本学学則」という。）の規定を準用する。

第4章 教育方法等

(授業科目及び単位数)

第6条 研究科の専攻別の授業科目及びその単位数は、別表のとおりとする。

(履修方法)

第7条 研究科の定めるところにより、前条の授業科目について30単位以上（人間社会学研究科心理臨床専攻は32単位以上、看護学研究科看護学専攻がん看護専門看護師コースは36単位以上、精神看護専門看護師コースは42単位以上、老年看護専門看護師コースは43単位以上、助産実践形成コースは58単位以上）を履修しなければならない。

(長期にわたる課程の履修)

第7条の2 別に定めるところにより、学生が職業を有している等の事情で第2条第2項に規定する標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

(単位の認定)

第8条 授業科目を履修した者に対しては、試験又は研究報告等の成績により、所定の単位を与える。

(教育方法の特例)

第9条 研究科において教育上特別に必要があると認めるときは、別に定めるところにより、夜間その他特定の時期において授業又は研究指導を行う。

(他専攻等の授業科目の履修)

第10条 研究科において必要があると認めるときは、他の専攻の授業科目又は学部の授業科目を履修させ、これを第7条に規定する単位とすることができる。

(他大学院の授業科目の履修)

第11条 研究科において教育研究上有益と認めるときは、他の大学院とあらかじめ協議の上、当該大学院の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目の単位数は、10単位を超えない範囲で本学大学院において履修したものとみなすことができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第11条の2 研究科において教育研究上有益と認めるときは、学生が本学大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位数(大学院設置基準第15条の規定により科目等履修生として修得した単位数を含む。)を、10単位を超えない範囲で本学大学院に入学した後の本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(留学)

第12条 留学(外国の大学院において、当該専攻の教育課程に関連のある授業科目を履修することをいう。以下同じ。)しようとするときは、前条の規定を準用する。

2 留学に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 課程の修了及び学位の授与

(修士課程の修了要件)

第13条 修士課程の修了要件は、本学大学院に2年以上在学し、30単位以上（人間社会学研究科心理臨床専攻は32単位以上、看護学研究科看護学専攻がん看護専門看護師コースは36単位以上、精神看護専門看護師コースは42単位以上、老年看護専門看護師コースは43単位以上、助産実践形成コースは58単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

ただし、看護学研究科看護学専攻専門看護師コースの学生は修了に2年以上の在学期間を要する。

(修士論文の審査)

第14条 修士論文の審査については、別に定める。

(学位の授与)

第15条 修士課程を修了した者には、次の学位を授与する。

研究科名	専攻名		学位名	
人間社会学研究科	社会福祉専攻		修士 (社会福祉)	
	心理臨床専攻		修士 (心理臨床)	
看護学研究科	看護学専攻	コース名	研究コース	修士 (看護学)
			専門看護師コース	
			助産実践形成コース	
			助産実践アドバンスコース	

第6章 入学、退学及び休学

(入学、退学及び休学)

第16条 入学、退学及び休学については、本学学則の規定を準用する。

(入学資格)

第17条 修士課程に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条に定める大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第102条に定める大学院入学資格を有する者
- (3) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で22歳に達したもの

(入学許可、入学許可された者の提出書類及び保証人)

第18条 入学許可、入学許可された者の提出書類及び保証人については、本学学則の規定を準用する。

(転入学、再入学、専攻の変更及び転学)

第19条 転入学、再入学、専攻、コース(コースについては看護学研究科のみ)の変更又は転学を志願する者には、選考の上これらを許可することがある。

- 2 前項の場合において、既に修得した科目の単位及び在学年数の認定は、研究科において行うものとする。
- 3 他の大学院に転学を志願するときは、学長の許可を得なければならない。

第7章 除籍及び懲戒

(除籍及び懲戒)

第20条 除籍及び懲戒については、本学学則の規定を準用する。この場合において、本学学則第34条及び第35条に「学部」とあるのは「研究科」と、「教授会」とあるのは「研究科委員会」と、本学学則第34条第1項第1号に「第11条第2項」とあるのは「本学大学院学則第2条第3項」と読み替えるものとする。

第8章 復学

(退学者の復学並びに除籍又は退学処分を受けた者の復学)

第21条 退学者の復学並びに除籍又は退学処分を受けた者の復学については、本学学則の規定を準用する。この場合において、本学学則第36条及び第37条に「学部」とあるのは「研究科」と、「教

授会」とあるのは「研究科委員会」と読み替えるものとする。

第9章 外国人特別学生

(外国人特別学生)

第22条 外国人で、本学大学院において教育を受ける目的をもって入国し、第16条に規定する入学によらずに本学大学院に入学しようとする者がある場合は、研究科委員会の選考を経て、外国人特別学生として入学させることができる。

2 外国人特別学生に関し必要な事項は、別に定める。

第10章 科目等履修生、聴講生及び研究生

(科目等履修生、聴講生及び研究生)

第23条 本学大学院に科目等履修生、聴講生及び研究生の制度を置く。

2 科目等履修生、聴講生及び研究生に関し必要な事項は、別に定める。

第11章 入学審査料、入学料、授業料等

(授業料等)

第24条 入学審査料、入学料、授業料その他の費用の種類、額及び納入方法等については、別に定める。

第12章 教員組織

(教員組織)

第25条 本学大学院の授業及び研究指導を担当する教員は、本学の教授、准教授、講師及び助教の中からこれを充てる。

2 必要がある場合は、前項の教員に非常勤講師を充てることができる。

第13章 研究科委員会

(研究科委員会)

第26条 研究科に研究科委員会を置く。

2 研究科委員会は、研究科長、研究科担当の教授、准教授及び講師をもって組織する。

(審議事項)

第27条 研究科委員会は次の事項を審議する。

- (1) 学生の入学、退学、転学、留学、休学及び卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項並びに学位の授与に関する事項
- (2) 教育課程の編成に関する事項
- (3) 学長から諮問を受けた教員の採用、昇任に係る選考に関する事項
- (4) その他研究科の運営に関する重要事項

2 前項に規定するもののほか、研究科委員会に関し必要な事項については、別に定める。

(研究科長)

第28条 研究科には研究科長を置く。

2 研究科長は、研究科委員会を招集し、その議長となる。

第14章 特任教員等

(特任教員)

第29条 本学大学院に特任教員として、特任教授、特任准教授、特任講師、特任助教及び特任研究員を置くことができる。

2 特任教員に関して必要な事項は、別に定める。

(客員教員)

第30条 本学大学院に客員教員として、客員教授及び客員准教授を置くことができる。

2 客員教員に関して必要な事項は、別に定める。

第15章 雑則

(補則)

第31条 この学則に定めるもののほか、この学則の施行に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この学則の施行の際廃止された福岡県立大学大学院学則（平成9年3月福岡県告示第632号。以下「廃止前の学則」という。）に基づいて履修した科目及び課程並びに廃止前の学則の規定により受けた許可等は、この学則に基づいて履修した科目及び課程並びにこの学則の相当規定により受けた許可等とみなす。ただし、この学則に相当する規定がないときは、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この学則の施行の日（以下「施行日」という。）前に人間社会学研究科に在学していた者が、施行日後に在学しなくなるまでの間、旧学則の第3条、第4条、第6条、第7条、第13条及び第15条の規定は、なおその効力を有する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年12月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年3月24日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

ただし、別表D看護学専攻の老年看護師専門看護師コース及び助産学領域の開設に伴う科目の新設、食育学に関する科目の廃止は平成 27 年 4 月 1 日から施行し、同年度の入学生から適用する。平成 26 年度以前の入学生については、なお従前の例によるものとする。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の学則は、平成 28 年度入学者から適用し、平成 27 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

別 表

A 社会福祉専攻

科目名	必修	選択	自由
特別研究	4		
フィールドワーク		2	
社会福祉研究法	2		
量的研究法		1	
質的研究法		1	
社会福祉研究	2		
社会福祉演習		2	
ソーシャルワーク研究	2		
ソーシャルワーク演習		2	
高齢者福祉研究		2	
高齢者福祉演習		2	
障害者福祉研究		2	
障害者福祉演習		2	
地域福祉研究		2	
地域福祉演習		2	
子ども家庭福祉研究		2	
子ども家庭福祉演習		2	
精神保健福祉研究		2	
精神保健福祉演習		2	
福祉制度比較研究		2	
社会保障制度研究		2	
社会政策研究		2	
社会政策演習		2	
地域問題研究		2	
地域問題演習		2	
公共政策研究		2	
地域文化研究		2	
地域文化演習		2	
地域社会研究		2	
地域社会演習		2	

B 心理臨床専攻

科目名	必修	選択	自由
臨床心理学特論	4		
臨床心理面接特論	4		
臨床心理査定演習	4		
臨床心理基礎実習	2		
臨床心理実習（学内）	1		
臨床心理実習（施設）	1		
臨床心理学研究法特論		2	
心理療法特論		2	
投影法特論		2	
特別研究	4		
心理学研究法特論		2	
発達心理学特論		2	
認知心理学特論		2	
社会心理学特論		2	
人間関係特論		2	
神経生理学特論		2	
老年心理学特論		2	
学校臨床心理学特論		2	

C 看護学専攻

科目名	必修	選択
看護理論	2	
看護倫理	2	
看護研究法	2	
コンサルテーション論		2
看護教育学		2
英語文献購読特論		2
看護政策論		2
Advanced 生理学・病態生理学		2
Advanced フィジカルアセスメント		2
Advanced 臨床薬理学		2
看護管理学		2
臨床心理学特論		2
家族社会学特論		2
ヘルスプロモーション科学		2
哲学的人間学		2
データ解析特論		2
データ解析演習		2
ウイメンズヘルス特論		1
ウイメンズヘルス演習		1
看護教育学特論		2
看護教育学演習		2
基礎看護学特論		2
基礎看護学演習		2
看護心理学特論		2
看護心理学演習		2
実験看護学特論		2
実験看護学演習		2
基盤看護学特別研究		8
思春期ヘルスプロモーション特論		2
思春期ヘルスプロモーション演習		2
地域看護学特論		2
地域看護学演習		2
在宅看護学特論		2
在宅看護学演習		2
ヘルスプロモーション看護学研究		8
小児看護学特論		2
小児看護学演習		2
代替・補完看護学特論		2
代替・補完看護学演習		2

科目名	必修	選択
老年看護学特論		2
老年看護学演習		2
高齢者健康生活アセスメント論		2
老年病診断治療学		1
老年病診断治療学演習		1
高齢者看護方法論		2
高齢者地域・家族看護方法論		1
高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論		2
終末期高齢者看護論		2
認知症高齢者看護論		2
終末期老年看護実習Ⅰ		2
終末期老年看護実習Ⅱ		3
認知症老年看護実習Ⅰ		2
認知症老年看護実習Ⅱ		3
成人看護学特論		2
成人看護学演習		2
がん病態学		2
がん看護学特論Ⅰ		2
がん看護学特論Ⅱ		2
精神看護学特論 (26単位ががん看護専門看護師コース)		2
がん看護学演習Ⅰ		2
がん看護学演習Ⅱ		2
がん看護学実習Ⅰ		4
がん看護学実習Ⅱ		2
精神看護学特論 (38単位精神看護専門看護師コース)		2
精神看護学演習		2
精神看護関連法規・制度・政策論		2
精神看護論		2
精神看護アセスメント論		2
精神看護セラピーⅠ		2
精神看護セラピーⅡ		2
リエゾン精神看護論		2
精神障がい者地域移行・地域定着看護論		2
精神看護専門看護師直接ケア実習		2
精神看護専門看護師役割実習		2
精神科診断治療実習		2
Advanced 精神看護専門看護師直接ケア実習		2

科目名	必修	選択
Advanced 精神看護専門看護師役割実習		2
臨床看護学特別研究		8
課題研究		4
基礎助産学特論		2
基礎助産学演習		2
助産学特論		2
助産学演習		2
ホリスティック助産学特論		1
ホリスティック助産学演習		2
助産実践学Ⅰ（妊娠期）		2
助産実践学Ⅱ（分娩期）		4
助産実践学Ⅲ（産褥・新生児期）		2
助産実践学Ⅳ（ハイリスクケア）		2
マネジメント助産学特論		2
コミュニティ助産学特論		1
コミュニティ助産学演習		2
助産学実習Ⅰ（外来ケア実習）		1
助産学実習Ⅱ（周産期ケア実習）		8
助産学実習Ⅲ（助産所実習・継続ケア実習）		2
助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）		1
助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）		2
助産実践アドバンス特論		1
助産実践アドバンス実習		4
助産学課題研究		4
助産学特別研究		8

福岡県立大学大学院履修規則

法人規則第 27 号

(趣旨)

第 1 条 福岡県立大学大学院の教育課程及び履修方法等に関する事項は、福岡県立大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)及び福岡県立大学学則(以下「大学学則」という。)に定めるもののほか、この規則の定めるところによるものとする。

(研究指導教員)

第 2 条 大学院学生(以下「院生」という。)には、それぞれ研究指導教員を定める。

2 研究指導教員は、各研究科委員会の議を経て研究科長が決定する。

(授業科目の分野と年次配当)

第 3 条 大学院学則第 6 条別表に掲げる専攻別の授業科目を、本規則の別表に示す専攻別の分野に区分し、各年次に配当する。

(課程修了に必要な単位の修得方法)

第 4 条 大学院学則第 13 条に定める修士課程の修了に必要な単位は、前条別表に掲げる授業科目において、次のとおりとする。

研究科名	専 攻 名		修了に必要な単位数		
人 間 社会学 研究科	社会福祉専攻		3 0		
	心理臨床専攻		3 2		
看護学 研究科	看護学 専攻	コ ー ス 名	研究コース	3 0	
			専門看護師 コース	がん看護 専門看護師	3 6
				精神看護 専門看護師	4 2
				老年看護 専門看護師	4 3
			助産実践形成コース		5 8
			助産実践アドバンスコース		3 0

2 人間社会学研究科においては、社会福祉専攻及び地域教育支援専攻では他専攻から 4 単位まで、心理臨床専攻では他専攻から 2 単位までを修了要件として単位認定できる。

看護学研究科においては、他専攻から 4 単位までを修了要件として単位認定できる。

(授業科目の履修登録)

第 5 条 院生は、毎年度初めに研究指導教員の指導を受けて、当該年度内に履修しようとする授業科目を履修届に記入し、所定の期日までに学務部に提出しなければならない。

(在学期間の特例)

第6条 大学院学則第13条ただし書にいう「特に優れた業績をあげた者」については、履修科目の成績評価及び研究活動、学位論文の内容等を総合的に評価し、各研究科委員会の議を経て研究科長が決定するものとする。

ただし、看護学研究科看護学専攻専門看護師コースの学生は修了に2年以上の在学期間を要する。

(夜間等の授業等)

第7条 大学院学則第9条にいう「夜間その他特定の時期」における「授業又は研究指導」は、原則として、学期内の月曜日から金曜日までの夜間及び土曜日、夏期及び冬期休業期間中の授業又は研究指導（以下「夜間等の授業等」という。）とする。ただし、人間社会学研究科社会福祉専攻においては、日曜日及び祝日を「夜間等の授業等」に加えることができる。

2 人間社会学研究科においては、夜間等の授業等は、次条に規定する2年次生を対象として実施するものとする。その授業は原則として「演習」及び「特別研究」とし、その時間割は別に定める。

(夜間等の授業等の履修方法)

第8条 人間社会学研究科においては、社会人入学者で希望する者のうち、1年次目に昼間の授業で「フィールドワーク」および「特別研究」を含む20単位以上を修得した院生は、2年次目に、夜間等の授業等の履修により課程修了に必要な単位を修得することができるものとする。

(試験及び追試験)

第9条 授業科目の試験は、筆記、研究報告、口頭試問等の試験方法により、学期末又は学年末に行う。

2 病気その他やむを得ない事由により前項に規定する試験を受けることができなかつた者については、追試験を行うことができる。

3 追試験を希望する者は、追試験受験申請書を学務部に提出しなければならない。

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験又は追試験の成績評価は、原則として100点を満点とする次の5段階で行い、それぞれA、B、C、D及び不可の評語で表し、A、B、C及びDを合格、不可は不合格とする。

評語	A	B	C	D	不可
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0

2 授業科目の単位の認定は、前項の成績評価において合格の授業科目について行う。

3 院生の入学前の既修得単位等の認定については、次の方法により、本学大学院の開設科目の単位数で行う。

(1) 本学大学院の開設科目と単位数が同等以上で、同一名称又は内容に類似性が認められるものは、従前の成績を、又は本学大学院の成績評価に換算して認定する。

(2) 2科目以上の既修得単位の授業内容が、本学の1科目に相当すると認められるものは、各科目の成績を本学大学院の成績評価に換算し、5段階評価の場合は、Aを95、Bを85、Cを75、Dを65とし、4段階評価の場合は、優を90、良を75、可を65としてその平均を算出し、当該科目の成績として認定する。

(成績表の交付と質問期間)

第10条の2 試験終了後、期日を定めて、成績表を交付する。

2 成績に関して、指定された成績質問期間に担当教員に質問することができる。

(学位論文)

第11条 学位論文は、研究指導教員の指導を受けて作成し、所定の期日までに提出しなければならない。

2 学位論文の作成、提出、保管等については別に定める。

(学位論文の提出資格)

第12条 学位論文を提出できる者は、大学院に2年以上在学し、第4条に規定する方法で所定の単位を修得した者又は修得見込みの者とする。ただし、第6条の特例の適用が決定された院生については1年以上在学すれば足りるものとする。

(学位論文の審査及び最終試験)

第13条 学位論文の審査及び修士課程の最終試験については、福岡県立大学学位規則の定めるところによる。

2 最終試験の評価は、合格又は不合格とする。

(修了延期)

第14条 修了の延期は、各研究科委員会の議を経て、学長が決定するものとする。

(修了時期)

第15条 前条による修了延期決定後の修了時期は、原則として次のとおりとする。

- (1) 授業科目の単位不足によるときは、授業科目の修了必要単位数を満たすに至る学期の末日とする。ただし、休学期間を除いて、在学期間は4年を超えることはできない。
- (2) 修士論文の未提出又は不合格によるときは、再提出をした上で単位の認定を受け、合格したときは当該学期の末日とする。
- (3) 前二項が重複するときは、修士論文の審査及び修士課程の最終試験に合格し、修了必要単位数を満たすに至る学期の末日とする。

(委任)

第16条 この規則に定めるもののほか、大学院の教育課程及び院生の履修等に関し、必要な事項は、各研究科委員会の議を経て研究科長が定める。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(別表(第3条)略))

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日(以下「施行日」という。)前に人間社会学研究科に在学していた者が、施行日後に在学しなくなるまでの間、旧規則の第3条、第4条の規定は、なおその効力を有する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。ただし、別表 D 看護学専攻の老年看護専門看護師コース及び助産学領域の開設に伴う科目の新設、食育学に関する科目の廃止は平成 27 年 4 月 1 日から施行し、同年度の入学生から適用する。平成 26 年度以前の入学生については、なお、従前の例によるものとする。

附 則

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 第 6 条及び第 7 条第 1 項を除く改正後の規則は、平成 28 年度入学者から適用し、平成 27 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

別 表 (第3条)

人間社会学研究科

専攻	科目区分	授業科目	単位数又は時間数				
			年次	必修	選択	自由	
社会福祉専攻	コア科目	特別研究	1～2	4			
		フィールドワーク	1		2		
		社会福祉研究法	1	2			
		量的研究法	1・2		1		
		質的研究法	1・2		1		
	社会福祉分野	社会福祉研究	1・2	2			
		社会福祉演習	1・2		2		
		ソーシャルワーク研究	1・2	2			
		ソーシャルワーク演習	1・2		2		
		高齢者福祉研究	1・2		2		
		高齢者福祉演習	1・2		2		
		障害者福祉研究	1・2		2		
		障害者福祉演習	1・2		2		
		地域福祉研究	1・2		2		
		地域福祉演習	1・2		2		
		子ども家庭福祉研究	1・2		2		
		子ども家庭福祉演習	1・2		2		
		精神保健福祉研究	1・2		2		
		精神保健福祉演習	1・2		2		
		福祉制度比較研究	1・2		2		
社会保障制度研究	1・2		2				
社会政策研究	1・2		2				
社会政策演習	1・2		2				
地域社会分野	地域問題研究	1・2		2			
	地域問題演習	1・2		2			
	公共政策研究	1・2		2			
	地域文化研究	1・2		2			
	地域文化演習	1・2		2			
	地域社会研究	1・2		2			
	地域社会演習	1・2		2			
		計		10	50		
心理臨床専攻	必修科目	臨床心理学特論	1・2	4			
		臨床心理面接特論	1・2	4			
		臨床心理査定演習	1・2	4			
		臨床心理基礎実習	1	2			
		臨床心理実習 (学内)	2	1			
		臨床心理実習 (施設)	2	1			
	A群	臨床心理学研究法特論	1・2		2		
		心理学研究法特論	1・2		2		
		B群	発達心理学特論	1・2		2	
			認知心理学特論	1・2		2	
		C群	社会心理学特論	1・2		2	
人間関係特論	1・2			2			
D群	神経生理学特論	1・2		2			
	老年心理学特論	1・2		2			
E群	心理療法特論	1・2		2			
	投影法特論	1・2		2			
	学校臨床心理学特論	1・2		2			
		特別研究	1～2	4			
		計		20	22		

看護学研究科

科目区分	授業科目の名称	単位数又は時間数				
		年次	必修	選択	自由	
専門 必修 科目	看護理論	1	2			
	看護倫理	1	2			
	看護研究法	1	2			
	計		6			
共通 選択 科目	コンサルテーション論	1		2		
	看護教育学	1		2		
	英語文献講読特論	1		2		
	看護政策論	1		2		
	Advanced 生理学・病態生理学	1		2		
	Advanced フィジカルアセスメント	1		2		
	Advanced 臨床薬理学	1		2		
	看護管理学	1		2		
	臨床心理学特論	1		2		
	家族社会学特論	1		2		
	ヘルスプロモーション科学	1		2		
	哲学的人間学	1		2		
	データ解析特論	1		2		
	データ解析演習	1		2		
ウイメンズヘルス特論	1		1			
ウイメンズヘルス演習	1		1			
	計			30		
看護 学	基盤看護学領域	看護教育学特論	1		2	
		看護教育学演習	1		2	
		基礎看護学特論	1		2	
		基礎看護学演習	1		2	
		看護心理学特論	1		2	
		看護心理学演習	1		2	
		実験看護学特論	1		2	
		実験看護学演習	1		2	
		基盤看護学特別研究	1～2		8	
			小計			24
専 攻	ヘルスプロモーション看護学領域	思春期ヘルスプロモーション特論	1		2	
		思春期ヘルスプロモーション演習	1		2	
		地域看護学特論	1		2	
		地域看護学演習	1		2	
		在宅看護学特論	1		2	
		在宅看護学演習	1		2	
		ヘルスプロモーション看護学特別研究	1～2		8	
			小計			20
専 攻	臨床看護学領域	小児看護学特論	1		2	
		小児看護学演習	1		2	
		代替・補完看護学特論	1		2	
		代替・補完看護学演習	1		2	
		老年看護学特論	1		2	
		老年看護学演習	1		2	
		高齢者健康生活アセスメント論	1		2	
		老年病診断治療学	1		1	
		老年病診断治療学演習	1		1	
		高齢者看護方法論	1		2	
		高齢者地域・家族看護方法論	1		1	
		高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論	1		2	
		終末期高齢者看護論	1		2	
		認知症高齢者看護論	1～2		2	
		終末期老年看護実習Ⅰ	1		2	
		終末期老年看護実習Ⅱ	1		3	
認知症老年看護実習Ⅰ	1～2		2			
認知症老年看護実習Ⅱ	1～2		3			

X

看護学分野	臨床看護学領域	成人看護学特論	1		2		
		成人看護学演習	1		2		
		がん病態学	1		2		
		がん看護学特論Ⅰ	1		2		
		がん看護学特論Ⅱ	1		2		
		精神看護学特論 (26単位がん看護専門看護師コース)	1		2		
		がん看護学演習Ⅰ	1		2		
		がん看護学演習Ⅱ	1		2		
		がん看護学実習Ⅰ	2		4		
		がん看護学実習Ⅱ	2		2		
		精神看護学特論 (38単位精神看護専門看護師コース)	1		2		
		精神看護学演習	1		2		
		精神看護関連法規・制度・政策論	1		2		
		精神看護論	1		2		
		精神看護アセスメント論	1		2		
		精神看護セラピーⅠ	1		2		
		精神看護セラピーⅡ	1		2		
		リエゾン精神看護論	1		2		
		精神障がい者地域移行・地域定着看護論	1		2		
		精神看護専門看護師直接ケア実習	1		2		
		精神看護専門看護師役割実習	1		2		
		精神科診断治療実習	2		2		
		Advanced精神看護専門看護師直接ケア実習	2		2		
		Advanced精神看護専門看護師役割実習	2		2		
		臨床看護学特別研究	1～2		8		
		課題研究	1～2		4		
小計				97			
専門科目	助産学領域	基礎助産学特論	1		2		
		基礎助産学演習	1		2		
		助産学特論	1		2		
		助産学演習	1		2		
		ホリスティック助産学特論	1		1		
		ホリスティック助産学演習	1		2		
		助産実践学Ⅰ (妊娠期)	1		2		
		助産実践学Ⅱ (分娩期)	1		4		
		助産実践学Ⅲ (産褥・新生児期)	1		2		
		助産実践学Ⅳ (ハイリスクケア)	1		2		
		マネジメント助産学特論	2		2		
		コミュニティ助産学特論	1		1		
		コミュニティ助産学演習	1		2		
		助産学実習Ⅰ (外来ケア実習)	1		1		
		助産学実習Ⅱ (周産期ケア実習)	1		8		
		助産学実習Ⅲ (助産所実習・継続ケア実習)	2		2		
		助産学実習Ⅳ (ハイリスクケア実習)	2		1		
		助産学実習Ⅴ (マザークラス実習)	2		2		
		助産実践アドバンス特論	1		1		
		助産実践アドバンス実習	2		4		
		助産学課題研究	1～2		4		
		助産学特別研究	1～2		8		
		小計				57	
		計				198	
		合計			6	228	

福岡県立大学大学院人間社会学研究科心理臨床専攻における入学前の既修得単位等の認定基準

(総則)

第1条 福岡県立大学大学院学則（以下「学則」という。）第11条の2に規定する入学前の既修得単位等の認定は、この基準に定めるところにより行う。

(認定の手続き)

第2条 認定手続きは次のとおりとする。

- 1 既修得単位等の認定は、入学年度の初めに1回限り行う。
- 2 認定を受けようとする者は、所定の期日までに次の書類を添えて学務部に申し出るものとする。
 - (1) 既修得単位等認定願（様式1）
 - (2) 単位を修得した大学院の成績証明書
 - (3) 単位を修得した大学院の授業科目概要（授業の内容・計画を説明したもの）
- 3 原則として年度初めの履修登録終了日までに、次の手続きを行う。
 - (1) 認定に必要な書類を大学院学務部会で検討し、原案を作成する。
 - (2) 人間社会学研究科委員会で審議し、決定する。
- 4 認定結果は学務部を通じて申請した学生に伝え、必要に応じて履修届の修正を行わせる。

(認定単位の上限)

第3条 既修得単位の認定は、6単位を上限とする。

(認定の対象科目及び方法)

第4条 認定の対象科目及び方法は、福岡県立大学大学院履修規則第3条別表の区分により、次のとおりとする。

- 1 必修科目及び選択科目E群に関しては認定しない。
- 2 選択科目A群～D群 6単位以内を本研究科開設科目で認定する。
- 3 他専攻の科目に関しては認定しない。

(評価の方法)

第5条 既修得単位の認定は、原則として、本研究科開設科目の単位数で行う。

- 2 本基準により認定された既修得単位等の成績は、本学の成績評価を用いず「認定」とする。

(改廃)

第6条 この基準の改廃は、人間社会学研究科委員会が行う。

附 則

この基準は2009（平成21年）4月1日より施行する。

X

福岡県立大学大学院看護学研究科における入学前の既修得単位等の認定基準

平成 21 年 4 月 1 日

(総則)

第 1 条 福岡県立大学大学院学則（以下「学則」という。）第 11 条の 2 に規定する入学前の既修得単位等の認定は、この基準に定めるところにより行う。

(認定の手続き)

第 2 条 認定手続きは次のとおりとする。

- 1 既修得単位等の認定は、入学年度の初めに 1 回限り行う。
- 2 認定を受けようとする者は、所定の期日までに次の書類を添えて学務部に申し出るものとする。
 - (1) 既修得単位等認定願（様式 1）
 - (2) 単位を修得した大学院の成績証明書
 - (3) 単位を修得した大学院の授業科目概要（授業の内容・計画を説明したもの）
- 3 原則として年度初めの履修登録終了日までに、次の手続きを行う。
 - (1) 認定に必要な書類を大学院学務部会で検討し、原案を作成する。
 - (2) 看護学研究科委員会で審議し、決定する。
- 4 認定結果は学務部を通じて申請した学生に伝え、必要に応じて履修届の修正を行わせる。

(認定単位の上限)

第 3 条 既修得単位の認定は、10 単位を上限とする。

(認定の対象科目及び方法)

第 4 条 認定の対象科目及び方法は、学則第 6 条に規定する開設授業科目の区分（別表 D 看護学専攻）により、次のとおりとする。

- 1 専門必修科目 6 単位以内を本研究科開設科目で認定する。
- 2 共通選択科目 6 単位以内を本研究科開設科目で認定する。
- 3 看護学分野専門科目 4 単位以内を本研究科開設科目で認定する。
- 4 他専攻の科目に関しては認定しない。

(評価の方法)

第 5 条 既修得単位の認定は、原則として、本研究科開設科目の単位数で行う。

2 本基準により認定された既修得単位等の成績は、本学の成績評価を用いず「認定」とする。

(改廃)

第 6 条 この基準の改廃は、看護学研究科委員会が行う。

附 則

この基準は、2009（平成 21）年 4 月 1 日より施行する。

福岡県立大学大学院科目等履修生規則

法人規則第 74 号

(目的)

第 1 条 この規則は、福岡県立大学大学院学則（以下「学則」という。）第 23 条の規定に基づき、科目等履修生に関する必要な事項を定めるものとする。

(資格)

第 2 条 科目等履修生の資格は、希望する科目についてその講義を理解することができる学力を有すると研究科委員会が認めたものとする。

(出願)

第 3 条 志願者は、次の書類を提出しなければならない。

- (1) 科目等履修願書
- (2) 履歴書
- (3) 前条の資格を証する書類
- (4) 健康診断書

2 ただし、研究生等としてすでに在籍している学生については、前項(2)、(3)、(4)を省略することができる。

(承諾書)

第 4 条 履修を志願する者で、現に官公庁、会社その他に勤務する者は、その勤務先の長の承諾書を添付しなければならない。

(科目の制限)

第 5 条 履修することができる学科目は、各学期で 5 科目以内、年間 10 科目以内とする。ただし、科目によっては、履修できない場合がある。

(時期)

第 6 条 履修の許可は、学年又は学期の始めとする。

(許可)

第 7 条 科目等履修生を希望する者には、その学科目の属する研究科委員会の議を経て、学長が履修を許可する。

(履修の中止)

第 8 条 疾病その他の理由により、科目等履修生として不相当と認めたときは、履修を中止させることがある。

(授業料の納付)

第 9 条 科目等履修生は授業料として、1 単位につき別に定める金額を各学期の始めから 10 日以内に納付しなければならない。

(学生証の交付)

第 10 条 科目等履修生には学生証を交付する。

2 科目等履修生は、教室、研究室又は図書館等に入入りする場合は、常に学生証を携帯しなければならない。

(証明書の発行)

第 11 条 科目の単位修得の認定は、学則第 8 条に準じて行い、修得した者には単位修得証明書を与える。

(改廃)

第 12 条 この規則の改廃は、理事長が行う。

附 則

この規則は、2007（平成 19）年 4 月 1 日から施行する。

福岡県立大学大学院研究生規則

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡県立大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第23条第2項の規定に基づき、大学院の研究生に関し必要な事項を定めるものとする。

(研究生の資格)

第2条 大学院に研究生として入学することのできる者は、次の一に該当する者とする。

- (1) 修士の学位を有する者
- (2) 日本国外において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 本学と交流協定を締結している日本国外の大学の学長等が推薦した者
- (4) その他研究科において修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(出願手続)

第3条 研究生を志願する者は、次の各号に掲げる書類を、許可を得ようとする学期の授業開始の1ヶ月前までに、研究科長を経て学長に願出しなければならない。ただし、本学大学院の修士課程を修了して引き続き研究生を志願する者は、第1号の書類で足りるものとする。

- (1) 研究生入学願（様式第1号）
- (2) 履歴書
- (3) 前条の資格を証する書類（最終学校の卒業証明書及び成績証明書）
- (4) 健康診断書

2 官公庁、外国公館又はその他の団体が本学大学院に研究生を委託しようとするときは、前項の書類のほかに、その所属長の承諾書を添付しなければならない。

(選考及び許可)

第4条 研究生の選考は、志願する専攻において、前条第1項に規定する書類による審査及び面接により行う。

ただし、以下の者は、面接を免除し、研究計画書及び本学が指定する添付書類による選考に代えることができる。

- (1) 本学と交流協定を締結している日本国外の大学の学長等が推薦した者
- (2) 公的機関・団体等が推薦した者
- (3) その他学長が特に認めた者

2 研究生としての入学許可は、当該研究科委員会の議を経て学長が行う。

3 前項の許可は、大学院学生の修学を妨げない場合に限り行うものとする。

(研究時期)

第5条 研究生として研究を許可する時期は、学年又は学期の始めとする。ただし、研究について研究科委員会が特別の事由があると認めた場合は、この限りではない。

(研究期間)

第6条 研究生の研究期間は、1年以内とする。ただし、研究科委員会において特別の事由があると認められた場合は、1年毎にその期間を更新することができる。

2 前項の期間の延長の許可を受けようとする者は、研究期間延長願（様式第2号）を、期間満了の1ヶ月前までに学長に提出しなければならない。

(指導教員)

第7条 研究科長は、研究生の研究課題を考慮し、その指導教員を指定するものとする。

(授業科目の受講)

第8条 研究生は、指導教員の指示する授業科目を受講することができる。

(研究報告書の提出)

第9条 研究生は、研究期間終了の際に、指導教員を通じて研究科長に研究報告書を提出しなければならない。

(研究料等)

第10条 研究生は、各学期の授業開始から10日以内に、研究料を納付しなければならない。

2 研究に関する費用は、必要に応じ研究生が負担するものとする。

(研究生の取り消し)

第11条 研究生として不適当と認められる者については、学長は研究科委員会の議を経てその許可を取り消すことがある。

(学則の準用)

第12条 研究生に対しては、この規則に定めるもののほか、大学院学則を準用する。

(委任)

第13条 この規則に定めるもののほか、大学院の研究生について必要な事項は、研究科委員会の議を経て学長が定める。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

この規則は、平成19年12月7日から施行する。

様式第1号 (第3条)

大学院研究生入学願	
年 月 日	
福岡県立大学長 殿	
願出人住所 氏 名	
(印)	
下記のとおり、研究のため大学院に研究生として入学を希望しますので、ご許可下さるよう関係書類を添えてお願いします。	
記	
1	研究 題 目：
2	研究指導教員：
3	研究 期 間：自 年 月 日 至 年 月 日
※添付書類	1 履歴書 2 最終学校卒業証明書及び成績証明書 3 健康診断書

様式第2号 (第6条)

大学院研究生研究期間延長願	
年 月 日	
福岡県立大学長 殿	
願出人住所 氏 名	
(印)	
下記のとおり、研究のため大学院に研究生としての延長を希望しますので、ご許可下さるようお願いいたします。	
記	
1	許可された研究期間： 自 年 月 日 至 年 月 日
2	延長希望研究期間： 至 年 月 日まで
3	延長希望の理由：

福岡県立大学大学院聴講生規則

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡県立大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第23条第2項の規定に基づき、大学院の聴講生に関し必要な事項を定めるものとする。

(資格)

第2条 大学院に聴講生として入学することのできる者は、大学院学則第17条に規定する資格を有する者とする。

(出願手続)

第3条 聴講生を志願する者は、次の各号に掲げる書類を、許可を得ようとする学期の授業開始の1ヶ月前までに、研究科長を経て学長に願い出なければならない。ただし、本学学部を卒業して引き続き聴講生を志願する者は、第1号の書類で足りるものとする。

- (1) 聴講願（別記様式）
 - (2) 履歴書
 - (3) 前条の資格を証する書類（最終学校の卒業証明書及び成績証明書）
 - (4) 健康診断書
- 2 聴講生を志願する者で現に官公庁、会社その他に勤務する者は、前項の書類のほかに、その勤務先の所属長の承諾書を添付しなければならない。

(聴講生の許可)

第4条 聴講生は、研究科委員会において選考の上、学長が許可する。
2 前項の許可は、大学院学生の修学を妨げない場合に限り行うものとする。

(聴講科目)

第5条 聴講することができる科目は、開講科目のうち12単位以内とする。

(聴講期間)

第6条 聴講生の聴講期間は、許可された聴講科目の開講期間とする。

(聴講料)

第7条 聴講生は、各学期の授業開始から10日以内に聴講料を納付しなければならない。

(聴講許可の取り消し)

第8条 聴講生として不適当と認められる者については、学長は研究科委員会の議を経てその許可を取り消すことがある。

(学則の準用)

第9条 聴講生に対しては、この規則に定めるもののほか、大学院学則を準用する。

(委任)

第10条 この規則に定めるもののほか、大学院の聴講生について必要な事項は、研究科委員会の議を経て学長が定める。

附 則

この規則は、2006（平成18）年4月1日から施行する。

別記様式（略）

※合計12単位以内（大学院聴講生規則第5条）

福岡県立大学大学院留学規則

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡県立大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第12条第2項の規定に基づき、大学院学生（以下「院生」という。）の留学に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規則において留学とは、各号の一に該当するものをいう。

- (1) 本学と学術・教育交流協定を締結している外国の大学において、学長の許可を得て、授業科目を履修することを目的としたもの。
 - (2) 上記協定校以外の外国の大学院において、本学の許可を得て、学修することを目的としたもの。
- 2 前項第1号により留学する院生を交換留学生、第2号により留学する院生を認定留学生という。

(期間及び扱い)

第3条 留学期間は、原則として、1年以内とする。

2 留学中の院生は、以下のとおりとする。

- (1) 第2条第1項第1号については、休学扱いとする。
- (2) 第2条第1項第2号については、休学扱いとしない。

(在学期間への算入)

第4条 留学期間における、大学院学則第2条第3項に規定する在学期間の取扱いについては以下のとおりとする。

- (1) 第2条第1項第1号については、在学期間に算入しない。
- (2) 第2条第1項第2号については、在学期間に算入する。

(留学対象機関)

第5条 留学の対象とする教育機関（大学及び大学院）は、以下のとおりとする。

- (1) 交換留学の対象は、協定に基づく大学（学部）とする。
- (2) 認定留学の対象は、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有する大学院又はこれに相当する教育研究機関とする。

(留学の申請)

第6条 認定留学の許可を受けようとする者は、留学しようとする2ヶ月前までに、次に掲げる書類を学長に提出しなければならない。

- (1) 留学許可申請書（様式第1号）
- (2) 留学先大学院の入学許可証又はこれに代わるもの
- (3) 留学先大学院の概要及び授業内容等を記した資料

2 交換留学を希望する者は、募集期間内に応募し、以下の書類を提出しなければならない。

- (1) 留学願
- (2) 指導教員の推薦書

(留学の許可)

第7条 留学（交換留学は除く）の許可は、研究科委員会の議を経て学長が行う。

2 交換留学の許可は、国際交流推進部会で検討（人選等）し、研究科委員会の議を経て学長が行う。

(留学先大学院との協議の省略)

第8条 大学院学則第12条第1項に規定する留学先大学院との協議を行うことが困難な場合は、本学から留学先大学院への事後の通知をもってこれに替えることができる。

(単位の認定)

第9条 留学先大学院で履修した授業科目の単位について、本学大学院において履修したものとして認定を受けようとする者は、留学期間終了後、原則として1ヶ月以内に、次に掲げる書類を学長に提出しなければならない。

- (1) 修得単位認定申請書(様式第2号)
- (2) 留学先大学院の発行する成績証明書又は単位修得証明書
- (3) 留学先大学院の授業内容等の概要又はこれに代わるもの

2 修得単位の認定は、10位を限度として、研究科委員会の議を経て学長が行う。

(報告の義務)

第10条 第2条第1号による交換留学生は、別に定める派遣留学報告書を提出しなければならない。

(委任)

第11条 この規則に定めるもののほか、院生の留学について必要な事項は、国際学術交流部会で検討し、研究科委員会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 福岡県立大学大学院留学規程は、廃止する。

附 則

この規則は、平成21年2月1日から施行する。

様式第1号及び様式第2号(略)

福岡県立大学学位規則

法人規則第 26 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 68 条の 2、及び学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 13 条の規定に基づき、福岡県立大学（以下「本学」という。）において授与する学位の種類及び学位の授与に関し必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第 2 条 本学において授与する学位は学士及び修士とし、その種類は次のとおりとする。

学部又は研究科	学科または専攻		学位の種類
人間社会学部	公共社会学科		学士（社会学）
	社会福祉学科		学士（社会福祉学）
	人間形成学科		学士（教育学）
看護学部	看護学科		学士（看護学）
人間社会学研究科	社会福祉専攻		修士（社会福祉）
	心理臨床専攻		修士（心理臨床）
看護学研究科	看護学専攻	コース名 研究コース 専門看護師コース 助産実践形成コース 助産実践アドバンスコース	修士（看護学）

(学位授与の要件)

第 3 条 学士の学位は、本学に 4 年以上在学し、卒業に必要な所定の単位を修得した者に授与する。

2 修士の学位は、本学大学院修士課程に 2 年以上在学し、必要な研究指導を受けて所定の単位を修得し、かつ修士の学位論文の審査及び修士課程の最終試験（以下「最終試験」という。）に合格した者に授与する。

3 前項の在学期間に関しては、特に優れた業績をあげた者については 1 年以上在学すれば足りるものとする。ただし、看護学研究科専門看護師コースの学生は修了までに 2 年以上の在学期間を要する。

(修士の学位論文)

第 4 条 修士の学位論文は、指定された期日までに大学院研究科長（以下「研究科長」という。）に提出しなければならない。

2 前項の学位論文の提出に関し必要な事項は、大学院研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）

の議を経て、研究科長が定める。

3 受理した学位論文は、提出者に返還しない。

(最終試験)

第5条 最終試験は、第7条に定める審査委員会が、学位論文を提出した者について、当該学位論文を中心として、これに関連する研究領域について、口述試験により行う。

(研究科委員会への付託)

第6条 研究科長は、第4条の学位論文を受理したときは、研究科委員会にその審査を付託するものとする。

(審査委員会)

第7条 研究科委員会は、前条の付託を受けたときは、審査委員会を設け、学位論文の審査及び最終試験に関する事項を委嘱するものとする。

2 審査委員会は、研究科委員会構成員の中から、学位論文提出者の研究指導教員を含め3名以上の委員で組織する。

3 審査委員会は、互選により1名の主査を置く。

(審査結果等の報告)

第8条 審査委員会は、学位論文の審査及び最終試験を終了したときは、その結果を「学位論文及び最終試験結果報告書」(様式第1号)によって研究科委員会に報告しなければならない。

(学位授与の決定)

第9条 教授会は、本学学則の定めるところにより、学部の課程の修了及び学士の学位授与について議決する。

2 研究科委員会は、前条の報告に基づいて、修士課程の修了及び修士の学位授与の可否について議決する。

3 前項の研究科委員会の議決は、出席者の3分の2以上をもって決する。

(報告)

第10条 学部長及び研究科長は、前条の規定により、課程の修了及び学位授与の可否を決定したときは、その結果を文書で学長に報告しなければならない。

(学位の授与等)

第11条 学長は、第9条第1項の議決に基づき、所定の学位記(様式第2号)を交付して学士の学位を授与し、授与できない者にはその旨を本人に通知する。

2 学長は、前条の報告に基づき、所定の学位記(様式第3号)を交付して修士の学位を授与し、授与できない者にはその旨を本人に通知する。

(学位の名称の使用)

第12条 学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、学位の下に本学名を付記しなければならない。

(学位授与の取消)

第13条 学長において学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、教授会又は研究科委員会の議を経て、当該学位の授与を取り消し、学位記を返還させることができる。

(委任)

第14条 この規則に定めるもののほか、学位に関し必要な事項は、教授会又は研究科委員会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行前に本学を卒業し、本学の学士又は修士の称号を有する者は、この規則による学士又は修士の学位を授与されたものとみなす。

附 則

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の日（以下「施行日」という。）前に人間社会学研究科に在学していた者が、施行日後に在学しなくなるまでの間、旧規則の第2条の規定は、なおその効力を有する。
- 3 この規則の施行前に本学を卒業し、本学の学士又は修士の称号を有する者は、この規則による学士又は修士の学位を授与されたものとみなす。

附 則

- 1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 2009（平成21）年度の入学生から適用し、2008（平成20）年度以前の入学生については、なお従前の例によるものとする。
- 3 この規則の施行前に本学を卒業し、本学の学士又は修士の称号を有する者は、この規則による学士又は修士の学位を授与されたものとみなす。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行し、同年度の入学生から適用する。
ただし、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例によるものとする。

附 則

- 1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行前に本学を卒業し、本学の学士又は修士の称号を有する者は、この規則による学士又は修士の学位を授与されたものとみなす。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行し、同年度の入学生から適用する。
ただし、平成26年度以前の入学生については、なお従前の例によるものとする。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

様式第1号（第8条関係）用紙A4判縦

学位論文審査及び修士課程最終試験結果報告書

年 月 日

学研究科委員会 殿

学位論文審査委員会
主査 印
委員 印
委員 印

学位論文審査及び修士課程最終試験の結果を下記のとおり報告します。

記

専攻	学籍番号	氏名
審査論文題目		
学位論文審査結果	A B C D 不可	
最終試験結果	合格 不合格	
学位論文審査及び最終試験結果の要旨		
.....		
.....		
.....		
.....		
.....		

様式第2号（第11条第1項）

福岡県立大学長 年 月 日 印	（ ）の学位を授与する。	本学 学部 学科の所定の課程 を修得し本学を卒業したことを認め学士	卒業証書・学位記 氏名 年 月 日生	第 号
---	--------------	--------------------------------------	----------------------------------	-----



様式第3号（第11条第2項）

修第 号					
学位記					
	氏名		年月日生		
	本学大学院	学研究科	専攻の修士		
	課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したことを認め修士（ ）の学位を授与する。				
	年	月	日		
	福岡県立大学長				
					印

福岡県立大学大学院長期履修規則

法人規則第 110 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、福岡県立大学大学院学則第 7 条の 2 の規定に基づき、長期にわたる教育課程の履修（以下「長期履修」という。）に関して必要な事項を定めるものとする。

(申請手続)

第 2 条 長期履修を希望する者は、別に定める期日までに、当該課程の研究科長（以下「研究科長」という。）に対し、長期履修許可願（様式第 1 号）及び研究科長が必要と認める書類を提出しなければならない。

(長期履修の許可)

第 3 条 研究科長は、前条の規定による長期履修許可願の提出があったときは、研究科委員会の議を経て、長期履修を許可することができる。

2 長期履修期間の延長は認めないものとする。

(長期履修期間の短縮)

第 4 条 前条の許可を受けた者が、長期履修期間の短縮を希望する時は、別に定める期日までに、研究科長に対し、長期履修期間短縮願（様式第 2 号）を提出しなければならない。

2 研究科長は、前項の規定による長期履修期間短縮願の提出があったときは、研究科委員会の議を経て、長期履修期間の短縮を許可することができる。

(委任)

第 5 条 大学院学則及びこの規則に定めるもののほか、長期履修に関し必要な事項は研究科長が定める。

附 則

この規則は、平成 22 年 10 月 1 日から施行し、平成 23 年度入学者から適用する。

附 則

この規則は、平成 28 年 2 月 24 日から施行する。

2 この規則の施行日において現に本学に在籍した長期履修許可願は、改正後の様式第 1 号に基づき提出されたものとみなす。

X

長期履修許可願

平成 年 月 日

福岡県立大学大学院

研究科長 様

研究科 専攻

学籍番号：

氏名： 印

下記のとおり長期履修を許可くださるようお願いいたします。

なお、長期履修制度による就学については、下記の確認事項4点全てについて、了解しました。

記

- 1 入学年月日 : 平成 年 月 日
- 2 修了予定年月日 : 平成 年 月 日
- 3 長期履修期間 : 3 年
- 4 長期履修を希望する理由 :

確認事項（□に確認済みのチェックを入れてください。）

- 長期履修制度は、2年の標準修業年限である大学院修士課程を3年で就学する制度であることを理解しています。
- 就学の途中で、2年間（若しくはそれ以下）で修了できることとなった場合は、標準修業年限に相当する授業料を全額納付します。
- 就学期間が4年以上となった場合は、4年目からは長期履修制度によらない授業料を納付します。
- 大学院の審査の結果、許可されない場合があることを理解しています。

様式第2号（第4条関係）

長期履修期間短縮願

平成 年 月 日

福岡県立大学大学院

研究科長 様

研究科 専攻
学籍番号：

氏名： 印

指導教員氏名： 印

下記のとおり長期履修期間の短縮を許可くださるようお願いいたします。

記

- 1 入学年月日 : 平成 年 月 日
- 2 修了予定年月日 : 平成 年 月 日
- 3 短縮後修了予定年月日 : 平成 年 月 日
- 4 長期履修期間短縮理由 :

X

福岡県立大学大学院長期履修制度要綱

平成 22年10月 1日
改正 平成 22年12月 1日
改正 平成 23年 7月 1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、福岡県立大学大学院長期履修規則（以下「長期履修規則」という。）第5条の規定に基づき、長期履修制度に関して必要な事項を定めるものとする。

(対象)

第2条 長期履修を申請できる者は、大学院修士課程の入学許可を得た者で、次のいずれかに該当する者とする。

- (1) 職業を有している者
- (2) 育児、親族の介護などの特別な事情のある者
- (3) その他やむを得ない事情を有し、修業年限で修了することが困難な者

(修業年限)

第3条 長期履修する学生の修業年限は3年とする。

(申請)

第4条 長期履修を希望する者は、入学手続後直ちに、人間社会学研究科では研究科長と、看護学研究科では担当指導教員と協議の上、長期履修規則に規定する長期履修許可願に別紙1を、また、第2条第1号に該当する者は別紙1及び別紙2を添えて願出するものとする。

(長期履修期間の短縮)

第5条 入学時に長期履修を認められた学生は、1回に限り、長期履修期間を3年から2年に短縮することができる。

- 2 期間の短縮を希望する者は、修了予定前年度の2月1日から2月末日までに、担当指導教員と協議の上、長期履修規則に規定する長期履修期間短縮願に別紙3を添えて願出するものとする。

附 則

この要綱は、平成22年10月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年7月1日から施行する。

別紙2

在職証明書

氏 名	
生 年 月 日	
現 住 所	
就 職 年 月 日	

上記の者が在職していることを証明します。

平成 年 月 日

所在地

事業所名

代表者名

印

電話番号

変更理由及び履修計画

担当指導教員氏名	印

X

人間社会学研究科修士課程に係る学位論文提出及び審査等に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、福岡県立大学（以下「本学」という。）大学院学則第13条の規定に基づき、福岡県立大学大学院人間社会学研究科（以下「本研究科」という。）における学位論文（以下、修士論文と称する。）の審査に関し必要な事項を定める。

(研究題目の提出)

第2条 修士の学位に係わる研究を行おうとする者は、研究指導教員の承認を得て、研究題目を所定の書類に記入し、それを人間社会学研究科長（以下「研究科長」という。）に提出しなければならない。

2 前項に定める書類の提出期限は、掲示又は書面をもって通知する。

(中間報告会)

第3条 修士論文の審査を受けようとする者は、研究の進行状況に関して、修了を希望する当該年度の中間発表会において報告しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、在学期間が1年で修士課程を修了しようとする者は、当該年度に中間報告会を2回行い、研究の進行状況に関して報告しなければならない。

3 中間報告会の開催日程等については、掲示又は書面をもって通知する。

(論文の提出)

第4条 修士論文の審査を受けようとする者は、研究指導教員の承認を得て、次に掲げる書類を学務部教務入試班へ提出しなければならない。

- | | |
|---------------|--------------------|
| (1) 学位（修士）申請書 | 1部 |
| (2) 修士論文要旨 | 3部 |
| (3) 修士論文 | 3部（2部は審査終了後に返却する。） |

2 前項に定める書類の提出期限は、掲示又は書面をもって通知する。

3 いったん受理した修士論文は、返却しない。

4 審査のため必要があるときは、当該論文の関係資料等の提出を求めることがある。

(論文の様式・体裁)

第5条 修士論文の体裁は次のとおりとする。

- (1) 修士論文はA4判、縦長、横書きとし、用紙の片面に記入するものとする。
- (2) 修士論文の体裁は、各専攻の申し合わせ事項に基づくものとする。
- (3) 修士論文要旨は、3000字以上に要約の上、記入するものとする。
- (4) 審査に合格した修士論文は、所定の用紙を用いて製本後、2部を学務部教務入試班へ提出するものとする。

(口頭試験)

第6条 当該修士論文が一定の水準を超えているか否かを確認するために口頭試験を行う。

2 口頭試験を行う教員は、主査(研究指導教員)及び副査(2名)が担当する。

3 主査及び副査は口頭試験の後に所定の書式に当該審査論文の講評等を記し、修了予定の院生に配布する。

4 口頭試験の開催日時等については、掲示又は書面をもって通知する。

(論文発表会)

第7条 提出された修士論文は、当該当年度の修士論文発表会において報告するものとする。

2 修士論文発表会の開催日程等については、掲示又は書面をもって通知する。

(審査委員会)

第8条 提出された修士論文の審査及び最終試験は、人間社会学研究科委員会（以下「本研究科委員会」という。）の委任を受けた人間社会学修士学位論文審査委員会（以下「学位論文審査委員会」という。）においてこれを行う。

2 学位論文審査委員会は、本研究科委員会の構成員から選出された3名の委員をもって組織し、委員長は委員の互選によって選出する。但し、必要があるときは、本研究科の教員以外の教員を委員に選ぶことができる。

3 本研究科委員会は、論文の審査にあたって必要があるときは、他の大学院若しくは研究所等の教員等を学位論文審査委員会の委員として加えることができる。

(審査結果の報告)

第9条 学位論文審査委員会は、前条の規程に基づき審査を終了した時は、その結果を速やかに研究科長に文書で報告しなければならない。

2 研究科長は、前項の規定に基づき行われた学位論文審査委員会の報告を受け、これを研究科委員会に提案しなければならない。

(学位授与の決定)

第10条 本研究科委員会は前条の規定による研究科長からの報告に基づき修士（社会福祉又は心理臨床）の学位授与の可否につき、審議し決定する。

(修士論文の保管)

第11条 修士論文の保管について別に定める「保存に関する申し合わせ」によることとする。

附 則

1 この内規は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

1 この内規は、平成28年4月1日から施行する。

看護学研究科修士論文の保存に関する申し合わせ

平成 26 年 4 月 1 日

福岡県立大学大学院看護学研究科委員会

(目的)

- 1 本申し合わせは、福岡県立大学大学院看護学研究科（以下、研究科）において、修士論文を適切に保存し、公的な閲覧に供することを目的とする。

(保存対象)

- 2 研究科の審査を通った修士論文とする。

(保存形態)

- 3 修士論文作成者によって製本された物とする。

(提出先)

- 4 修士論文作成者は修士課程修了後 3 ヶ月以内に、学務部教務入試班に修士論文 1 部を提出するものとする。

(保存先)

- 5 提出された修士論文 1 部は図書館が保管し、修士論文使用許諾の手続き終了後に図書館分館に配架とする。なお、修士論文許諾の手続きは各自で図書館本館窓口にて行う。

附 則

この申し合わせは、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

人間社会学研究科在学期間の特例の適用に関する申し合わせ

平成 18 年 3 月 8 日
福岡県立大学大学院人間社会学研究科委員会

1. [評価対象]

在学期間の特例は、修士論文、研究活動、授業の成績評価を総合的に評価し、適用の可否を判断する。

2. [申請期日]

在学期間の特例適用希望者は、9 月末日までに「特別研究」指導教員を通じて研究科長に申し出ること。

3. [中間発表]

在学期間の特例適用希望者は、10 月中に原則として専攻全教員の出席のもとで修士論文の中間発表を行うこと。

4. [提出書類等]

在学期間の特例の適用希望者は、通常の修士論文提出期限までに修士論文を提出する他、過去三年間の研究活動報告書を提出すること。

5. [修士論文審査]

提出された修士論文は、主査一名、副査二名で審査のうえ協議し、10 点満点で評価する。修士論文の評価は、9 点以上を在学期間の特例の適用を可として判断する条件とする。

6. [研究活動の評価]

研究科委員会に研究活動評価委員会を設置し、研究活動の評価を行う。

7. [研究科長による審査]

研究科長は、修士論文が 9 点以上であることを条件に、研究活動評価の他、授業の成績を総合的に審査し、適用に関する原案を作成する。

8. [研究科委員会による審査]

研究科長から提出された原案に基づき、研究科委員会で審議のうえ、在学期間の特例適用の可否を判断する。

9. [その他]

なお、心理臨床分野は日本臨床心理士資格認定協会の認定を受ける条件として、二年間にわたる「実習」を必修科目としているため、在学期間の特例適用は出来ない。

附 則

この申し合わせは平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

看護学研究科在学期間の特例の適用に関する申し合わせ

平成 21 年 3 月 4 日
福岡県立大学大学院看護学研究科委員会

(目的)

1. 本申し合わせは、福岡県立大学大学院学則第 13 条の規定に基づき、特に優れた業績を上げた者を、1 年以上の在学をもって修了させることの可否を判断することを目的とする。

(評価対象)

2. 在学期間の特例は、修士論文、研究活動、授業の成績評価を総合的に評価し、適用の可否を判断する。

(申請期日)

3. 在学期間の特例の適用希望者は、9 月末日までに「特別研究」指導教官を通じて研究科長に申し出ること。

(修士論文中間発表)

4. 在学期間の特例の適用希望者は、10 月中に専攻内の 2/3 以上の教員の出席のもとで修士論文の中間発表を行うこと。

(提出書類等)

5. 在学期間の特例の希望者は、通常の修士論文提出期限までに修士論文を提出するほか、過去 3 年間の研究活動報告書を提出すること。

(修士論文の審査)

6. 提出された修士論文は、主査一名、副査二名で協議の上審査し、100 点満点で評価する。修士論文の評価が 90 点以上を在学期間の特例の適用可能と判断する。

(研究活動評価委員会による研究活動の評価)

7. 研究科委員会に研究活動評価委員会を設置し、研究活動の評価を行う。

(研究科長による総合的評価)

8. 研究科長は、修士論文の評価が 90 点以上であることを条件に、研究活動評価、授業の成績を総合的に審査し、適用に関する原案を作成する。

(研究科委員会による最終評価)

9. 研究科長から提出された原案に基づき、研究科委員会で審議の上、在学期間の特例の適用の可否を出席者の過半数の合意をもって決定する。

(在学期間の適用除外)

10. 専門看護師教育課程に在籍する学生は、1 年次、2 年次共に実習の単位履修が必要なため、在学期間の適用から除外する。

附 則

この申し合わせは、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

看護学研究科在学期間の特例の適用に関する業務要領

平成 22 年 1 月 13 日
福岡県立大学大学院看護学研究科委員会

(目的)

本業務要領は、「看護学研究科在学期間の特例に関する申し合わせ」に基づき、在学期間の特例の適用に関する具体的な業務について定めるものである。

(研究活動評価委員会の設置)

第 1 条

看護学研究科長は、「看護学研究科在学期間の特例に関する申し合わせ」の第 6 項に基づき、「大学院看護学研究科在学期間の特例措置の適用審査申請書」(様式 7) が提出された場合は、学務部会の議を経て研究科委員会に「研究活動評価委員会」を設けなければならない。

(研究活動評価委員会の構成)

第 2 条

- 1 研究活動評価委員は、看護学研究科委員会で選出する。
- 2 研究活動評価委員会は、研究科委員会の委員 3 名(うち 1 名は教授職にある者)で構成される。ただし、在学期間の特例の適用希望者の指導教員、副指導教員、主査、副査は委員になることができない。
- 3 研究活動評価委員会の長は選出された委員のうち、教授職にある者が務める。

(研究活動評価委員会の業務)

第 3 条

- 1 研究活動評価委員会は在学期間の特例の適用審査申請者から提出された「大学院看護学研究科在学期間の特例の適用審査のための研究活動報告書(様式 8)、様式 8 に記載された主要論文の別刷又はコピーに基づき在学期間の特例の適用審査申請者の研究能力について評価を行う。
- 2 研究活動評価委員会は必要に応じて在学期間の特例の適用審査申請者の研究能力について主査および副査にヒアリングを行い、評価の参考にすることができる。
- 3 研究活動評価委員会は必要に応じて在学期間の特例の適用審査申請者にヒアリングを行い、評価の参考にすることができる。
- 4 研究活動評価委員長は、評価結果を看護学研究科長に書面をもって報告しなければならない。

(研究活動評価基準)

第 4 条 研究活動評価基準は次のとおりとする。

- 1 論文(共著を含む)が 2 編以上あり、そのうち 1 編は単著または筆頭著者であること。
- 2 論文の内容が看護学の発展に寄与すると考えられること。

(在学期間の特例適用の審査結果の通知)

第 5 条

看護学研究科長は「看護学研究科在学期間の特例の適用に関する申し合わせ」の第 9 項に定める研究科委員会の最終評価に基づき、在学期間の特例適用の審査結果を審査申請者及びその主査・副査に書面で通知しなければならない。

(附則)

1. 本運営要領は、平成 22 年 1 月 13 日より施行する。
2. 本運営要領の改廃は、学務部会の議を経て看護学研究科委員会において行う。

XI. 届出様式

様式1 (両科共通)

研究指導教員届

研究科長 _____ 様

年 月 日

専攻名: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

指導教員: _____ 印

下記のとおり、大学院における研究指導の承諾を得ましたので、お届けします。

記

指導教員

氏名 _____

副指導教員 (看護学研究科のみ)

氏名 _____

様式2 (両科共通)

修 士 論 文 題 目 届

研究科長 様

年 月 日

専 攻 名 : _____

学 籍 番 号 : _____

氏 名 : _____

指 導 教 員 : _____ 印

下記のとおり、大学院における修士論文の題目をお届けします。

記

(題目)

修士論文題目変更届

研究科長 様

年 月 日

専攻名: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

指導教員: _____ 印

下記のとおり、修士論文の題目変更の承諾を得ましたので、お届けします。

記

(題目)

(旧 題目)

様式4（看護学研究科用）

修士論文研究計画書審査申請書

看護学研究科長 _____ 様

_____ 年 _____ 月 _____ 日

専攻名： _____

学籍番号： _____

氏名： _____

必要書類を添えて、修士論文研究計画書の審査を申請します。

（必要書類）

研究計画書 3部

様式5 (両科共通)

学位(修士)申請書

研究科長 様

年 月 日

専攻名: _____

学籍番号: _____

氏名: _____

年 月 日生

必要書類を添えて、修士の学位を申請します。

記

(必要書類)

要旨 3,000 字を含む修士論文 3部

様式6（看護学研究科用）

平成 年 月 日

看護学研究科長 様

看護学研究科看護学専攻 領域 分野

学籍番号・氏名 印

主指導教員職位・氏名 印

副指導教員職位・氏名 印

在学期間の特例の適用希望届

上記の学生は、在学期間の特例の適用を希望していますので、本文書をもってお届けいたします。

看護学研究科長 _____ 様

審査申請者領域・分野

審査申請者学籍番号

審査申請者氏名 印

主査職位・氏名 印

副査職位・氏名 印

副査職位・氏名 印

大学院看護学研究科在学期間の特例措置の適用審査申請書

「看護学研究科在学期間の特例に関する申し合わせ」、「大学院看護学研究科在学期間の特例の適用に関する業務要領」に基づき、必要書類を添えて在学期間の特例の適用審査を申請いたします。

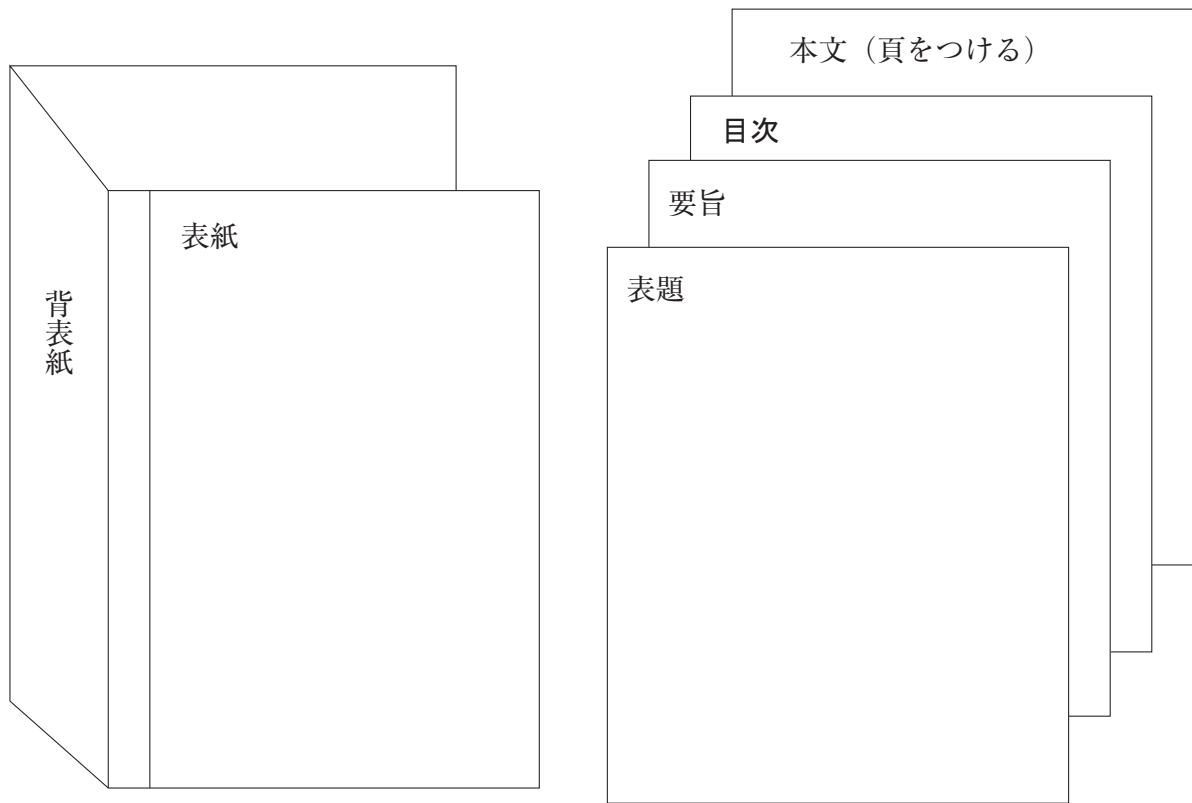
添付書類

1. 大学院看護学研究科在学期間の特例適用申請のための研究活動報告書 4部
2. 論文等の別刷又はコピー 各4部

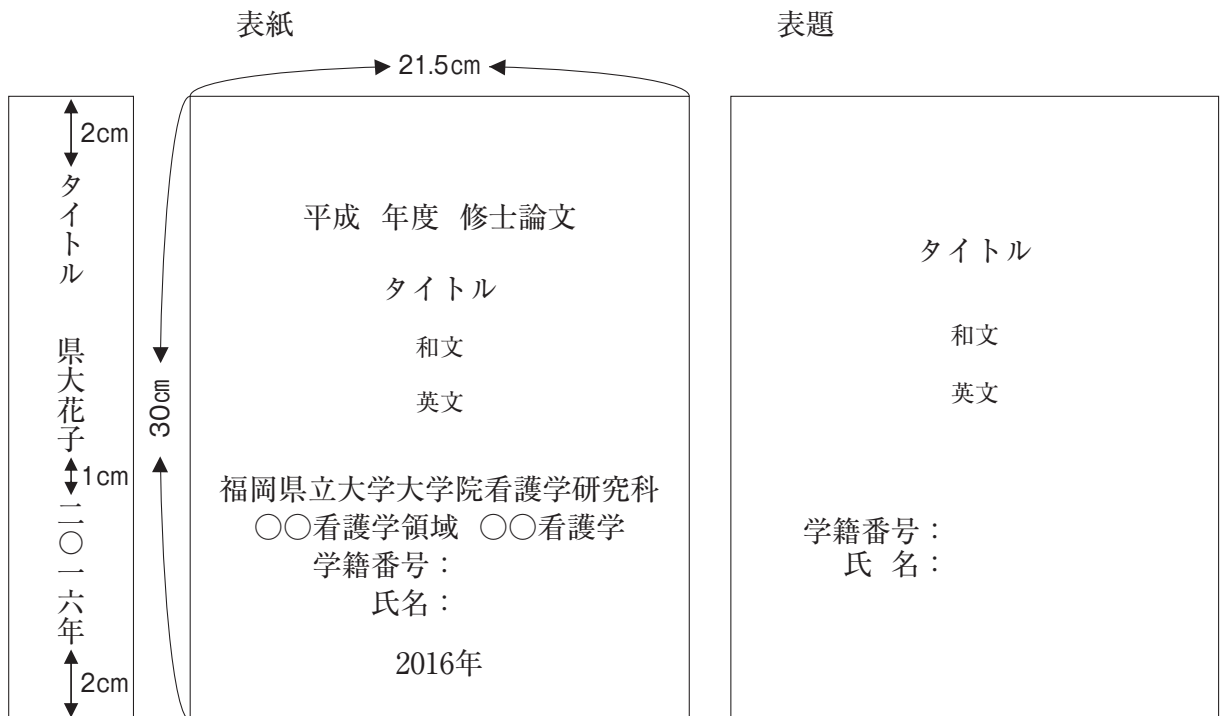
様式8 (看護学研究科用)

大学院看護学研究科在学期間の特例適用申請のための研究活動報告書			
審査申請者学籍番号 審査申請者氏名		メール アドレス	
領域・分野		修士論文テーマ	

研 究 業 績 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著 の別	発行又は 発表の年 月	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	主要な研究業績の概要 (200字程度)
(著書) 1 2 3				
(学術論文) 1 2 3				
(その他) 1 2 3				
提出日 年 月 日				
上記のとおり相違ありません。				
氏名 (自署)			印	



※研究科長提出分は、ハードカバーで製本されたものとする。



※原則として、本文の文字サイズ11ポイント（明朝体）、40文字×32行、ページ箇所は下中央とする。余白は、左右3.0cm、上3.5cm、下3.0cmとする。
 ※2015年修士生記入例

様式5－別紙 修士論文作成要領（看護学研究科用）

〈修士論文様式〉

- (1) 用紙サイズ A 4 判
- (2) 書き方
- ①たて置き横書き 40 字× 32 行
 - ②ポイント 11 ポイント
英文の場合は、ダブルスペース、左揃え
 - ③マージ 上 35mm・下 30mm・左 30mm・右 30mm
- (3) 論文形態 左綴じの片面印刷とし、指定の表紙をつける。

〈修士論文の構成〉

- (1) 構成概要
- 表題
 - 要約
Key words, 要旨の本文（3,000 字以内）
 - 目次
 - 本文目次
 - 表目次
 - 図目次
 - 本文
 - I 序論
 - II 文献の検討
 - III 研究目的
 - IV 研究方法
 - V 結果
 - VI 考察
 - VII 結論
 - 謝辞
 - 引用文献
 - 参考文献
 - 付録・資料

※英文の場合は、和文の構成に準じる。

(2) 頁と見出し

- ① 頁は、下中央につける。本文の最初の頁より 1 ページとし、参考文献の最後の頁を最終頁とする。
- ② 付録・資料の頁は、下中央につける。本文と区別するために、i ii iii というようにつける。
- ③ 次の 2 種類のうち、どちらかに統一して見出しをつける。

- | | |
|-----|-----|
| I. | I. |
| 1. | A. |
| 1) | 1. |
| (1) | a. |
| ① | 1) |
| | a) |
| | (1) |
| | (a) |

(3) 図、表及び写真

- ① 図、表及び写真は、それぞれ図 1、表 1、写真 1 等の一連番号に付し、表題をつける。
- ② 図、表及び写真は、本文の該当する個所に（図 1）というように明示する。
- ③ 本文中に挿入数する図、表及び写真を本文と別頁にする場合は、頁番号を付けずに本文の該当する頁の後に綴じる。

(4) 文献の記載様式

文献の記載は、本学看護学研究紀要の様式を使用する。